

磐に同じくまきにトキハと訓むべし。この地は中世吉田郷に属し文祿檢地以後茨城郡に入る。いま水戸市に入りたる舊東茨城郡常磐村は其遺稱を傳へしもの、此の地に別格官常磐神社・常磐公園あり。郷域は水戸市の西部一帯より緑岡村の邊に亘る。

トキワ

【常磐村】千葉縣下總國取郡の南部。佐原町の南約一二軒、西南の多古町との間に中村を隔つ。北部及び南部には洪積層の臺地連なり、其間には卑濕地をなす。臺地の間析谷も耕地開くも中部の卑濕地も水田よく發達し、米・麥を多産し養蠶・養鶏も盛なり。街道また縦横に走り四近の町村に通ず。昭和十年國勢調査によれば人口三〇五九人、一方軒の密度二七七人にて全國平均の一八一人に比し遙かに多く人口稠密なり。此地は和名抄、原野郡玉造郷の内なるべく、東城文治二年の條に「下總國玉造庄」とあるは此地なり。〔松崎神社〕大字東松崎に鎮座。郷社。祭神、宇賀之御魂命・通靈命・大宮比咩命。北條・徳川氏の崇敬あり、江戸時代を通じて朱印領三十石を有せり。例祭、二月初五日。〔顯實寺〕大字東松崎にあり。日蓮宗。法王山と號す。大同年中の創建にして往昔は眞言宗に屬せしを、文永中日蓮上人の地に布教し本寺に宿せしとき、時の住僧圓鏡深く之に歸して現宗に改む。〔能滿寺〕大字東松崎にあり。日蓮宗。勝榮山と號し小海護生寺末たり。開山は勝榮院日蓮上人。堂宇中樓門は文政年中の建造に係り、構造頗る精巧を極む。

トキワ

【常磐】茨城縣東茨城郡にありし村。昭和八年水戸市に編入す。【常磐公園】↓水戸市

多く、畝中部を西流する小川の谷に狭長の低地あり。比較的田畑よく拓げ、米・藁の産多く、麥及び林産物あり。また東海製鋼製綿工場をはじめ、綿糸紡績の小工場多く綿糸・綿布の産頗多し。岡崎市に接し交通便なり。此地は和名抄、額田郡鴨田郷の内とす。〔三州みかげ〕宇小呂にて採石する雲母花崗岩。鼠色細粒のもの、白色粗粒のものあり。主として岡崎燈籠として知られ、建築材ともなす。〔常磐神社〕大字瀧に鎮座。村社。祭神、徳川家康外六神を合祀。もと當地に天武天皇朱鳥元年役行者の創立せる瀧山寺なる佛寺あり。一時類廢せるを僧佛泉中興し、徳川家康これに四百十二石の寺領を寄す。のち光明天皇正保二年家光東照宮を寺内に勧請し新に社領二百石を加ふ。日光及び久能山と共に三ノ宮と稱せられしも、大正五年村内六社を合祀して常磐神社と改稱す。社寶に拵絲卷太刀(銘長光)一口及び同(銘正恒)一口あり、前者は徳川家光、後者は家綱の寄進に係り共に國寶。例祭、十月九日。〔瀧山寺〕大字瀧にあり。天台宗。吉祥山。朱鳥元年天武天皇の勅願に依りて役小角之を開創し、鳥羽天皇朝佛泉中興す。源頼朝寺領四百十二石を寄せしも戰國時代これを奪はれ、寛永十八年徳川家光舊領を復す。本堂及び三門は國寶。【常磐村】香川縣讚岐國三豐郡の中部。觀音寺町の東に隣る。北部に僅に丘陵あり

トキワ——トキワ

【常磐村】大字は土地低平、觀音寺平野の核心地域を占め、北部を財田川西に流れ、南部は人工溜池により灌漑の利多く水田よく開く。農業を本業とするもの約八割、米麥を主産物とし副業として吠を養するもの多く、また煉瓦會社ありて其の産頗相當多し。省線讚岐本線及び縣道通じて觀音寺町に接し交通便なり。昭和十年の人口は三一四八人、一方軒の密度は六六〇人にして全國平均密度一八一人に比して極めて多し。西讃府史及び讃岐通史に菅原道真、讃岐の守たりし時この地を巡視し松を手植ふすと見ゆ。いま菅原神社の大松これと傳へられ村名はこの松に因むといふ。〔加藤神社〕大字流岡に鎮座。郷社。祭神、大己貴尊・少彥名尊。式内小社。當國二十四座の一。もと丸山と名づくる小丘の上にあつたるを以て主人これを丸山神とも稱す。例祭、十月二十三日。

トキワ

【常磐村】北海道天鹽國中川郡の東北部。上川支廳の管下。南は美深町に相接し、北は北見國枝幸郡中頓別村に、東は同郡枝幸村に界す。面積約二七四方軒。東半は北見山脈、西半は天鹽山脈の山地にして、前者には屋根棟山(八六一米)・音成富士(四八九米)、後者には鬼刺山(七三八米)等聳え全村概ね山地をなす。天鹽川この兩山地の中間を北流し村の中央部音成子府にて北境より南下する小流を併

て、中部を東流する日野川の一支出主川の沿岸に僅に低地ありて耕地開け、米・麥を産す。縣道また天主川に沿うて東西に走り、鮎江町にバスを通ず。人口は國勢調査によれば大正九年七一九人なりしが、同十四年には六八七人、昭和五年六十七人、同十年六〇〇人と減少し、昭和十年の一方軒密度は僅に六五人に過ぎず。織田村・萩野村と組合村をなし、織田村に役場を置く。〔尊光寺〕大字上戸にあり。眞宗本願寺派。歸命山と號す。開山善覺法師は河内國恩地善左衛門正通といひ補氏の一族なり。元弘の亂に新田義貞と共に富國に奮戦せしが、義貞の敗死を見て出家、康永元年本寺を創立するに至る。本尊阿彌陀如来は善覺大師の作に係る。

【常磐村】岐阜縣美濃國稻葉郡の西北部。岐阜市の西北に隣り、東は山縣郡岩野山村に接す。北境に如來嶽(二七六米)聳立し山脚は南に延ぶ。南部は平地にして濃尾平野に續き、長良川の支流は東南境・西南境を流れ、灌漑の利多く水田よく開け、米・麥を産し副業に養蠶を行ふ。農閑期には瓦作り、及び岐阜市に出稼する者あり。同市には近きも交通さして便ならず。此地は和名抄、方縣郡大原郷に屬せしものか。〔白山神社〕大字城田寺に鎮座。郷社。祭神、伊弉冉命。創建年次詳ならずも、善濃神名記に方縣郡正六位上城田明神とあるは當社なり。明應

【常磐村】香森縣陸奥國南津輕郡の西北部。弘前市の東北約九軒。黒石町の西北約五軒、面積八方軒餘なるも津輕平野の東南部に屬し、全村土地概ね平坦にして田地よく拓げ米を主産す。羽州街道は西に北境を掠めて西南より東北に向ひ、省線奥羽本線はその東南を通じ北常磐驛(大正十三年設置)を設け交通便なり。

【常磐村】秋田縣羽後國山本郡の中部。能代港町の東北約一〇軒。東南は米代川を隔て富根村に相對す。南北に長く約一六軒、面積六三方軒に近し。出羽丘陵北部の西縁部に當り、北境に燒山(九六三米)ありて土地南方に傾斜し、米代川の一支出常磐川は北境に出でて村の中部を南下し、大部分は山地なれども、常磐川中流以南には幅狭き谷地ありて村の南部なる米代川下流の洪瀟平地に連りここに耕作開く。米・木炭・藁を産す。道路は川筋に沿ひて四通するも交通上は省線奥羽本線富根驛(富根村内に居つる)を最も便なりとす。米代川舟運の便あり。

【常磐村】山形縣村岡國北村郡の東南部。尾花澤町の東南に隣り、東南は宮城縣加茂郡・宮城郡に接す。地東南より西北に長く約二〇軒、面積一二九方軒餘の大村。奥羽山脈の西斜面に屬し東南境上には北より南・北日長山・荒神山(一二七〇米)・船形山(一五〇〇米)、南境には柴倉山(二七六米)等ありて西北方に傾斜し、大部分山地をなす。丹生川は船形山の西谷に發し、臘氣川は西南部山地に出でて共に西北流し、尾花澤町を過ぎて最上川に合す。村の北部、この二川の流域に耕地拓げ(耕地面積約八五〇ヘクタール)、米・藁を産し山脚の緩斜地には牧馬行はる。また木炭の産あり。而して全戸數七一三のうち六四三戸は農林業に従事す。北部の大字六澤より西北方尾花澤鐵道尾花澤驛へは約八軒、バスの便あり。この地に天童氏の家臣、延澤能登守信益の城址あり。野邊澤氏は應永二年、北條備前守長義の末葉、大學頭平満定の家臣を従へ、本郡東根より本村の野邊澤に移り野邊澤氏を稱せり。

【常磐村】栃木縣下野國安蘇郡の中部東部。葛生町の北隣にて東は下都賀郡寺尾村と界す。足尾山塊中部の支脈の谷にて東北・西南の兩界には高さ四百―五百米の山腹連り、村の中央はその都合にて秋山川東南に流る。山地一帯森林多く、川沿ひには細長き低地ありて田・畑拓く。米・麥・藁等の農産及び林産ある外、石

嶺山脈の餘脈連互し、北に猫頭山(三三〇米)、東南境に五峰山(三四一米)、延香山・帝釋山等聳ゆ。此等山地は老年性にて、城内に数條の餘脈を派し、海岸近くにも火山岩性の丘陵。まる。中部及び西部は低平にて、特に西北境を劃する達川江と、猫頭山に發する河との流域には沃野拓け、郡中主要農業地帯を形成す。但し東北の博川郡との境の長水灣江沿岸は低地に乏し。また海岸は小出入に富み、柴艾島・佛島等の屬島あり、されど泥濘遠く連り良泊を缺く。産物は米を第一とし、大豆・棉(在來棉)・雜穀・大麻・果實(苹果・梨)・繭等の農産あり、また生牛・牛皮等の畜産、麻布・絹布・金屬器具・燒酎等の工業あり。總督府鐵道京義本線は中部平野を東南(西北)へ走り、定州驛(定州邑)に近く、北部には義州街道東西に走り、バスを便あり。南部の新倉洞に古州長城の遺址あり、高句麗時代に韓朝の侵入を防がん爲め阿耳浦海岸より江界郡内まで築城せしもの一部なり。附近海岸の海倉に往古の定州社會の一の遺址あり。

トクケン 徳源

【徳源郡】朝鮮咸鏡南道二府十六郡の一。道の南端部に在り、西は平安南道陽徳郡及び黃海道谷山郡に、北は文川郡、南は安邊郡及び江原道伊川郡に接し、東は元山府を抱擁して海に臨む。地東西に長く南北に短く、面積約八七六方軒。その元山府を抱擁せる一端は日本海に半出して

トクサ 木賊・土賊

【木賊山】 關東山脈秩父山地の一峯。埼玉縣秩父郡大滝村と山梨縣東山梨郡三富村との境上にあり。標高二四六八・六米。西稜は甲武信ヶ岳(約二四七五米)、東稜は破風山(二二一八米)に連る。山頂附近はシラビソ・ツナグナゲ・タケカンバ等繁れど視野廣闊なり、特に東方の金峰山・八ヶ岳・霧科山、南方の南アルプスの眺望は佳し。甲武信ヶ岳との中間鞍部に甲武信小屋、破風山との中間に破風小屋あり。山中に十賊瀧がある。

トクサ—トクサ

葛藤角に終る小半島を成し、永興郡の虎島半島と相對して永興灣を形成す。海岸は概ね低沙濱をなし、海岸線延長島嶼を合して二七海里に及び、良泊に乏しきも、灣の内外には麗島・蔚島・熊島等の諸島點在し、好箇の漁場をなし、半島部は風光美に富み海水浴場として名高し。郡の西半部は白頭山の支脈のなす山地にして、中部に馬息嶺・伏回嶺等南北に連互し、西北境に頭流山(二二四米)、東南境には高春峰・芙蓉嶺(一五八六米)・鳳凰山等聳立するも、東部沿海地帯に稍廣き平地あり。河川には東邊に南大川あり、馬息嶺の東腹には長林川・赤田川等發して永興灣に注ぎ、また臨津江は馬息嶺の南麓に發源し、西南に走りて江原道に入り、西流して仁川附近にて海に朝す。産業は農を主とし、水産業・工業これに次ぐ。農産に米・粟・大豆・大麦・小麦・稗・馬鈴薯・大麻・莞草・蓮荷等あり、地味果樹栽培に好適し、苹果・梨・葡萄を産す。副業に養蠶・牧畜(牛・豚)が行はれ、山地より用材・薪材・木炭を出し、鑛産に金・銀・タンクステン・水鉛等あり、特に西南部豊下方面のタンクステンに著る。水産物は鱒を第一とし、鱈・鮭・鱒・鰻・鯛・針魚・蛤・若布等あり、東部の元山港岸には罐詰工場ありて蟹・鮭・トマト・サーヂンを製造し、鯉・鱒・鰻の製造も行はれ、製品は南洋・阪神等に移出せらる。其他工業に穀物・絹布、

年一三四人、同年一六二六人と漸減す。いま日影町・田野村と共に組合町村をなし役場を日影町に置く。(樓雲寺)臨濟宗建長寺派。天目山。貞和四年國主武田信滿の開基に係り、本淨を開山とす。應永二十四年武田信滿當寺に於て自盡す。往昔塔頭二十五院ありしが今は廢滅す。寺格中本寺にして觸頭たり。

トクサ 徳久村

【土賊山】 山梨縣北巨摩郡増富村増富温泉の南方に在る山。標高一七五五米。東山腹に木賊峠路最高點あり、路を北東に取れば金峰山・瑞巒山方面に至る。

トクサ—トクサ

麻布・眞鍮器・漆器・漆工品等あり。總督府鐵道京元線は東南より來り葛藤嶺を経て元山驛に至り、元山より咸鏡線出て東部海岸に沿ひ徳源・文坪二驛を経て北走す。道路は鐵路と並走する京城元山間、元山會亭間の各一等道路あり、京元街道は途中より東南に通川・襄陽方面に至る二等道路を、元會街道は徳源邑にて平壤方面に至る一等道路を岐ち、後二者にバスの便あり、交通・運輸共に至便なり。行政上、六箇面に分ち、郡廳を元山府大和町に置く。人口密度一方軒當り五三人にして、道平均五〇人に比し稍稠密なり。本郡は高句麗の時泉井郡と稱し、新羅の時に昇泉郡と改め、高麗に至り湧珠と呼べり。成宗十四年防禦使を置き、のち宣州と改め、世宗十九年始めて徳源郡と稱す。明治四十三年元山府と改稱し、大正三年元山府より分離し安邊郡の一部を併せて再び徳源郡名を復活す。

トクコイ 徳貞面

【徳源】 朝鮮咸鏡南道徳源郡内面東部の邑。總督府鐵道咸鏡本線の徳源驛(大正四年設置)あり。

トクサ 徳佐村

【徳源郡】 朝鮮咸鏡南道永興郡の東部。郡邑永興の東に隣接す。北境に靜菴山及び稗峰等聳え一般に高きも南部は龍興江のデルタ平野の一部を成し、土地低平にして地味肥え灌漑の利に富み、農を主業とし傍ら養蠶盛んなり。産物は大豆・米・小麦・粟・麻・楮草・繭等に在り、また繭を産しを興業として

市場に名高し。鑛産には金・石炭あり。鐵道咸鏡本線は永興より東折し、面の南部を横斷し、のち道路を北轉して咸興に通じ域内に馬場驛(大正八年設置)あり、また二等道路之に並走し永興・鎮興場・バスの便あるも、北半部は道路の發達十分ならず交通不便なり。南半部に聚落稠れ密集し郡内聚落密度の大なる地域をなす。馬場は龍興江の左岸に在り、驛の西方に馬場市場、東南四軒に鎮興市場を有し、此地方の金融經濟上に重きを爲す。馬場市場の取引年額約三十萬圓にて、附近の沃野より出す大豆・雜穀・蘆席等の集散盛なり。馬場の北約六軒に安佛寺あり、李太祖二年、翼祖(太祖の曾祖父)の妃崔氏の爲に建てし菩提寺にて、無學禪師の開基とす、郡内五寺のうち最大のものにして境内幽邃の趣をなす。

トクコイ 徳本峠

【徳源】 朝鮮咸鏡南道徳源郡内面東部の邑。總督府鐵道咸鏡本線の徳源驛(大正四年設置)あり。

トクサ 徳在面

【徳源郡】 朝鮮咸鏡南道永興郡の東部。郡邑沙里院の東南約三〇軒の山中に在り。鳳陽山(五四一米)西北境に聳え城内五〇〇米内外の山地蟠坐して殆んど平地なく、ただ東南部及び西南部の銀波川沿岸に小平地を見る。産物の主なるものは米・小麦・大豆・粟等にして山中に人蔘の産あり。僻遠に位置するを以て郡邑との連絡路は坂路多く改修未ぞ充分ならざるに對し、隣郡瑞興邑と距離的に近く、道路また三等道路を通じ交通比較的便なり。

トクサガミ 十種峯

【徳山面】 朝鮮咸鏡北道吉州郡の西南部。

表一第 (單位噸)

農産	昭和元年	同五年	同十年	同年の比率
農産 (蠶糸類)	六、四三三、四四一	三、五五五、六三三	六、八五五、五三三	一一〇・三
畜産	一、四九一、一〇六	一、七〇三、三三三	一、七〇三、三三三	一一〇・三
林産	一、八四一、三三七	一、五三三、〇〇〇	一、〇三三、〇三三	五五・九
水産	六、一七六、〇四六	四、〇三三、〇三三	四、〇三三、〇三三	六五・三
工業	七、一七三、三三三	一、〇三三、〇三三	一、〇三三、〇三三	一四・一
總額	二四、〇七三、二〇〇	一〇、〇三三、〇三三	一〇、〇三三、〇三三	四一・七

各産業のうち工業産最も多く五二%餘を占め、農産額(約二二%)これに次ぎ、他の産額は之等のものに比し遙に少し。されど近年本縣は養蠶と稱せられその蠶糸類は一三%餘を占め本縣の重要産業となる。農業は土地概して肥沃にして氣候また温和なるため盛にて、米麥の外に藍、樟草・楮・三椏・サタウキ等の如き幾多の特用作物あり。農家戸数は昭和九年末にて八一、二〇七戸、總戸数の約六割に當り、逐年増加の傾向にあり。これを郡別に見れば美馬郡一三五、二〇戸、板野郡一二、四四七戸、那賀郡一〇、三六六戸、三好郡一〇、〇九九戸に多く、次いで麻植郡七、〇九二戸、名東郡六、八六二戸、阿波郡六、一五三戸、名東郡五四四七戸、勝浦郡四、五七〇戸、海部郡三、七五五戸にて徳島市は僅に九三六戸なり。之を専業・兼業別に見れば専業農家七三%、兼業農家は二七%なるも、最近専業農家は増加し兼業農家は漸減しつつあり。更に經營の主

表二第 (單位噸)

郡名	田	畑
徳島市	三、五三三	一、八六六
名東郡	三、八六七	二、九三九
勝浦郡	二、四八八	八、三三六
那賀郡	七、八九五	六、三三三
海部郡	三、〇六六	六、三三三
西郡	一、六六六	一、九三三
合計	二一、九三三	二一、九三三

農産物は米及びその裏作の麥を主とし、米は那賀川沿岸及び吉野川沿岸地方を主産地とし、近時養蠶業の發達に伴ひ田地を桑園に改作するものあり、爲に作付反別は近年幾分漸減を辿りつつあり。麥は裸麥最も多く小麦次に次ぎ大麦は僅少なり。食用農産物に大豆・小豆・粟・黍・玉蜀黍・蕎麥・甘藷・馬鈴薯等あり、就中甘藷は最も多し。また阪神地方に近き地理的關係により蔬菜は頗る盛んに移出

の小農四割四分(全國三割五分)にて大部分を占め、五段以上一町未満は三割九分(全國三割四分)、一町以上二町未満は一割五分(全國二割二分)にして二町以上經營せるものは僅かに二分(全國九分)にすぎず。五町以上は名東郡一〇戸、板野郡五戸、名東郡四戸、美馬・三好二郡は共に三戸あり、最近は大體二町未満の經營増加し二町以上を經營するもの年々減少す。耕地面積のうち田地面積は畑地に比しやや多きも大なる差なく、また年々僅少なるも増加の傾向にあり、郡別に耕地面積を示せば第二表の如し。

し、殊に生大根は最も多く深産として、阪神地方に好評を博し移出量十七餘萬樽に達し、外に西瓜・胡瓜・茄子等の移出も行はる。なほ葉煙草・三椏・楮・薄荷・葉煙草・三椏・楮は山村に於ける主要なる作物にて多額の收穫あり、美馬・三好二郡を主産地として海部・那賀・麻植等の各郡より移出す。葉煙草は之を製造し阿波製として名高く、三椏は殊に品質

は八一、九〇、九〇四圓にて府縣中第一三位なり。桑畑は昭和十三年にて總反別九〇八三二反。郡別に見れば阿波郡一七〇六一反(一七、一七〇、九九圓)、美馬郡一五二〇五反(一五、一三六、一八八圓)、麻植郡一三八四四反(一三、四一四、八〇圓)、板野郡一三〇三三反(九、三三三、三九三圓)、三好郡一〇七五五反(九、七三三、〇一五圓)、名東郡九八九六反(一〇、七四三、七〇圓)、名東郡六五四九反(五、〇九九、一一九圓)、那賀郡二〇八七反(一、六〇、四五五圓)、海部郡一四九〇反(一、〇三三、〇〇〇圓)、勝浦郡八九九反(六、〇三三、〇〇〇圓)、徳島市一三反(四八一圓)なり(括弧内は産額)。同年に於ける養蠶實戸数は三八四二戸。なほ製絲業も養蠶業の發達に伴ひ勃興せり。工業は近時著しく發達し、其の生産額は六千萬圓に及び本縣生産額の二分の一を占め重要な産業とす。各種工業別の工場数・生産額表は第三表の如し。

表三第 (年十和昭)

工場数	生産額
紡織工業	九、九三三、〇〇〇
金屬工業	二、四三三、〇〇〇
機械器具工業	一、二三三、〇〇〇
窯業	三、〇三三、〇〇〇
化學工業	二、三三三、〇〇〇
製材・木製品工業	四、七三三、〇〇〇
印刷・製本業	九、一三三、〇〇〇
食料品工業	三、三三三、〇〇〇
瓦斯・電氣業	四、六三三、〇〇〇

トクシ—トクシ

其他の工業

計	四、一八七、六三三
	四、二九九、二四、九九九

紡織工業は本縣工業の大宗にして六六・五%を占め、工場は徳島市及び勝浦郡小松島町に大規模のものあり。なほ本縣の織物は大部分縮織物にて輸出品その大部分を占む。内地向には夏向品の阿波縮は著名にて、徳島市を中心として名東郡その他は産額僅少なり。此外の工業物には足袋・清酒・醬油・藍玉染・苦汁製品・賣薬・和紙・石灰・鏡臺・指物類等あり。足袋は板野郡撫養町及び徳島市に産し、中國・九州・北陸・四國各地に販出され阿波足袋として知らる。苦汁製品は本邦唯一の産地にて、炭酸マグネシウム・硫酸マグネシウム・苛性石灰等として作られ、板野郡瀬戸町・撫養町を中心とす。鏡臺・指物類もその名を知らる。水産業は北部鳴門近海の好漁場を控へ、沿岸・遠洋漁業共に盛なり。沿岸漁獲物は鱈・鯉・鰯・鯛にて、海産には石花菜・和布・海蘊等あり、遠洋漁獲物は鮪・鰯等を主とす。他に那賀・海部の沿岸地方よりは長崎縣玉之浦及び長崎港を根據として東支那海・黄海方面、また神奈川縣三崎港を根據とし三陸・房総方面に出るもの少からず。製鹽は十州鹽田の一に數へられ倉田鹽の名あり。板野郡撫養町を中心として産出す。本縣の山地は地積の約八割を占め、森林面積廣大なり。大部

分人造林なるも、三好郡の山地、那賀川上流の木頭地方には杉・松・楡・榎等の良材あり。鐵産は年産約百萬圓、銅・硫磺・鐵礦を主とし、麻植郡に高越・東山、三好郡に三廻・三好、海部郡に津川・川又等の諸嶺あり。その他那賀郡の大石、讚岐山脈の和泉砂岩(撫養石)は建築材・石碑材等として移出す。「交通」吉野川地溝帯及び那賀川下流のアルタ平野は土地平坦にて土佐街道・伊豫街道・淡路街道等の幹線を軸として道路網よく發達するも山地は交通不便にて、地帯構造上東西の交通は概して容易なるも、南北横断は頗る難く南方山地にては殆ど横断路の發達を見ず。阿讃國境には大坂越・清水越・猪鼻越の諸峠ありて香川縣と連絡す。省線は昭和四年土讃線(池田・琴平間)、同九年高徳線の開通、池田より愛媛縣川ノ江に至る省營バスの實現、高知市への省線連絡、南方の撫養線・鍛冶屋原線・牟岐線等により交通は漸次便利となり、なほ吉野川に沿ふ省線徳島線は本縣の幹線にて、小松島港より一日三回の阿讃航路と連絡す。この他の所はバス發達す。「人口」昭和十年國勢調査による本縣人口は七二、八七四八八人、内地總人口の一分三毛強にて府縣中第三八位にあり。愛媛縣の一六、四八八八八人の第二五位、香川縣の七、四八八八八人の三六位より少く、高知縣の七、一四九八〇人の三九位より僅かに多し。本縣人口の増加は昭和五

年の七一、六五四四人に比すれば一、二二〇四人(一分七厘)の増加となり、大正九年より同十四年の五ヶ年間に於ける増加率二分九厘、同十四年より昭和五年の五ヶ年間に於ける三分九厘に比し著しく低率を示す。人口密度は一方一七六六人(府縣中三位)にて、全國平均密度一八一人よりやや少く、香川縣の四〇三人(府縣中六位)、愛媛縣の二〇六六人(府縣中六位)より遙かに少く、高知縣の一〇一人(府縣中三十八位)より大なり。縣内の分布を見れば、名東郡(密度四四三人)・板野郡(密度三六三人)・阿波郡(密度二六二人)・麻植郡(密度二〇五人)・名東郡(密度一九一人)に多く、次いで勝浦郡(密度一六五人)・三好郡(密度一三九人)・那賀郡(密度一三七人)・美馬郡(密度一〇一人)等となり、海部郡(密度五一人)最も少し。即ち徳島市(密度五〇二四人)附近の吉野川河口平野・那賀川デルタ平野に密度大にして、本縣に於てはこの地域が文化・生産地帯たり。なほ本縣は山林面積がその大半を占むるを以て平地は飽和状態を示し、山地はその頂上までも耕地化され、且つ毎年阪神地方に出づるもの多し。「沿革」明治四年七月廢藩置縣の際に徳島縣を置き、阿波國及び淡路國(津名郡を除く)を管轄し、同年十一月淡路國津名郡を合併し名東縣と改稱す。同六年二月讚岐國を加へたりしが、同八年九月香川縣を置くに至り、讚岐國をその

所管に移し、越えて翌年八月名東縣を廢し、淡路國を兵部縣の管轄に屬せしめ、阿波國を高知縣の管轄に加へ徳島支廳を設く。同十一年十二月支廳を廢し更に徳島出張所を置く。同十三年二月に再び徳島縣を置き阿波一國を管轄することとなり今日に至る。

【徳島市】 徳島縣の首邑たる商業都市。縣の東北部、吉野川下流右岸のデルタ上に發達せし城下町。北は別宮川を距てて板野郡川内村・應神村に相對し、西は名東郡新居村・國府町、南は同上八万村及び勝浦郡勝占村に隣接し、東は紀伊水道に面す。面積四七・五三平方町、東西一〇・四三町、南北六・四町。〔地形〕 劍山山脈の餘脈は西南部より中央に延び、末端に眉山(二八〇米)・勢見山(一〇六米)を起す。市街の中央部に軟泥片岩よりなる殘丘滑の山(城山六一米)あり、東南部の津田浦にも殘丘津田山(七八米)あり。西境には天井川なる鮎喰川が北流して吉野川の一分支別宮川に注ぎ、別宮川は北境を東流して海に注ぎ、其間、新町川・助任川等の分流を出す。之等の分流は市内を網狀なして流れデルタを形成す。従つて市内はもと蘆荻の群生せし砂洲なりしも、地盤の徐々たる隆起と埋積により極めて新らしき市の基盤が完成され、城山の東側山麓の軟泥片岩の岩壁に海蝕の痕跡を残す。市街は斯く數多の洲嶼上に建設されしを以て町名にも洲嶼の地形を

偲ぶもの多く、徳島・福島・寺島・常三島・住吉島・出来島・沖ノ洲・中洲等の町名あり、また網狀河川により橋梁も甚だ多し。〔氣象〕 昭和十年本市の測候所の氣象観測によれば、最高気温は三三・九度、最低気温は零下二・三度にして平均気温は一五・二度なり。これを四國の各地と比較すれば、平均気温は高知の一五・七度より低く、松山の一五・三度、多度津の一五・三度より僅に低きも、最高・最低気温の較差は多度津(最高三五・三度、最低零下三・八度)・松山(最高三四・五度、最低零下四・一度)・高知(最高三四・五度、最低零下三・七度)より少し、年降水量は一七九〇・七耗にして高知(三四三三・九耗)より少しも、松山(一六四〇・三耗)・多度津(一一一八・九耗)より多く、即ち四國南岸の多雨地帯と瀬戸内の寡雨地帯との中間をなす。最大風速は二二・三米、平均三・七米。なほ夕風の無風状態の現象著し。〔産業〕 本市は舊徳島城を中心として發達せし城下町にて政治的・商業・交通上の中心として發展せしめ、概して老年期の都市の景観を呈す。各職業別戸數を見れば商業・工業・公務自由業等が多く、城下町として發達しその後も政治の中心地たる事を示せば第一表の如し。

第一表 (昭和十一年) 産業別戸數 百分比較

職業別	戸數	百分比
農業	一七七	七二

次に各産業の生産を見れば工業最も多く、水産これに次ぎ他のものは之等に比し遙かに少し。業種別の生産額を示せば第二表の如し。

第二表 (昭和十年) 生産額

産業	生産額
農業	五七、〇〇〇
畜産	一五、〇〇〇
水産	一、〇〇〇
工業	三、〇〇〇
其他	三、〇〇〇

の最も重要な産物は阿波鹹にして、製産額も一千三百萬圓に達しその大部分は輸出産物なり。主に南洋及び印度方面に送る。維新の頃海部八十なる者、古き神代綿の染織方法を傳承し、玉藍染の綿を織出せしもなほ改良し、現今の阿波鹹を製するに至る。始め阿波鹹を使用せしも明治三十七、八年頃より専ら化學染料を用ふ。鹹染その他指物類の産額も多く京阪地方に販路を有し名譽を博す。外に多量の煙草製造あり。機械工業は主として市の西北部の出来島町・前川町・田宮に、手工業は指物類を主として東南部の徳島町・住吉島町・富田町の一部に行はれ、別宮川及び助任川の水運により工場發達して工業地帯をなす。將來阪神工業地帯の延長として發達すべき地に水利と卓越風の關係より田宮方面に伸展すべきものならん。商業は吉野川流域と勝浦・那賀二川の流域を後背地に持ち、且つこれら二地方の結節點なるため、商業地帯も主として後背地に至る主要交通路に沿ふ。南方への出口二軒屋・大道は南方物資の集散地となり、北方西方への出口は古は北方物資の集散地として知られ、その中心地帯が船場町及び新町なり。本市が山麓の南を受けし日當よき地帯より發達せしことは、先住民の遺跡により明瞭なり。而し市街としては水上交通機關を利用する時より商業的に發展し、河岸は船着場としての好位置に發達す。船場

町の範圍は細長き堤防並落にて、本市後背地の物資と大阪の經濟的腹地との連絡點をなす。新町川の右岸は水深その他の關係により大小の船舶が集中し物資の揚卸場となる。山麓の住宅地と船場との中間には當然集中貨物の賣買が行はれるを以てそこに市場が出来、買物町としての新町が形成發達す。今の船場町の片側は船の荷役に便利ならしむる構造の家が並び、銀行その他の豪商の本店は東西船場にありて本市の商業の根柢なり。江戸時代の本市は國國の小江戸と呼ばれ、取引物は全國に販路を有する藍玉を主とし、而し現今は僅に大阪商品を農村に供給するのみにして昔日の活氣なし。城山を中心とする徳島町・寺島町及び常三島町方面は官衙・學校・住宅地帯となり、眉山山麓の富田町・佐古町は純住宅地帯をなす。官衙・學校地帯には縣廳・地方裁判所・市役所・高等工業學校・男女師範學校その他の學校あり。市街の東南部富田浦町、東部の徳島町・福島・安宅・住吉島町等は舊城下町時代の土族屋敷なり。市の西端なる藏本町附近は歩兵四十三聯隊の所在地として知らると共に、瀨の取引地として縣下第一なり。〔交通〕 交通は阪神地方に近きを以て比較的よく發達し、街道には淡路街道・讃岐街道・土佐街道・徳島街道を放射狀に出し、各街道にはバスを通す。省線徳島本線は中部を東西に通じ徳島驛・藏本驛(明治三十二

年設置)・鮎喰驛(昭和九年設置)・佐古驛(昭和十年設置)を置き、終點徳島驛より小松島線に分ちて富田浦驛(昭和九年設置)・二軒屋驛(大正二年設置)を置き、また昭和十年高徳線全通して佐古驛にて連絡す。市内には電車なきも道路の完備に努力し市營バスを運轉す。鐵道開通前は新町川が重要な交通路となり、吉野川沿岸の物資を徳島市に集中せしむる重要な通路をなし、旅客も舟にて來るもの多く、それ等はすべて此の河岸を利用し、今もなほ川の兩岸が市の最も重要な地區をなす。兩側には倉庫が並び嘗ては藍の肥料藍玉等を入れしものなるも、最近専ら肥料置場となり倉庫毎に河岸に小舟の發着所と道路に面して貨物自動車の荷積場を持つ。かくもとは新町川筋が水運の衝に當りしも現今の徳島港はその河口なる沖洲に移る。徳島港は吉野川改修工事完成後は土砂の堆積により港の淺くなる憂ひは除かれしも、海より來る土砂に港口が絶えず淺くなるを以て大汽船の入港は不可能なり。されど盛に阪神地方との間に利用され陸上交通(主として自動車)との連絡が便なるため、小松島港の大汽船と鐵道との連絡に勝り次第に徳島港の勢ひを増しつあり。〔人口〕 國勢調査の結果によれば大正九年七八〇〇〇人、同十四年八四三九人、昭和五年九〇六三四人、同十年九七〇二一人と増加し、同十年に於ける一方新密度は五

〇二四人となる。なほ昭和十年の人口は四國に於ては高知市の一〇三四〇五人に次ぎ第二位なりしも、昭和十二年市域の擴張に伴ひ同年十月の推定人口は二六〇〇〇人となり、高知市の一〇四八〇〇人を凌駕し四國第一の都市となる。〔沿革〕 此地は和名抄、名東郡加茂郷の地。徳島の名は滑山城の東なる洲名によるものにして、永祿の頃、森高次郎初めて築き、天正十年長曾我部元親の有となりしが、同十三年豊臣秀吉四國を討つや此地を蜂須賀家政に與へ、家政大いに城を修め市場を開く。爾後、蜂須賀氏歴代相傳として明治に至る。明治四年名東縣を置かれ、同五年六小區に分たる。同十二年名東郡に屬し、翌年市街を徳島・福島・新町・佐古・富田浦・助任の六區に分ち各正副戸長を置き各町村を大字として之に分屬せしむ。明治二十二年十一月市制施行す。大正十五年四月名東郡齊津村・沖洲村を併合、昭和三年十月板野郡川内村の一部を、同十二年四月名東郡加茂名町・八万町を併合編入して現在に至る。〔徳島城〕 徳島市の中央にある城址。滑山城・猪山城にも作る。これ城のある丘の形状が臥せる猪に似るを以て起る。永祿年中に森高次の築きなり、のち長曾我部元親を経て、天正十三年蜂須賀家政功により阿波に封ぜられ大に城を修築す。關ヶ原役に子孫傳軍に應じてまた功あり阿波子孫相傳へて明治維新に至る。城

址はいま公園となり眺望に當じ。城址は後設たれて、今は往時の遺構として城の門及びその側の番所、驚の門内の下乗橋、これに續く樹形の石臺、濠に沿ふ石臺、櫓の礎石、濠及び舊園地の一部等存するのみ。〔阿波通〕 陰曆七月十四日より十六日までの三日間行はる。數人または數十人隊伍を組み街道を踊り歩く。此の盆踊の由来は天正十三年藩祖蜂須賀隆公が官宮より滑山に築城しここに入城せし時、その士民が踊りしに始まる。其後は孟蘭盆會の時及び市民舉つての祝祭にこの踊りを行ふ慣例となり、孟蘭盆には京阪神より見物に來るもの多し。〔城山石器時代遺跡〕 徳島公園の城山山麓に發見されし貝塚にして三箇所あり。何れも發掘され、このうち東南部に存する一箇所は往昔地質時代に海蝕を受け、たみに生じし奥行一〇米の結晶片岩の自然洞窟の内部に貝塚あり。これ等の貝塚より出土せし遺物に石器時代の土器破片・石器・獸骨・人骨等あり。〔徳島公園〕 舊徳島城址を改修せしもの。舊城の遺物舊の門を正門とする。海拔六一米の城山(滑山)は公園の大部分を占め、全山老樹茂り、宛然原始林をなし多くの五位鶯が棲む。山上本丸址より市街を脚下にし吉野川を俯瞰し、また遠く紀淡の山容を望む。園内城山の南麓に光復圖書館・千秋閣・商品陳列所あり、西部西の丸址は縣營の運動場となる。なほ所々に貝塚及

トクフ——トクヤ

トクフ——トクヤ
トクフ——トクヤ
トクフ——トクヤ

トクマ
トクマ
トクマ

トクマル
トクマル
トクマル

トクミツ
トクミツ
トクミツ

トクヤマ

トクヤマ
トクヤマ
トクヤマ

トクマ
トクマ
トクマ

トクマル
トクマル
トクマル

トクミツ
トクミツ
トクミツ

トクニ

トクニ
トクニ
トクニ

トクマ
トクマ
トクマ

トクマル
トクマル
トクマル

トクミツ
トクミツ
トクミツ

トクヤ

トクヤ
トクヤ
トクヤ

トクマ
トクマ
トクマ

トクマル
トクマル
トクマル

トクミツ
トクミツ
トクミツ

省線山陽本線は海岸線に沿って通じ佐渡町に徳山驛(明治三十年設置)を置き、國道山陽道はこれに沿って走り、徳山川沿ひに北上する縣道を分ち、徳山驛よりは須々方村、玖珂郡高森町、玖珂町、都濃郡花岡村、鹿野村、須金村、下松町、福川町に各バスを通ず。人口は大正九年一九一一人、同十四年二〇六一五人、昭和五年二二七四人、同十年三二〇六人にして逐年増加しつつありしも、特に昭和五年より同十年の五年間の増加は一萬人に近く、昭和十二年の推定人口は三五九〇〇人にして近年急激なる増加を示し本市の躍進しつつあるを如實に語るものなり。昭和十二年の推定人口によれば本市は本縣に於て下關市(一四九七〇〇人)・宇部市(八二二〇〇人)・防府市(五四四〇〇人)に次ぎ、山口市(三五八〇〇人)・萩市(三二八〇〇人)より多し。なほ昭和十年の一方軒密度は一三四八人なり。此地は和名抄、都濃郡久米郷の地にして古くより開けたる所なるも、盛となりしは近世に屬す。即ち近世毛利氏の支封を置かれて此地に治す。天保七年、廣徳城主格となり、一萬石を加與せられ、のち子孫傳領して明治維新に至り、明治三十三年十月徳山村を町とし、昭和十年十月この區域に市制を布く。本市にはいま教育機關としては縣立・私立の中等學校あるにすぎざるも、毛利家支藩のありし時は

トクユ——トクラ
トクユ——トクラ
トクユ——トクラ

トクニ
トクニ
トクニ

トクヤ
トクヤ
トクヤ

トクニ

トクニ
トクニ
トクニ

トクマ
トクマ
トクマ

トクマル
トクマル
トクマル

トクミツ
トクミツ
トクミツ

トクマ
トクマ
トクマ

トクマル
トクマル
トクマル

トクミツ
トクミツ
トクミツ

トクニ
トクニ
トクニ

バイソン族中のパカロカロ系統に属す。人口一〇〇。

トノ 常世 陸奥國(岩代・福島縣)の古地名。和名抄に白河郡常世郷あり。いま東白川郡常世村の大字に常世北野、常世中野あり、これ郷名を傳ふるものなり。なほ郷域は常世村の外笹原・高城・山岡の諸村に互る地を稱せしものか。

トコロ 常呂

【常呂郡】 北海道北見國八郡の一。網走支庁の管内にてその略中部を占め、地西南より東北に延び、北はオホーツク海に面し、南より西南に釧路國・十勝・上川の支庁と界し、東は網走郡、西は紋別郡に隣る。野付牛・留邊藪の二町、端野・相内・訓子府・置戸・佐呂間・常呂の六村を含み、面積二五二六方呎。南西境上には東三國山・クマネシリ岳・三國山・武華山等高度一〇〇〇—一七〇〇米程の火山蟠踞し土地高峻なるも、東北に進むに従ひ土生層と第三紀層より成る凝灰地性山地に低下す。西南境に發する常呂川と支流無加川及び中部山地の北側に發する佐呂間別川は、流れて三河川を作る。川筋の低地を、下流に三角洲を作る。川筋の低地には耕地拓げ、無加川中流の留邊藪町、無加川と常呂川との會合地点の野付牛町發達し、農業・交通の中心をなす。北岸西部にサロマの大澤湖あり、低平狹長の砂洲よりオホーツク海と遮斷され北岸は常呂村に、南岸は佐呂間村に屬す。省線網走本線釧路國尾寄郡より常呂川中流に沿ひて走り網走郡に出で、石北線は前者の野付牛驛に起り無加川に沿ひて西し留邊藪より紋別郡に出づ。道路また河流の谷に沿ひて通じ郡内の交通不便ならず。物産に米・馬鈴薯・大豆・甜菜・薄荷・豌豆等の農産、木材・木炭等の林産、鮭・鱒等の水産あり。

村に屬す。省線網走本線釧路國尾寄郡より常呂川中流に沿ひて走り網走郡に出で、石北線は前者の野付牛驛に起り無加川に沿ひて西し留邊藪より紋別郡に出づ。道路また河流の谷に沿ひて通じ郡内の交通不便ならず。物産に米・馬鈴薯・大豆・甜菜・薄荷・豌豆等の農産、木材・木炭等の林産、鮭・鱒等の水産あり。

【常呂村】 北海道網走支廳北見國常呂郡の東北端。北はオホーツク海に面し網走町の西に隣接す。面積約二八五方呎。東西兩端部は低き凝灰地性山地にて最高處も海拔五〇〇米に達せず。常呂川下流村の中部を東北流し海に注ぐ。其流域と河口左岸のサマロ湖との間には沖積平野開け耕地をなす。西北部はサロマ湖の北岸を限る低平狹長の砂洲をなす。物産に米・大豆・馬鈴薯・甜菜・燕麥・亞麻等あり。沿海は鱒の漁獲少からず。道路は常呂川筋と村の北部を東西に通じ、網走町・野付牛町へバスの便あり。湧網東線の常呂驛(昭和十一年設置)あり。本村は大正三年鐘澤村を分割して置けるもの。

【常呂川】 北海道網走支廳管内の川。北見・石狩・十勝の交界點に聳立する三國山の東斜面に源を發し、南より仁居常呂川を合せて東北流し、置戸・訓子府を過ぎて野付牛町に至り、更に三國山の北腹に源を發せし無加川の長流を加へて東北流し、常呂に於てオホーツク海に注入する同海岸線の最長川なり。流域約一四六

【常呂村】 北海道網走支廳北見國常呂郡の東北端。北はオホーツク海に面し網走町の西に隣接す。面積約二八五方呎。東西兩端部は低き凝灰地性山地にて最高處も海拔五〇〇米に達せず。常呂川下流村の中部を東北流し海に注ぐ。其流域と河口左岸のサマロ湖との間には沖積平野開け耕地をなす。西北部はサロマ湖の北岸を限る低平狹長の砂洲をなす。物産に米・大豆・馬鈴薯・甜菜・燕麥・亞麻等あり。沿海は鱒の漁獲少からず。道路は常呂川筋と村の北部を東西に通じ、網走町・野付牛町へバスの便あり。湧網東線の常呂驛(昭和十一年設置)あり。本村は大正三年鐘澤村を分割して置けるもの。

【常呂川】 北海道網走支廳管内の川。北見・石狩・十勝の交界點に聳立する三國山の東斜面に源を發し、南より仁居常呂川を合せて東北流し、置戸・訓子府を過ぎて野付牛町に至り、更に三國山の北腹に源を發せし無加川の長流を加へて東北流し、常呂に於てオホーツク海に注入する同海岸線の最長川なり。流域約一四六

【常呂村】 北海道網走支廳北見國常呂郡の東北端。北はオホーツク海に面し網走町の西に隣接す。面積約二八五方呎。東西兩端部は低き凝灰地性山地にて最高處も海拔五〇〇米に達せず。常呂川下流村の中部を東北流し海に注ぐ。其流域と河口左岸のサマロ湖との間には沖積平野開け耕地をなす。西北部はサロマ湖の北岸を限る低平狹長の砂洲をなす。物産に米・大豆・馬鈴薯・甜菜・燕麥・亞麻等あり。沿海は鱒の漁獲少からず。道路は常呂川筋と村の北部を東西に通じ、網走町・野付牛町へバスの便あり。湧網東線の常呂驛(昭和十一年設置)あり。本村は大正三年鐘澤村を分割して置けるもの。

【常呂川】 北海道網走支廳管内の川。北見・石狩・十勝の交界點に聳立する三國山の東斜面に源を發し、南より仁居常呂川を合せて東北流し、置戸・訓子府を過ぎて野付牛町に至り、更に三國山の北腹に源を發せし無加川の長流を加へて東北流し、常呂に於てオホーツク海に注入する同海岸線の最長川なり。流域約一四六

トサ 土佐

【土佐國】 南道五箇國の一。四國島の南部を占む。いま高知市及び安藝・香美・長岡・土佐・吾川・高岡・幡多の七郡に分れ、高知縣の管轄に屬す。古事記神代卷國生みの段に伊豫之二名島は身一にして面四つあり、土左國を建依別といふとあり。土左の名稱の見ゆる最初とす。國造本紀によればこの國には往昔波多・都佐の二國あり、前者は崇神天皇の朝、後者は成務天皇の朝、波多是郡名と見え。國郡制定の時、波多は郡名となり都佐は土佐となりて全國の名稱となりしもの如く、初めは六郡なりしが仁明天皇の朝、吾川郡の四郡を割きて高岡郡を置くに及び七郡となる。國府は長岡郡に置く。今の國府村大字比江の地即ち是なり。この國の國司として最も著はれしは紀貫之にして、その著土佐日記は彼が國守の任期満ちて歸京する時の記事・感想を日記體に書き記したるもの。その後かかる邊陲の地方の國司には往々貶謫の意味の任命もあり、或は文弱の結果、國司の任命を得るも任に地方へ赴かざる者もあり、爲に地方の豪族にして威を振ふ者少からざりき。鎌倉時代の初め佐佐木經高この國の守護に補せらる。承久の亂の後、北條義時は土御門上皇をこの國に移し奉らせ、香美郡(岸本町の常樂寺)に置き奉りしが、のち阿波に遷らせ給ふ。建武中興の時には藤原兼光國守

トサ 土佐

となり、ついで足利尊氏の板せし時には細川定禪をしてこの國を略せしむ。ここに於て勤王黨は花園宮滿良親王を奉じて大いに戦ひしが勝たず。その後定禪は漸次諸豪を破りて國中を定む。足利義満の時は細川頼隆を本國の守護とし香美郡の田村城に居らしむ。應仁の亂起るや頼隆の曾孫勝益京邸に上りて勝元を助けしが、その間に豪族各地に割據して互に相争ふ。即ち、長曾我部氏は長岡郡の岡豊に、本山氏は岡本山に、安藝氏は安藝郡土居に、山田氏は香美郡山田に、吉良氏は吾川郡弘岡に、大平氏は高岡郡蓮池に、また津野氏は岡郡半山(羽山または葉山)に據る。文明十年前左大臣一條教房は子房家と共に京洛の亂を避けて土佐に來り、幡多郡の中村に居る。土佐の前記七族は相議し奏請して教房を國司としてこれを奉戴す。これを土佐の一條家とし、ここに五世百餘年間にたり。既にして教房の子房家、孫房冬等相継ぎて早世し一條家漸く衰ふ。此時豪族のうち長曾我部氏最も勢力あり、元親に至り永祿年間漸次國内の諸豪を討平し、阿波を取り、一條家を放逐し、次いで伊豫・讃岐をも略して四國全部を征服し、後には紀伊にまで進出するに至れり。豊臣秀吉この有様を見、天正十三年兵を發して四國を攻む。元親敵はずして降を請ふ。秀吉乃ち元親攻略の三國を削りて土佐國を與ふ。元親國費を出でて吾川郡の浦戸

に居る。慶長四年元親歿し、翌五年國々原役起るや元親の子盛親は西軍に屬せしを以て役後徳川氏封を奉り山内一豊に與ふ。一豊乃ち浦戸城を築き高知に築きて此に治し、子孫世襲して以て皇政維新に至る。その間明曆年中一豊の孫忠豐の時一時幡多郡の中村に封せしことありしも二世にして廢す。明治四年高知藩を改めて高知縣とし、以て今日に至る。

和紙の産少からず。人口も三・四五萬人にて密度は僅に一方呎四九人に過ぎず。道路・鐵道の交通機關も南端部を除けば、吉野川谷の東半部にバスを通する外なほ發達せず。續日本紀神護景雲の條に郡名初めて見ゆ。和名抄は土佐・高坂・鴨部・朝倉の四郷、神戸一を管す。土佐・土左共に用ひられしが近世佐の字に定む。

トチオ——トチキ

山をなすが最も良く、夏山は澤の渡渉多...

トチオ 栃尾

【栃尾町】新潟縣越後國古志郡の中部北...

トチオマタ 栃尾又

村(新潟縣)

トチキ 栃木

【栃木縣】關東地方の北部に位置し、下...

地域、北西部の帝釋山脈、那須火山帯、...

は所謂關東平野の北部にして一望萬頃、...

より見て縣民の主要産業といふべきもの

Table with 2 columns: 職業別(業本)戸数, 種目. Rows include 農業, 畜産, 林業, etc.

Table with 2 columns: 生産額(昭和十一年), 種目. Rows include 農業, 畜産, 林業, etc.

なり。而して農産物の王座を占むるは米...

トチキ——トチキ

萬石餘(千五百六十七萬圓)を挙げ、全...

に過し、舊藩時代より専政を布きて之が...

舉行はれ、現在養蠶場數六百一を算し、...

に西五の如き薄物にして、品質の純良と紙の優雅なるを以て賞揚せらる。近時、純精製の封筒・便箋・襖紙等の所謂民藝品一般の嗜好に投じ生産を増加しつつあり。〔交通〕道路は陸羽街道が南方茨城縣古河町より来り、中央平野を北走し小山・宇都宮・氏家・矢板等を連ねて福島縣西白河郡に入る。縣界は隘路にして古く白河ノ關の置かれし所。その外に日光東街道・日光西街道・日光北街道・舊例幣使街道・水戸南街道・水戸北街道等あり。これ等の道路には概ね省營・民營自動車定期運轉行はれ、特に宇都宮市中心とする自動車網の發達は著し。鐵道は省線東北本線は陸羽街道に並走し、小山驛にて西方栃木市・足利市方面に省線兩毛線を、東方に省線水戸線を、宇都宮驛に於て日光町に至る省線日光線及び栃木市方面に至る社線東武鐵道宇都宮線を、矢板驛よりは今市町・鬼怒川温泉方面に社線下野電氣鐵道を、西那須野驛よりは大田原町・那珂村方面に至る社線東野鐵道をそれぞれ分岐す。他に東北本線の西部を北走し栃木市・鹿沼町・今市町を経て日光町に至る東武鐵道日光線、兩毛線佐野驛にて分岐せる東武鐵道佐野線、同線足利驛に接続する東武鐵道伊勢崎線及び日光町内なる社線日光登山鐵道あり。〔沿革〕明治維新の際に茂木・大田原・黒羽・鳥山・宇都宮・足利・佐野・

吹上・壬生・喜連川・高徳の十一藩あり。同三年三月高徳の戸田氏は下總に移り、同年七月喜連川藩は版籍奉還せしめ九藩となる。同四年七月藩を廢して縣を置き諸藩悉く縣となる。同年十一月各縣を廢し更に栃木・宇都宮の二縣を置き、栃木縣は都賀・安蘇・寒川・足利・梁田の五郡及び日光縣の管地上野國新田・山田・邑樂の三郡を管し、宇都宮縣は河内・芳賀・那須・鹽谷の四郡を治せり。同六年六月宇都宮縣を廢し栃木縣に併せり。同九年八月上野國の三郡を群馬縣に屬せしめ、下野一國を以て本縣の管轄とす。同十一年十一月都賀郡を分ちて上下二郡とし、同十七年一月縣廳を栃木より宇都宮に移し、同二十二年三月寒川郡を廢して其區域を下都賀郡に編入す。同二十九年宇都宮は市制を施行し、同年足利・梁田の二郡を廢し、その區域を以て更に足利郡を置き、次で大正十年足利、昭和十二年栃木に各市制を施行し、以て現今の三市八郡百七十四箇村となる。〔栃木市〕栃木縣三市の一。縣の南部、下都賀郡の略中央に位し、東は大宮村、南は瑞穂村、西は皆川村、北は吹上村に隣接す。東西約六・二軒、南北約四・五軒、面積一五・三六一平方軒、人口三三九二五(昭和十二年末)。西南境に太平山(三四三・四米)ありて其山脚東北に延互し、西南部の一部は丘陵地帯を成すも、他は謂はゆる關東平野の一部を占むるを

以て低平なり。巴波川は北方より来り赤津川等の小流を入れて市の稍東部を曲折南流し、永野川は市の西部太平山麓を南流す。市街は巴波川の流路に沿ひて發達し、永野川沿岸及び市街の四周には水田發達す。本市は消費地として特色を見ざるも生産地としては僅に北關東の重鎮たり。而して商業は往時巴波川により江戸との舟航の便に恵まれし關係上問屋營業・卸營業が其主たるものなりき。隨つて鐵道開設前には船舶の運行に依る近郷近在は勿論、宇都宮より遠く東北地方に至るまでの物資集散地として知られ、巴波川邊には同漕問屋軒を並べ股賑を極めたり。兩毛線の開通以後と雖も猶ほ米・肥料・味噌の如きものの發着は旺んにし、兩毛線栃木驛は現に宇都宮運轉事務所管内にて貨物の發着は第一位を占むるも、近代交通網の完備は中央と地方との取引を容易化し、且つ商業機構の變遷は問屋及び卸商の如き、中間利潤を主とする業者を以て漸次凋落せしむる傾向にあり。近年經濟界の不況と百貨店の進出により小賣商人側も亦營業不振に陥りつつあり。工業方面は元來特産大麻の加工と之を原料とする懷爐灰・下駄緒芯繩・麻裏草履及び家具製品・酒類・味噌等あり。之等は主として手工業に屬し、市街の上空に煙突の煙を見るは稀なり。されど近年栃木味噌及び傘下駄の産額は益々増加し、販路も亦帝都を初め關東地方一

圓に及び前途頗る有望なるものあり。また家具類は最近漸次頭角を現はし「栃木策筒」の名を以て通く著聞す。また以上の製産品中には近時滿洲方面に輸出されるものも漸次激増するの狀態にあり。尙ほ昭和二年に創立せられたる廣備織物工場は成績順調にして、現に印度向特殊織物の製造に忙殺せられつつあり。いま昭和十二年度に於ける主なる工産物を生産額的に擧ぐれば左の如し。

工産物	産額
下駄 芯繩	一、二六、〇〇〇圓
味噌	八、四、〇〇〇圓
下駄 味噌	五、〇、〇〇〇圓
懷爐 灰	四、七、三〇〇圓
麻裏草履(草履)	一、七、七、〇〇〇圓

その他年産十萬圓以上を越ゆるものに菓子・煉炭・製綿・酒類・木製品等ありて其總産額は約五百萬圓とす。農産物は米の約三十八萬圓、麥の約十一萬圓等を初め其總産額は約六十六萬圓あるも猶ほ自給自足の域に達せず。交通は省線兩毛線・社線東武鐵道及び自動車の交通網により縣南の中心點、北關東の要衝として交通運輸上重要な地位を占む。省線兩毛線は小山驛を起點として東南方より来り市の南部に栃木驛(明治二十一年設置)を置き、西南に走り佐野・足利等を經て高崎市に至る。東武鐵道日光線は西南方より来

り栃木驛にて兩毛線に連絡し東北方に走り日光に至る。また栃木驛を起點として宇都宮に至る東武鐵道宇都宮線あり。自動車は近年著しく發展し、栃木驛を起點とし宇都宮市を初め縣下及び近隣の各地に通じ、地方都市間及び都市と村落間の旅客運輸に甚大なる利便を興ふ。往古の事は詳かならざるも、天慶年間藤原秀郷の治下に屬す。平治年間に至りその裔小山政光の所領となり、元暦年間には其子宗政、新に長沼家を興して之を領す。寛喜年間に至り宗政の孫宗員岐れて皆川家を興し、皆川庄五十餘郷を長沼家より分領す。其後約百年宗員より六代の孫宗常は時の執權北條高時に背き元亨三年その所領を沒收せられ再び小山氏の治下に移る。元中間年に至り皆川宗員の子秀行七世の孫秀光、皆川家を再興して皆川庄五十餘郷を領し、應永元年秀光初めて栃木郷に栃木城を築く。爾來百九十年子孫相繼ぎ天正十二年廣昭に至り屢々兵戰を重ね、同年七月北條氏直と兵を交へ城遂に陥りこれより廢城す。されど此役、北條氏との和成りて依然皆川氏の所領たりしも、天正十八年豊臣秀吉小田原城攻略の際、豊臣氏麾下の攻むる所となり皆川城も廢城し慶長十年本多大隅守の所領となる。越えて同十七年に至り阿部善八郎・加藤喜助の兩氏初めて栃木郷の纏入れを行ひ伊奈備中守・曾根源右衛門之を分領す。其後諸侯或は徳川氏麾下の士に分封

され、近くは戸田氏の所領として足利藩に屬し明治維新に及ぶ。明治四年廢藩置縣の際日光縣及び栃木縣に分屬せしめ、同年十一月栃木縣廳の當町に設置せらるるや併せて其治下に入り漸く政令の統一を見た。六年宇都宮縣廳を廢して栃木縣に合併し下野國を一縣として依然栃木縣廳の所在地たりしも同十七年に至り縣廳を宇都宮に遷す。明治二十二年町村制施行の際栃木町と稱し、昭和十二年市制を布く。〔明治天皇栃木行在所〕指定史蹟。大字蘭部字鶴島。明治三十二年近衛師團小機動演習天覽のため栃木縣下行幸の際、十一月十五日より同月十八日まで御駐泊せられし處。のち大正七年十一月特別大演習に際し大本營となるに及び御座所の間所に多少改造を行ひしも猶舊規の見るべきものあり。〔太平山神社〕平井町に鎮座。縣社。祭神、天徳國體天津日高彥瓊瓊杵命外二神。淳和天皇天長四年、比叡山第二世慈覺大師圓仁、當山に登り靈夢によりて創建し、宸筆の御額及び神領を賜はり勅願所と定まればといふ。天正中兵火に罹りて炎上、同十年再建あり。徳川氏の崇敬厚く、慶安二年家光社領を寄す。明治初年に至りて別當寺蓮祥院般若經寺を廢す。社域風景絶佳の地にあり、社寶頗る多し。例祭、十一月十日。〔神明宮〕縣社。祭神、天照大神。應永十年以前の創建と推せらる。爾來近郷栃木城の支配を受けしが、天正年

中豊臣秀吉小田原北條氏攻撃の際、榎本氏没落と共に本社また衰頹す。寶永二年足利藩主戸田氏當地を領するに至り、當社の祭事は町奉行之を掌る。例祭、十一月六日。〔圓通寺〕栃木城内にあり。天台宗。星住山松樹院と號す。天長二年慈覺大師開創して聖觀世音を安置す。安政三年炎上せしも直ちに再建せらる。寺域風景絶佳にして當郡第一の靈地たり。〔近龍寺〕淨土宗。三義山天光院と號す。應永二十八年良儀上人の開創に係る。永祿六年領主皆川山城守俊宗大に歸依して寺領を寄す。爾來結城弘經寺末となる。〔定願寺〕室町にあり。天台宗。順禮山修徳院と號す。弘化十一年傳教大師關東巡錫の時草創すと傳ふ。もと川連村にありしを永祿六年皆川山城守成勝戰没將士の靈を弔はんとがために現地に移す。寺内に日の下開山横綱綾川五郎次之墓あり。綾川は此地の人に於て墓碑には悦安悟運居士と刻まる。〔勝泉院〕片柳町にあり。天台宗。白旗山と號す。貞觀年中慈覺大師の開創に係る。境内に征清戰死者の供養塔あり。〔陣屋址〕旭町にあり。寛政元年足利藩主戸田長門守忠祿の築くところ。いま奉行官宅等を存す。〔品山陣屋跡〕嘉右衛門町にあり。品山基玄が元祿元年に設けしものにて、常に代官を置きて事務を執らしめたり。今の岡田嘉右衛門氏の邸宅これにして舊規よく存す。〔三見堂〕旭町滿福寺境内にあり。本尊

青鬼に安政年中滿福寺火災の折、獨り嶺中に逃るといはれ種々の傳説に富む。鎌倉時代の彫刻にして一に左其五郎の作といはる。〔太平山〕市の西南境にあり。標高三四三米。山頂に太平山神社鎮座し境内に接して太平山公園あり。登路に表參道と裏坂遊覽新道の二あり。此地は元治元年水戸勤王の士田丸九郎之右衛門・藤田小四郎等が義旗を掲げて屯集せしより況く世に著聞するに至る。全山松・杉・檜等樹叢として繁茂し夏は涼さを覺ゆる程なり。頂上より東南を望めば常總の山々煙霧の中に隱顯し、北に白根・日光の連山交互し、西南には木曾・秩父・足柄の山々を隔かに眺め、遙に富士の雲峰を見る。その眺望絶佳にして神社參拜を兼ねて來遊する者多し。

トチクホ 椽窪 新潟縣南魚沼郡にありし村。明治三十九年他の一町五箇村と合併して鹽澤町となる。

トチノキ 栃木 長陽村(熊本縣)

トチノキ 椽ノ木峠 福井縣敦賀市の北東方約九軒、北陸道に當り、滋賀縣伊香郡片岡村と福井縣南條郡塚村との境上に最高點(五三七米)あり。北西に方り木ノ芽峠あり。此峠は日本海斜面と瀬戸内海斜面との自然的分水嶺をなすと共に近畿と北陸との人文上の境界たり。此地冬季積雪多し。源平盛衰記に木曾義仲、福井方面より此峠を越え、南方なる柳ヶ瀬に到りしこと見ゆ。

トチク トチノ

トチハラ——トツカ

トチハラ 栃原 三重縣多氣郡川添村の大字。省線紀勢東線の栃原驛(大正十二年設置)を置く。

トチユイ 途申越 栃生越

トツ 十津川 十津川(奈良縣)

トツカ 十束村 靜岡縣遠江國磐田郡の西南部。天龍川下流左岸に沿ふ。中泉町の西南約四軒にて、掛塚町の東北に接す。天龍川の沖積原なれば土地一般に平坦にして田畑に富み、米・麥・野菜等の農産物多し。其他、牧畜・工業等も多少行はる。掛塚・中泉兩町を結ぶ道路、村の南部を横切りバスを通す。

トツカ 戸塚

【戸塚町】 埼玉縣武藏國北足立郡の東南部。鳩ヶ谷町の東北にて、これと神根村を隔て、東北は綾瀬川を境として南埼玉郡出羽村と相對す。面積僅に五・五方軒餘の小村。全村平坦低濕にて水田多く、一部に畑地ありて米・麥を産す。岩槻街道は西北部を掠め鳩ヶ谷・川口市にバスの便あり。また西隣大門村に社線武州鐵道の武州大門驛ありて交通便なり。この地は天正年中、成田氏の部下、小宮山彈正介忠孝といふ者の居りし所なり。村内本行寺の大やまもみ(一株)は日通野圍約三・六米、高さ約一二米、太枝横がり樹形優美にして、指定天然記念物なり。【戸塚】 東京市淀橋區の町名。大東京市實現以前は中野區に隣る豊多摩郡に屬せ

し町なりき。舊神田上水の河岸低地と臺地とを占め、河岸低地には各種の小工場多く、臺地上は多く住宅地をなす。東端に早稲田大學あり、これがため一帯に下宿屋頗る多し。西南端は戸山原の練兵場の一部をなす。ほぼ中央に高田馬場仇討にて有名なる堀部安兵衛の遺跡あり。山手線の高田馬場驛(明治四十四年設置)ありて社線西武鐵道の連絡點をなし、また改修道路も通す。

【戸塚町】 神奈川県相模國鎌倉郡の中部。東北は横濱市保土谷區との間に川上村を隔て南は大船町との間に豊田村を挟む。面積六方軒に近く、西半部は低き丘陵にて山林をなし、東半部は南流する粕尾川流域にて幅狭き低地あり田畑畑麥・甘藷・米・野菜等を産す。古く東海道の宿驛にして街村式に發達し、横濱・藤澤・大船・長後(高座郡六倉村)等バスの運轉行はれ、特に藤澤へは觀光道路國道に並走し途上の風景佳なり。また省線東海道本線の戸塚驛(明治二十年設置)ありて交通便なり。粕尾川堤は樹木多し、横濱市近郊に於ける花の名所の一なり。戸塚はもと富塚・土塚にも作り、吉田庄の内たり。舊郡役所のありし所にして、いま警察署・氣象觀測所等あり。明治天皇、明治元年京都還幸の際、同年東京行幸の際、同二年東京再行幸の際、同十一年北陸・東海御巡幸の際、及び同十四年相模國東田村行幸の際等に此地に御小休あり

トツカ 十津川

【十津川村】 奈良縣大和國吉野郡の西南部。縣下第一の大村にして東西南北各約三〇軒内外、面積實に六七三方軒餘。熊野川の上流十津川流域の大部分を占め、北は大塔村・野追川村に接し、西は和歌山縣日高郡、南は同縣西牟婁郡・東牟婁郡、東南は三重縣南牟婁郡と界す。東境には大釜山脈連りて七面山・佛生嶽・釋迦ヶ嶽・大日嶽・天狗山・地藏嶽・行徳嶽・笠掛山・蛇崩山等の一〇〇〇—一五〇〇米の高峰連立し、西境にも護摩ノ壇山・屋又山・牛廻山等の一二〇〇米臺の峻峰聳峙し、南境には果無山脈東西に蜿蜒たり。東西兩境の山嶺より各數條の山肢村内に延びて高度一千米以上の山峰を成し、到る處に森林をなす。北方天川村より来る十津川は中部を蛇曲南流し、東境より来る旭川・澧川・芦瀬川、西境より下る神納川・西川等の支流を合せ、南境果無山脈を切りて東牟婁郡に出づ。山岳重疊、森林繁茂し、人跡稀なる地も少からず、一方村の人口密度は僅に一八人に過ぎず。河川に沿ふ斜面耕地に僅に茶園行はれ米・麥其他の食用農産あり。山地は謂はゆる古野杉其他の良材及び薪

トツカ 鳥坂村

【鳥坂村】 新潟縣越後國中頸城郡の西南部。荒川の上流關川の左岸に沿ひ、新井町に南接す。面積約八・三方軒。西南隅に高所山(五二八米)あり、その嶺北方に延びて中央部に城山(三四八米)を起し山地多き東境を關川、西北部を片貝川いづれも北流し、中央の山地を扼し、兩河岸の狭き平地には田畑拓げ米を主産す。信州飯山町より新井町に至る縣道東部を南北に走り北隣新井町・南隣原通村間のバスの便あり。大字娘川

せられたり。(八幡神社) 大字戸塚に鎮座。祭祀、祭神崇田別命。康平五年、源頼義の勸誘と傳ふれども明かならず。のち鎌倉権五郎景政の臣、戸塚友晴再興すといふ。例祭、九月一日。

炭の産地として著はる。道路は十津川本流に沿ひて中央を南北に貫き、中央部の風屋よりは北方宇智郡五條町にバスを通ずる外は交通なほ便ならず。此地は舊十津川(大體今の天川・大塔・野追川・十津川の四村)の大部を占め、謂はゆる十津川郷士の居りし處、古くは遠津川にも作りしは、文治年間源義經が兒頼朝と不和となりて遠津川(十津川)に隠ると東鑑に見ゆるによりて知らる。降つて元弘年間、護良親王、義兵を吉野に挙げ給ひし時、賊のために破られ、此地に入りて復興を謀り給ふ。此時宮を拒み奉りたる玉置庄司の居りし處は大字玉置川(十津川)の邊に在り。文久年間、天誅組の此地に據りしも、十津川郷士の勇を頼みしものなり。明治二十二年八月十九日此地を襲ひたる大暴風雨は、村内數箇所山崩れを起し十津川を堰止め、次いでこれが決潰に因る空前の大洪水を齎し、一村を殆ど全滅の瀕に投ぜり。此災害たるや餘りにも甚大にして、これが復興の目途殆ど立ち難きを以て涙を揮ひて此地を去り遠く北海道に移住する者數出し、其地に新しき村を作れり。いま石狩平野の一隅、省線釧路西方面の新十津川村に即ち是なり。新十津川村は十津川村の人口約一萬二千なるに對し、現在は一萬五千を越ゆるに至れり。【玉置神社】 大字玉置川に鎮座。祭祀、祭神、國常立命・天照皇大神・伊弉諾命・伊弉冉命・神日本靈命・伊弉諾大神・伊弉冉大神

【十津川】 奈良縣吉野郡の川。熊野川の上流をいひ、水源は紀伊山脈中の山上ヶ嶽の南麓なり。初は天ノ川と稱して西流し、後南に折れて十津川と號し、東西に連る紀伊山脈を南北に横斷して蛇行し所々に急流をなす。和歌山縣東牟婁郡に入りて熊野川となり、本宮村附近に於て音無川を入れ、請川村に於て四村川と合し、九重村宮井に於て北山川を併せ新宮市に於て海に朝す。支流頗る多く川原種川・神納川・蘆瀬川等著はる。流域一帯森林をなし、之を伐採して筏に組み、激流を下して熊野川口の鶴殿に出す。所謂熊野材是なり。豁谷は關郷正義の爲に盡せし有名なる十津川郷士の郷土にて、同一縣内にありながら奈良盆地とは全然別箇の地域を形成し、近畿としては最も交通に恵まれざる地方なり。流約程九〇軒、湯ノ原附近より下流は舟楫を通す。

【徳谷】 朝鮮慶尙北道高靈郡の西北隅。高靈面に北隣す。南境に美崇山(七三三米)及び西方伽耶山(一四三〇米)の餘勢域内に及びて西南一帯は山地帯を成せど

も、東北部には大伽耶の支谷徳谷川ありて谷に沿ひ僅に低地を見る。住民の多くは農業に従事し、傍ら製菓をなす者少からず。産物は米・小麥・大豆・煙草・麻・苧麻等あり、また柿を産す。東境を星州街道通じバスの便あるも、交通運輸未だ不便なり。

【徳谷面】 朝鮮慶尙南道陝川郡の東北端。北は慶尙北道高靈郡に接す。洛東江と支流會川との合流點を占め、北境に裏鶴山(四八九米)の聳ゆる外著しきものなく、一般に花崗岩の剝削による老年期の丘陵性地形を成し、兩河の沿岸及び谷合に僅に低地を見るに過ぎず。住民は農を主とし、婦女は機織に従事する者多し。産物は米・大麥・粟・大豆等にしてまた紙・麻布等あり。僻遠にあるを以て道路の改修充分ならず、交通極めて不便なり。洛東江に臨みて栗旨里の泊津あり、市場ありて取引活況を呈す。

【鳥取村】 北海道釧路國支庁管内釧路國釧路郡の西海岸。釧路市の西北に接す。東西に長く面積約一四〇方軒。釧路平野西部に屬し村内概ね低濕の原野にて、東半は釧路川の支流雪裡川・仁戸志別川により、西半は阿寒川と支流大榮毛川によりて潤さる。開墾なほ進まず荒蕪地廣

く、村民は東南部にある王子製紙會社の釧路工場従業員その大部を占む。社線並別炭礦鐵道釧路市より村を西北に貫き、平戸前驛(大正十二年開業)・穩平(大正十五年開業)・湯波内(大正十四年開業)を置く。この地は鳥取縣人の開發せるにより鳥取村と名づけし。

【鳥取】 京都府竹野郡にありし村。昭和八年吉野村・溝谷村・深田村と共に廢しその地域を以て彌栄村を置く。

【鳥取縣】 中國地方の東北部を占む。山陰道の中央に位し、東は兵庫縣、南は岡山・廣島の二縣、西は鳥根縣に接し、北は日本海に臨む。因幡・伯耆の二國より成り東西一八八軒、南北六〇軒、面積約三四八九方軒、内地道府縣中第四十一位にて奈良縣に次ぎ佐賀縣に優る。鳥取・米子の二市と岩美・八頭・氣高・東伯・西伯・日野の六郡とより成り、縣廳を鳥取市に置く。(地形) 南部は主として花崗岩・古生層より成り、山陰・山陽兩道の分水界をなす中國山脈の山地にして、境上には那岐山・津黒山・毛無山等海拔一二〇〇米内外の山峰あり。此間東部の兵庫縣との界には水ノ山(一五一〇米)・扇ノ山等、中部の因幡・伯耆の國界には三國山・三徳山等、西部には大山等の白山火山帯に屬する諸火山噴起し、安山岩の分布廣く、特に大山(一七三三米)は中國第一の高峰にて東北西に裾野を展べ山容雄大なり。地勢一般に南に高く北に低

【鳥取村】 北海道釧路國支庁管内釧路國釧路郡の西海岸。釧路市の西北に接す。東西に長く面積約一四〇方軒。釧路平野西部に屬し村内概ね低濕の原野にて、東半は釧路川の支流雪裡川・仁戸志別川により、西半は阿寒川と支流大榮毛川によりて潤さる。開墾なほ進まず荒蕪地廣

く、村民は東南部にある王子製紙會社の釧路工場従業員その大部を占む。社線並別炭礦鐵道釧路市より村を西北に貫き、平戸前驛(大正十二年開業)・穩平(大正十五年開業)・湯波内(大正十四年開業)を置く。この地は鳥取縣人の開發せるにより鳥取村と名づけし。

【鳥取縣】 中國地方の東北部を占む。山陰道の中央に位し、東は兵庫縣、南は岡山・廣島の二縣、西は鳥根縣に接し、北は日本海に臨む。因幡・伯耆の二國より成り東西一八八軒、南北六〇軒、面積約三四八九方軒、内地道府縣中第四十一位にて奈良縣に次ぎ佐賀縣に優る。鳥取・米子の二市と岩美・八頭・氣高・東伯・西伯・日野の六郡とより成り、縣廳を鳥取市に置く。(地形) 南部は主として花崗岩・古生層より成り、山陰・山陽兩道の分水界をなす中國山脈の山地にして、境上には那岐山・津黒山・毛無山等海拔一二〇〇米内外の山峰あり。此間東部の兵庫縣との界には水ノ山(一五一〇米)・扇ノ山等、中部の因幡・伯耆の國界には三國山・三徳山等、西部には大山等の白山火山帯に屬する諸火山噴起し、安山岩の分布廣く、特に大山(一七三三米)は中國第一の高峰にて東北西に裾野を展べ山容雄大なり。地勢一般に南に高く北に低

く、村民は東南部にある王子製紙會社の釧路工場従業員その大部を占む。社線並別炭礦鐵道釧路市より村を西北に貫き、平戸前驛(大正十二年開業)・穩平(大正十五年開業)・湯波内(大正十四年開業)を置く。この地は鳥取縣人の開發せるにより鳥取村と名づけし。

【鳥取縣】 中國地方の東北部を占む。山陰道の中央に位し、東は兵庫縣、南は岡山・廣島の二縣、西は鳥根縣に接し、北は日本海に臨む。因幡・伯耆の二國より成り東西一八八軒、南北六〇軒、面積約三四八九方軒、内地道府縣中第四十一位にて奈良縣に次ぎ佐賀縣に優る。鳥取・米子の二市と岩美・八頭・氣高・東伯・西伯・日野の六郡とより成り、縣廳を鳥取市に置く。(地形) 南部は主として花崗岩・古生層より成り、山陰・山陽兩道の分水界をなす中國山脈の山地にして、境上には那岐山・津黒山・毛無山等海拔一二〇〇米内外の山峰あり。此間東部の兵庫縣との界には水ノ山(一五一〇米)・扇ノ山等、中部の因幡・伯耆の國界には三國山・三徳山等、西部には大山等の白山火山帯に屬する諸火山噴起し、安山岩の分布廣く、特に大山(一七三三米)は中國第一の高峰にて東北西に裾野を展べ山容雄大なり。地勢一般に南に高く北に低

く、村民は東南部にある王子製紙會社の釧路工場従業員その大部を占む。社線並別炭礦鐵道釧路市より村を西北に貫き、平戸前驛(大正十二年開業)・穩平(大正十五年開業)・湯波内(大正十四年開業)を置く。この地は鳥取縣人の開發せるにより鳥取村と名づけし。

トツカ——トツト

きため河新に何れも中國山脈に發し北流して日本海に入り、千代川・河内川・天神川・加勢蛇川・阿彌陀川・日野川その他合計三十餘流あるも多くは流れ早く流程短し。最長の日野川は約八〇軒、これに亞ぐ千代川も四八軒餘に過ぎず。山岳地方は中國山脈の構成母岩が花崗岩にして風化による剝削作用行はれしと、古來林政整はず濫伐に委したるとにより、河川の氾濫珍しからず、また旱魃に際し灌溉用水の缺乏を見ること多し。平野は日野川流域の米子平野、天神川流域の倉吉平野、千代川流域の鳥取平野を主とし、その他の河川沿岸と海岸に沿うて狭小のものあり、いづれも肥沃にして農耕に適す。此外に第四紀沖積層より成る夜見ヶ濱半島が北西方に突出し、鳥根半島との間に中ノ海を拓く。海岸は中ノ海沿岸を合し延長一七三軒に達するも一般に單調にして境港を除きては良港少し。また海岸には砂丘の發達著しく、その内側に東郷池・湖山池等の潟湖あり。(氣象)氣候は南部に横ばる中國山脈と日本海を東流する對馬暖流と大陸の影響による冬季の西北季節風とに支配せられ、所謂裏日本氣候を表す。最近数年間の平均によれば、氣温の最高三五度、最低零下五・四度、平均一四・一度を示し、山陽地方に比すれば低溫なるも北陸地方に比すれば稍高し。最も寒き一月の平均氣温は二・七度(三朝)一四・四度(米子)、最も暑き

八月にて二六・一度(境)一七・九度(鳥取)なり。降水量は太平洋岸及び北陸地方に次ぎて多く、最近数年間の平均は一六一六を測り、海岸部に少く山岳部に多く、八月を最多とし十一月を最少とす。雪は十二月上旬に始まり三月に至りて止むを普通とし、稀に交通杜絶することあるも一般に積雪と共に寒氣漸く弱く融雪速かなるを常とす。(産業)最も重要なものは農業にして農業戸數五六、七七三戸(昭和十一年、以下準之)、即ち全戸數の六一%を占め、養蠶・牧畜・林業・漁業を兼ねる者多く、工業これに次ぐ。その生産額は左表の如し。

昭和十一年生産總額(單位千圓)
農産 三、七〇八
林産 三、七〇八
畜産 二、三六六
水産 二、一八八
工業 三、五七〇
計 一〇〇

耕地面積は約五萬ヘクタールにて田はその約六六%を占め、其他大草原野・砂丘地等を含む開墾可能面積二・五萬ヘクタールを有するを以て農業開發の餘地尙多し。米は農産物中の首位を占め千代・天神・日野諸川の流域を主産地とし、因伯米として産價あり、特に酒造米として適

し、産額約七二萬石、うち十五萬石内外を縣外に移出す。この外、麥(九萬石、裸麥・大麥・小麥の順)、甘藷(五百萬貫)、大根(六三一萬貫)、西瓜(一五五萬貫)、青芋等(一六四萬貫)、その他の蔬菜類及び三梗(二〇萬貫)、葉煙草(三二萬貫)等を主なるものとす。また果樹栽培盛にして岩美・八頭・氣高・東伯各部の二十世紀梨(一二〇萬貫)を初め柿・蜜柑を産す。養蠶は中國地方にても沿革古く、夜見ヶ濱地方には大規模經營者少からず、全国的にも著名なる養蠶地帯の一なり。養蠶戸數は約三萬戸に及び、昭和十一年産額一三五萬石餘、價額六三三萬圓、從つて製糸業盛んにして製糸場數一六七、釜數四千を超え、生糸の生産二〇萬貫、九五五萬圓に達す。畜産は牛最も多く、古來因伯牛として知られ、大山裾野・日野郡地方に多く飼養せらる。林野は全地積の約七割を占め、八頭・日野兩郡の南部には特に美林多く、用材・木炭・竹材の産あり、縣外に移出せらるもの多からず。蠶産は岩美・鏡山の銅を第一とし、日野郡よりハクロム・鐵を出すこと多く、其他砂鐵あり。水産は鱈・鯛・鯖・鰯・烏賊・蟹等を主とし、特に近年機船底曳網漁業等による遠洋漁業の發達と共に、逐年漁獲高の増加を示しつつあり。工業は紡績工業を第一とし、製材及び木製品工業・食料品工業これに次ぐ。紡績(生糸九九五萬圓)以外の多くは未だ家内工業を以て占め、産額の六八萬圓これに次ぎ、以下畜産・水産の順なり。農産の首位は米にして耕作面積約八百ヘクタール、一萬九千石を出し、京阪地方にて角輪米として知らる。藪は一萬五千石、果實は二十世紀梨著はれ近郊を合して九十萬貫内外の收穫あり、内地は勿論蒲洲・南洋等に移出せられ、其他花御所柿・葡萄等を産す。畜産は牛・豚・馬等にて牛乳九萬圓以上を出し、水産は沿岸の漁獲高二四萬圓、水産製造物に蒲鉾・竹輪の八萬餘圓あり、松葉蟹と千代川の鮎は特産として名高し。工業は製絲・製紙・瓦斯・製氷・製材等の工場工業行はるも、在來の家内工業また盛なり。工場數一〇一、その生産額四五萬圓にして、生絲(一七四萬圓)・建具指物類(五〇萬圓)・清酒(四八萬圓)・和紙(八八萬圓)等を主としその他製材・漆器・銅等及び傘・提灯・際寫用原紙等の加工品等著はれ、また白珊瑚・海松細工等の工物品あり。省線山陰本線は東境の榎崎隧道を経て市内に入り市街南端に鳥取驛(明治四十年設置)あり、同驛より南へ省線因美線を岐つ。道路は鐵道と並行して國道山陰街道東西に走る外、東南に南灘街道、南に若櫻街道・智頭街道を出し、驛前より岩美・八頭・氣高各部の主要地へバスの便あり、また大阪・松江へ各一日一往復の航空旅客機發着す(飛行場は市外蔵見にあり)。市街は袋川に跨り久松山の西南麓に扇狀に彌

江間の日載の航空路に當り鳥取・米子にその飛行場設けらる。港灣としては境・米子・赤碓・賀露・網代・田後の諸港あり、境港は山陰地方屈指の良港にて、下關・鹽岐・清津・大連・舞鶴等の間に定期航路ひらく。「人口」昭和十二年十月一日現在推定によれば、四十九萬一千人にして、一方軒當り一四一人を示し、全國中にて第三十六位に居り、稀薄の地方に屬す。また女子が男子より多く、女一〇〇に付き男九五・一に當り、全國平均一〇〇・五より著しく女子多く、全國各府縣中その比を見ず。四回の國勢調査の結果を比較するに左表の如く、毎回女子の超過著し。總人口は縣全體として見る時

大正九年 男 三三三、八〇二
女 三二一、八七三
昭和五年 男 三三〇、六八〇
女 三二一、六五〇
同十年 男 三三九、〇八四
女 三三〇、〇八三
同十年 男 三三九、三〇一
女 三二五、一六〇

は勿論増加の傾向を示し、大正九年乃至十四年に年平均〇・七四%、同十四年乃至昭和五年に平均〇・七二%、同五年乃至十年に平均〇・〇五%の増加率なるも、全國總人口の増加率一・四二%には遠く及ばず。また全國總人口に對する本縣人口の割合は〇・六九%にて府縣中最低位にあり、大正九年のそれは〇・八一%、同十四年は〇・七九%、昭和五年は〇・

七六%、同十年は〇・七一%にて逐年遞減す。縣内に人口の稠密なるは市部を除きては西伯郡を第一とし氣高郡・東伯郡之につきて縣平均密度より多く、八頭・日野の兩郡は疎にして一方軒當り五〇―七〇人に過ぎず。「沿革」上世に於て因幡・伯耆の二國は素戔嗚尊・大國主命相次で統治し給ひ、景行・成務帝の御代には國造を置き、中世に至り國府を因幡には宮下村(いま岩美郡宇倍野村)、伯耆には國府村(いま東伯郡社村)に置き、國の格は上國と定めらる。國司として任命せられたるものには大伴家持・淡海三船・在原行平・橘行平(以上因幡)・山上憶良(伯耆)等あり。元弘年中名和長年、中興

伯耆・鹽岐三國を管し、同九年鳥取縣を鳥根縣に合併せしが、同十四年再び鳥取縣に獨立して今日に至れり。【鳥取市】鳥取縣の首都。縣の東北部に位置し、東・南の二方は岩美郡に接し、西南は氣高郡と界し、西北部は千代川の東西に跨りて日本海に面す。東西約一三軒、南北七軒餘、面積四五・一五方軒。人口約四萬七千。東半部は高取二百米前後の丘陵地にして東境に摩尼山(三五五米)・榎崎・稻葉山(宇倍野山、二四九米)等連り、山岐西方に延びて中央に久松山(二六四米)等聳ゆ。西半部は千代川下流のつくる沖積地にて、西部を新千代川貫流し、東南―西北の流路をとる袋川・新袋川を容れて、賀露港に於て日本海に朝し、流域は地味肥沃なる鳥取平野の北部をなす。海岸線は全長八軒に互り單調なる低沙濱を成しその背後は二軒の幅を以て東西に連る謂はゆる鳥取砂丘をなし、その東南に接して多鯨ヶ池あり。氣候は概して溫和にして全年平均氣温一六・五度、いま昭和十一年中の觀測によりて主要氣象要素を擧ぐるに、氣温の最高は八月の三〇・〇度、最低は一月の二・五度、降水量一八九二軒、例年十二月―三月間は曇天・降雨雪の日多く、同年中の雨天は四箇月間に二八日、降雪は二二日を數へたり。本市の産業を概観するに、生産總額は昭和十一年に於て六二一萬圓餘にして、うち五一〇萬圓餘(八二%)は工業

トットトット

が、全市緑樹に蔽はれ、區劃井然として小京都の觀あり、山麓の謂はゆる山手は官公署、學校等集中し、それより袋川に至る地域は商店街、外郭の新袋川一帯は工場地帯をなす。市街南部の吉方・末廣附近には温泉の湧出多し、温泉街を構成し、市街東端に鳥取城址あるを始めとし、名勝舊蹟に富む。縣廳・市役所、地方裁判所・區裁判所・稅務署・警務署・歩兵第四十聯隊・陸軍病院及び縣立の水産試驗場・蠶業取締所・商工獎勵館・農事試驗場等の官公署のほか、鳥取放送局(J.O.B.G.)・赤十字病院・高等農業學校・因伯時報社・鳥取新聞社等あり。〔沿革〕鳥取の名は、往昔此附近一帯が沼澤地にて水禽多く、人集りて鳥を取るによりて鳥取場といひしに始るとも、また鳥取姓の人久しく住せしにより名づくともいふ。天文年間氣高郡布勢城主山名誠通、久松山に城く。永祿六年その臣武田高信當城に據りて叛くや、天正元年山名豐國これを滅して自ら鳥取城に入り、本府となす。そのち吉川經家この城の守護たりしが豊臣秀吉の圍むところとなり苦戰遂に陥落す。慶長六年池田長吉これに封ぜられ、爾來池田氏歴代三百年の城下たり。明治二十二年市制施行。大正十二年岩美郡富桑村、昭和七年同郡稻葉村、同八年同郡中ノ郷村・美保村、同十二年氣高郡賀露村を編入し今日に至る。〔賀露港〕市の西北部、新千代川口の左岸に位

し、前面に鳥ヶ島浮ぶ。市の中心とは賀露街道を以て連絡す。古く鳥取市の外港にて藩政時代には千石船を泛べ直接大阪との取引、または海外貿易を行へり。いま市内の物資輸送は大部分鐵道による爲に、ただ漁港たるに止まるに至れり。〔伊吹植物園〕新築植物園あり。明治十六年伊吹莊藏の創立に係る鳥取植物園試験場の後身にして、各種植物に就き研究し、學用植物見本園及び遊園地を設く。園内風致に富み、藤・薔薇等の美觀あり。〔魚市場〕鹿野街道筋、川端四丁目より鹿野橋を隔てて對岸南本寺町に至る間に開市せらる。橋の以東を内市、以西を外市といひ、毎朝魚鳥・蔬菜・果實・果樹等の取引多く甚だ雜沓を極む。鳥取名物の一。〔キマダラムリツバメ棲息地〕指定天然記念物。上町招魂社附近。その棲息地として有数なり。本種は本邦特有のものにして其數極めて少く、分布も亦局限せらる。〔久松山〕市街の東北に聳え標高二六四米。山麓に久松遊園地、東方の太閤ヶ平に秀吉の鎧掛の松あり。遊園地は鳥取城址の地にして面積約六ヘクタール、大正十一年開放せられ樹木・蓮池等あり。二ノ丸址よりの展望佳なり。その西隣に鳥取運動場あり大正十三年の開設にて面積約一六アール。〔鳥取温泉〕市の南部、鳥取驛附近の吉方・寺町・木廣(東品治町)の三温泉の總稱。吉方は鹽瀨泉、溫度五〇度、鹽瀨・皮袴・リウマ

四美

月十一日。〔觀音院庭園〕指定名勝。上町、觀音院境内あり。方丈の東前より西方に互れる自然の傾斜地に加工して造られたる築山の麓に池を穿つ。瀧口・中島等は刈込を施したる庭樹と共に優美なる景觀を呈す。江戸時代後期の京都風庭園が地方化せられしもの一例。〔景福寺〕新品治町にあり。曹洞宗。貞治三年僧通幻、平尾越中守景勝の請に應じ攝津國六瀬村に之を草創。のち池田氏當國に轉封するに及び現地に移る。いま常規會地として有数の巨刹なり。〔玄忠寺〕新品治町にあり。淨土宗。深心山。知恩院末。天正四年の創建に係り市内有数の巨刹。境内に荒木又右衛門の墓あり。〔荒木又右衛門の墓〕玄忠寺境内にあり。又右衛門は伊賀國阿拜郡荒木村の人、柳生但馬守・宮本武藏に就き剣法を修め郡山侯に仕ふ。寛永十一年十一月、伊賀上野に於て渡邊數馬を扶け河合又五郎等を討ち、伊勢の藤堂侯に預けられ、次で鳥取藩に移され、當地に歿す。碑面に「秀譽行念佛 門定寛永十五年八月廿五日歿享年四十一」と刻す。〔光清寺〕瀧山にあり。時宗。天照山と號す。昔は大伽藍なりしが、天正の役に山中鹿之助の兵火に罹り、のち畑中より發掘せる觀音を本尊となす。〔興禪寺〕栗谷町にあり。黄檗宗。龍峯山。元祿六年僧千采の開創。藩主池田光伸の菩提所とす。當時伽藍完備し輪奐の美を極め寺領二百石を有せし

トットトット

も、明治維新後類廢す。境内に渡邊數馬の墓あり。〔最勝院〕湯所町にあり。古義眞言宗。如意山と號し高野末たり。法道仙人の靈蹟にして、天長九年空海の開創と傳へ、寛永九年の再興に係る。境内にありし有名な臥龍松は明治二十六年枯死し傍に臥龍松碑建つ。〔常忍寺〕西品治町行徳にあり。日蓮宗。鷲峯山。一に積穀寺。紀州徳川親宣の母養珠院、當宗に歸依し、紀伊に養珠寺を、甲斐に本遺寺を興し、尙ほ日常の生國たる當國に一字を建立せんとして果さず、天保中池田氏室其遺言を奉じて當寺を草創す。普賢十羅刹女像一幅(絹本着色)は國寶。〔眞教寺〕川端一丁目にあり。淨土宗。天文十四正了達の開創に係る。天正九年吉川經家、豊臣秀吉に包圍せられし時當山に入りて自盡し多くの軍士を救助す。〔眞宗寺〕藪片原町にあり。眞宗。本尊は阿彌陀如來。天正年中鳥取城主宮部善祥坊の開基、開山は淨圓和尚なり。市内第一の大伽藍にして十二間四面と稱せらる。〔大雲院〕立川町にあり。天台宗。慶安三年池田光伸の創建にして、從弟公胤を開山とす。もと東照宮の別當たりしが、維新の際東照宮を櫻嶺神社と改め、本寺を分離す。〔摩尼寺(帝釋寺)〕市の東北隅、摩尼山の中腹にあり。天台宗。喜見山。天長年中産見長者なるもの帝釋天の奇瑞に感じて草創し、承和年中圓仁此地を下して堂閣を造營すと傳ふ。のち

チヌ・呼吸器病等に效あり。末廣は炭酸鹽瀨泉にて溫度四五―五〇度、胃腸病・痔疾等によく、寺町は冷泉にして浴用加熱、皮膚病・婦人病等に效あり。明治三十七年の開鑿に始まり爾來數十箇所に湧出、股脈を極め、温泉街をなす。〔袋川堤の櫻〕驛の東約〇・七軒、寺町より茶町を経て湯所に至る約四軒の間、袋川右岸に櫻樹を植ふ、花時美觀を呈す。〔鳥取城〕市の中部久松山にあり、故に久松城ともいふ。天文年間山名誠通の築城。天正年間毛利氏の有に歸し、吉川經家これを守る。天正九年羽柴秀吉之を陥れその將宮部善祥坊繼調を置く。關ヶ原役後池田氏の族交々相承け明治維新に至りて城廢す。いま城の一部は久松山公園となり、本丸址・天主閣址等の石礫のみ遺存す。〔扇塚〕東町にあり。舊藩主居城中の一殿にて扇塚ともいふ。明治四十年皇太子殿下行啓の際御座所として池田氏これを修す。結構壯麗なり。〔櫻嶺神社〕上町に鎮座。縣社。主祭神、徳川家康。相殿神、池田忠繼・同光伸・同忠雄。同慶徳。慶安三年藩祖池田光伸の創建。初め大目谷の東照權現、または東照宮と號す。明治七年に忠繼・忠雄・光伸を合祀し現社號に改稱し、のち慶徳を合祀す。家康を祀りしは、忠繼の外祖父たるに由る。忠繼は輝政の次男、母は家康の第二女なり。光伸は忠繼の嗣子、因幡少將と云ひ、因幡・伯耆三十一萬石を領し子孫

トットトット

四三

トットリカミ 鳥取上村 岡山縣備前國赤磐郡の西南部。岡山市の東北約一六軒。北は輕部村、南は高陽村・西山村に接す。面積一二方軒餘。西・北に高さ二百米内外の山地あるも、南部一帯に平野展げて耕地拓げ米・麥・藁・棉・薄荷を産し製綿・酒造行はる。村に小兒保護協會あり宮内省・内務省より年々々の下賜金あり。縣道東部を縦貫し、瀬戸町・岡山市へバスの便あり。此地古くは和名抄、赤坂郡鳥取郷の一部に當る。〔片山神社〕大字山津里に鎮座。郷社。祭神、勢州鈴鹿神社と同じとあり。古來村民の崇敬社。例祭、十月十三日・十四日。トットリシモ 鳥取下 岡山縣赤磐郡にありし村。明治三十五年鳥取中村・東高月村と合併して高陽村を建つ。トットリナカ 鳥取中 岡山縣赤磐郡にありし村。明治三十五年鳥取下村・

鳥取中 岡山縣赤磐郡にありし村。明治三十五年鳥取下村・

トツハ——トトリ

東高月村と合併して高陽村を建つ。トツハ 突馬面 朝鮮京畿道廣州郡の中央西側。廣州邑の南方五軒、京城の東南約三〇軒にあり。東部は低山丘陵起伏するも漸次西方に下り西境を北流する漢江の支流炭川沿岸に至りて愈々低平となる。産物は米・小麦・大豆・粟等の外白菜を初め諸種の蔬菜を産し京城に移出す。道路は京城より来る三等道路面の西境を走りバスを通ずるも、城内交通便ならず。聚落は集村型様式をなし、南部の盆唐里に不定期に開く市場あり。

トテ 戸手村 廣島縣備後國瀨田郡の南部。福山市の西北方約一〇軒、瀨田川中流の左岸に沿ふ。西は新市町、東は驛家村に隣り、南は川を以て福相村と界す。面積四・四七方軒。南部瀨田川流域に平地展げ耕地あり。北隣服部・朝引二村より續く後背地は山地にて一五〇米内外の高さを有す。農産に米・麥・蕎麥あり、また綿織物を出す。省線福徳線南部を横ざり戸手・上戸手の二駅(大正三年設置)あり、また中國街道より岐るる出雲街道(縣道)鐵道と略並行し、東南は福山、西北は府中方面とバスの便あり。本村は明治二十八年戸田村の大字戸手村を分割して新設せるもの。(素戔嗚神社)縣社。祭神、素戔嗚命・稻田姫命・八王子神。創建年代詳ならず凡そ神代以來の宮居ならんと云ふ。備後風土記に疫限社と見え、延喜式神名帳に津津郡一產領佐能賣

神社とあるは即ち當社なり。後世度々の兵亂に神領を掠められ社殿は兵燹に失する等甚しく衰微せしが、天文年中毛利氏の命を承け有地石見守は社殿を造營し、天正年間に更に毛利氏社領百石を寄せ社運大いに振ふ。のち阿部氏の國守となるに及び歴代の崇敬厚く、祭祀修葺悉く藩費を以てす。例祭、七月十五日。

トト 鉾崎 下重茂村(岩手縣)

トトト 斗東面 朝鮮慶尙南道蔚山郡の北部。蔚山邑の西北約一五軒。大白山脈の末梢部に屬する國秀峰(六〇二米)東境を劃する他著しきものなきも東部は概して高く、中部は丘陵性を成し其間に小平地甚す。耕地は丘陵の緩斜面を利用してを以て灌漑の利に乏しく主畑作農業行はる。大豆は收穫・品質共に卓越し他に移出す。其他、蕎麥・煙草・大豆等あり。中央より偏在せるを以て道路の改修未だ充分ならず交通運輸不便なり。

トトトト 綴法華村 北海道渡島支廳、渡島國龜田郡の東端。南と西は尻岸内村に、北は茅部郡尾札部村に隣り、東は太平洋に面す。面積約二五方軒。南東境上には一大圓頂丘をなせる火山惠山(六一七米)あり、その東北麓は惠山岬となりて突出す。西北境にも九山(六九一米)あり、その山嶺西端及び北境に延び村内は概ね山地なるも、ただ中部に小低地ありて矢尻川を東北に流れ多少の耕地あり。綴法華の聚落は東岸の平地に當

ひて發達し漁港をなす。鯉・鮭・鱒・昆布等の海産に富み、惠山岬山・常盤松嶺山より硫黄を出す。道路は海岸に沿ひ、次いで惠山東面の段丘上を南に通じて尻岸内村へバスを通ず。惠山岬には燈臺の設あり、その南方には温泉湧出す。惠山(常盤松嶺山)本村と北隣尾札部村とに跨る硫黄山。面積三十一萬五千坪、常盤松嶺所の經營に屬し昭和十年の産額七七八噸、此價額四萬七千餘圓、又礦夫數は同年六月末現在にて三八八なり。

トトリ 砥取山 京都市右京區梅ヶ畑平岡にあり、砥石を産す。鳴瀧紙と稱す。

トトリ 鳥取 越中國(富山縣)の古地名。和名抄に新川郡鳥取郷あり、高山寺本には他の二郷と共に「今亡」と註記す。從つて今その地を明にすること能はず。

【鳥取】丹後國(京都府)の古地名。和名抄に竹野郡鳥取郷あり、鳥取部の居りし處。中世には鳥取莊といふ。いま御菜村に大字鳥取あり郷名を傳ふ。郷城は鳥取の外同じく御菜村に入りし舊深田村及び鳥津村に亙る。

【鳥取】河内國(大阪府)の古地名。和名抄に大縣郡鳥取郷あり、鳥取部萬の宅址のありし處。その地春かならざるもいま中河内郡の堅下村・堅上村の邊ならん。

【鳥取】和泉國(大阪府)の古地名。和名抄に日根郡鳥取郷あり、此地利と註す。

トナキ 渡名喜村 沖繩縣琉球國島尻郡にある村。渡名喜島及び島山出砂島より成る。那覇市の西北方約四三軒。渡名喜島は慶良間列島に屬し周囲約八軒。古生層より成る山地聳立し耕地に乏しきも、中部に低地ありて耕地・桑蔭發達す。半農半漁の形態をなし、甘藷・甘蔗を産し米作も僅にあり、なほ豚の飼養盛にして渡名喜豚として世に知らる。那覇市との間に定期航路の便あり。出砂島は渡名喜島の西に近くありて無人島なり、琉球音曲出砂節を以て聞ゆ。出砂節「出砂の節やいづみ抱ちもたへる、眞鍮抱ちもたへる渡名喜里前」

トナベ 土鍋山 越後山脈白根火山群に屬する一峰。草津温泉の西方約一四軒、群馬縣吾妻郡嬭村と長野縣上高井郡豊丘村との境上に位す。標高一九九九米。北東麓は御飲岳等を経て白根山に連

り、南麓は浦合岳を経て河内山に續く。

トナミ 斗南半島 下北半島

トナミ 利波 越後國(新潟縣)の古地名。和名抄に磐船郡利波郷あり、訓を缺くもトナミと訓むべきならん。いま磐船郡にこれに該當すべき地名見當らず、越後野志も亦その地何れなるかを春にせずといへり。或は利波は制波の誤にして、訓みてモバと云ひしものか。往昔、荒川の渡津を世襲渡と呼びきといへば、利波郷はこれを荒川下流の沿岸に求め、岩船郡の平林・保内・金谷諸村の邊に擬すべきか、後考を俟つ。

トナミ 利南村 群馬縣上野國利根郡の南部。沼田町の東南隣にて、南境は西南流する片品川を隔てて赤城山西北斜面の糸之瀬村・久保村と對し、西南は利根川を境として川田村と對す。地東北より西南に狭長にして面積約一〇方軒。概ね平坦にして桑畑多く養蠶盛なり。農産物には米・麥・蔬菜あるも頗多からず。沼田町より會津街道東北に貫き自動車の便あり。古くは和名抄、利根郡沼田郷の内とす。

トナミ 利納 薩摩國(鹿兒島縣)の古地名。和名抄に伊作郡利納郷見ゆ。されど利納は利納の誤にしてトナミと訓すべきか。其地今審かならざれども、日置郡伊作町の邊ならんといふ。

トナミ 富波村 岐阜郡美濃國山縣郡の中部東偏。北及び東は武儀郡乾村。

トナミ 富波村 岐阜郡美濃國山縣郡の中部東偏。北及び東は武儀郡乾村。

トナミ 富波村 岐阜郡美濃國山縣郡の中部東偏。北及び東は武儀郡乾村。

トナミ 富波村 岐阜郡美濃國山縣郡の中部東偏。北及び東は武儀郡乾村。

トナミ 富波村 岐阜郡美濃國山縣郡の中部東偏。北及び東は武儀郡乾村。

トナミ 富波村 岐阜郡美濃國山縣郡の中部東偏。北及び東は武儀郡乾村。

トナミ 富波村 岐阜郡美濃國山縣郡の中部東偏。北及び東は武儀郡乾村。

トナミ 富波村 岐阜郡美濃國山縣郡の中部東偏。北及び東は武儀郡乾村。

トナミ 富波村 岐阜郡美濃國山縣郡の中部東偏。北及び東は武儀郡乾村。

トナミ 富波村 岐阜郡美濃國山縣郡の中部東偏。北及び東は武儀郡乾村。

トナミ 富波村 岐阜郡美濃國山縣郡の中部東偏。北及び東は武儀郡乾村。

トナミ 富波村 岐阜郡美濃國山縣郡の中部東偏。北及び東は武儀郡乾村。

トナミ 富波村 岐阜郡美濃國山縣郡の中部東偏。北及び東は武儀郡乾村。

トナミ 富波村 岐阜郡美濃國山縣郡の中部東偏。北及び東は武儀郡乾村。

トナミ 富波村 岐阜郡美濃國山縣郡の中部東偏。北及び東は武儀郡乾村。

トナミ 富波村 岐阜郡美濃國山縣郡の中部東偏。北及び東は武儀郡乾村。

トナミ 富波村 岐阜郡美濃國山縣郡の中部東偏。北及び東は武儀郡乾村。

トナミ 富波村 岐阜郡美濃國山縣郡の中部東偏。北及び東は武儀郡乾村。

トナミ 富波村 岐阜郡美濃國山縣郡の中部東偏。北及び東は武儀郡乾村。

トナミ 富波村 岐阜郡美濃國山縣郡の中部東偏。北及び東は武儀郡乾村。

トナミ 富波村 岐阜郡美濃國山縣郡の中部東偏。北及び東は武儀郡乾村。

トナミ 富波村 岐阜郡美濃國山縣郡の中部東偏。北及び東は武儀郡乾村。

トナミ 富波村 岐阜郡美濃國山縣郡の中部東偏。北及び東は武儀郡乾村。

トナミ 富波村 岐阜郡美濃國山縣郡の中部東偏。北及び東は武儀郡乾村。

トトロ——トナミ

大谷派となれり。「萬福寺」字等々力にあり。眞宗本願寺派。等力山杉の坊といふ。聖徳太子の舊蹟、古へは天眼寺と稱し天台の大利たりき。安貞二年源誓坊聖信和尚の代、親覺上人富山に留錫して改宗すと。寺寶頗る多し。

トトロ 土々呂 日豊本線の一驛(大正十一年設置)。宮崎縣延岡市糟津土々呂にあり。

トドロキ 轟 赤井川村(北海道後志支廳)

トドロキ 轟 赤井川村(北海道後志支廳)

トドロキ 轟 赤井川村(北海道後志支廳)

トドロキ 轟 赤井川村(北海道後志支廳)

トドロキ 轟 赤井川村(北海道後志支廳)

トドロキ 轟 赤井川村(北海道後志支廳)

トドロキ 轟 赤井川村(北海道後志支廳)

トドロキ 轟 赤井川村(北海道後志支廳)

トドロキ 轟 赤井川村(北海道後志支廳)

トドロキ 轟 赤井川村(北海道後志支廳)

トドロキ 轟 赤井川村(北海道後志支廳)

トドロキ 轟 赤井川村(北海道後志支廳)

トドロキ 轟 赤井川村(北海道後志支廳)

トドロキ 轟 赤井川村(北海道後志支廳)

トドロキ 轟 赤井川村(北海道後志支廳)

トドロキ 轟 赤井川村(北海道後志支廳)

トドロキ 轟 赤井川村(北海道後志支廳)

トドロキ 轟 赤井川村(北海道後志支廳)

トドロキ 轟 赤井川村(北海道後志支廳)

トドロキ 轟 赤井川村(北海道後志支廳)

トドロキ 轟 赤井川村(北海道後志支廳)

トドロキ 轟 赤井川村(北海道後志支廳)

トドロキ 轟 赤井川村(北海道後志支廳)

トドロキ 轟 赤井川村(北海道後志支廳)

トドロキ 轟 赤井川村(北海道後志支廳)

トナミ トネ

西武藝村に接し、岐阜市の北界より北方約一三軒に位す。面積七、九方軒の小村。南境に聳ゆる古城山(四〇八米)の東、北側の山地にて、東境を南流する武儀川の右岸に幅狭き谷地を作る。谷沿の聚落は昔より和紙の手流を以て著し、良質の美濃紙を生産し、その他養蠶・林業行はる。岐阜市より高富町を経て来る縣道は西北隣なる谷合村に通じバス便あり。村名は富永村と音波村を合して木村を建てし時、その一字づつを取りて名づけしものなり。

トナミ 礪波

【礪波(郡)】越中国(富山縣)の古郡名。古事記孝靈段に日子刺肩別命は高志利波臣の祖なりと見え、寶龜十一年の條に礪波郡高瀬神に従五位下を授くあり。和名抄は止奈美と訓じ川上・八田・川合・拜師・長岡・大同・高橋・陽知・三野・意悲・大野・小野の十二郷を置く。明治卅年分割し東礪波・西礪波の二郡とす。【礪波山】俱利伽羅峠(富山・石川縣境)の舊稱。

【礪波關】古へ加賀・越中の境に置かれし關。大伴家持越中守となり任に赴きし頃は此關あり、これを詠みし歌、萬葉集卷十八に收めらる。「燒太刀を礪波の關に明日よりは、守部やり添へ君を止めん」とあるも、その遺址いま詳ならず。陸路の記に、礪波山に關の清水とあり、礪波關の名残を止めし岩井ありとあるも、

恐らく後人がその關の名により、逢坂の關の清水になぞらへていひ出せしものなるべし。山隘は之を俱利伽羅峠といふ。これ、西上の途中木曾義仲の大いに平軍を破りしところ。蓋し北陸官道の要衝に當り、ここに關を置きて往來を檢せしものならん。

トナリ 土成村

徳島縣阿波國阿波郡の東部。西南は八幡町に接し東は板野郡御所村に隣る。面積一七・八四方軒。北部は讃岐山脈南側山肢の末端にて高さ五百米の山地あり、中部以南は吉野川流域中部平地の北部に續き田畑拓け、米・麥・蕎麥等を産す。撫養街道南部を横ぎり、西は八幡町及びその西隣市場町へ、東南は西條(板野郡一修町)へバス便あり。また東方は省線讃治原線の終驛讃治原驛(板野郡松島村)にも達からず。古くは和名抄、阿波郡高井・秋月の二郷に分屬せしもの如し。而して大字に郡あれば或は郡家の所在地なりしにや。大字秋月は細川頼春の寓止せる地とす。「熊谷寺」大字土成にあり。古義眞言宗。普明山眞光院。同宗金剛峯寺末にして、四國八十八所第八番札所たり。詠歌、たきぎ探り水くまたにの寺に來て難行するも後の世の爲「法輪寺」大字土成にあり。古義眞言宗。正覺山又は白蛇山と號す。現に同宗仁和寺末にして四國八十八所第九番札所たり。詠歌「大乘の詩訪もどがもひるがへし轉法輪の報とこそ聞け」

之を利根水系より分離せしめ、南に流れて入間川を合せしめ今日の開田川の流路をとらしめたるものとす。利根本流は次で栗橋町にて渡良瀬川の大支流を合す。分流江戸川は栗橋より分れ、分流直後はの権現堂川と呼ばれ更に關宿町にて境町よりの利根川の分流を合し江戸川となりて南流、下總・武藏の國境を流れ、西に廣き沖積層の平地を眺め、東には下總の洪積層臺地を望み、市川市の南部の三角洲を作り東京灣に注ぐ。江戸川を分流して後の本流は茨城・千葉兩縣界を東流、利根兩岸に廣く擴がる常總臺地の間に氾濫原を形成す。中利根川にては鬼怒川・小貝川を左より合流し、分流江戸川とは利根運河を以て連絡す。また小貝川合流點より霞ヶ浦の浮島へは新利根の運河あり、霞ヶ浦とは横利根・北利根川によりて連絡す。北利根の沿岸には潮來町あり横利根は佐原町の北に開く。霞ヶ浦・北浦一帯は佐原・潮來を中心とする水郷利根を現出し、臺地間の氾濫原は低濕にして干拓開墾行はる。即ち茨城・千葉兩縣の利根兩岸は我國第一の湖沼群をなし、茨城縣には上流より主なるものに長井戸沼・鶴戸沼・菅生沼・牛久沼・霞ヶ浦・北浦等あり、更に下總に手賀沼・印旛沼あり何れも利根川水系に屬す。これ等の湖沼群は何れも洪積層の低臺地に境せられ南部の下總丘陵は二〇米乃至五〇米、北方の丘陵群は何れも一五米乃至四〇米

トナン 斗南庄

臺灣臺南州斗六郡の略西南部。東は斗六街に接し、西は大埤庄及び虎尾郡虎尾街に、南は北港溪を隔てて嘉義郡大林庄にそれぞれ隣接す。地形南北に狭長にして管内概ね平坦なり。河川の主なものは北港溪にして、南嘉義郡大林庄との境界をなす。産業中農業を大宗とし、庄下總戸數の約八割は斯業に従事し、住民の生業をなす。其主なる農産は米を第一位とし、甘蔗・甘藷・落花生・胡麻・黃麻・蔬菜類を出し、其他園藝作物として芭蕉・龍眼・マンゴー・柑橘類・鳳梨等を出す。また農家に於ては副業として、水牛・黄牛・豚・家畜等の飼養をなす者多く、殊に豚は其飼養頭數最も多く、管外に輸出せらるるもの多し。黄牛・水牛等は本島古来の習慣よりしてこれを食する者なく、概ね農耕勞役の目的に飼育せらる。其他養魚池ありて若干の淡水魚の生産あるも、管内の需要を満たすに足らず。工業に於ては製油・麵類・磚瓦類・醬油・糊摺及び精米等多岐にわたれども、いづれも小規模のものにして特記すべきものなし。交通は甚だ便利良好にして、臺灣縱貫線斗南驛(明治三十六年設置)は城内に設けられ、また製糖會社營業線も本驛を起點として四方に派出せらる。道路は幅廣き自動車路縱横に通じて庄下産業發達に資する事大なり。本庄の地は、清領當時は雍正十二年に建てられし他里霧寮にて、本寮は我が

の低丘陵なり。利根本流は臺地を開析し可なり廣き沖積地を發達せしむるも、臺地には又是等河川の多數の支流を開析さるる狭長なる谷發達す。此の支流谷と本溪谷とを比較するに、堆積作用は本溪谷の方に盛にして、その河底が埋められ爲に支溪谷は本溪谷に合する所に於て堰き止められ、支溪谷は湖沼又は濕地となる事あり、北浦・霞ヶ浦・印旛沼・手賀沼等は之なり。之等の中には本流が増水の時等水面が上る時は支溪谷へ逆流するものもあり、かくて印旛沼の如く沼日に連三角洲發達し、漸次本流よりの運搬物にて埋められつづあるものもあり。利根本流の河幅は下利根下流にて益々廣く鹿島浦の砂丘地帯が北岸に發達して銚子にて海に注ぐ。利根上流の山地は本溪の産地にして沼田盆地はその集散地となり上越線の沼田及び後閑はその發達驛たり。關東桑園地帯は沼田附近に始まり前橋扇狀地帯に益々桑園多し、即ち水田化するこの困難なる山麓及び河成段丘地帯は大都市より遠隔なる群馬縣に於ては桑園化する事なく、桑園化最もよく行はる。繭の生産分布は略ぼ桑畑の分布と一致し、前橋扇狀地及び鳥川流域に於て繭の産額多く渡良瀬川合流點までの伊勢崎その他の地方は桐生・足利兩市及び思川・鬼怒川・小貝川の上流と共に關東西北部の生絲・織物地帯の中心をなし、上流地域の發達地に接して製糸業盛にてそれを

領臺後も其行政區劃の一として用ひられたり。大字斗南の地はもと他里霧街と稱し、平埔蕃族ロツア部族のタアライグー社の在りし處にして、他里霧は之に宛てたる近音譯字なり。其開拓は遠く鄭氏時代在りしと稱せられ、大字林子・石龜溪・南勢・阿丹・新庄の地は其開屯の地に屬すと云ふ。斗南の地に初めて街市の形成せられしは乾隆元年頃と云ふ。我が領臺後大正九年地方制度の大改正行はれ他里霧寮は廢せられ本寮に屬せし十二庄(現大字)を合し一庄を建て斗南庄とす。

トネ 利根・刀根

【利根川・刀根川】關東地方にあり、關東平野を縦斷する大河。關東平野の主水系をなし、古來四國次郎・筑紫三郎に對し坂東太郎の名あり。流域は上野・下野・信濃・武藏・常陸・下總に及ぶ。長さ三二二軒、内地にありては其長さ信濃川・石狩川に次ぎ、支流數二八五、その主なるものは片品川・香妻川・鳥川・鋪川・神流川・渡良瀬川・思川・鬼怒川・小貝川等にて更に中川・江戸川の派流あり、霞ヶ浦・北浦・長井戸沼・手賀沼・印旛沼等の湖沼また同一水系に屬す。流域面積一五七六〇方軒、其流域は關東平野の大牛に及び、軌路距離は幹川二七五軒、幹支川合して八五二軒にして瀧漉水運の便の大なること實に内地第一とす。水源は上野・越後界をなせる三國山脈にあり、群馬縣利根郡水上村管内と推察さる。全

水路を大別して上利根・中利根・下利根の三とす。渡良瀬川の合する栗橋邊までを上利根とし、中利根川は小貝川の合流する戸田井の地點までにて、以下銚子口にて海に注ぐまでを下利根川とす。水源地より大約南に流下し水上を経て沼田に至る間は溪流峽谷を穿ち、沼田に至り左より片品川を合し、南流を續けて子持火山麓に銚子の險峽を造りやがて香妻川を合し、次いで榛名・赤城の裾合谷を経て關東平野に出で船平裏に就く。前橋扇狀地帯には郡邑よく發達し、前橋はこの谷口に發達したる都市なり。流路はここに漸次東に轉向しいくばくもなくして鋪川・神流川を合せたる鳥川を右より入れ、のち全く流路を東に轉じ上野・武藏國界を流れ、北埼玉郡羽生町附近にて右岸より一分流を派出す。この分流は初めは古利根といひ、今は東京灣に流入する中川となれるも、もとは利根本流の流路たりしものにて、利根本流が常・總界を東流するやう變更せらるるに及びて利根の分流となりしもの、されば中川の上流は今尚ほ古利根川と呼び、途中西方より荒川川の流路なりし元荒川を合せ、更に綾瀨川を合せて東京に至り中川となり東京灣に入る。荒川と江戸川の間はもと關東地方第一の氾濫區域にして中川は實にその中心をなし廣大なる沖積層を作る。荒川はもと利根川の一支流として元荒川の流路をとらししも、利根川の治水工事と共に

トネ トネ

之を利根水系より分離せしめ、南に流れて入間川を合せしめ今日の開田川の流路をとらしめたるものとす。利根本流は次で栗橋町にて渡良瀬川の大支流を合す。分流江戸川は栗橋より分れ、分流直後はの権現堂川と呼ばれ更に關宿町にて境町よりの利根川の分流を合し江戸川となりて南流、下總・武藏の國境を流れ、西に廣き沖積層の平地を眺め、東には下總の洪積層臺地を望み、市川市の南部の三角洲を作り東京灣に注ぐ。江戸川を分流して後の本流は茨城・千葉兩縣界を東流、利根兩岸に廣く擴がる常總臺地の間に氾濫原を形成す。中利根川にては鬼怒川・小貝川を左より合流し、分流江戸川とは利根運河を以て連絡す。また小貝川合流點より霞ヶ浦の浮島へは新利根の運河あり、霞ヶ浦とは横利根・北利根川によりて連絡す。北利根の沿岸には潮來町あり横利根は佐原町の北に開く。霞ヶ浦・北浦一帯は佐原・潮來を中心とする水郷利根を現出し、臺地間の氾濫原は低濕にして干拓開墾行はる。即ち茨城・千葉兩縣の利根兩岸は我國第一の湖沼群をなし、茨城縣には上流より主なるものに長井戸沼・鶴戸沼・菅生沼・牛久沼・霞ヶ浦・北浦等あり、更に下總に手賀沼・印旛沼あり何れも利根川水系に屬す。これ等の湖沼群は何れも洪積層の低臺地に境せられ南部の下總丘陵は二〇米乃至五〇米、北方の丘陵群は何れも一五米乃至四〇米

の低丘陵なり。利根本流は臺地を開析し可なり廣き沖積地を發達せしむるも、臺地には又是等河川の多數の支流を開析さるる狭長なる谷發達す。此の支流谷と本溪谷とを比較するに、堆積作用は本溪谷の方に盛にして、その河底が埋められ爲に支溪谷は本溪谷に合する所に於て堰き止められ、支溪谷は湖沼又は濕地となる事あり、北浦・霞ヶ浦・印旛沼・手賀沼等は之なり。之等の中には本流が増水の時等水面が上る時は支溪谷へ逆流するものもあり、かくて印旛沼の如く沼日に連三角洲發達し、漸次本流よりの運搬物にて埋められつづあるものもあり。利根本流の河幅は下利根下流にて益々廣く鹿島浦の砂丘地帯が北岸に發達して銚子にて海に注ぐ。利根上流の山地は本溪の産地にして沼田盆地はその集散地となり上越線の沼田及び後閑はその發達驛たり。關東桑園地帯は沼田附近に始まり前橋扇狀地帯に益々桑園多し、即ち水田化するこの困難なる山麓及び河成段丘地帯は大都市より遠隔なる群馬縣に於ては桑園化する事なく、桑園化最もよく行はる。繭の生産分布は略ぼ桑畑の分布と一致し、前橋扇狀地及び鳥川流域に於て繭の産額多く渡良瀬川合流點までの伊勢崎その他の地方は桐生・足利兩市及び思川・鬼怒川・小貝川の上流と共に關東西北部の生絲・織物地帯の中心をなし、上流地域の發達地に接して製糸業盛にてそれを

原料として穀物を作る。中利根・下利根及び霞ヶ浦沿岸は氾濫地帯を形成す。殊に醬油・味噌の醸造は全國にても頭角を抜き野田・銚子・流山等がその中心地をなす。利根川の水質が醸造に適したる事が發展を促したるものと思はる。利根本流の支流は水田の分布はほぼ各河川の氾濫原に限らる。而して流路は臺地を樹枝狀に開析し、可なり廣く沖積低地發達し、低地表面は極めて平坦、その傾斜は頗る緩慢にして臺地には又之等の河川の多數の支流によりて開析されし狭長なる谷が發達し多くは水田として利用され沖積地即ち水田となり、従つて水田は樹枝狀に分布されて所謂關東平野型をなし、信濃川流域の越後平野に於ける如く山麓より海岸まで一様に低平なる水田のみが分布するとは大いに趣を異にす。常總臺地の地方も樹枝狀の低窪地の湖沼群となり、その沿岸も樹枝狀の水田地帯を現す。下利根の河中三角洲水田には十六島の水田地帯あり、また川と湖との間に發達せる逆三角洲上の水田としては印旛沼開墾地あり。また下利根流域の臺地上には陸稻の栽培行はる。利根川の水運は、上利根に於ては溪流をなし又は水流が傾斜するたために急流をなし、その便は著しからざれど、中利根・下利根の低平なる關東平野に出でては、その本流及び分流江戸川・中川あり、且つ本邦に冠たる湖沼群ある

爲我國にて最も内陸水路の發達せる地方をなす。鐵道開通前發達しむる河運は鐵道開通と共に貨物は鐵道に奪はれ俄然運輸能力の衰ふるを普通とす。湖航終點たる鳥川支流の倉賀野は江戸と上州・信州方面との物資輸送に當りしが鐵道開通後は昔日の像なく、また境・關宿の河港は大利根と江戸川の分岐點として重要性ありしが利根運河開通により昔日の像なし。然るに下利根に於ては今日の關東平野の著しき鐵道の發達にもかかはらず内陸水路は依然として鐵道の連絡線又は競争線としての重要性を失はず。その一例として佐原驛は鐵道成田線の要驛たると同時に水郷地方に云ふまでもなく遠く廻航して利根運河により江戸川に通じ又下航して河口の銚子に至る等、内陸水路に充分利用さる。水郷の水運は佐原を中心とし横利根川により牛堀に出で霞ヶ浦に入り浮島・土浦方面に連絡する利根・横利根・霞ヶ浦の連絡あり、また土浦・浮島・潮來・鹿島を連絡する霞ヶ浦・北利根・北浦の連絡あり、佐原より津ノ宮を経て潮來・鹿島に至る大利根・北浦の連絡あり。大利根と霞ヶ浦・北浦と合する所に河三角洲が發達す、即ち加藤洲を主とする十六島にして鳥趾狀をなす。利根の河道は現在十六島の南を東流するも、舊河道は佐原より東北に屈曲し牛堀より東南流し潮來を経て北浪浦に出たものにして、今の横利根・北利根の河

道はその舊河道なり。この河の兩岸は洪水の度に濁水より沈澱せし泥土が高くなり自然堤防といふべき洲が發達せり。而して自然堤防に圍まれたる洲は一般に低湿地にて水田に利用され肥料・收穫物等を運ぶには田舟を使用す。居住地は自然堤防の比較的高所を選ぶ。横利根川の八筋川・大島、その分流に沿へる長島・中洲、北利根川の潮來・拾香、分流に沿へる大割・扇島・磯山・下ノ須・加藤洲・附洲・餘川等何れも自然堤防上棄落の標式的のものとして、殊に加藤洲の部若くは分流の兩側に位置する爲、往來には十二橋が設けらる。橋は田舟がこの下を通過する爲に高く架橋せらる。利根川の河道は古來屢變移あり、中利根以下に於て特に甚し。上利根・中利根間にも渡良瀬川の變移ありて、沿岸諸郡の形狀を改替したる例あり。利根河道最大の變移は往昔その下流が南に折れて武・總州界をなした東京灣に注入せしものが、近世東に直進、常・總の間を流るに至りしこととす。即ち往時の下流は僅に中川の分流に跡をとどむるのみとなり、往時の常陸川は現在中利根・下利根の流路となれり。即ち往時は坂東水系が利根川・常陸川に分れたりしを後世合同して同一の水系となし、坂東水系は大部分利根川に歸せしめたるものとす。

郡に、西は吾妻郡に接し、北は新潟縣南魚沼郡・北魚沼郡及び福島縣南會津郡、東は栃木縣鹿沼・上野郡二郡と界す。面積約一七六六方呎、縣下第一の大郡にして縣の全面積の約二八%を占む。西北境には三國山脈連亘して丹後山・小澤岳・朝日岳・茂倉岳・谷川岳・仙ノ倉岳・三國山等高度一六〇〇—二〇〇〇米の峻峰聳え、東北境に日光火山群西部の燕巢山・白根山・泉海山、南境には赤城山・子持山等の火山峙ち、中央部には武蔵火山帯に於て砂地山をなし、西西部の利根川上流と赤谷川、東西部の片品川と利根川との四河谷に分る。以上四川は郡の南部にて會流して利根川となり、その附近に稍廣き平地をつくり、郡の中心都邑たる沼田またここに發達す。郡内に火山多きを以て温泉の湧出亦多く、片品川谷には老神・白根、利根川谷には川場、利根川谷には利根(上牧)・湯原・谷川・湯檜曾・寶川等、赤谷川谷には湯宿・猿ノ湯・温泉・法師等を擧ぐべし。生業としては蠶業最も盛にして繭・生糸の産多く、農業には米・麥を主とし大豆・甘藷・馬鈴薯・青芋等を産するも耕地面積少く産額また多からず。人口も八萬五千餘人にて縣内全人口の七%に満たず、密度は僅に四九人にして諸郡中にて最も稀薄なり。越後街道の清水越は利根川に沿ひて北上し西北境の清水峠を越え、三國街道は赤谷川谷より三國山南の三國峠を経て共に

南魚沼郡に出で、近時東京・新潟間の最捷路たる省線上越線また清水越街道に沿ひ茂倉岳に穿たれたる清水トンネルによりて南魚沼郡土樽村に出づ。また會津街道は片品川谷を東北に進み尾瀬沼の東岸より南會津郡の地に入るも郡内の交通はなほ不便なるを免れず。本郡名は日本後紀弘仁二年の條に初めて見ゆ。和名抄にも郡名見え清田・男信・笠科・吳桃の四郷を管す。明治二十九年北勢多郡と吾妻郡の一村をも併せ、いま沼田町外十五箇村を含む。

【刀根庄】 義經記に刀根川(利根川)の發源地を上野國刀根庄藤原とせり。刀根庄とは蓋し群馬縣利根郡を稱せしもの、而して藤原はいま同郡水上村の大字にその名遺る。利根川上流に沿ふ。

【利根】 ↓桃野村(群馬縣利根郡)

【利根岳】 大水上山(新潟・群馬縣境)の別稱。

【利根運河】 千葉縣東葛飾郡にある運河。利根川(中利根川)と江戸川とを連絡す。明治二十三年の開鑿にかかり、田中村大字舟戸より新川村大字深井新田に通じ、延長約七呎、幅約三〇米。下總臺地の樹枝狀谷に沿ひて開鑿せられ、常陸・下總・下野・武蔵の貨物輸送に便し、銚子方面よりする水運は關宿を迂迴せずして江戸川に達するを得。即ち銚子・東京間は關宿を迂迴すれば二〇餘里なるに、運河は關宿に實に五〇里を短縮し、今日利根上

交通發達せし、この連絡及び競争通路として大いに利用せらる。

【刀根】 福井縣敦賀郡愛發村の大字。北陸本線の刀根驛(大正五年設置)を置く。

【刀根越】 福井縣敦賀郡愛發村大字刀根より滋賀縣伊香郡片岡村大字柳ヶ瀬に出づる峠。一に柳ヶ瀬越ともいふ。舊北國街道の一。今はこの峠の北方に隧道を穿ち省線北陸本線通す。元龜三年、織田信長、淺倉義景との邊に戦を交へてこれを破る。

トネリ 合人

【合人】 東京府南足立郡にありし村。昭和七年他町村と合し足立區を建つ。

【合人村】 鳥取縣伯耆國東伯耆郡の東北部。東郷池の東岸に位し、東は氣高郡那賀村に、北は泊村に、西は松崎村の小村、南は東郷村に接す。面積一三方好餘。東南部一帯は境上に聳ゆる鉢伏山(五一四米)の北斜面に屬し山地をなし、西北部にも低き丘陵地あり、中央部と西北の湖岸には耕地拓く。物産に米・繭・木炭・淡水魚等を産す。省線山陰本線貫通し西隣松崎村の松崎驛に近く交通不便ならず。この地古くに和名抄、河村郡合人郷にして、大合人日置臣志昆の居りし處。(倭文神社) 大字宮内に饗座。縣社。祭神、下照姫命・健御名方命・天稚彥命外三神。創立年代詳ならずれども、文德實錄に齊衡三年伯耆國倭文神社の事見え、日本紀略に天慶三年伯耆國倭文神社に正三位

を授くとするは當社なり。延喜式社名帳河村郡の官社にて中世より伯耆國一ノ宮たり。江戸時代は社領五十石を有せり。社寶中、觀世音菩薩立像(銅造)一軀および御經筒(康和五年の銘あり)一口と共に國寶に指定せらる。觀世音菩薩像は飛鳥式のものにて高さ七寸五分。例祭、五月一日。(伯耆一宮經塚) 指定史蹟。倭文神社(伯耆一宮)の東南なる低き丘陵上にあり、封土は圓形を呈し直径約一五米、高さ約一・五米、大正四年十二月之を發掘し安山岩を以て組合せし石室を發見せり。内部より康和五年在銘の經筒・佛像等を檢出し、何れも國寶に指定せられたり。石室並に封土の外形等略ぼ原形のまま存し、平安朝に於ける經塚構造を徵するに足る。

トノ 戸野村

廣島縣安藝國豐田郡の西北部。沼田川の上源地附近の山中に位し、東南は河内町に接し、西南は賀茂郡東高屋村・西高屋村、西は同郡造賀村と界す。面積約三一方好。概ね高度三〇〇—四〇〇米の傾斜緩き山地をなすも略中

部東西に幅狭き低地あり、沼田川之を流れて河内町に出づ。農を主とし米・麥の産あり兼蠶も行はれ、また木炭・酒類の産あり。近隣にバス通す。この地は和名抄、豊田郡登野郷の内。(敎念寺) 大字宇山にあり。眞宗本願寺派。梵行山と號し、もと眞言宗にして、天長年中弘法大師の建立に係る。享祿年中善法法師これを現宗に改めて再興す。

トノ 富野 ↓富野(山城)

トノ 登能 ↓戸野村(廣島縣)

トノイ 殿居村 山口縣長門國豊浦郡の北部。西南は小串町との間に川棚村を隔て、北は天津郡依山村・葦海村と界し、南北に長き山村にて面積五二方好餘。北東境に一位ヶ岳(六七二米)、西南境に狗留孫山あり、全村殆ど高度二〇〇—三〇〇米の山地にて森林多きもそれらの山地の中間所々に小低地ありて耕作行はれ、米・麥其他の農産あり。東方西市町より西方浦街道沿ひの瀧部村に通ずる縣道村の中部を横ぎりてバスを通ずるも交通便利ならず。村内に天上ヶ瀧・砂利ヶ瀧の二瀑布あり、前者は高さ二五米、幅三米、後者は高さ一六米、幅二米。村名はもと豊田上村と云ひしが明治四十五年殿居村と改稱。(修善寺(御嶽觀音)) 大字奎路子にあり。古義眞言宗。狗留孫山國護院と號し仁和寺派。文保元年奉行再興し、元應二年後醍醐天皇の勅に依りて堂宇を再建。その後毛利氏の歸依を得

トノエ 外江村

鳥取縣伯耆國西伯耆郡の西北端。夜見ヶ瀧半島の西北端に位し、東は境町に、南は渡村に接し、北は中江瀬戸を挟みて鳥根半島東端部なる八東郡森山村と對す。面積僅に二・二七方好の小村なるも人口三四〇〇人に近し。土地平坦にして耕地よく拓け米・麥・繭・鯛等を産す。聚落は中江瀬戸の西日において製絲行はる。境港へバスの便あり。出雲風土記に戸江割、那家正東廿里一百八十步、非鳥陸地濱耳、伯耆郡内夜見島將相向之間也とある戸江割は本村に置かれしものなるべし。

トノカ 殿賀村 廣島縣安藝國山縣郡の西南部。加計町の西に隣接す。面積二三方好餘。西南隣上殿村より来る太田

川は村の略中部を東北に貫流して加計町へ出で、その兩岸に幅狭き平地あるも、南境と中部以北は高度五〇〇—六〇〇米の山地なり、特に北部は高原性をなすその中央部に平坦地あり。農産に米・麥・蕪等あるも額少く、出稼する者多し。縣道川沿ひに通じバスの便あり。明治二十二年、下殿河内村・下筒賀村の二村を合併して村制施行の際、各一字を取つて殿賀村と命名す。

トノカヤ 殿ヶ谷村 東京府武蔵國西多摩郡の東端。東は北多摩郡の西部に隣る。面積僅に二・六方軒餘の小村なり。村の北端は狭山丘陵の西部なるもその他は武蔵野臺地の一部を占め、桑畑多く、養蠶行はれて繭を産し農産物には野菜・米等あり。青梅街道に縁り立川・拜島方面へバスの便あり、西隣箱根ヶ崎村には省線八高線箱根ヶ崎驛ありて交通便利なり。いま石畑村・箱根ヶ崎村・長岡村と共に組合町村をなし役場を箱根ヶ崎村に置く。〔阿豆佐味天神社〕郷社。祭神、少彦命外二神。式内社。當郡八座の一にして當地方の産土神なりといふ。文明年中當領主村山氏社殿を造營、社領を寄す。その後徳川氏は家光以後代々社領十二石を寄す。例祭、三月四日。

トノコウリ 都於郡村 宮崎縣日向國兒湯郡の南端。佐土原町(宮崎郡)の西に隣り、南は東諸縣郡木島村・本庄町に接す。東部に高度百米餘の丘陵

性山地あり、西南部にも一〇二〇米内外の山あり、その中間は各地をなし北境を流下する一ツ瀬川の一支三財川の流域低地に續く。低地には田畑よく拓げ、米・麥を産し林産も出ず。縣道は中部低地を南北に通じ北方の妻町・佐土原町にバスの便あり。古くは和名抄、兒湯郡視於郷の地とす。建久園田頼に前齋院御領田代二百七十八町内、都於郡百五十町。右地頭土持太郎と見え、のち伊藤氏ここに據り。また村内に高屋宮址あり。景行天皇の行宮とす。天皇、十二年十一月、日向國に進みてこに行宮を誓み、悉く襲ノ國を平げ給ひ十八年三月迄此宮に居給へり。村名は都於は殿(高貴なる方の稱)に通じ、郡は村里にて、即ち殿の居られし村里といふより出づ。〔鹿野田神社〕大字鹿野田に鎮座。郷社。祭神、彦火火出見尊。古來當村の産土神として村民崇敬の社なり。例祭、十月十五日。〔山田神社〕大字山田に鎮座。郷社。祭神、伊弉冉命。社傳にいふ、後園融天皇廉曆元年領主島津惟久の創建にして、歴代領主の崇敬淺からず、村民亦産土神として崇せり。例祭、十一月二十日。〔黒貫寺〕大字岩瓜にあり。新義真言宗智山派。寛和元年僧隆元の創建に係り、日向第一の古刹たり。景行天皇熊襲征伐の時行宮を構へし舊址なりと傳ふ。〔大安寺〕曹洞宗。創建年次不詳。開基を領主伊東祐亮とし、其法統を以て寺名とせしが、

のち島津氏領となるに及び現號に改む。
トノコジマ 渡戸島 廣島縣安藝郡にありし村。昭和七年管戸町に編入す。
トノコヤ 峠 日本南アルプス白峯山の東方、野呂川左岸高地を東西に乘越す峠。一にトノコヤ峠。山梨縣南巨摩郡西山村と中巨摩郡芦安村との境上に最高點(五一八米)あり。北東降すれば桃ノ木嶺を経て釜無川支流御勤使川上源池、芦安村宇古屋敷に至り、南西降すれば野呂川下流早川に流る西山村宇奈良田及び西山温泉に通ず。

トノシヨ 土庄町 香川縣讃岐國小豆郡(島)の西南端。半島狀をなし、東北の小地峡により瀧崎町に繋ぎ、其西北に深き溝地を挟み、東南は池田灣に臨む。西方は小豊島を介して豊島と對す。面積八・七九方軒。町内地形は概ね山地にして中央部に高く四方に傾斜し海岸所々に小低地あり。土庄の町は地峡部に發達して土庄港(指定港)は好地をなし醬油醸造行はる。農産に麥・甘藷等あり。土庄港よりは蘇輪・煙草・醬油等を主として大阪・高松港に移出し、棉花・牛・絹及び綿織物・和酒・米・煙草等を大阪・岡山・高松諸港より移入す。町の一部は瀬戸内海國立公園の内とす。古くは肥土(一に肥戸に作る)庄の内とす。もと郡役所の所在地にして明治三十一年町制を布く。〔八幡神社〕郷社。祭神、櫻田別命・仲麻呂命・氣長足姫命。社傳に村

上天皇應和二年の勸請なりといひ、古來當村の産土神として村民の崇敬厚き社。例祭、八月十四日。〔西光寺〕眞言宗大谷派。王子山蓮華院と號す。弘法大師の開創に係り、天正年中能弘上人これの中興す。本尊に弘法大師像と傳ふる千手觀音像を安置す。小豆島八十八所第五十八番札所たり。

トノシヨ 富野莊村 京都府山城國久世郡の南端。宇治町の南方約二軒にあり、其間に寺田村を隔て、南は豐喜郡青谷村に接す。東部は高さ二百米臺の山地をなし西半は京都盆地南部の平野にて、西境を木津川西北流す。低地には米・麥を産し傾斜地には茶・梨等の栽培行はる。奈良街道、省線奈良線の中部を縱走し、後者に長池驛(明治二十九年設置)あり。西部には社線奈良電鐵南走して富野莊驛(昭和三年開業)を設け交通便利なり。〔荒見神社〕大字富野に鎮座。村社。祭神、天火明櫛玉饒速日尊・木花佐久夜毘賣尊・天香諸山尊外二神。創建年代沿革等すべて不詳。社殿建造物中、本殿は慶長九年の造營にて三間社流造、屋根檜皮葺、國寶に指定さる。例祭、十月一日。

トノシヨ 殿城村 長野縣信濃國小縣郡の東北部。上田市の東方にて其間に神科村を挟む。鳥帽子岳より派生せる殿城火山(一九三米)は東部に聳立し、本村はその裾野に立地す。千曲川の一支出

の中央部に大島村(大正七年設置)を設く。古くは和名抄、遠敷郡安賀郷に屬せしもの如し。康正二年造内引附に七貫文金輪院若州鳥羽庄段談と載す。〔安樂寺〕大字無懸にあり。曹洞宗。無懸山。小野篁の開創と傳ふ。當地方圓一の電場にして土民の崇敬厚く、殊に小野篁は痛病・雷除の神として俗間に信仰せらる。聖觀音立像(木像・弘仁開作)一軀に國寶。〔鳥羽町〕三重縣志摩國(志摩郡)の北部。伊勢海道を扼し宇治山田市の東方約一二軒を隔つ。面積一〇方軒餘。朝熊山(四七八米)の東嶺南東境上に延び東岸に迫りその崖下に鳥羽の港あり。東北の一丘陵に日向山聳ゆ。北部には小低地ありて田畑拓く。鳥羽の港は前面に坂手島をばじめ昔島・岩志島等大小の島嶼を控へ、東北方蓋に三河の伊良湖と相對して伊勢灣口を扼し風光絶佳。また古へ帆船時代には遠州灣を渡る船舶の必ず寄泊して順風を待ちしため商賈殷盛、市街の繁華を極めし處なり。伊豆の下田を朝山巻けば、晩にや志州領鳥羽浦へ、鳥羽はよいと朝日をうけて、七つさがれば女郎が出る。の俚語に往時を想ふべし。現在築港工事を進めつつあり。水産頗る發達して産額最も多く工産額之に亞ぎ農産も多、茶・鶏・鵜卵・繭の特産あり。鳥羽街道と省線參宮線の終點にして後者は鳥羽驛(明治四十四年設置)を設く。社線志摩電氣鐵道ここに起り、町内に中之郷驛

トノミ 富海村 山口縣周防國佐波郡の東南端。南は周防灘に面し、西は防府市、東と北とに都濃郡戸田村と界す。面積一〇方軒餘。西境に大平山(六三一米)の南嶺南方に延びて海岸に迫り、東南部にも高さ三〇〇米内外の山地ありてその西南端は八崎岬となり西に小灣を抱く。中央には東北—西南に互る平地ありて米・麥・蜜柑等を産し、沿海には魚獲の利あり。省線山陽本線海岸沿ひに東西

に通じ富海驛(明治卅一年設置)を置き、山陽街道は東北より西南に通じ防府市へバスの便あり。〔國津姫神社〕大字富海に鎮座。郷社。祭神、田心姫命・滿津姫神・市杵島姫命。創建年代詳ならず。社領は八箇國分限帳に七石七斗餘ありしこと見ゆ。例祭、九月十七日・十八日。

トノムラ 殿村 阿曾布村(岐阜縣河内郡の北部。淀川東岸に沿ふ。西南は枚方町に接し西に川を隔てて三島郡高槻町・五領村と對す。面積約一二方軒。大阪平野の東北部に屬し全村概ね土地平坦にして田畑よく拓げ米・麥その他農産物を多く産す。京阪新國道西部を縱走し、東部には東高野街道南走して共に自動車の便あり。社線京阪電鐵京阪線また新國道と並走し御殿山・牧野の二驛を置き交通便利なり。昭和十年招提。牧野の二村を合併して建てしもの。古くは謂はゆる交野原の一部にて帝室の遊獵地たり。延暦二十一年坂上田村麿が賊首大葛阿氏利爲・盤具母禮を斬りし河内國榎山とは大字宇山の地なりといふ。〔落院址〕大字落にあり。文徳天皇の皇子惟喬親王の宮居して鷹を放ち馬を馳せられし處。伊勢物語に親王、在原業平と共に交野の原落の院前に櫻かざして相唱和したること見え、業平の詠「世の中になえて櫻のなかりせば春の心は長閑けらままし」は人口に膾炙す。址は今に寺となり觀音寺と稱

し觀音の像を安置す。親王遺愛の五十櫻(名のみ残り、駒止の松は枯れて清阿の松風空しく昔を語り、林中御殿山神社あり、今尚ほ遊覽懐古の人を絶たす。

トハ 鳥羽 茨城縣常陸國眞壁郡の南部。小貝川の東岸にて眞壁町と下妻町との略ぼ中間に位し、面積六・七方軒の小村なり。東部は低き臺地にて畑地をなし中部以西の大部は小貝川流域の低地にて田地多し。米・大麥・小麥を産す。眞壁・下妻間の縣道は東南境を通じ交通不便ならず。和名抄に眞壁郡大村郷とあるは本村邊を總べしもの如し。古の鳥羽の淡海の東北岸の地とす。但し築地・東保宋・海老江等の低地は海中なりしものならん。〔鳥羽村〕福井縣若狹國遠敷郡の東北部。南は瓜生村に隣り、東は三方郡の十村・八村に隣り、面積一六・四方軒餘。東・北・西の三面は三〇〇—四〇〇米の山地を繞らし、中部南北に細長き平坦地ありて瓜生村の中部に連り、田畑よく拓げ、米を主として麥・繭・薪炭の産あり。機業また榮えてヒロイドその他の絹織物を産す。省線小濱線東降十村より來りて村

り、泊居川・名寄川等の猪谷は漸次農業的に開發されつあり、名寄川の上流に大榮炭山あり。行政上に泊居町と名寄村とに分轄され、名寄村の知事及び名寄にアイヌ人の集團部落あり。

【泊居町】 樺太泊居支廳泊居郡の南部。眞岡支廳眞岡郡野田町の北に接す。東境には樺太山脈の連嶺南北に連亘し、小田塞岳(九二四米)・野田塞岳の峻峰あり。これ等の山脚は西北に延び、海岸近くにも四五百米の高度を示せど斜面の傾斜は比較的緩く、海岸には高度一〇〇米餘の段丘發達して低地に乏し。泊居川・杜門川の河川は東境山地に發して共に西北に流れ、沿岸に僅に沖積地あり。沖積地は近年次第に農耕に開發されつつあるも氣候の制約により大なる發達なく、また海岸には鱒・鱒・鱒等の漁獲あり。も往年ほどの殷盛なく、今は名寄村の名寄川上流の大榮炭礦の石炭、及び山地の木材による製紙を主たる産物とし、外に清酒・蟹類あり。石炭運搬用の王子輕便軌道は大字奥澤より泊居に架設され、また鐵道の西海岸線は海岸に沿うて走り追手・杜門・泊居の三驛(昭和五年設置)を置き、泊居川口の泊居港には年中西海岸線鐵路船客航路し、冬季はこの西海岸線の北海道小樽港との航路は此の港を終點とす。落着は泊居川口、大字泊居に市街狀に發達し、泊居川の北岸には製紙工場あり。此地は我國領有の當初は僅に十数

戸の一変村にすぎざりしも、沿岸漁業の繁榮と共に發達し、殊に大正四年樺太工業會社の第一工場が此地に建設されると共に急進に發展し、次いで同七年久春内支廳の移り來りしにより益々發達の因となり、同十一年町の主要部に祝融の災ありしも、間もなく復舊して面目を一新し現在に至る。

トマリギシ

泊岸村 樺太敷香支廳敷香郡の南部。敷香町との間に内路村を距て、南は元泊郡知取町に接し、西は西海岸の名好郡惠須取町と界し、東は多末加灣に臨む。西境には樺太山脈なる一千里以上の高峰連亘し、新間山(一〇三四米)あり。新間川・古丹岸川は東流して多末加灣に注ぎ、一般に山地高峯起伏し低地に乏しきも河川の沿岸に僅に沖積地あり。沖積地は近年漸次農耕地として發達しつつあるも氣候等の制約により大なる發展なく、パルプの原料たる山地の伐木最も盛にして之に關係する者多く、生業も従つて之に關係する職業多きを特色とす。なほ漁業も行はれ、鱒・鱒等の漁獲あり、養豚・養鶏も一部に行はる。社線樺太鐵道は海岸に沿うて走り茂受驛・南新間驛(以上昭和五年設置)・新間驛・泊岸驛(以上昭和十一年設置)を置き、他に夏季には自動車のあるも冬季は積雪のため馬・牛・騾鹿籠によらざるを得ず。また夏季間、海上には定期航路あり。此地は大正十三年四月内路村(舊新路村)より

り分村。聚落は泊岸・新間の二箇所を概ね集團し、泊岸はもと新路村牧場のありし所、大正六年部落宅地の設定と共に漁業者入り。新間は明治四十年遷居所を設けられしより始めて定住者あり、大正十三年農民の團體移住あり、更に昭和二年官行新伐事業の開始と共に俄に繁榮を來し、昭和五年南新間驛まで鐵道延長し同十一年までその終點たりしを以て交通關門地としても發展す。従つて昭和十一年の人口を見るも總數四四一四のうち内地人四〇九三、朝鮮人二一九、土人九七、外國人五を算ぶ。

トマル 外丸村

新潟縣越後國中魚沼郡の西南部。信濃川の左岸に沿ひ十日町の西南方約一二軒。東は川を挟みて下郷渡村に面し、東頸城郡松之山村と界す。面積一七方軒餘。西北境には有倉山(六三三米)・山伏山の山嶺連なり、村はその東南斜面にて概ね山麓をなし平地は河岸に沿ひて幅狭きものあり田畑拓かる。米・繭の産あり、また絹織物を産す。河岸を社線飯山鐵道貫通し、越後外丸・越後鹿渡の二驛(昭和二年開業)を設け、交通比較的便なり。

トマリ 豆満江

朝鮮咸鏡北道の河。また阿圖江に作る。白頭山に發源し、滿洲國及びソグイオト・ロシヤの沿海州地方との國境をなして日本海に注ぎ、全長五二一軒、朝鮮第三位の大河。流域面積四一四三方軒。茂山・會峯・錦城・豊

城・慶源・慶興の各郡を包含する流域を有す。豆満江は白頭山中、定界碑の東南に横ばる大騰脂峰の東麓に發源する石乙水を源流とし、雙頭峰の南麓を東流し、大密林中に峡谷を穿ちて進み、神武城の東北四軒附近にて一時地下に潛み伏流すること凡そ四軒の後、再び現れて東流し、赤峰の北峯なる間池より流出する紅土水と合流して、ここに初めて豆満江の本流を形成し、東流凡そ四〇軒にして南方茂山郡を流る小紅溜水を入れ、流路を東北に轉じて玉石洞に於て滿洲國長嶺山脈に發源せる烏龜江を容れ、次いで小長白山脈に發し北流し來る西頭水・延面水・城川水等を合せ、北流を續く。而して會寧郡の北邊をかすめて鍾城郡に至る間の嵌入蛇曲は特色あるものにて、この流域地帯の隆起を立證し、沿岸に河成段丘の發達を見る。流れば北進して間島地方より來る海蘭河を合せ、穩城郡南面豐西洞(四三度一分)を極北限として流路を東南に轉じ、滿洲國より琿春河等、西南方より五龍川等の支流を合せて水量・河幅共に増大し、慶源郡界を離るる處に於てS字形に一大蛇曲流をなし、慶興郡と沿海州との境界の湖沼群地帯を過ぎて西水灘港の東方にて海に朝す。穩城邑より下流の沿岸にはやや廣き平野橫ばるも、上流沿岸は殆ど山地にて人口頗る稀薄、茂山郡三社面の如きは一方軒當り僅に一五人の密度なり。流域に見るべきものな

きも、會寧炭田及び慶源・慶興の諸炭田を包括する謂はゆる成北炭田の稱矣と、上流一帯の林産(落葉松・紅松・杉松等)著ばる。舟運は江口より僅に八五軒理春河との合流點附近まであるに過ぎざるも、海蘭河との合流點なる南陽より下流に沿ひ北朝鮮東部線通じて北朝鮮の開門、羅津港に達し、南陽より上流に北朝鮮西部線走り會寧より南走して清津港に達し、また上流には江南の實地開拓を目的とする白茂線及び朝鮮鐵道成北線等通ず。かくて従來江水を利用せる流筏は此等鐵道輸送によりて代らるることとなり。而して上三峰・南陽等には對岸滿洲嶺と繋ぐ國境連絡橋あり、羅津及び清津を發する列車は南陽を経て新京に直通す。江岸の郡邑には會寧・漣湖・南陽・穩城・調戎・慶源・新阿山・慶興等の國境聚落の外に、上流に伐採根據地茂山邑あり。なほ豆満江の河水は例年十一月下旬―十二月上旬に結氷し、四月初旬―中旬に至り解氷す。此河の流域は四千年の昔に相當の文化を有したる民族居住し、支那史によるに舜帝二十五年肅慎氏弓矢を貢し、周の武王の時に肅慎氏石磐等を獻すといふ。其他、挹婁族・沃沮族・扶餘族・林靺族・東丹族等の民族は何れもこの流域を舞臺として活動せり。

トマリ トマン

鳥見・迹見 跡見 鳥見・迹見・跡見 【鳥見・迹見・跡見】 大和國(奈良縣)の古地名。鳥見に二箇所あり。一は神武天皇御東征の際天皇の大和人を拒ぎ奉りたる長體骨(一名登美比古)の本據の地に於て和名抄添下郡鳥見郷に當る。鳥見は同書に止利加比と註すれども、恐らくは鳥見を譯れるものならんといふ。いま生駒郡富雄村のある鳥見谷を稱し、富小川・こを流る。一は神武天皇の長體彦の軍を撃破し給ひし痕邑の地に於て、のち訛りて鳥見といへり」と書紀に見ゆ。こは神武天皇の四年遷都を設けて皇祖天神を祭り給ひし地と同じかべく、いま磯城郡城島村大字外山の地がそれならんといふ。而して書紀天武紀の八年、天皇泊瀨より宮に還幸の時、群卿の駿馬を迹見驛頭に關し給ひしも亦この地なるべしといふ。

摩那羅澤・數島二村に、南は同龍王村に隣接す。茅ヶ岳(一七〇四米)火山の南裾野にあり、南の低地は甲府盆地の荒川扇狀地に當り水田開け、裾野にも水田・桑園あり米・繭を産す。甲府市に至る街道は南をほぼ東西に通じバスの便あり。人口は大正九年一七二八八なりしも同十四年一六二一人と減少し、昭和五年一七一三人、同十年一八〇一人と増加し、同十年の一方軒密度は一八五人にて、全國平均の一八一人と大差なき密度を示す。【法泉寺】 日蓮宗。昌榮山と號す。志摩坊の草創に係り、眞言宗に屬せしが、三十世昌榮、日法人人に歸依して現宗に改む。永正元年炎上、天文元年再建成る。

トマリ 富 富山】 松島町(宮城縣) 富山】 岩井町(千葉縣) 富小路】 平安京の西北に通ずる小路の一。東京橋(今の寺町通)と萬里小路(今の柳馬場通)との間。幅四丈とす。いま京都市に名稱残り、鉄屋町通と柳馬場通との間にあり。北は丸太町通に起り、南は五條通に至る。 富村】 岡山縣美作國吉田郡の西部。加川の支流日本川の上源地にて、西は眞庭郡湯原村に接し、西南は同久世町と美和村を隔つ。面積約二六・五方軒。人口密度は二三人にて郡内最小なり。北境に不溜山(一二二五米)、西境に入道山(一〇四〇米)・霞山(一〇七四米)等の高峰聳

トミス

宮寺たりしが、歴災禍に遭ひ、延寶六年具足律師再興す。堂宇中三重塔は草創時の舊態を存し、法隆寺金堂、同五重塔及び法輪寺三重塔と共に飛鳥時代の遺構として我國最古の建造物にして現に國寶たり。「法輪寺」大字三井にあり。眞言宗東寺派。別稱、三井寺・御井寺。聖德太子の御子山背大兄王太子の遺命に依りて創建せられ當時盛觀を極めたりといふも近世寺運振はず。三層塔(國寶)は推古式にして創立當時のままに存し、其形式手法等法隆寺・法起寺のそれと同様なり。其他寺寶中藥師如來坐像(木造)一軀・十一面觀音坐像(木造)一軀・虚空藏菩薩坐像(木造)一軀外三軀は何れも國寶。(勝林寺)大字高安にあり。融通念佛宗。境外別堂大日堂境内に伽藍礎石十數箇を存し往時の盛大を推察せしむ。大日堂安置の聖觀音坐像(木造)一軀・十一面觀音坐像(木造)一軀・藥師如來坐像(木造)一軀は國寶。

トミサ

にて平地なく、大部分は山林をなす。たぬに人口また僅に一九〇〇人餘にて一方野の密度は二二人に過ぎず。朝山川河谷に耕作はれ、米・麥・藁を産すれど少額なり。また白瀧鐵山の鐵礦は本村に跨る。交通また不便なり。(聖受神社)大字豊坂に鎮座。神社。祭神、國常立尊・御食津神外四神。社傳に白鳳六年の勸請なりといふ。例祭、八月二日。
トミサネ 富實 新潟縣南魚沼郡にありし村。明治三十九年他の一町五箇村と共に廢して豊原町を置く。
トミサワ 富澤 山形縣最上郡東小國村の大字。陳羽東線の富澤驛(大正六年設置)あり。
【富澤】鳥取縣八頭郡にありし村。昭和十一年智頭町に編入す。

トミヤ

富島町 富島町 宮崎縣日向國東臼杵郡の東南部。南に兒湯郡美々津町との間に岩腸村を隔て、北に門川村に接し、東は日向灘に面す。面積七〇方軒餘。西部一體は高度三四百米の山地にして東南に低下し、東岸中部に米ノ山(一九二米)の殘丘ありて半島をなし、北に細島横はり其間の海岸に細島港の發達發達す。西部山地との半島部との中間は土地平坦にして沙見川は南部を潤し田・畑よく拓く。米・麥を産し製糸行はれ、西部は森林原野廣く林産多し。外に畜産・水産・工業あり。國道と省線日豊本線この平坦部を南北に通じ、後者は大字日知

トミヤ

村に富高驛(大正十年開設)を置き、これより細島港へ支線を出し細島驛(大正十年設置)を置く。富高町昭和十二年富高町・細島町を合し各その一字を取りて富高町と稱せしもの。富高の地は古く和名抄、白杵野利田寮に屬せしもの如し。江戸時代には西國郡代(豊後日田に居す)の出張陣屋のありし處にして、日向公料地の支配をなせり。細島はもと富高村大字日知屋の屬邑たり。大字豊見は従久岡に「彌勒寺」を、豊見平十五町、右臼杵郡内、領家八幡別當、地頭十村太郎(和稱)と見ゆる地とす。(妙國寺庭園)指定名勝。東南方は山を負ひ、南方に小瀑を控へ、庭の東部斜面に露出せる花崗岩の岩盤を加工して數箇の階段を作り水を引きて其上を流らしめ、岩盤に接して小池を設け、中島あり木橋を架し、處處に庭石を配す。庭の東より南に互る丘陵には推の老樹繁茂し、赤松の巨樹を交へ、又西南に深谷、後方に丘阜を望み、山景を取入れ岩盤を利用し、小規模ながら特殊の想像に屬す。(八幡神社)大字富高に鎮座。祭神、仲足彦命・品田別命・息長足命。社傳に後鳥羽天皇の元曆年中平家一族追討のため工藤祐經・那須宗高の二人富高に來り、草場山に磐を築きし時、相議して鎌倉なる鎌倉八幡宮を勧請せしものなりといひ、爾後武神として武士の崇敬地に爲るものありき。例祭、十月十四日。

トミズ

を築橋に充てる合金銀石英の湖狀歌とす。主要鐵床は昭和九年春の發見に係り翌年試掘して金銀四五五匁(價額約五萬六千圓)を出し、忽ち本邦重要鐵山に列す。其後類に探鑛作業を繼續しつつあり。昭和十年の鐵夫數約十七名。
トミズ 富水 神奈川縣足柄下郡にありし村。明治四十一年他の三箇村を合し足柄村を置く。
トミスハラ 富洲原町 三重縣伊勢郡三重郡の東北部。四日市・桑名兩市の中間にありて富田町の東北に接し、南は伊勢海に面す。面積二方軒に滿たす。地低平にして米・藁を産する外、水産盛なり。東洋紡績・東田製網・三重綿布等の工場多く綿工業盛大にして町勢大に振ひ人口密度七・六〇六人の稠密なり。現在海濱修築工事進められつつあり。社線參宮急行電鐵伊勢線の富洲原驛(昭和四年開業)あり、また省線關西本線富田驛にも近く交通至便なり。富洲原港は指定港にて、棉花・綿絲・落綿・水筒・内地米等を名古屋港に移出し、米・雜穀・棉花・石粉原料石・石炭・蠶節等を主として名古屋・四日市港より移入す。明治二十二年、富田一色・天須賀・松原の舊三箇村を合併して富洲原村と名づく。大正十二年町制施行。古くは和名抄、朝明郡調郷に屬せるもの如し。調郷は吳部にして紡績を業とせる部民の居りし處なりと。大字松原に聖武天皇の御舊蹟と

トミス

傳ふるものあり、天平十二年十一月甲申朝丙午行幸の時、朝明行宮のありし處なりといふ。
トミタ 富田 福島縣岩代國安積郡の東部。郡山市の西北に接す。面積約一〇方軒。郡山盆地の一部を占め、土地概ね平坦にして蓬瀨川はこれを東流し、郡山市との境をなして阿武隈川に合す。田畑よく拓け、米・麥・大豆・藁等を産す。安積街道は村の東北部を通じ、郡山市より西北方熱海へのパスの便あり。宇乙路に二石碑あり、一は正和元年、一は正安四年とあり。
【富田村】福島縣岩代國南會津郡の中部北偏。東は大沼郡昭和村と界す。面積六〇方軒餘。北と東の境に大曾根山・鳥越山・布富山・峰張山・三階山・黒岩山、西南界に御林山・辰巳山・大博多山等、帝釋山脈山肢の北部に屬する高度一千乃至一千五百米の山嶺連りて殆ど山地をなすも、中部には只見川の上流伊南川南より西北に流れ、その間に幅狭き低地ありて耕地拓く。米・木製品・藁・木炭等を産す。沼田街道、川に沿ひて通じ、自動車の便あり。大字和泉田は伊南川に沿ふ。舊藩政の頃、和泉田は附近十數箇村を總べし和名たり。(鹿島神社)大字界字蛇之宮に鎮座。郷社。祭神健甕之男神。當社位階緣起に蛇宮の號は神靈の天養中常陸國鹿島宮より蛇に乘じて來臨せら

トミタ

れしが故にして、字名亦これに依ると。尙ほ社記に依れば天養元年源義明社殿を新築し鹿島大神の分靈を移してこれに鎮祭すと。爾來伊勢神社に準てて式年の造幣をなす。享保年中正一位を授けられ、且つ祭料として三十俵を献す。而して幕府御藏入五箇所の御祈禱所の一に數へらる。例祭、八月二十三日。
【富田村】福井縣越前國大野郡の略中央部。大野盆地の東北部に當り、東北は九頭龍川境に平泉村・飯谷村と、西は支流眞名川によりて大野町の東隣下庄村と、その南の上庄村と界す。ほぼ南北に長く、面積約二・三方軒あり。東南部は荒島岳(五二四米)の西北斜面の山地、中央に延びて臺地状を呈し、北西部は即ち大野盆地の一部にして土地平坦、田地よく拓けて米の産額多く、粟・藁・藪等を産す。清酒醸造行はる。縣道南部を横ぎり、西は大野町、東は西勝原(五箇村)へパスの便あり。古くは和名抄、大野郡養母郷の内なるべし。中世は富田庄と呼ばれ、今も村名はトミタ・トヒタと稱はる。
【富田村】岐阜縣美濃國加茂郡の西南部。本田町と武儀郡關町との中間に位す。面積六・七方軒餘なるも東部と西北部に低き丘陵地の末端あるのみにて他は概ね關盆地の東北部に當る平地にして田畑よく拓く。米・小麥・甘藷・藁を産し、富有柿・ナイフの特産あり。省線越美南線は

トミシ

村の南部をかすみ加茂野驛(大正十二年設置)を設け、驛より西は福河へ、東北は伊深村へパスの便あり。この地は和名抄、賀茂郡植生郷の内。村内に古墳及び塚多し。(大山神社)大字大山に鎮座。郷社。祭神は一に大山祇神ともいひ、或は大山明神、加茂明神なりともいひて定かならず。式内の古社として著はる。例祭、四月三日。
【富田村】愛知縣尾張國海部郡の東部。東は庄内川とその分流新川を隔てて名古屋市西部に接し、西は蟹江町に隣る。面積一・二・六方軒。土地極めて低平にして海抜僅に二・三米に過ぎず。新川は東部を戸田川は西部を南流し灌漑の便よく、到る處田地よく拓け米・麥・野菜等の産多し。名古屋より西北方津島町に至る津島街道は東北部をかすみ、其他名古屋・蟹江に道路を通じ、また省線關西本線の蟹江驛にも近く交通至便なり。この地は和名抄、海部郡津島郷の地。明治三十九年豊治村・戸田村・萬須田村・赤星村を廢し本村を置く。明治元年、明治天皇東都還幸の際この地に御小休あらせらる。また本邦七寶業中興の祖たる梶常吉(贈従五位)の住せし所。大字前田は加賀百萬石、金澤城主、前田氏の起りし所。始祖は筑前、前田臣の裔ならんといふ。子孫世々此地にあり、利家、義氏に仕へ、のち秀吉に従ひ金澤の城主となり、五大老の一となる。(國王神社(八劍社))大

トミシ

トミシ 富莊 京都府船井郡にありし村。明治二十七年本莊村と合併して富本村を置く。
トミス 富士山 山合町(廣島縣雙三郡)

宇萬場に鎮座。郷社。祭神、大物主神、草薙御劍御靈外二神。往昔は頗る大社なりしが兵亂の爲め衰微して明應年中より漸く舊觀に復すに至りたりといふ。式の國王神社は久しく不詳の儘なりしが、元治元年當社を以て式の國王神社と定めらる。明治元年八劍神社を合祀、同年明治天皇東幸の際勅使の奉幣あり。例祭、十月六日。〔赤星神社〕大字千菅寺に鎮座。郷社。祭神根製命。創立年代詳かならざれども奉唱國內神名帳に「從二位赤星明神」と見ゆ。もと星宮と稱し、古來當所の産土神たり。例祭、三月廿一日。〔行雲寺〕大字千菅寺にあり。眞宗大谷派。一普山と號す。往昔は天台宗の古刹にして本尊に聖德太子作の千手觀音を安置す。聖武天皇御不例を當寺觀音に祈りて驗あり、勅使を遣して宸筆の經文・勅額を賜ひ、七堂伽藍及び十八坊舎を建立、地三町餘、寺領十町餘を賜ふ。而して行基菩薩を開基とし、實雅法印を開山となし給ふ。嘉祿年中親鸞上人當寺に來りて之を再興し現宗に改めて一普法師を住持たらしむ。寺寶中、方便法身立像は國寶たり。その他寺寶多し。

【富田】 愛知縣幡豆郡にありし村。明治三十九年他の一町三箇村と共に廢し横須賀村を置く。
【富田町】 三重縣伊勢國三重郡の東北部。四日市市の北方約三軒。南は伊勢海に臨み、東は富洲原町に接す。面積約二・八

【富田村】 兵庫縣播磨國加西郡の西部。北條町の西に隣り。西は神崎郡八千種村に接す。西境に四百米に及ぶ山地連り、東部には北條町に續く盆地狀の低地ありて水田拓け、米・麥(裸麥・小麥)の外に蘆製品・木製品・蔬菜及び花卉・醬油等の産あり、なほ羽物の特産あり。北條町に至る縣道中部を東西に通じバスの便あり、なほ西南姫路市に至る縣道は東南部をかすむ。この地古くは和名抄、賀茂郡酒見郷の内なり。
【富田村】 岡山縣備中國淺口郡の北部。南は玉島町、東は長尾町、西は金光町に接し、北は小田郡三谷村、東北は吉備郡穂井田村に隣り。面積一・四二方軒。北半は高度二〇〇米内外の山地、南半は高梁川沖積平地の西部にて耕地よく拓く。物産に米・麥・酒類・葡萄等あり、また製糖工業行はる。省線山陽本線玉島驛(長尾町)に近く、道路また玉島町に通じ交通不便ならず。明治廿二年、道越・八島の二村を合して池田村を、富・道口の二村を合して道口村を建てしが同三十二年この二村を合併して本村を置く。

(大正十三年設置)を置く、縣道また東北部を通じ今治市へはバスの便あり。縣道に沿ふ大字喜田村は石風呂を以て著る。古くは和名抄、越智郡高市・拜志の二郷に互る地とす。大字松木あり、豫章記に松木氏と見ゆるは蓋しこの地の人とす。慶長十三年頃福島正則この地に國府城を築き部下を屯せしめたり。その廢城年次は詳かならざれども、今僅にその礎石を存す。村名は村内を流るる領田川より出で、領田を平野に富める田と解して富田村と稱す。

トミタ 富田

【富田村】 福島縣岩代國伊達郡の南部。川俣町の西に接し、西南は安達郡木幡村と界す。面積約一七軒。阿武隈山地に屬し、南境に木幡山(六六六米)あり北方に緩く傾き高さ三―四百米の高原狀をなす地多く、西北部に小平坦地あり。米・藁を産し、山林よりは薪炭等を産す。また絹織物・生絲の工業あり。福島市よりの富岡街道北部を略東西に通じ川俣町へは

バスの便あり、省線川俣線之に並行し、大字鶴澤に岩代川俣驛(大正十五年設置)を置き交通不便ならず。

【富田村】 栃木縣下野國足利郡の東南部。足利市の東方にして、これと毛野村を挟み、東は安蘇郡佐野町との間に旗川村を隔つ。面積一〇方軒に滿たす。西北境には足尾山塊一支脈の南端なる大小山(三一四米)の山地あるも、その他關東平野の一部にて、南境には渡良瀬川流れ東境には支流旗川あり、田畑よく拓げ、米を主とし他に麥・藁の産あり。縣道は中央を横斷して、佐野町及び足利市に通じ、バスの便あり。省線兩毛線またこれに沿ひ、大字駒場に富田驛(明治二十六年設置)を置く。大字駒場は結城家譜に、四世時廣の子、大内彌三郎宗重、野州駒場四箇村を賜はると見ゆる地ならん。また鎌倉大草紙に結城黨寺岡左近將監とあるは大字寺岡の人か。大字西場は足利家綱の子成實ここに居りて西場氏と稱し子孫相承けしが、文明年中下都賀郡の篠岡城に移る。

【富田村】 香川縣讃岐國大川郡の中部。南北に長く、北は津田町・神前村、東は松尾村、西は石田村と界す。面積一七・三二方軒。南半部は南境に聳ゆる檜特山(六三一米)の北面の緩斜傾の山地、北境には雨瀧山(二五四米)の丘陵あり、その中間は平坦地にして津田川灌漑し耕地よく拓く。物産に米・麥・藁・蘆製品・鶏

トミタ トミナ

【富田浦】 省線小松島線の一驛(昭和九年設置)。徳島市にあり。
トミタカ 富高 宮崎縣東臼杵郡にありし町。昭和十二年細島町と合して富島町を建つ。
トミタハマ 富田濱 關西本線の一驛(明治四十一年設置)。三重縣三重郡富田町にあり。

【富永村】 宮城縣陸前國遠田郡の西部。江合川中流の北岸に沿ひ、小牛田町の西方にてこれと中塚村を隔て、西は志田郡古川町に近し。面積約一〇方軒。全村土地平坦にして水田廣く拓げ米を主産し、藁・麥をも出す。陸羽街道西部に通じ古川町へは交通の便よろし。この地は和名抄、長岡郡瀨城郷の内。天平時代は長岡郡と稱せしを以て名岡針の名、今に部落に存す。

【富成村】 福島縣岩代國伊達郡の中部西偏。福島市の東方約七軒。これと信夫郡岡山村を挟む。信達平野の東縁の一部にて概ね高さ二百米内外の高原狀をなす。河川の見るべきもの無し。東部・西南部に牧地、他は森林多し。藁・薪炭・馬等を産す。村道は其中部を略東西に通じ、西は福島市、東は掛田町に通ずるも交通なほ便ならず。本郷は富澤と高成田を合し富成村と名づく。

トミナリ 富成

【富成村】 福島縣岩代國伊達郡の中部西偏。福島市の東方約七軒。これと信夫郡岡山村を挟む。信達平野の東縁の一部にて概ね高さ二百米内外の高原狀をなす。河川の見るべきもの無し。東部・西南部に牧地、他は森林多し。藁・薪炭・馬等を産す。村道は其中部を略東西に通じ、西は福島市、東は掛田町に通ずるも交通なほ便ならず。本郷は富澤と高成田を合し富成村と名づく。

【富成】愛知縣丹羽郡にありし村。明治三十九年他の三村と共に廢し大口村を置く。

【富根】岡山縣小田郡塚村の舊稱。明治二十三年現名に改む。

トミンネ

富根村 秋田縣羽後國山本郡の中部。能代港町と北秋田郡鷹巣町の略中間に位置す。面積一九方軒餘。田羽丘陵北部の西線部に當り西南境に茂谷山(二四八米)ありて、南半部は低き丘陵性臺地をなすも、北半部は北境を西流する米代川下流の洪湧地にして土地平坦、川に近き處は荒蕪地あるも臺地寄りには水田・畑地よく拓げ、米を主産す。また米代川の鮎、茂谷山の筍あり。羽州街道と省線奥羽本線中部を東西に通じ、省線の富根驛(明治四十年設置)ありて交通不便ならず。明治天皇、明治十四年、山形・秋田及び北海道行幸の際、この地に御小休あらせらる。

トミヤ

富野村 宮城縣陸前國栗原郡の東部。築館町の北方約四軒。陸前平野の西北部に位置し、面積七方軒に近き小村。一迫川は村の東南境を東北に流れ、二迫川は中部を西より東に貫流して一迫川に合す。東北及び西南兩境部に小丘陵地ある外は概ね平坦にして米・藁・麥を産す。陸前街道東部を略南北に通じ、北方社線栗原鐵道邊野驛、南方同嶺北鐵道築館驛へは各四軒、バスの便あり。此地は和名抄、

栗原郡栗原郷の地。明治天皇、明治九年奥羽御巡幸の際、及び同十四年山形・秋田及び北海道行幸の際、この地に御小休あらせらる。

【富野村】福島縣岩代國伊達郡の東北部。梁川町の東北に接し、西は阿武隈川を隔てて五十澤村、北は宮城縣伊具郡の西部に接す、阿武隈山地北部の西線に屬し、東部は低き臺地をなし、西北阿武隈川の右岸を下る。西北部に田地・桑園多く、北部には牧地、東部には森林あり。米・麥・藁等を産す。縣道中部を西南より東北に通じ、西南社線福島電氣鐵道川停留所に近く自動車の便あり。伊達世臣諱略に「船生某、成宗君之世、爲宿老」とあり、本村の大字舟生に居りしものか。

【富野村】岐阜縣美濃國武儀郡の南部。美濃町の東南、關町の東北に接し、東南は加茂郡伊深村・加治田村・富岡村と界す。四境に高さ二―三百米臺の山地あるも中部を長良川の支流津保川南に曲流し、その川沿ひと西半部の中央に幅狭き低地ありて耕地をなし、米・藁を主産とし松茸の特産あり。關町・美濃町へ道路通じてバスの便あり。この地は和名抄、武藝郡大山郷の地のなりべし。大字神野は美濃源氏、清水頼直の弟を神野二郎頼忠とあるは此地に關係ありしものか。本城山に古城址あり、天文年間、齊藤八郎左衛門利直ここに築城せり。志津野の天守山の古城址は永祿七年、永井半人佐道判の築城

せるもの。(大野神社)大字上大野に鎮座。郷社。祭神詳ならず、天照皇大神・豐受大神を合祀す。美濃國神名帳に「武儀郡二十社正六位大野明神」とあるは本社なりといふ。例祭、四月三日。

トミノオガワ

富小川 大和國生駒郡の北界倭村高山より發し、南流して佐保川に合し大和川となる。鳥見の地を過ぐる故の稱。また斑鳩寺(法隆寺)を通過する故、いかるがの(や)富の小川ともいふ。古くより歴々詞藻に入る。

トミノホ

富之保村 岐阜縣美濃國武儀郡の中部。長良川の支流津保川上流の山村。關町の東北約一五軒。東北は上之保村、東南は中之保村、西南は下之保村に接し、西北は郡上郡下川村と界す。西境に水晶山(五六九米)一帶の山岳連互し、東南部を貫流せる神保川の谷に向ひて傾斜す。平地は殆んどなく谷沿ひに多少の田畑ありのみ、他は概ね森林繁茂し林業を主とし農業養蠶も多少行はる。上之保村・關町間の縣道通じバスの便あり。本村は明治四年上之保村より分離獨立せるもの。

トミハマ

富濱村 山梨縣甲斐國北部都留郡の南部。桂川の左岸。猿橋町の東北に接す。面積一三方軒餘。北境に扇山(一三八米)聳えその南斜面にて殆ど平地をなし、ただ南境を桂川東に流れ之に沿ふ河成段丘上に狭き平地あり桑園・田畑あり。養蠶を主業とし、藁の産多し外

富益村人口	
大正九年	一、二〇〇
大正十四年	一、八六三
昭和五年	一、八六三
昭和十年	一、七五三

村民の感謝を受けしが、明治初年更に米村所平は藩命によりて弓ヶ濱半島に灌溉を完成せしめ四千町歩の地を開き、本村を流るる米川は彼の名に因めるものといふ。大正末期より更に川の堤防、配水設備等の改修を行ひ昭和十三年春遂に竣工す。なほ村の中央にある富益神社は無格社なれども附近の崇敬厚し。

トモト

富本村 京都府丹波國船井郡の東南部。關野町の東南約八軒。西南は大堰川によりて八木町に對し、東南は南桑田郡旭村、東北は北桑田郡神吉村と界す。南北に長く面積一方軒餘。北半は山地をなし、東境に龍王ヶ嶽(四九九米)、西境に諸木山(四七三米)あり。南半は大堰川をつくる龜岡盆地の北部を占め概ね平坦にして田畑よく拓く。米・麥を産し養蠶も行はれて藁を出す。縣道南部を東西に走り、西南隣八木町には省線山陰本線八木驛ありて交通不便ならず。この地は和名抄、船井郡刑部郷の地にして大字刑部は郷名の遺稱なるべし。三代實錄・貞觀六年の條に丹波何鹿郡の人刑部首夏繼の名見ゆるも此地に關係ある人ならん、東寺の天元二年の文書にも丹波國刑部郷とあり。寛知集に船井郡刑部村とあり。中世は富莊と稱し、夫木・二〇・禰葉の色をかばらてけふよりは富の小山に千代なこそ待て「匠屋」とある富の小山も蓋し此地なるべく、近世は富莊村と稱せしも明治廿七年富莊村は本莊村と合併し

富本村を置く。

トミヤ

富谷村 宮城縣陸前國黒川郡の南部。仙臺市の北方約一四軒。吉岡町の南方約五軒。南は宮城郡に隣接す。仙臺平野の南部に位置し、南隣宮城郡七北田村との境には高度一〇〇米足らずの丘陵ありて全體に北方に緩く下り、諸水は西川となりて北部を東流し、西北部には吉田川また東に流れ、それらに沿ひて耕地拓く。米・麥・藁を産し、南部丘陵地には林産あり。陸前街道は西部を南北に通じ自動車の便あり。社線仙臺鐵道は西北部の低地を走り志戸田驛(大正十二年開業)を置く。此地は舊奥州街道の新町宿のありし地。明治天皇、明治九年奥羽御巡幸の時及び同十四年山形・秋田・北海道行幸の際、御小休あらせられたり。大字大龜には式内社鹿島天足別社あり、常陸國なる鹿島社の裔社にして當郡の總鎮守たり。

トミヤ

富庄村 栃木縣下野國河内郡の中部。宇都宮市の北方約一〇軒に位置し、その間に國本村を隔てて西北は篠井村に至る。面積一七方軒餘。東境に高館山(四七七米)の脈南に續き、西境にも半藏山(五〇二米)あり。中部南北には平地あり田川の支流南流して東南隣豊郷村に出づ。中部には田畑拓けて林野を交へ、米・麥・藁を産す。日東鐵道の一部を占め金銀銅鑛を出す。日光街道は中部を北走し、宇都宮市・今市町・日光町間のバ

に米・麥・桑等を産す。桂川に沿ひ甲州街道・省線中央本線並行し、省線には鳥澤驛(明治三十五年設置)を置く。この地は和名抄、都留郡福地郷の地なり。甲斐國志に下鳥澤の東の嶺の内に、地中より古瓦・矢鏃・刀劍などを出せり；東鑑に甲斐國福地郷・鎌田兵衛尉とあり、鳥澤の邊を福地郷なりといへば、此嶺之内の古址も鎌田の居館なるべしとあり。明治十三年、明治天皇、山梨・三重及び京都行幸の際この地に御小休あらせらる。

トミハラ

富原 富山縣美作國眞庭郡の西南部。東は勝山町に、西は阿倍郡(舊中國)刑部町・丹治郡村に隣り、面積五三方軒餘を有す。高度四―五百米を有する高原性の山地廣く、中部南北に幅狭き低所あり、聚落は主として此低地と高原の低所に發達し農業行はれ米・麥・藁・木炭・柿・葡萄等の産あり。勝山町より刑部村に出づる道路に當り、勝山町へバスの便あり。明治三十五年富山・井原二村を廢しその地域を以て本村を置く。

トミヤ

富山 栃木縣下野國下都賀郡の中部。西側。東北は栃木市の西南境に接し、南は静和村、西南は岩舟村と界す。面積一五方軒に近し。西北境には晃石山(四一九米)馬不入山(三四五米)の山嶺連るもその他は關東平野の一部をなして概ね平坦、東南部には畑地、中部より東北部には田地よく拓く。農業盛にて、米・麥・藁・野菜等を産す。縣道(舊例幣使街道)は東部を北走して栃木市に通じ、省線兩毛線は栃木市より來りて中部を斜に貫き大字富田に大平下驛(明治三十三年設置)を置き、社線東武鐵道日光線は縣道に沿ひてまた新大平下驛(昭和六年開業)を設け、交通便なり。大字富田宿は舊日光例幣使街道に當り中世佐野氏の居所たり。(大平寺)大字西山田にあり。曹洞宗。大平山。延徳元年小山重長の開基、快庵妙慶を開山とし、中興は天嶺春補なり。天正年中、徳川家康特に本寺を曹洞宗の僧録とし寺領百石を寄す。その後數度の火災に遭ひしもその都度幕府より造替料米を寄せられたり。地方の名刹にして直末寺三十二箇を統ぶ。(玉正寺)大字富田宿

にあり。新義直宗豊山派。光明山持光院と號す。本堂に、寛嘉三年唐より傳來せる不空三藏の阿彌陀如来を安置す。境内の地藏堂に徳川綱吉の守本尊と稱する地藏尊を安置す。

【富山村】 愛知縣三河國北設樂郡の東北隅。天龍川の西岸に沿ふ。東に天龍川を隔てて靜岡縣周智郡水窪町・城西村と相對し、北は長野縣下伊那郡神原村に隣る。北境に八嶽山(一四〇米)、南境に日本ヶ塚山(一一〇七米)等聳立し、西境にも千米に及ぶ山嶺南北に連り、東境を天龍川南流するも沿岸に低地なく、西北山地に發する支流の沿岸に僅に低地ありて耕地開く。米・麥を産するも山林に依存し生計を立つる者多し。人口は大正九年一四九六八、同十四年一七九八、昭和五年一〇二四八、同十年九三七人と減少し同年の一方籽密度は僅に二七人なり。

【富山村】 島根縣石見國安濃郡の東北部。大田町の東に隣り、東北は濇川郡田儀村に、東は岡山日村に接す。南部に四百米内外の丘陵性山地あり、山肢は北部に延びて村内概ね山地をなし、北部を北流する溪流沿ひに低地ありて耕地開け、米・藁を産し木材・薪炭を出す。街道は溪流を縫うて通ずるも險路ありて交通便なりと云へず。

【富山村】 岡山縣備前國上道郡の西南部。岡山市の東に接し、北は橋多村に、東は可知村に、南は操陽村に隣る。面積僅に

四・六四方軒。西北部に丘陵ある外は古井・旭二川の合成沖積による岡山平野に屬し、平坦にして耕地拓け米・麥・藁・粟・葡萄等を産す。岡山市に隣接し交通便なり。〔曹源寺(岡山大寺)〕大字岡山にあり。臨濟宗妙心寺派。護國山。元禄十一年池田綱政、其祖國院殿池田勝入齋信輝菩提の爲に之を創建し、絶外宗純を岡山とす。爾來池田氏累代の菩提所。舊寺領二百六十石。俄皇雙紙一卷(紙本淡彩)は國寶。

【富山村】 岡山縣備前國古備郡の西部。高梁川の中流左岸に沿ひ、南は日美村、西北は上房郡高梁町に接す。面積一九・六八方軒。高度三百米内外の高原性の地多く、高梁川沿ひと所々に小低地ありて伯耆街道と省線伯耆線並行して高梁川に沿ひ、後者の美袋驛(日美村)・備中廣瀬驛・備中高梁驛(以上高梁町)に遠からざるも交通の便なほよろしからず。米・藁・麥・木炭・藁等を産す。この地は和名抄、賀夜郡日羽郷に屬せるもの如し。

【富山村】 高知縣土佐國幡多郡の中部東偏。中村町の北方約一・二軒。四方十川の支流後川の水源地域を占め、東西約一八軒、南北六・一八軒、面積一〇六方軒餘を有す。東南部は佛ヶ森(六八八米)、又西北隅には堂ヶ森(八五七米)等の山峯あり、村内に到る處山地にして高度は五・一六百米の處多く、後川は東部の谷を西南に、その支流は西部の谷を東南に流れ、南隣

藤岡村に出て相合す。聚落はこの二川の谷地に沿ひて散在し耕地乏しきも米・麥・藁等の外和紙・木炭等を産し、牛・馬飼養せらる。南方中村町へ道路通ずるも交通なほ便ならず。面積廣きも人口少く一方籽の平均は僅に二七人に過ぎず。大正四年山中村を現村名に改む。〔熊野神社〕大字山中に鎮座。郷社。祭神、連玉之男神・伊弉那美神外四神。古來本村の産土神たり。例祭、七月二十日、十一月四日。

トムシヨシ 富義 愛知縣東加茂郡にありし村。明治三十九年他の二箇村と共に廢し新に下山村を置けり。

トム 土武 信濃國(長野縣)の古地名。和名抄、諏訪郡に土武郷あり、止無と註す。いま下諏訪町の地名に富部・友ノ町あり、富・友は何れも郷名の遺稱なるべし。いま下諏訪町・長地村・岡谷市等諏訪湖北岸の地を稱せしもの。

トムカシ 富樫 下富樫 朝鮮の古地名。書紀、神功皇后の四十九年、この地を屠りてこれを百濟に賜ふと見ゆ。その地明ならざれども、或は慶尚南道の大島なる南海島ならんといふ。

トムチ 富神 肥後國(熊本縣)の古地名。和名抄に益城郡富神郷あり。註を缺くを以て或はこれをトカミと調むべきならんも、郡内にこれに該當すべき地名見當らず。一説に富神は或はトムチにあり

ざるか、貴をムチと訓するはその例書紀にあれば、貴神の意にて神の字をムチとも訓むべきかと。假に此の説にして容るるならば富神は訛りて祇用となり、これをいまの下益城郡祇用町・東祇用村に擬するを得べきか。

トムナイ 富内 【富内村】 樺太大泊支廳の東北部、富内郡の一部を占む。豊原市の東に隣り、北及び東部はオホーツク海に臨む。西部には主として結晶片岩類より成る鈴谷山脈走り、鈴谷嶺(一〇四六米)・靦登山(一〇二三米)及び五百米内外の喜美内山・皆岸山等あり、東部には中知床半島に連る主として古生界の岩石及び花崗岩より成る中知床山脈南北に連り、南より愛郎嶺(五〇五米)・神居山・豊舞山(二五五米)と續き、北端海に没する所は愛郎岬の海崖をなす。此の兩山間には遠端低地帯にて中に我國第五位の富内湖あり。西部山地に發する皆岸川・喜美内川は共に東流して富内湖の西北岸に注ぎ、皆岸川は恩瀨湖の北に注ぐ。北岸の愛郎岬より富内湖の排水口近くにある稻荷山(八三米)に至る間には砂嘴狀の砂堆發達し、其の内側即ち富内湖との間には東より愛郎湖・阿部沼・遠瀨湖・能仁湖・上伊佐沼・中伊佐沼・下伊佐沼・育仁沼・野野沼等の湖沼海岸に沿うて一線に分布し、なほこの一帯は濕地多し。皆岸川・皆岸川・喜美内川の流域は比較的地球變位して

農耕地開け、特に皆岸川・喜美内川上流には大農場あり。なほ高原狀の山地あるを以て牧場に適し牛・馬を牧ひ牛乳を出し、山地よりは木炭を産す。富内湖の排水口大字富内湖に漁港ありて漁業盛なり。大字喜美内より大泊町に樺太拓殖鐵道の輕便鐵道あり、大字富内よりは豊原市・大泊町に街道走り夏季は各バスの便あり。海上には定期船の運航あれども一般に未だ交通便利ならず。聚落また富内及び落帆に集團的に發達するほかには見るべきものなし。なほ村内に土人部落あり、昭和十一年現在にてその人口一四二四人を算ぶ。

【富内郡】 ↓富内村(樺太)

【富内湖】 樺太大泊支廳にある湖。オホーツク海に面し鈴谷山脈と中知床山脈との間なる謂はゆる遠端低地帯の湖沼群の最大なる湖。湖岸は富内村・長濱村(長濱郡)に亘る。東南より西北の方向に細長くしてその長き約二五軒、湖岸線の延長九〇・九〇軒、面積一六八・二方軒(日本第五位)。湖の西端に喜美内川注入し、東北部に口を開きてオホーツク海と連絡し鹹味を帯び、最深所は三四米、湖の北部には中島浮び、流出口の東岸には富内の聚落あり。

トムノ 富野 山城國(京都府)の古地名。和名抄に久世郡富野郷あり、止無と註す。中世には富野莊と稱せしがいま莊名を存して富野莊村あり。

トムラ 耽羅 濟州島(朝鮮)の古地名。トムラウシ 岳 十勝山脈の最高峯。大雪山山の南西方、十勝岳(二〇七七米)の北東方、いづれも約一八軒に當り北海道十勝支廳上川郡新得町と上川支廳上川郡美瑛村との境上に在り。標高二一四一米。北西は花ヶ岳(九五五米)・忠別岳(九六三米)を経て大雪山山に連り、南はオプメテシヤ山を経て十勝岳に續く。大雪山山との中間には沼ノ原の濕原、五色ヶ原の御花畑あり。山麓臥牛に似、堂々として男性的なり。山頂よりは南西方にオプメテシヤ・十勝の連山重疊し、その彼方には日高・夕張の連嶺を望み、北西方には大雪山山・群雲するを眺む。この山の近年に於ける初登攀は大正九年なり。登山は通常大雪山又は十勝岳方面より縦走して行はるれど、別に北西方旭川方面より忠別川を遊行、松山温泉に至り、更にその一上源グラウナナイ川を遊行するも途頂し得。此方面の溪谷には所々に瀑布あり、甚だ美し。

トムロ 戸室山 金澤市の南東方約五・四八米に過ぎざれど建築用石材を出すを以て名高し。

トメ 斗女 信濃國(長野縣)の古地名。和名抄に更級郡斗女郷あり止米と註す。神風抄に信濃國富部御厨、田百五十町とある富部、また源平盛衰記壽永二年の條に見ゆる富部はいづれも此地なるべく、

その地或はいま鎌ノ井町・川柳村・信里村の邊に當るか。

トメ 登米 【登米郡】 宮城縣二市十六郡の一。陸前國の一部にて、縣の北東部を占め、東は本吉郡、南は桃生郡・遠田郡、西は栗原郡、北は岩手縣東磐井・西磐井兩郡に接す。面積四六七方軒餘。北上川は中部を南に貫流して郡を略東西の二部に分つ。東部は北上山地の南部に屬し高度二百米程度の臺地狀山地をなし、又川東北より西南に流れて北上川に合す。河谷は斷層線にてその南部は謂はゆる志津川地塊に屬す。西部は仙臺平野の東北部に當り北上川と支流迫川西北方栗原郡より來り、西南・東部の方向に彎曲進行し、北部は謂はゆる迫川低地帯、南部は大谷地低地帯をなし、西境には低き丘陵ありて伊豆沼・長沼・船越沼、西南境には平湯沼・大貝沼その他の沼湖多し。低地には水田多く米産に富み、そのほか麥・白米・大豆・馬鈴薯をも産し、東北部米川村には煙草の特産あり。北上川沿岸には桑園ありて養蠶業行はる。東部の山地には森林・牧地あり、藜藜・馬等を産し、北上川右岸の淺水村には騎羊飼育せらる。北上川右岸の登米町、左岸の米谷町、迫川に沿ふ佐沼町は郡の中心都邑にて農産の集産地をなす。一關街道は北上川に沿ひて南北に通じ、登米街道は登米町より低地の中央を西北に迫川筋を上り、西部街道は佐沼町

より東北方又川筋を東し、本吉街道は米谷町より東方志津川町に至り、又西南部の佐沼街道は石巻別街道より破れて佐沼町に達し、いづれも自動車を通ず。省線東北本線は西北部を掠る新田・石越の二驛を置き、社線仙北鐵道は西方より來り佐沼町・石巻町・米谷町・登米町等を繋ぐ。日本後紀延暦十八年に於ては延暦十八年抄共に二郡を並載するを見れば延暦十八年以後延喜以前に於てまた分立せしものなるべし。和名抄は登米・行方の二郷を管す。

【登米】 鳥取縣八頭郡にありし村。明治二十八年登米村・邊郷村を廢しその區域を以て丹比村を建つ。

トメガワ 戸米川村 秋田縣羽後國河邊郡の西南隅。秋田市の東南約一六軒。東と北は鮎行北流する雄物川を境として種平村・川添村と分かれ、南と西は山利郡に隣接す。面積約二八方軒。西・南兩部に丘陵地ありて東部北方に傾斜し、東・北兩部の雄物川沿ひ平坦なる耕地地域をなすも、其他は高さ一〇〇米内外の臺地性丘陵にして森林廣し。米を主産し果實・藁等を出し、また木炭・山菜の特産あり。道路は東部を南北に通じ、雄物川には水運の便あるも交通なほ便利ならず。本村は明治二十八年中川村の内大字相川・女米木・戸賀澤を分割して置けるもの。

トメサキ

留崎村 青森縣陸奥國三戸郡の南部。三戸町の東南に隣り、南は...

トメノユ

留之湯 ↓鹿部村(北海
道茅部郡)

トモ

土茂 安藝國(廣島縣)の古地名。
和名抄に土茂郷あり、その地今の安佐郡...

トモ

度毛 下總國(千葉縣)の古地名。
和名抄に葛飾郡度毛郷あり、その地今詳...

トモ

友ヶ島 和歌山縣海草郡加太町
にある島。紀淡海峡の東側にあり、二島...

トモ

輔 廣島縣安藝國安佐郡の西
南隅。東南の一部は廣島市の西北界に接...

東境にも高さ四〇〇米内外の山嶺續き、
中部には向山の裾傾斜し山地多きも、そ...

弘く世に知らる。景勝の地郷は遊身遊家
によく晩春初夏の候には綱網行はれて見...

トモ

頼・登望 【頼町】 廣島縣備後國沼隈郡の東南海岸。
福山市の西南に斗出せる沼隈半島の東南...

トモイ

供合村 熊本縣肥後
國飽託郡の東北部。白川南岸に沿ひ東北...

トモウチ

友内山 西國山脈の一峰。
友内山とも云ふ。劍山の北方約一四軒、

トモエ

巴村 茨城縣常陸國鹿島郡の西北部。
鉢田町の西北隅にて、西南は巴川を隔て...

トモエタ

友枝村 福岡縣豊前國築
上郡の東南部。大分縣中津市の西南方に...

鼻 一名鏡ヶ崎あり、柱狀節理を呈する村
木岩・明神松・祇園崎・小垣の穴と呼ば...

宮 毛利輝元を模範として再興すと。
堂宇中釋迦堂は名工左甚五郎の構築と傳...

【頼・登望】 肥前國(佐賀縣)松浦郡の
名。肥前風土記・松浦郡に、息長足姫尊...

【巴村】 茨城縣常陸國鹿島郡の西北部。
鉢田町の西北隅にて、西南は巴川を隔て...

【トモエ】 愛知縣南設楽郡にありし村。
明治三十九年本村は八箇村を廢し作手...

トモエタ 友枝村 福岡縣豊前國築
上郡の東南部。大分縣中津市の西南方に...

トモエタ 友枝村 福岡縣豊前國築
上郡の東南部。大分縣中津市の西南方に...

トモエタ 友枝村 福岡縣豊前國築
上郡の東南部。大分縣中津市の西南方に...

トモ—トモエ

トモオ——トモノ

近く、北は西吉富村・南吉富村、南は大分縣下毛郡馬場村と界す。面積約三六方...

海に鱈・鯊・鮫・鰯等の漁獲多く、殊に鱈大敷網は本郡沿岸中第一の漁獲高を示す...

し田地拓く。米の産多く、繭・林産もあり。上野町・貴生川を繋ぐ道路南北に走り...

風持兩様に書せしもの如し。域内に眼鏡橋(船津橋ともいふ)あり。弘化三年、大庄屋藤原善兵衛の架せるもの。石橋として...

トモガシマ 友ヶ島 【友ヶ島】 ↓友ヶ島 【友ヶ島水道】 ↓紀淡海峡

トモチ 砥用町 熊本縣肥後國下益城郡の東南部。緑川上流の南岸に位し、西北は上益城郡甲佐町、南は八代郡の北...

トモノ 友生村 三重縣伊賀國阿山郡の南部。西北は上野町に近く、南は名賀郡に接す。面積約二二方町。東北部と東南部は高さ二〇〇米内外の臺地性山地をなし、その中間より西半にかけては土地平低にして田畑よく開く。米産を主とし養蠶行はれて繭を出し工産・林産もあり。上野町とは交通便なり。この地は和名抄、山田郡本代郷の地にして大字噴代は郷名の遺稱ならんと。「西光寺」大字界外にあり。新義真言宗崇山派。寺寶の觀世音菩薩坐像(木造)一軀及び勢至菩薩坐像一軀は鎌倉期の作にして國寶たり。

トモハ——トモロ

天龍川の東岸の神稻村をはじめ木村・下久堅村に互る地を稱せしものか。

トモハ 友原 廣島縣佐伯郡にありし村。昭和四年三和村と合併し友和村を建つ。

トモロキ 友呂岐村 大阪府河内國北河内郡の西北部。淀川の左岸に位し北方枚方町との間に陸田村を挟む。面積約五・六方町に過ぎず。東部は枚方丘陵の南端にて高さ三〇米内外を示すもその他は大阪平野の一部にて土地低平、田畑よく拓く。米・麥・菜種等の農産多く、また阪神工業地帯の一部を占むるを以てメリヤスの小工場多く、綿織物其他の工産額少からず。淀川に沿ひて京阪新國道走り、中部には河内街道南北に通じ社線京阪電鐵線貫き交通の便よし。中世は額呂岐莊に作り安樂壽院領たり。大字太間古江江絶間或は断間作り、仁徳天皇の時美田堤決潰の處なりと。* 梛子断間(本殿寺) 大字三井にあり。本門法華宗。本門戒壇院とも稱す。聖徳太子の開創と傳へ、最澄またここに來りて弘法に努む。後醍醐天皇の御宇勅して講堂を經營せしむ。應永二十五年住持圓澄、

トモヘ 友部 常磐線の一驛(明治二十八年設置)にして水戸線に接続す。茨城縣西茨城郡茨戸町南友部にあり。

トモン——トヤノ

日隆の門に歸して改宗。本宗最初の靈刹として開き、本興寺・本能寺等と共に當宗に於ける一重鎮たり。

トモン 岡門

【岡門】北北線
【岡門江】豆満江の別稱

トヤ 鳥屋

【鳥屋村】 神奈川縣相模國津久井郡の南部。東南は愛甲郡宮ヶ瀬村に、西南は足柄上郡三保村に隣接す。面積三九・五六方軒にて本部第一の大村。南境に丹澤山塊の主峰丹澤山(一五六七米)及び蛇ヶ嶽(一六七三米)聳立し、北境に鏡山(一〇六〇米)あり山地深く、東北部の溪間に僅に低地ありて耕地・粟落愛に發達す。米・麥を産し穀類も盛にて尙ほ木材・薪炭等を出す。街道は東北部には三方より来るも他の所は交通便ならず。

【鳥屋】 新潟縣北蒲原郡にありし村。明治三十九年本村ほか三村を廢して其地域を以て木崎村を建つ。

トヤガサキ 鳥谷ヶ崎 釜石線の一驛(大正四年設置)。岩手縣稗貫郡花巻町にあり。

トヤサキ 烏矢崎村 宮城縣陸前國栗原郡の中部北偏。築館町の北方約一〇軒。不規則なるコ字形の地域を占めて岩ヶ崎町を抱き、西北の一部は岩手縣西磐

トヤマ 戸山

【戸山ヶ原】 東京市澁橋區にある原。同區のほぼ中央に位し、行政上、北半は戸塚町、南半は大久保町に跨り、大部分陸軍士官學校の有に屬す。戸山の名は嘗て外山に作り、寛文中今の半込區戸山學校の地に舊尾州家の別墅と定められ、大久保まで構内に入れて和田の外山と稱せり。戸山の山莊に就きては、「戸山の春」

「戸山の紅葉」戸山莊の記などと古人がいひしが、如く、外山はいつしか戸山となり、その山莊泉石の美は二十五景を數へ規模頗る廣大なりき。戸山ヶ原はその山莊の西方にある山なりしためこの名生ぜしものならん。海拔凡そ三〇米の洪積層のロームより成る臺地にて、武蔵野臺地の原形面に當る平原なり。省線山手環状線の西側は稍低く、二三―二四米にて緩傾斜の地に潤葉樹の雑木林ありて風致を添へ、中央の原形面は草地をなして近衛騎兵聯隊その他が練兵に使用し、西側は比較的急傾斜をなして舊神田川上水に臨む。陸軍科學研究所技術本部等あり、東方には陸軍射撃場あり。春秋の季節には市民の行樂する者多し。

トヤマ——トヤマ

【戸山村】 廣島縣安藝國安佐郡の西南隅。廣島市の西北方約一二軒の山中に存し、東北は久地村に續き、西は佐伯郡水内村・砂谷村と界す。面積三三方軒餘。西境には東郷山(九七七米)の山嶺連り、東境には窓山(七一ニ米)の山嶺連り、傾斜緩き山

トヤマ 富山

【富山村】 千葉縣上總國市原郡の南部。鶴舞町の南隣にあり。面積一二方軒餘。

トヤシロ 十社村

三重縣伊勢國員辨郡の東北隅。養老山脈中部の西南斜面に位し、南は阿下喜町に接し、北・東は岐阜縣養老・海津の二郡と界す。面積四六方軒餘。養老山脈は六〇〇米内外の高度を保ち西北より東南に連りて東北境を劃し、西南部に傾斜す。村の西半は丘陵性の處多く、西南部のみは稍平地ありて田畑拓げ米・藁・麥・茶を産し、山地より木村・薪炭を供給し、また工業もあり。阿下喜町より北上する縣道は中部より東北に向ひ養老山脈を越えて岐阜縣海津郡高須町方面に通じ、大字畑毛より阿下喜町へはバス便あり。村内に延喜式内多奈間神社あり、村名は町村制實施當時村内に十社ありしを以て十社村と名付けしもの。

トヤノ 鳥屋野村

新潟縣越後國中蒲原郡の西北部。信濃川の右岸に沿ひ、北は新潟市に接し、南は石山村・曾野木村に隣りその間に鳥屋野湯を挟む。面積一四方軒餘。土地一體に低平肥沃、水田多ク越後米の主産地なり。省線信越本線の新潟驛に近く、水路の交通亦便なり。古く金津庄の内とす。承久三年、順徳院佐渡國に遷幸あらせ給ひし時に、寺泊浦より渡御ありしに海上風濤激しく此地に御上陸遊ばされ御泊あらせらるといひ、新續古今集には「はし鷹の鳥屋野のあさぢふみ分けてをのれと歸る秋の狩人 順徳院」と見ゆ。また觀賢配流の際此地に

脚注

一字を管むといふ。村内に鳥屋野湯(周囲約一九軒)あり。粟之木川を以て排水し信濃川に入る。(鳥屋野ノ遊竹) 指定天然記念物。西方寺城外地の漢竹藪に生ず。遊竹は進生枝を生ずるハチクの一種種なるも、昔は越後七不思議の一に數へられ、親鸞上人北陸巡遊の時、この地に杖を立てられしが、のちそれより根芽を生ずと傳ふ。(西方寺) 大字鳥屋野にあり。眞宗大谷派。當寺を距る西南二町の地に見眞大師(親鸞上人)弘法の迹なる大師草庵址あり。庵址の周囲は竹藪にしてその廣さ九反二十五歩。昔時大師此處に念佛の要義を説きしも、疑訪の徒多く、歸依する者稀なりしかば、深くこれを嘆じ「此里は親の死したる子はなきか御法の風になびく人なし」と詠じ、持する所の竹杖を地に挿して曰く、我が弘むる法若し佛意に叶はば、此枯竹必す根芽を生ずべしと。後に果して根芽を生じ繁殖す。順徳帝佐渡に遷され給ふの途次此遺跡を訪はせ給ふ。當寺は元和五年本山の命に依り、竹林舊蹟保護のため新潟より移れるものなりといふ。

トヤノ又 鳥屋野・等夜乃野

萬葉集に見ゆる地名。所在いま詳かならず。或は和名抄、下總國印旛郡の鳥矢郷に擬し、或は福島縣信夫郡の杉妻村鳥谷野ならんともいふ。萬葉・一四「等夜乃野」をさきさらばりやをさるもれんへ子ゆゑに母にころばせ。

地をなせる部分多きその中間には幅狭き平地ありて西南より東北に延び耕地拓く。米・麥・藁・木炭・酒・醬油等の産あれど産額大ならず。交通便ならず、面積狭からざるも人口は二五〇〇人餘に過ぎず。古くは和名抄に佐伯郡茂土郷と謂へる地に當り、のち阿戸・古山の二村なりしを明治二十二年町村制施行の際合併して戸山村と名づく。

トヤマ 外山

【外山村】 岐阜縣美濃國本巢郡の中央。岐阜市の西北約一軒。東は山縣郡上伊自良・葛原二村、西は掛妻郡長瀬村に隣接す。面積三八・五七方軒の大村。東境に釜ヶ谷山(六九六米)聳立し、村域には山地連互し、西境を根尾川南に流れ沿岸に僅に低地あり、中部山間に川内の盆地あり。盆地及び沿岸低地には水田拓げ養蚕も行はれ、なほ農閑期には薪炭材等を副業とす。また茶の栽培も普及す。街道は根尾川に沿うて南北に走り川内盆地に至る街道を分岐す。人口は近年漸次減少の傾向あり、昭和十年二二九人、一方軒の密度は六〇人なり。太平記・土岐系圖に外山氏あり、この地に關係あるか。

トヤマ 富山

【富山村】 千葉縣上總國市原郡の南部。鶴舞町の南隣にあり。面積一二方軒餘。

トヤマ 富山

【富山村】 千葉縣上總國市原郡の南部。鶴舞町の南隣にあり。面積一二方軒餘。

房總丘陵の中央部に位し到處高度一〇〇米臺の丘陵起伏し森林多きも中央を北流する養老川支流の附近と西北部養老川の谷には耕地拓く。米・麥・藁を産し、養鶏行はる。鶴舞町・久留里町の縣道通ず。「風來寺」大字古澤にあり。曹洞宗。麒麟山と號す。永正年間乾龍明徳の親建に係る。現に鶴見總持寺末たり。觀音堂は室町末期の建造にて國寶。

トヤマ 富山

【富山縣】 本州中部地方の西北部に位す。越中國一圓を管し、東は新潟・長野二縣に、南は岐阜縣に、西は石川縣に各隣接し、北は日本海に面し、その中部に富山灣の灣入りあり。面積四二五七方軒餘ありて内地道府縣中第三十四位、人口約七九千人にして第三十五位に居り、一方軒の密度は一八八人にて第二十二位なり。行政上富山・高岡の二市と下新川・中新川・上新川・磐前・東礪波・西礪波・氷見の七郡に分ち、縣廳を富山市に置く。(地形) 北岸には富山灣灣入りし、南は飛騨高原の縁邊北に張出し、東西兩境の界線中部に於いていづれも外方に擴がり、縣の輪郭は肢を展べし胡蝶の如き形狀を示す。東境を限るは日本北アルプス(飛騨山脈)の北半にて蓮華岳・鹿島槍岳・白馬岳等標高三千に近き高峻の山峯南北に連り、北端は日本海岸に迫りて親不知の險崖をつくり、西側には黒部の峽谷を挟みて立山連峯または北に走る。西界をなすは白山火山群の北よりつづく大門

脚注

(磐前) 山脈にして、主として第三紀層より成り、南部に於ては高度一千米以上を有するも北するに従ひ低下し、北部の能登國との境にては石動隆起準平原地域につづき、ここに有名なる北陸街道の俱利伽羅峠(二七七米)あり。南境は我國第一の高原たる飛騨高地の北縁部にて高度一五〇〇―一七〇〇米を示す處多く、西部にある金剛堂山(一六三八米)・三ヶ辻山(一七六四米)等の山脚は遠く北方に延びてその末端は突羽山・高津峯山の丘陵地域に終る。飛騨山脈・立山連峯及び飛騨高地は片麻岩・花崗岩・古生層・侏羅紀層等より成り、その山麓に第三紀層、更にその外縁には洪積層の丘陵地ありて平野に漸移す。黒部川は飛騨・立山兩連峯間の深谷を北流し、片貝川・早月川・上市川・白岩川・常願寺川等は立山連峯の西斜面を下り、神通川・庄川(射水川)は共に飛騨高地北半の水を集めて北流し、小矢部川は大門川脈東側の水を容れてまた北流しいづれも富山灣に注ぐ。これら諸川は山地を離れて平野に移ると共に俄然緩流し、中流を缺くもの多きも皆扇狀沖積地を發達せしむ。縣の中部以北の北岸に沿ふ越中平野(富山平野)はこれら諸川の扇狀地の複合によりて成れるものにて中部にある吳羽丘陵によりて吳東平野(狭義の富山平野)と吳西平野(廣義の富山平野)に分たれ、富山市は前者の、高岡市は後者の中心都邑をなす。富山灣岸は屈曲少

く多くは砂濱にして良泊乏しきも小矢部
川口の伏木港は東日本有数の開港として
著る。〔氣象〕地形かなり複雑なれば
氣象もまた獨特のものあり。即ち伏木に
於て氣温の高極は三七・六度、低極は零
下一・一度、平均氣温は一三・一度な
れば福井・金澤よりやや低きも新潟より
も少しく高く、東京に比し僅に低温を示
すのみ。降水量は年平均二二〇一耗にて
これまた福井・金澤より少く新潟より多
し。例年十一月初旬を界とし、以後四月
までは晴天少く、曇天または雨雪天打續
き氣候極めて不順なるを常とす。この影
響は人文上に及ぶ所多く、家屋の構造・
住民の氣質、其他服裝・職業等に至るま
でこの地方特有の様相を出現せしむ。風
向は概ね西南或は西北にて冬季は北また
は西北風卓越し、家屋周囲に防風林を設
くるはまた一特色なり。伏木にては秋晴
日数平均二四日、曇天日数一九八日、降
水日数二二日、降雪は十二月中旬より
三月中旬に亘り、一月より二月までは最
も多し。〔産業〕越中平野即ち黒部川・
常願寺川・神通川・庄川・小矢部川等の
複合扇狀地には田地の發達著しく、良質
の越中米の産多し、年産額百六十萬乃至
二百萬石に上り、うち八十萬石乃至百萬
石を縣外に移出す。乾田多きも麥の作付
は冬季の積雪多きと長期の低温のため
に限定され、米作地積の三十分の一にも
及ばず。東北部にある黒部川扇狀地には

黒部西風の産出あり。南部及び西南部の
山麓丘陵地には桑畑多く、養蠶盛んにし
て收蠶量は約二十萬貫に達し、富山・八
尾・戸出・出町・福野・福光・城端等の
各郡邑に於て製絲・製織の工業原料とな
る。林野面積は十七萬六千町歩に達し、
藩政時代より林制よく行はれ、民有林に
は七木の制あり。黒部川・常願寺川の流
域は高山型をなし高地には寒帯林、中腹
以下には温帯林成育して山毛榉・白樺・樺
等の美林多し。有楽郡有林には落葉松・
扁柏の植林行はれ、林産額は木材・薪炭
共に百萬圓内外に及ぶ。水産物には鱈・
魚・鮭等のほか鮭・鯉・鱒等の寒流性
魚族及び鯛等の漁獲あり、年産額約四百
餘萬圓に達し、伏木・魚津・滑川・氷見
等の漁港を中心として集積される。伏木は
開港にて九州・北海道の石炭を移入し、
越中米・加賀米を移出す。工業は各種産
業中最も盛にて年産額一億二千萬圓を
超ゆ。製業はその大宗にして、三百年の
歴史を誇り、年産額約二千五百萬圓、富
山・滑川・東水橋・四方・小杉・上市・
中田・中賀等々の各地を主要中心となし
營業者一千五百名、行商人一萬二千名の
多数に上り、内地は勿論、滿洲・支那・
印度・南洋・アメリカ・中南米の諸地方
に互る廣大なる販路を有す。織物は年産
約二千三百萬圓にて、うち絹織物（一千
百萬圓、人絹を含む）は富山附近にて輸
出製製品を、城端方面にて内地向けに重

を出し、綿布（一千三百萬圓）は福野・戸
出等、麻織物（百二十萬圓）は富山・出町・
福光等を各その中心となし、またラミー
紡績は富山市内に、漆業は高岡市方面に盛
なり。其他、化學肥料・清酒・西洋紙・
工業用薬品・銅器・製材・製鐵・生絲・
木製品・漆器・板紙等あり、特に高岡市
の銅器及び漆器は古來有名なり。本縣は
明治以來産業を主位とせしが、豊富なる
電力の供給により近年工業進展し今日の
盛況を見るに至れるものなり。即ち黒部
川・神通川・庄川等による昭和十年現在
發生電力は縣營・民營を合し約四二萬キ
ロワットにして、工事中のもの及び未開
發のものを含算すれば縣下の發電能力は
百五十萬キロワットに達す。而して右のうち
約一五萬キロワットを縣下に於て消化す
る外は、之を東京・京阪の工業地帯に送
電す。〔交通〕北陸街道は加賀國より來
り石動・高岡・富山・東水橋・魚津・三
日市・泊を経て越後に入り、三日市より
は愛本を経て泊に出づる下街道あり、ま
た飛騨街道は富山より神通川の谷を上り
て高山に出て、他に富山より東岩瀬・四
方を過ぎて氷見に至るもの、高岡より礪
波平野を西南に走りて福光より金澤に通
ずるものあり。鐵道は省線北陸本線縣の
主動脈にて略北陸街道と並走して北部を
東西に通じ高岡市より北に氷見線、南に
中越線を分岐して氷見・城端間を結び、
加越線はこれに斜交し石動・青島町を連

結す。富川市よりは南に高山本線を出す
ほか、富山鐵道・縣營鐵道・富岩鐵道・
越中鐵道を南北に派出して附近を結ぶ。
このほか立山鐵道・黒部鐵道ありて山間
部と平野との交通を助く。海上は伏木港
より小樽・浦鹽・大連及び朝鮮の釜山・
元山・雄基及び羅津の各港間に定期航路
を通す。〔沿革〕本縣は越中一圓より成
り、舊金澤藩前田氏の領地にて、その一
部はこれが支族富山藩の領地なりき。明
治四年廢藩置縣の際、新川郡の一部、射
水・礪波兩郡の全部を領せる金澤藩は金
澤縣となり、富山藩に屬せし新川郡の一
部と婦負郡の全部は富山藩となる。同年
更に新川・婦負・礪波の三郡は新川縣、
射水郡は七尾縣に屬せしめられ、同五年
七尾縣廢せられ越中全部は新川縣の所管
となる。同九年更に新川縣を廢し石川縣
に併せられしも、同十年に至り全く石
川縣より分離して富山縣を置き以て今日
に及ぶ。

【富山市】富山縣の首都。中央北部の工
業都市。富山縣二市の一にして越中平野
（富山平野）の略中央部に位し、北・東・南
の三方は上新川郡、西は婦負郡と界す。
面積一三方軒餘、人口一三千餘人、密度
四・三六三人なり（昭和十年）。神通川は
南方より來り市の稍西部を北流し、市の
東部を貫流して西北に向ふ礪川を合せ富
川灣の東岩瀬港に注ぎ、神通大橋・富
山大橋に依りて兩岸を繋ぐ。市街は概し

て神通川の右岸南部、即ち縣廳・市役所
を中心として發達し、礪川の下流以北の
一帶にはなほ肥沃なる田畑拓く。本市は
地形上天然の資源に富み幾多の重要物産
を有するも曩日本特有の地理的影響によ
りて比較的發達遲滞せしが、近時省線
高山本線の開通あり、富山飛行場設置に
伴ふ定期航空路の開設を見、加ふるに對
岸滿洲國の獨立と共に東日本に於ける極
要なる地歩を占むるに至れり。更に富岩
運河の完成は東岩瀬港を外港として日滿
間の貿易發展に一轉機を劃し、豊富なる
水力電氣を動力とする諸産業の開發と相
俟ちて附近一帯は機業嶺に勃興して股販
を極め、今や北陸主要の工業都市として
重視せらる。殊に市の特殊工業として忘
るべからざるものに製薬業あり。その起
源は今より約二百五十年前の天和年間、
備前岡山の醫師萬代淨園、富山城主前田
正甫の製薬を好めるを聞き、此地に來り
て家傳の反魂丹を獻す。正甫その奇效を
賞し侍臣をして調製を傳習せしめ、藥種
商松井屋源右衛門に調製販賣せしめ、次
いで八重崎屋源六に命じて汎く諸國に販
賣せしめしに始る。爾來歲月と共に發展
し遂に現今の隆盛を見るに至れり。その
販賣方法は全く信用取引なり。先づ藥品
を配置し翌年に至りて前年使用分の代金
を受くる謂はゆる配置賣業にして富山獨
特の商習慣なり。明治維新後漸次に發展
し、同業組合を設置して營業上の改善を

圖り、信用組合を創立して金融上の利便
を講じ、賣藥試驗場を設置して内容包裝
の改善に力を致し、今や年産額一千萬圓
を突破するに至る。更に昭和三年國際製
藥會社の設立を見、臺灣・朝鮮に勿論印
度・南洋群島・滿洲・南米アマツル等に
その販路を擴張し一大特産となる。因み
に淨園翁の碑は梅澤町妙國寺（日蓮宗）境
内にあり、毎年五月五日の祭典には大に
賑ふ。賣藥に次ぐは絹織物にしてそのシ
ブオン・ジョセット及び内地向の紋織等は品
質優良、價額低廉なるため印度地方・南
洋方面・歐米各國に輸出され、年産百五
十萬圓に上る。また建具・指物等の木工
品は古來の特産なり。中にも欄間は元來
透彫欄間の製産地たりしも二十餘年前中
島五堂が糸鋸機械を以て透彫欄間及び木
象嵌を工夫して以來、欄間は殆ど糸鋸を
利用するに至り、従來の繪風は一轉して
圖案風となり技術巧妙、意匠圖案に新生
面を開拓しつつあり。製品の主なるもの
に和洋家具・堅木指物・箆筍等ありて今や
木材工業地として著るに至り、年産
約百萬圓に達す。漆器の起源は古く、今
を去る凡そ二百八十年前に始るといふ。
明治初年家具堅地産を創始して以來富山
漆器の前途に光明輝き、遂に現今の盛況
を示し年産額五十萬圓を越す。其他ラミ
ー糸・麻織物・菓子・玩具等相當見るべ
きものあり。名物土産品としては菓子に
月世界・茶音頭・しほかま・雄山銀蜜・

浮城等、其他註引・蒲葺・鮎・鮎の鮎、
鯉島鯉・蟲除・富山人形等あり。省線
北陸本線は西方高岡市方面より來りて市
の中部を東走し新富町に富山驛（明治三
十二年設置）を置く。驛を分岐點または
起點とするものに省線高山本線・社線富
山鐵道・同富山電氣・同富岩鐵道あり。
高山本線は市の西部を西南走して西富山
驛（昭和二年設置）を置き、富南鐵道は東
走して稻荷町驛を、富山電氣は富山田地
方驛・稻荷嶺驛を、富岩鐵道は北走し
て富山日驛・藥事校前驛・下奥井驛・奥
田中島驛を置く。社線越中鐵道は富山大
橋の西袂の新富山驛より起りて北走し富
山日驛を置く。この外市内には市營電
車・市營バス・省營バス縦横に走り縣下
交通の要地をなす。官衙・學校に歩兵第
三十五聯隊・富山陸軍病院・富山聯隊區
司令部・富山縣廳・富山醫學專門學校等
あり。本市は天文元年土豪水野越前守勝
重の城きし富山城を中心として發達せる
ものにて勝重の後城主屋々代りしが、文
祿四年前前田利家越中一圓を領すること
となり、慶長二年に至り前田利長守山よ
り移りて富山城に入る。同十四年火災に
遭ひて高田に遷る。寛永十七年前田利次
新川・婦負の地十萬石に分封せられ、再
び富山城を經營し、爾來世襲して明治維
新に至る。明治四年廢藩置縣の際新川縣
を魚津町に置きしが同六年縣廳を舊富山
城内に移す。同九年新川縣を廢し石川

縣に併せ其支廳を富山に設置す。同十六
年石川縣を割きて富山縣を置き、縣廳を
當地に置く。同二十二年富山附近の上新
川郡九箇村並に婦負郡内の二箇村を合せ
市制施行地と定めて富山市と稱す。同三
十四年上新川郡奥田村の内東田地方村の
一部を、同四十二年上新川郡大泉村・磯
部村・安野屋村・清水村・東田地方村・
西田地方村及び婦負郡御中村・愛宕村・
舟橋今町村・鶴島村・牛島村を、大正六
年婦負郡櫻谷村大字牛島・御中・愛宕・
駒見・四ツ屋を、同九年櫻谷村の全部を、
同十五年婦負郡東奥羽村を、昭和十年上
新川郡奥田村を、更に同十二年上新川郡
山室村の一部を、それぞれ本市に編入し
以て今の地域となる。（富山城）天文元
年越中の土豪水野越前守勝重（後に神保
越中守長職と改む）の初めて經營せしと
ころなり。同十四年神保越中守光氏富山
城に入り威を新川・婦負の兩郡に振ふ。
永祿元年以後、上杉謙信屋々富山城を攻
め終に之を取る。天正六年織田信長の將
齊藤新五富山城を取る。同七年信長、佐
佐成政を越中の守護職として富山城に移
らしむ。同八年秋霖雨のため、もと奥羽
山麓を流れし神通川の河身は東に轉じ富
山城後を流せしと云ふ。同十五年豊臣
秀吉成政を肥後國に封じその所領新川郡
は假に前田利家に管せしめしが、文祿四
年之を益封す。ここに於て越中一圓全く
前田氏の領となる。慶長二年前田利長守

トヤマ トヤマ

山より富山城に移る。同十四年富山城類焼し高岡に移城の止むなきに至る。これより久しく荒廢に歸せしが、寛永十七年前田利次婦・新川の采地十萬石に分封せらるるに及び更に城櫓を經營す。爾來子孫相繼ぎて舊木に至る。いま僅に舊本丸周圍の濠溝・曠野を存するのみ。〔白鳥城〕富山市の西北部白鳥峯にある城址。地は吳羽山の南方に當り山麓に白鳥宮ありより白鳥峯といひ、一に城山といふ。天正十三年八月豊臣秀吉、佐々成政征伐の時、安に本陣を置き富山城を睥睨す。成政その敵し難きを知り、遂に出でて降る。〔吳羽公園〕越中平野を二分する吳羽山の丘陵一圓を指す。高さ約七六米。この丘陵を界として東部を吳東、西部方面を吳西と俗稱す。山林公園にして眺望頗る雄大、東に立山・劍橋を主峯とする日本北アルプスの連嶺銀色に輝き、北は富山灣を隔てて雲烟繚繞の裡に能登半島を望み、近くは神通の清流を越えて富山市を脚下に一望、加ふるに北代の梅林、園内に標榜多く、東に五福の桃園ありて風景絶勝、北陸に冠たるものあり。附近また頗る史蹟名勝に富む。〔富岩運河〕神通川の東部舊神通廢川地約一八ヘクタールの埋立に要する土砂を掘鑿して運河を築き富山驛裏船漕より東岩瀬港に至る延長六軒に及ぶ。運河は落差のため中途の中島にメナマ運河の様式を探り入れし閉門を設く、閉門の上流は水面幅約六〇

米、下流は約四一米を有す。運河の兩岸は豊富にして低廉なる發電力と相俟ち工場地帯として開けつあり。〔磯部堤の櫻〕磯部堤に連る婉婉たる櫻樹は花期帯漫の影を神江に投げ市内唯一の花の名所として知られ、また四季を通じての好散策地たり。〔於保多神社〕柳町に鎮座。祭神、菅原道眞・前田利次。利次は前田利家の孫利常の子。その祖先は菅原道眞より出づ。道眞を祀りたるは甚だ古き事にて、慶長年中領主前田利長の尊崇厚く城下寺町に移し新たに社殿を造營す。利次を祀れる國玉社に前田利常の創むるところにして、明治六年この二社を合祀して現社に改む。例祭五月廿五日。當日祭禮あり。祭禮後、鶯の番籠により銀製の鶯を授くと云ふ。〔日枝神社〕山王町に鎮座。祭神、主祭神大山祇命。もと新川郡針原郷大野の地宮成村にありしが、建武二年桃井播磨守直常、宣旨を蒙りて北條時兼を討討せし時、當社敗走する時兼の兵饑に罹り、戰後同郡中野村白山社に移り、のち上杉の騷亂に再び神璽を奉じ所々に流轉し終に現在地に鎮座す。神保安齋守の富山に城を築くやその崇敬淺からず、また慶長二年前田利長の富山城に移るや社の寄進、社殿造營の事あり、再び往昔の盛況をなす。以來、前田家の産土神として代々信仰を享く。のち再三火災に遭ひ舊記を失ひその沿革

を詳かにせず。例祭、六月二日。〔愛宕神社〕藤井町に鎮座。祭神、火之迦具土命。古來當所の産土神たり。例祭六月二十四日。〔鹿島神社〕鹿島町に鎮座。祭神、武甕槌命。天保年中社殿古記焼失したるを以て由緒詳ならず。寛永十八年松原淡路守利次富山入城以來、歴代城主の崇敬厚かりし社。例祭、五月十二日。〔神明宮〕千石町に鎮座。祭神、天照大御神・豐受大神。社傳に據れば往古本國庄郡分地頃の勧請なりといふ。前田利長富山城に移封してより城南鎮護の神明宮と稱へ、爾來歴代城主の崇敬淺からざりき。例祭五月十一日。〔白山神社〕中野新町に鎮座。祭神、白山姫神。再三炎上せしを以て舊記を失ひ、いまその由緒を詳かにせず。例祭四月二十二日。〔永宗寺〕柳町にあり。眞宗大谷派。黒崎山と號す。もと眞言宗にして永宗院と稱し古梵阿彌梨の閉基に係る。文明五年惠如上人に歸依して現宗に轉す。本尊阿彌梨如來は惠心僧都の作。〔永福寺〕梅澤町にあり。眞宗大谷派。醫王山と號し俗に松寺と呼ぶ。延暦二年僧淨定、其師泰澄の遺志を繼ぎて當國彌波郡醫王山中に一字を創せしに始る。のち運轉これ中興し、三世顯宗の時國守前田利長より越中東方三百餘箇寺の總録所撰頭を定めらる。その後高岡に移り、次で延寶二年現寺地に轉す。〔海岸寺〕梅澤町にあり。曹洞宗。補陀山と號す。

を詳かにせず。例祭、六月二日。〔愛宕神社〕藤井町に鎮座。祭神、火之迦具土命。古來當所の産土神たり。例祭六月二十四日。〔鹿島神社〕鹿島町に鎮座。祭神、武甕槌命。天保年中社殿古記焼失したるを以て由緒詳ならず。寛永十八年松原淡路守利次富山入城以來、歴代城主の崇敬厚かりし社。例祭、五月十二日。〔神明宮〕千石町に鎮座。祭神、天照大御神・豐受大神。社傳に據れば往古本國庄郡分地頃の勧請なりといふ。前田利長富山城に移封してより城南鎮護の神明宮と稱へ、爾來歴代城主の崇敬淺からざりき。例祭五月十一日。〔白山神社〕中野新町に鎮座。祭神、白山姫神。再三炎上せしを以て舊記を失ひ、いまその由緒を詳かにせず。例祭四月二十二日。〔永宗寺〕柳町にあり。眞宗大谷派。黒崎山と號す。もと眞言宗にして永宗院と稱し古梵阿彌梨の閉基に係る。文明五年惠如上人に歸依して現宗に轉す。本尊阿彌梨如來は惠心僧都の作。〔永福寺〕梅澤町にあり。眞宗大谷派。醫王山と號し俗に松寺と呼ぶ。延暦二年僧淨定、其師泰澄の遺志を繼ぎて當國彌波郡醫王山中に一字を創せしに始る。のち運轉これ中興し、三世顯宗の時國守前田利長より越中東方三百餘箇寺の總録所撰頭を定めらる。その後高岡に移り、次で延寶二年現寺地に轉す。〔海岸寺〕梅澤町にあり。曹洞宗。補陀山と號す。

宗大谷派。前定山。越中三坊主の一。徳長院の閉基に係ると傳ふ。徳長院はもと藤原基經の男徳廣なり。本尊阿彌梨如來は行基作と傳ふ。〔極樂寺〕梅澤町元五番町にあり。淨土宗。安養山と號す。越中宮警て本國に配流され給ひし時、他阿自空上人に就きて得度せられ、中新川郡に一字を創立し給ひ文明年中現地に移る。藩侯松平出雲守の新願寺たり。〔勝善寺〕中島にあり。眞宗本願寺派。康暦年中土岐持親の族、幸淨なる者一字を草創せるを以て本寺の濫觴とす。その寂後廢滅せしが土岐教向此地に來りて再興す。〔眞興寺〕梅澤町にあり。眞言宗高野派。和銅五年泰澄法師の開創に係る。長保四年南都の眞興上人北國巡錫の時本寺を紹興す。元祿十五年藩主前田正甫新願所となし、堂宇及び寺地を寄す。〔清源寺〕南新町にあり。曹洞宗。慶安四年上新川郡立川寺妙悟和尚の開創に係る。文久三年炎上、舊記・什寶等悉く失ふ。〔尊琳寺〕辰巳町にあり。眞宗大谷派。安城山。永正元年僧教頓、領主神保氏の願により安舊住城内に一字を草創せるを以て當寺の濫觴とす。〔大法寺〕梅澤町にあり。日蓮宗。海秀山。慶長十一年日行の開創。中興を日徳とす。藩主前田正甫深く當寺に歸投し永世菩提所と定めて黒印百石を附す。當時日蓮宗各派總録並に領内各宗寺院首席たりき。〔長慶寺〕櫻谷にあり。曹洞宗。僧良辨の開創と傳へ、もと

眞言宗なりしが、のち現宗に改む。參詣に五百羅漢及び西國三十三觀音石像を置く。寺域一帶櫻樹多く、櫻谷八景あり。〔富山別院〕總曲輪にあり。眞宗本願寺派。もと豊川町にありて本山會所と稱する一庵堂なりしが、明治十三年現地に移して本山説教所となす。現に崇敬門末は當市並に縣下四郡に互り、寺院三百餘箇寺、信徒二萬五千人を有す。〔富山別院〕總曲輪にあり。眞宗大谷派。明治十二年宗主現如巡化の際説教所として創設。同二十三年火災に逢ひしも翌年再建成り、次で漸次諸堂整備。〔長岡廟所〕吳羽山の北端に當る長岡山にありて舊富山藩主前田家歴代の廟所たり。境内廣潤、累世の墳墓儼然として並列し、綠樹天に聳え幽遠閑雅の境たり。廟前に六百の燈籠羅列す。〔滿徳寺〕古殿治町にあり。眞宗本願寺派。寶海山と號す。寶徳年間の創建。文明年間運上人北越巡化の時、住職善密法印深くこれに歸し、寺を獻じて名を淨善と授く。本尊阿彌梨如來は聖徳太子の作と傳へ、寺寶として惠心僧都作不動明王畫像を藏す。〔明榮寺〕稻荷にあり。眞宗本願寺派。もと眞言宗の古刹。開基は教阿法印。延徳年中東長江村より砂坂に移りて本宗に改む。萬治年中富山城主松平利次寺地を富山に與へ、寺で城主松平正甫歸依して阿彌佛の畫像を本寺に寄附す。〔來迎寺〕梅澤町にあり。淨土宗。光明山。大寶二年僧慈興の開創

と傳ふ。慈興はもと北陸道將軍藤原佐伯有基の嫡男有賴なり。その後林海北國巡化の時淨土宗に改め、北國最初の念佛道場となる。〔蓮華寺〕梅澤町にあり。元享年中射水郡大門に創建。當時一大伽藍たりしが、のち兵・災火に罹り數轉したるが前田利家の歸依を得て現地に移るといふ。〔蓮照寺〕太田口町にあり。眞宗本願寺派。天正中堀秀政弟太郎左衛門某顯如上人に歸依し、のち前田利次の閉基にて本寺を創建す。〔富山市電車〕富山市内にあり。富山驛前より堀川新驛前に至る本線と、富山驛前より西町・雪見橋を経て驛前に還る環狀線、桃井町より吳羽公園に至る吳羽線より成る。〔富山平野〕富山縣(越中國)の中部以北を占むる平野。東は飛騨山脈、南は飛騨高原、西は大門山脈等によりて圍まれ、北は富山灣に面す。東西に長く、ほぼ弧狀をなす。面積約一二三〇平方軒。東より順次に黒部川・片貝川・早月川・白岩川・常願寺川・神通川・庄川(射水川)・小矢部川等南方飛騨高原より流下して富山灣に注ぎ、これら諸川の沖積によりて形成されし複合扇狀地なり。この平野の形成過程に於て數度の地盤上昇ありしことは各所に階段狀段丘の存在するによりて知ることを得。この平野はほぼ中央部なる富山市の西方に於て北方に突出する吳羽丘陵により吳東(富山)平野・吳西(磯部)

康永元年三上太郎兵衛平秀なる者、當地行脚の月庵瑠璃和尚に歸依し、一字を創立し、同和尚を請じて開山となす。〔願海寺〕清水町にあり。眞宗本願寺派。源海坊眞澄法師、宗祖大師より金泥十字の名號を授かりて弟子となり、當地に來りて一字を創せしに始る。寛文二年藩主前田氏より寺地を寄せらる。〔顯稱寺〕梅澤町にあり。眞宗本願寺派。大納言藤原實世の男、洞院少將藤原定世、緯如上人に歸依して本寺を開創す。寺寶として緯如上人筆見眞大師畫像を藏す。〔光嚴寺〕五番町にあり。曹洞宗。春日山。長祿年間越前國慈眼寺天叟の開創。當時寺領千石、末寺十八箇寺を有し寺運隆昌たりしがその後上杉氏の兵火に罹りて衰頹、天正年間に至りて領主前田氏の善提所と定められ寺領百石を受く。〔三重護國塔〕五番町光嚴寺境内にあり。所謂昭和維新の社會時に鑑み、正法顯彰・護國濟民の實を擧ぐる行として發願建立せられしものなり。我國上古より近代に至る文武百般各層に互る鎮護、殊勳者・功勞者の英靈を安祀しその徳風を後昆に傳へ、忠君愛國・報恩謝徳の道徳的標榜とし、日本精神の宗教的象徵とせるものにして、北陸唯一の三重塔なり。〔極成寺〕泉町にあらず。眞宗大谷派。前定山。越中三坊主の一。寛永年間極成寺の住持慶安隆徳し、その二男正賢をして一字を創せしめしに始る。〔極性寺〕藤井町にあり。眞

トヤマ トヤマ

西岸には石動渡山あり、東方には飛驒山脈の北端迫る。海岸の地帯は謂はゆる富山平野にて、庄川・神通川・常願寺川・早月川等流入し、東端には黒部川の扇状地突出す。海岸一帯はこれ等諸川のなす沖積層にして、砂嘴の發達によりて放生津等の潟湖あり。この平坦なる砂濱の前面海底は、僅なる浅海あるも忽ち急崖をなして二千米に達する深海に連る。深海がかく彎入して陸岸近くを迫るは、富山灣と對蹠的に位置する太平洋岸の相模灣・駿河灣に於ても見らるるところにて、大地溝の兩端に位置するものなり。また庄川・神通川・常願寺川等の吐口には海盆より連れる海渠の存するを見る。即ち近世に於てこれ等の河口地域の沈降を意味するものにて、最近に於て魚津附近の海岸地域に沈水森林の發見されし事實とよく合致す。海上には鱈・鯖・鮭・鱒・鰻・鰯等の漁獲物あり。また壺島賊は富山灣の名産なり。なほ魚津の海上には鱈氣樓の現ることは多くの人の知るところなり。

【富山電氣鐵道】 社線。富山市櫻町の電鐵富山驛(富山)より上新川郡・中新川郡を経て下新川郡三日市町の社線黒部鐵道の西三日市驛に至る三・七・二軒と中新川郡寺田町の寺田驛より五百石町の五百石驛に至る三・七軒及び五百石驛より立山村の社線富山縣營鐵道の岩崎寺驛に至る六・五軒より成る。電氣を動力とし、軌間一・〇六七米、省線と連帶運輸。上新川郡奥田村の稻荷町驛にて社線富南鐵道に、中新川郡滑川町の滑川驛にて省線北陸本線に、下新川郡魚津町の魚津驛にて北陸本線に接続す。

積地にして東三河に於ける第一の生産地とす。
【豊村】 岡山縣備前國邑久郡の西南部、吉井川下流の左岸に沿ひ、西は川を以て上道郡西大寺町、北は今城村、東は豊原村、南は太伯村と界す。面積僅に五・四九方軒。吉井川の沖積地にして、全村土地平坦、西南河岸にある荒蕪地の外はすべて耕地をなし、米・麥・蕎麥の産多、橋梁によりて連絡し交通便なり。太平記に見ゆる和備後守範長は隣村今城村の人とも、本村地字射越の人ともいふ。範長は兒島三郎高徳の親にて、一族に和田四郎範家・回五郎範氏・射越五郎左衛門尉範定・今太郎範秀・舎次郎範伸・大富太郎幸範等あり、何れも此邊の人なるべし。

割據の域たりしを、天皇これを征平し給ふ。後にこれ等の地方を總稱して豊國といふ。これを前・後・の二國に分ちしは恐らく大化改新の際ならん。豊前國・豊後國
トヨアキ 豊秋
【豊秋村】 群馬縣上野國群馬郡の東北部、澁川町の南、古巻村の北に隣り、東は利根川を隔てて勢多郡北橋村と相對す。地は東西に長く、面積一一方軒餘あり。樺名火山の東裾野に當り、大部分は緩き傾斜地をなし森林多、東部は利根川の河成平野にて田地・畑地をなす。米・麥を産し、又莖蘆盛に、製糸行はる。三國街道東部平野を貫してバスを通じ、社線東武鐵道の高崎線これに沿ひ、省線越線の澁川驛にも近く交通便利なり。此地古くは和名抄、群馬郡有馬郷の内とす。
【豊秋】 愛知縣寶飯郡にありし村。明治卅九年伊奈村と共に廢し小坂井村を置き小坂井村は大正十五年町制を布く。
【豊秋】 愛知縣丹羽郡にありし村。明治三十九年他の一町二箇村と共に廢し岩倉町を置く。
【豊秋村】 熊本縣肥後國上益城郡の西部、熊本市東南界より東南方約四軒。西は秋田河邊郡の西部、秋田市の南方約六軒。西と南は山形郡下濱村に隣接す。面積一六方軒餘。地物川下流の左岸に位し、東半はその氾濫原に屬する河岸低地、西半は西端にある國見山(一・二米)東面の丘陵地なり。米を主産す。豊岩石油鐵道あり、鐵道の下濱村に互る桂根石油鐵道と共に本邦重要石油鐵道の一にして、日本石油會社の經營に屬し山利鐵道と合併施設す。道路は村の東部を南北に通す。省線羽越本線新屋驛は西北隣新屋町の南部にありて交通不便ならず。安倍氏の子孫安東備中守義仁、この地の白壁山に磐を城き、子義賢・孫若見佐の三代を経て、その勢四隣を歴し、子孫繁榮せしが、永祿年中其裔備中守季林の代に豊島城主、豊島玄蕃の強襲に逢ひ城遂に陥り安東氏亡ぶ。

【北陸大島村】に近く交通便利なり。此邊も御船原といはる。いま陣村・小坂村と共に組合町村を成し本村に役場を置く。
トヨアキツシマ 豊秋津洲 ↓ 秋津洲
トヨアケ 豊明村 愛知縣尾張國愛知郡の南部。西北は鳴海町に、西南は知多郡有松・大府二町に、東南は境川によりて碧海郡富士松村に隣る。面積二二・五方軒餘。西北半部一帯は臺地状の低き丘陵、東南半部は極めて平坦なる沖積低地をなす。灌漑用の池塘多、米・麥等の農産豊に、また養蠶行はれて繭を出す。舊東海道西南部を西北より東南に走り之に沿ひて社線名古屋鐵道東部本線通じ、前後・阿野の二驛(大正十二年開業)ありて交通便なり。この地は和名抄、山田郡兩村郷の内。明治三十九年查掛村と共に廢し本村を置く。村内の明治天皇東阿野御小休所及び阿野一里塚・桶狭間古戰場傳説地附戰人塚はいづれも史蹟に指定さる。尙大字香懸は永祿三年桶狭間合戦の前、今川義元、此地に屯して兵を分ちて鷲津・丸根の二城を圍ましめし處。(桶狭間古戰場傳説地附戰人塚)指定史蹟。桶狭間古戰場傳説地は東海道の南丘陵に圍まれたる狭小なる地域にして永祿三年五月今川義元が織田信長の爲に滅ぼされたる處と傳へられ七石表・弔古碑・今川義元墓・松井宗信墓・桶狭間古戰場址のトヨア トヨウ

トヨアシ 豊草村 新潟縣越後國中頸郡の東南端。東は長野縣下水内郡飯山町・柳原村に、西は上水内郡信濃尻村に隣接す。南境に斑尾山(一三八二米)・袴岳(一三三二米)・方坂峠(九二五米)等聳え、東境に毛無山(六平米一〇二二米)あり、中部を荒川の上支上流川・方坂峠の東麓濕地より發源し北流するも谷深くして低地に乏し。されど水田は溪間を利

トヨアシハラ 豊原中國
トヨイ 豊井
トヨウケ 豊受村 群馬縣上野國佐波郡の東南部。利根川の北岸にて伊勢崎町の南方約四軒。南は川を隔てて埴玉郷兒玉郡仁手村と相對し、面積一〇方軒に近し。全村平地にて畑地多、養蠶を主要とし外に米・麥を産す。また小機業工場多伊勢崎路仙の産地として知らる。伊勢崎町及び東方境町に縣道を通じバス便あり。古くは和名抄、那波郡池田郷

トヨウケ 豊受村 群馬縣上野國佐波郡の東南部。利根川の北岸にて伊勢崎町の南方約四軒。南は川を隔てて埴玉郷兒玉郡仁手村と相對し、面積一〇方軒に近し。全村平地にて畑地多、養蠶を主要とし外に米・麥を産す。また小機業工場多伊勢崎路仙の産地として知らる。伊勢崎町及び東方境町に縣道を通じバス便あり。古くは和名抄、那波郡池田郷

トヨウ トヨウ

の地なるべし。(圓福寺)大字富塚にあり。臨濟宗圓覺寺派。金剛山と號す。弘長三年源賴朝の庶子なる實庵祖道和尚の開創に係る。境内に觀音堂あり。本堂如意輪觀音は大江教元の持佛にして、郡内三十四靈場第五番札所なり。詠歌「富塚は補陀洛山と思ふべし如意満足を人にあたへん」(延命寺)大字馬見塚にあり。新義真言宗豐山派。住吉山と號し、文明元年創建。開山弘法法印。本堂は延命地藏菩薩、脇立は聖觀世音にして共に行基菩薩の作なりといふ。(觀音寺)大字長沼にあり。新義真言宗豐山派。福壽山と號す。天正中兵火に罹りて久しく頽廢せしを慶安二年覺廣法印再建す。本堂は十一面觀音にして、坂東巡禮第四番札所なり。詠歌「世の中の苦海をまもる觀世音參る人には利生あるべし」

トヨウシ

【豐浦村】 北海道釧路支庁管下釧路國釧田郡の西部。東は虹田町・洞爺村に隣り、西は後志國壽都郡黒松内村・磯谷郡南尻別村、北と北東は後志國虻田郡狩太・眞狩別二村と界し、南は内浦灣の北岸に臨む。面積二七九方軒餘。北境中部に後志火山群の峰尾岳(一〇四五米)あり、西南境に金山(五〇一米)・札文嶺(五〇一〇米)の山地あり、東部には洞爺湖西

トヨウラ

【豐浦村】 北海道釧路支庁管下釧路國釧田郡の西部。東は虹田町・洞爺村に隣り、西は後志國壽都郡黒松内村・磯谷郡南尻別村、北と北東は後志國虻田郡狩太・眞狩別二村と界し、南は内浦灣の北岸に臨む。面積二七九方軒餘。北境中部に後志火山群の峰尾岳(一〇四五米)あり、西南境に金山(五〇一米)・札文嶺(五〇一〇米)の山地あり、東部には洞爺湖西

の地なるべし。(圓福寺)大字富塚にあり。臨濟宗圓覺寺派。金剛山と號す。弘長三年源賴朝の庶子なる實庵祖道和尚の開創に係る。境内に觀音堂あり。本堂如意輪觀音は大江教元の持佛にして、郡内三十四靈場第五番札所なり。詠歌「富塚は補陀洛山と思ふべし如意満足を人にあたへん」(延命寺)大字馬見塚にあり。新義真言宗豐山派。住吉山と號し、文明元年創建。開山弘法法印。本堂は延命地藏菩薩、脇立は聖觀世音にして共に行基菩薩の作なりといふ。(觀音寺)大字長沼にあり。新義真言宗豐山派。福壽山と號す。天正中兵火に罹りて久しく頽廢せしを慶安二年覺廣法印再建す。本堂は十一面觀音にして、坂東巡禮第四番札所なり。詠歌「世の中の苦海をまもる觀世音參る人には利生あるべし」

トヨウ

【豐浦村】 北海道釧路支庁管下釧路國釧田郡の西部。東は虹田町・洞爺村に隣り、西は後志國壽都郡黒松内村・磯谷郡南尻別村、北と北東は後志國虻田郡狩太・眞狩別二村と界し、南は内浦灣の北岸に臨む。面積二七九方軒餘。北境中部に後志火山群の峰尾岳(一〇四五米)あり、西南境に金山(五〇一米)・札文嶺(五〇一〇米)の山地あり、東部には洞爺湖西

トヨウ

【豐浦村】 北海道釧路支庁管下釧路國釧田郡の西部。東は虹田町・洞爺村に隣り、西は後志國壽都郡黒松内村・磯谷郡南尻別村、北と北東は後志國虻田郡狩太・眞狩別二村と界し、南は内浦灣の北岸に臨む。面積二七九方軒餘。北境中部に後志火山群の峰尾岳(一〇四五米)あり、西南境に金山(五〇一米)・札文嶺(五〇一〇米)の山地あり、東部には洞爺湖西

トヨウ

【豐浦村】 北海道釧路支庁管下釧路國釧田郡の西部。東は虹田町・洞爺村に隣り、西は後志國壽都郡黒松内村・磯谷郡南尻別村、北と北東は後志國虻田郡狩太・眞狩別二村と界し、南は内浦灣の北岸に臨む。面積二七九方軒餘。北境中部に後志火山群の峰尾岳(一〇四五米)あり、西南境に金山(五〇一米)・札文嶺(五〇一〇米)の山地あり、東部には洞爺湖西

トヨウ

【豐浦村】 北海道釧路支庁管下釧路國釧田郡の西部。東は虹田町・洞爺村に隣り、西は後志國壽都郡黒松内村・磯谷郡南尻別村、北と北東は後志國虻田郡狩太・眞狩別二村と界し、南は内浦灣の北岸に臨む。面積二七九方軒餘。北境中部に後志火山群の峰尾岳(一〇四五米)あり、西南境に金山(五〇一米)・札文嶺(五〇一〇米)の山地あり、東部には洞爺湖西

トヨウ

【豐浦村】 北海道釧路支庁管下釧路國釧田郡の西部。東は虹田町・洞爺村に隣り、西は後志國壽都郡黒松内村・磯谷郡南尻別村、北と北東は後志國虻田郡狩太・眞狩別二村と界し、南は内浦灣の北岸に臨む。面積二七九方軒餘。北境中部に後志火山群の峰尾岳(一〇四五米)あり、西南境に金山(五〇一米)・札文嶺(五〇一〇米)の山地あり、東部には洞爺湖西

トヨウ

【豐浦村】 北海道釧路支庁管下釧路國釧田郡の西部。東は虹田町・洞爺村に隣り、西は後志國壽都郡黒松内村・磯谷郡南尻別村、北と北東は後志國虻田郡狩太・眞狩別二村と界し、南は内浦灣の北岸に臨む。面積二七九方軒餘。北境中部に後志火山群の峰尾岳(一〇四五米)あり、西南境に金山(五〇一米)・札文嶺(五〇一〇米)の山地あり、東部には洞爺湖西

トヨウ

【豐浦村】 北海道釧路支庁管下釧路國釧田郡の西部。東は虹田町・洞爺村に隣り、西は後志國壽都郡黒松内村・磯谷郡南尻別村、北と北東は後志國虻田郡狩太・眞狩別二村と界し、南は内浦灣の北岸に臨む。面積二七九方軒餘。北境中部に後志火山群の峰尾岳(一〇四五米)あり、西南境に金山(五〇一米)・札文嶺(五〇一〇米)の山地あり、東部には洞爺湖西

【豐浦村】 北海道釧路支庁管下釧路國釧田郡の西部。東は虹田町・洞爺村に隣り、西は後志國壽都郡黒松内村・磯谷郡南尻別村、北と北東は後志國虻田郡狩太・眞狩別二村と界し、南は内浦灣の北岸に臨む。面積二七九方軒餘。北境中部に後志火山群の峰尾岳(一〇四五米)あり、西南境に金山(五〇一米)・札文嶺(五〇一〇米)の山地あり、東部には洞爺湖西

トヨオカ

【豐浦村】 北海道釧路支庁管下釧路國釧田郡の西部。東は虹田町・洞爺村に隣り、西は後志國壽都郡黒松内村・磯谷郡南尻別村、北と北東は後志國虻田郡狩太・眞狩別二村と界し、南は内浦灣の北岸に臨む。面積二七九方軒餘。北境中部に後志火山群の峰尾岳(一〇四五米)あり、西南境に金山(五〇一米)・札文嶺(五〇一〇米)の山地あり、東部には洞爺湖西

トヨオカ

【豐浦村】 北海道釧路支庁管下釧路國釧田郡の西部。東は虹田町・洞爺村に隣り、西は後志國壽都郡黒松内村・磯谷郡南尻別村、北と北東は後志國虻田郡狩太・眞狩別二村と界し、南は内浦灣の北岸に臨む。面積二七九方軒餘。北境中部に後志火山群の峰尾岳(一〇四五米)あり、西南境に金山(五〇一米)・札文嶺(五〇一〇米)の山地あり、東部には洞爺湖西

トヨオカ

【豐浦村】 北海道釧路支庁管下釧路國釧田郡の西部。東は虹田町・洞爺村に隣り、西は後志國壽都郡黒松内村・磯谷郡南尻別村、北と北東は後志國虻田郡狩太・眞狩別二村と界し、南は内浦灣の北岸に臨む。面積二七九方軒餘。北境中部に後志火山群の峰尾岳(一〇四五米)あり、西南境に金山(五〇一米)・札文嶺(五〇一〇米)の山地あり、東部には洞爺湖西

トヨオカ

トヨオカ

【豐浦村】 北海道釧路支庁管下釧路國釧田郡の西部。東は虹田町・洞爺村に隣り、西は後志國壽都郡黒松内村・磯谷郡南尻別村、北と北東は後志國虻田郡狩太・眞狩別二村と界し、南は内浦灣の北岸に臨む。面積二七九方軒餘。北境中部に後志火山群の峰尾岳(一〇四五米)あり、西南境に金山(五〇一米)・札文嶺(五〇一〇米)の山地あり、東部には洞爺湖西

【豐浦村】 北海道釧路支庁管下釧路國釧田郡の西部。東は虹田町・洞爺村に隣り、西は後志國壽都郡黒松内村・磯谷郡南尻別村、北と北東は後志國虻田郡狩太・眞狩別二村と界し、南は内浦灣の北岸に臨む。面積二七九方軒餘。北境中部に後志火山群の峰尾岳(一〇四五米)あり、西南境に金山(五〇一米)・札文嶺(五〇一〇米)の山地あり、東部には洞爺湖西

【豐浦村】 北海道釧路支庁管下釧路國釧田郡の西部。東は虹田町・洞爺村に隣り、西は後志國壽都郡黒松内村・磯谷郡南尻別村、北と北東は後志國虻田郡狩太・眞狩別二村と界し、南は内浦灣の北岸に臨む。面積二七九方軒餘。北境中部に後志火山群の峰尾岳(一〇四五米)あり、西南境に金山(五〇一米)・札文嶺(五〇一〇米)の山地あり、東部には洞爺湖西

東と南は高崎市に隣り、北は群馬郡六郷村と界す。南境を碓氷川、東北境を鳥川流れて三角形をなし面積僅に四方軒餘の小村なるも全村平地、田畑よく拓げ米・蕎麦を産し養蠶も盛なり。またセロファン紙製造・製絲・絹織工業も行はれ人口稠密なり。中山道中部を横ぎり、また鳥川谷への縣道これより岐れいづれもバスを通じ、高崎市に隣接して交通便なり。大字上豊岡なる八幡村に近き中山道に一里塚あり。慶長九年徳川幕府が諸街道を修し三十六町毎に一里塚を築きし際の名残にして、もと街道を挟みて兩側に築かれしものなるも、多くは破壊の厄に遭ひて全く湮滅に歸せるが、この一里塚は南側にあるもの舊態の儘残され、その頂上には復の一老樹残存す。〔藥王寺〕大字下豊岡にあり。天台宗。青眼山東光院と號す。防村新右衛門の開基。本尊に釋迦如來を安す。境内に村上彦四郎・同義清を初め二十餘基の古石塔あり。

【豊岡町】埼玉縣武蔵國入間郡の南部。東北は入間川町に、西南は東金子村に隣り、北は入間川を挟みて水富村に對す。面積七・五方軒。武蔵野臺地の一部を占め、概ね平坦なるも東方に緩傾斜し畑地・林野多く一部は田地をなし米・蕎麦を産し、絹・綿織物の製絲業も盛に。狭山茶の中心市場にて製茶も盛に、また製絲工業行はる、川越・八王子間の縣道は南北に通じてバスの便あり、東南方所澤町・西

方飯能町へも縣道あり。また社線武蔵野鐵道の豊岡町驛(大正四年開業)及び黒須貨物驛(大正六年開業)ありて交通便利なり。大字の扇町屋は江戸時代の初めには寒村なりしが、八王子・日光街道設けられ、千人同心の往來繁くなり、傳馬の繼立場となり、繁華の宿驛となれり。明治十六年、明治天皇飯能行幸の際、この地に御小休あらせらる。またこの地に十三塚と稱する塚あり、新田義興主従十三人の首級を埋めたる所と傳ふ。

【豊岡村】埼玉縣上總國山武郡の東北部。江戸川の西岸にて杉戸町の東方約六軒。東は川を隔てて千葉縣東葛飾郡關宿町・二川村と相對す。面積僅に四・五方軒の小村なり。全村平地にて畑地多く、米・蕎麦を産す。粕壁・關宿間の縣道に近く交通不便ならず。人口は大正九年一七三四人なりしも同十四年一六四六人、昭和五年一六三〇人、同十年一五七二人と逐年減少す。されど同十年の一方軒密度はなほ三五〇人にして全國平均の一八一人に比して多し。この地はもと附近の數箇村と共に中葛飾郡と稱して下總に屬せしが明治二十九年北葛飾郡に入る。

三十九年他の一町二箇村と共に廢し新に蒲郡町を置く。

【豊岡(縣)】明治四年十一月二日、前に但馬豊岡藩の後に置きし豊岡縣を初め丹波に於ける舞鶴・宮津・峯山・久美濱、丹波に於ける福知山・篠山・柏原、但馬の出石・村岡・生野の十一縣を廢して置きし縣名。丹波及び但馬二國と丹波の三郡とを管す。九年八月廢して但馬及び丹波國の水上・多紀二郡は兵庫郡に、その他は京都府に屬せしむ。

【豊岡町】兵庫縣但馬國城崎郡の東部。圓山川(朝來川)下流の左岸に沿ひ、東は川を隔てて新田村・中筋村に對し、西は五莊村に接す。面積五・五方軒。南西部に南隣國府村の北境よりつづつ小丘陵ある外は圓山川流域平野の西北部に當り概ね平坦なり。米・蕎麦を産し、柳行李の特産あり。杉原氏三萬石、京極氏一萬五千石の舊城下にして市街は川に沿ひて發達し、丹波街道・丹後街道・因幡濱街道の連結點をなし、省線山陰本線豊岡驛(西隣五莊村地内)に近く交通上の一要點を占め地方的商業の中心地をなす。全町の約七割は大正十四年五月城崎地震に焦土と化し復興と共に舊觀を留めぬに至りしが、南部に於てはなほ往時の街村的繁華の形式を窺ふに足るものあり。當時豊岡町の總戸數は二千七百七十八戸ありしが、全潰家屋は二百十三戸、半潰家屋は二百四十戸、焼失家屋は千戸にのぼり、

【豊岡町】大分縣豊後國直入郡の東部。大野川上流に跨り竹田町及びその西の玉來町の北に接し全村丘陵起伏す。南部は大野川の上流東流しその沿岸と、北部には田・畑よく拓げ米・蕎麦を産し山地よりは薪炭を出す。大字會々に省線豊肥本線豊後竹田驛(大正十三年設置)あり、それより北は湯原(長湯村)、西北は久住町及び白丹村に至るバス路線ありて交通便なり。古くは和名抄、直入郡直入郷の内な

を誠す。御詠歌「おもくともつみにはのり
の勝尾寺佛を頼む身こそやすけれ」

【豊川村】 鳥根石見國美濃郡の中部。益田町の東に隣り、南は匹見川を隔てて鹿尾郡日原村と相對す。高度二百乃至五百米の丘陵性山地ありて村内殆ど山地をなし、南境を高津川の一上支匹見川西流するも沿岸は低地に乏しく、北部を西北に流るる益田川の沿岸に僅に低地ありて耕地開け米・蕎麦を産し、また木材・薪炭を出す。街道は益田川沿ひに走り益田町にバス通ず。

【豊川村】 熊本縣肥後國下益城郡の西南部。八代灣の東北隅に臨み、松橋町の南に隣り、南は八代郡和鹿島村に接す。村内土地平坦、砂川は南部を西北に流れ、中部にも小川あるも灌溉の便よろしからず。八代灣に臨む諸町村は概ね水田耕作をなすも木村は畑地多く特異の景觀を呈す。省線鹿児島本線は東北部を横ぎり、街道は中部を南北に走り松橋町にバスを通す。

【豊川村】 大分縣豊前國宇佐郡の中部。縣館川に跨り西北は四日市町に接し、東部に近く宇佐町あり。西南境に石山(五四〇米)聳えて山脚西境を北に延び、東南部には和尙山(三二七米)あり。縣館川は南隣兩川村より來りて中央を北に貫流し、村の中部以北は豊前平野の東南部に當り土地低平にして田畑よく拓く。米・蕎麦を産し、副業に養蠶行はれて繭を出す。

【豊國村】 岡山縣美作國勝田郡の東部。西は勝間田町に、北は吉野村に接し、東は吉野川の支流梶並川を以て英田郡楡原村と界す。面積一・五八方軒。西北部はやや高きもその他は概ね平坦にして、南部の梶並川沿ひと中部南北には耕地よく拓け、その中間に臺地狀にして林野多し。出雲街道中心を東西に貫きてバスを通じ、省線新線勝間田驛にも近く交通不便ならず。米・麥・蕎麦・果實の産あり。(三星城) 大字明見に城址あり。平安時代の末期、土豪後藤長寛の築けるもの。延元四年後藤康基の時山名時氏に攻められて降り、爾後世襲せしが、天正年間宇喜多秀家に滅されて城廢す。(豊國神社) 大字北山に鎮座。郷社。祭神、高於迦美神・關添加美神・水分神。往古は大字豊國原に鎮座し郷中の總鎮守たりしが、正和年中霖雨のため社殿流失せしにより現地に遷座あり、近郷の諸武將の崇敬厚く社領百石を有せり。例祭、十一月三日。

【豊國】 美作國(岡山縣)の古地名。和名抄に勝田縣豐國郷あり、その地今の勝田郡豐國村の地に當る。

【豊國】 大隅國(鹿児島縣)の古地名。和名抄に桑原郡豐國郷あり、その地今詳な

大分街道北境を横ぎり、中央には南北に貫く道路もありて各バスを通じ、また社線豊州鐵道線四日市町より南下して新豊川驛(大正三年開業)・拜田驛(大正四年開業)を設け、交通便利なり。古くは和名抄、宇佐郡垣田郷の地なるべし。大字拜田花立池畔に神武天皇の古蹟一柱鷹宮あり。

トヨキ 豐木村 岐阜縣美濃國掛妻郡の東南部。南は大野町に接し、掛妻町を距ること東方約四軒。面積約六方軒の小村なるも西濃平野の北端部に當り、北部に高さ三〇〇米内外の山地ある外は概ね平坦にして西南部には田、東南部には畑地よく拓げ米・蕎麦を産し、また柿の特産もあり。養蠶業も頗る盛ん。また柿の特産谷波鐵道東南部を掠めて豊木驛(大正十五年開業)を設く。縣道また之に並行して南北に通じバスの便あり。この地は和名抄、大野郡明見郷の内か。慶長年中より寛永九年まで織田長期一萬石の領地なりしが、元禄元年、大垣城主戸田家の支封となりて陣屋を置かれ明治維新に至る。村内に野村藩の典藥寮、濟美館を改めしものありき。文久三年戸田氏良の創立せるものなり。

トヨキタ 豐北村 樺太豊榮支廳豊原郡の東部。豊原市の北に隣り、北は榮原郡落合町に、東は同榮濱村に接す。西部には樺太山脈の南麓なる三百乃至四百米の山地あり、多雲寒風(六一米)有るも始良郡那珂町の邊か。

トヨクラ 豐塚村 滋賀縣近江國愛知郡の西南部。西南神崎郡八日市町との間に同郡御園・建部二村を隔つ。近江盆地の湖東平野の中部にあり。東南部はやや高き丘陵狀をなすも他は一畝水田をなし、西南境を愛知川北西に流る。米・蕎麦を産し、外に茶種・蔬菜類を出し特産物に牛蒡・西瓜あり。街道は中部を走り交通不便ならず。人口は大正九年三〇七五人、同十四年二九六八人、昭和五年二九一二人、同十年二八七五人と逐年減少するも、昭和十年の一方軒密度は四三八八にて全國平均の一八一一人に比し蓋かに多く、人口稠密地域たり。

トヨコロ 豐塚村 北海道十勝支廳十勝國中川郡の東南部。十勝川下流の沿岸、帯廣市の東南方にて池田町の南に隣り、東と南は十勝郡と界す。面積三五四方軒。北部より東南には十勝川氾濫原の大濕地あり、西南半部は概ね牛蒡・マツノ川流域の丘陵性山地にて川筋に幅狭き低地あり。馬・蔬菜・米・馬鈴薯・大豆・木材を産す。省線根室本線十勝川氾濫原と東北丘陵の界に通じ十勝・豊頃の二驛(前者は明治四十四年、後者は同三十七年設置)を置く。道路は氾濫原の西南側に通じ大津村行のバス通ず。本村は十勝川舟楫の便ありしを以て比較的和人の居住古く、明治二十五年越中國體二十名下牛首別に移住し、また同三十一年

え、東部には鈴谷山脈の脊稜南北に走りて鈴谷嶽(一〇四六米)・亞南嶽(九五四米)を起す。西部山地の西隣川上村に發する鈴谷川は中部大字小沼より南に流路を變じ、支流晴氣川は東部山地に發しその山麓を縫うて南流す。内淵川の一支出多古川は多古嶽及及び中部の小沼平原より發源して北流す。この鈴谷川・多古川流域は所謂南中央低地帯に當り、主として粘土・砂礫より成り泥炭層は甚だ薄し。かく中部は土地低平なるも、中央大字小沼附近はやや高く平原狀をなし、鈴谷・多古川兩川の分水嶺をなす。中央の低地帯は土地豊饒にして農牧に適し、良好なる所は既に開墾され、大字小沼には應立中央試驗所ありて農畜産・林産・水産等の研究を行ひ、樺太に於ける産業の核心地をなす。なほ近年急激に養蠶業發達す。特産に白樟細工・蔦漬・山女漬等あり。鐵道東海岸線は中部の鈴谷山脈の麓を縫うて南北に通じ、南小沼驛(昭地十一年設置)・草野驛・小沼驛・富岡驛・深雪驛(以上明治四十四年設置)を置き、小沼驛より川上線を分ち川上驛・奥川上驛(共に大正三年設置)を置き、更に豊眞嶽は西南部を走り鈴谷驛(大正十四年設置)及び奥鈴谷驛(昭和三年設置)を置く。なほ豊原市に接し交通便利なり。此地は明治三十九年六月大畑一家の移住に始るといふ。鈴谷川の上流域に川上嶽あり。また小沼平原には露國人の丸太小屋等あり、この平原の夕陽の美觀は夙に知られ樺太十景中の第一と云はる。(川上鐵泉) 鈴谷川の上流域にあり。アルカリ性食鹽泉、加熱浴用。療養向として知らる。川の對岸に川上線の川上温泉驛ありて交通便利なり。

トヨサカ 豊坂村 愛知縣三河國幡豆郡の東部。岡崎市の南約二・五軒。東は額田郡福岡町・幸田村に接し、南方は美濃との間に幡豆町を挟み、西南境には茶臼山(二一九一)・西北境には萬燈山あり、城内概ね一〇〇・二〇〇米の丘陵性山地連なり、東部には低濕地ありて水田となる。米・麥・蕎麦を産する外に穀物を出す。縣道平坂街道は中部をほぼ東西に走りバスを通す。この地は夏目吉信二郎右衛門の營のありし處。明治三十九年松坂村・豊國村を廢し本村を置く。(蘇美天神社) 大字須美に鎮座。郷社。祭神建速須佐之男命。天武天皇御宇の勳請といひ、江戸時代末印領二石を有せり。古來附近五箇村の産土神たり。例祭、十月十日。(専光寺) 大字野場にあり。眞宗本願寺派。親鸞の弟子専慧の開創に係る。専慧は初め加藤左衛門重と稱し世々源氏に縁を繋げしが、その父及び將軍頼家の冥福を祈りて僧となる。

トヨサカ 豊菜村 千葉縣下總國匝瑺郡の西部。東は八日市町に隣り、西北は香取郡日吉村・吉田村と界す。面積八方軒に近く、中・北部は低地・臺地に森林あり。その中間と南部には低地あり田畑・畑拓く。米・蕎麦を産し、養蠶行はる。縣道南

トヨクニ 豊國 遠江國(靜岡縣)の古地名。和名抄、磐田郡豐國郷あり、その地今の磐田郡見付町・中泉町の邊なるべし。

トヨクニ 豊國 愛知縣幡豆郡にありし村。明治三十九年他の一箇村と共に廢し豊坂村を置く。

トヨクニ 豊國 愛知縣丹羽郡にありし村。明治三十九年他の三箇村と共に廢し扶桑村を置く。

トヨクニ 豊國 滋賀縣近江國愛知郡の西部。愛知川右岸に位し、西北は愛知川町に接し、西は川を隔てて神崎郡北五箇莊村と界す。面積四・七方軒に過ぎざるも湖東平野の中央部に位し土地低平にて水利よく米・麥・綠肥用作物・桑葉・菜種・茶等の農産物を出す。社線近江鐵道の愛知川驛(愛知川町)・五箇莊驛(北五箇莊村)にも近し。もと當地一箇を大國庄と稱したれば、氏神豊滿神の豐と庄名國とを採りて豊國村となす。(豊滿神社) 大字豊滿に鎮座。郷社。祭神、足仲彦命・息長足姬命・磐田別命。舊高野郡豐滿國に鎮座ありしを、安和二年、勳成によりて現地に遷座あり、歴代朝廷の聖地として

部を横ぎり社線成田鐵道は中部をほぼ南北に走り大字飯倉に豐菜驛(大正十五年開業)を設け、また省線徳武本線八日市場驛にも近く交通便なり。この地は和名抄、匝瑺郡石室郷の内にして、大字飯倉は千葉系國にある飯倉七郎胤貞の居りし處か。

トヨサカ 豊菜村 千葉縣上總國長生郡の西部。茂原町の西南境にて南は鹿野町に接す。面積一〇方軒餘。西南境より中部にかけては丘陵地ありて森林をなし、東南境と北部には平地ありて田畑よく拓く。米を第一に麥・蕎麦を産し、養蠶行はる。茂原・鹿野間の縣道に當りバスを通じ、省線房總東線茂原驛に起り社線南總鐵道これと略並行して須田・米満・豊菜・千田の四驛(米満は昭和七年、其他は同五年開業)を設け交通便なり。此地は和名抄、長柄郡車持郷の内にして中古長南莊に屬す。大字千田は桓武平氏、千葉氏の族、この地に千田氏を稱す。(稱念寺) 大字千田にあり。淨土宗。唐笠山。下總國生實大巖寺末。徳治二年遊行第二世他阿眞教の開創に係る。中興雄譽靈巖の時より現宗を奉じ、明治十五年大本寺格檀林に準ぜらる。

二九米)堀切山(一一五七米)の西南斜面にして余村殆ど山地をなす。ただ西南部の谷地とその斜面に耕地ありて養蠶業を主とし、米・麦をも出す。松代町より上田市に出づる道路此谷を通するも交通未だ便ならず。此地は和名抄、埴科郡大穴郷の内。東鑑・文治二年の條に大穴庄、元左大辨師能領とあるは此地なり。(明徳寺)曹洞宗。龍潭山と號す。明徳元年創建。開山は越後國刈羽郡赤田村東福院五世妙徳和尚なり。のち類廢せしを正續圓明禪師再興す。爾後海津城主高坂氏、領主大久保長安等の崇敬厚く、堂宇を修營し寺領を寄せらる。

【豊盛】愛知縣東加茂郡にありし村。明治三十九年大字岩谷・下平を盛岡村に、他の十九大字を松平村に編入す。

【豊榮村】京都府丹後國竹野郡の中部。與謝半島の北部に位し、北は間入町・竹野村を隔てて日本海に近く、東南は與謝郡の西部に接す。山地四週を環り中央に竹野川北流して沿岸に狭き低地開く。田畑よく折け米・麥・蕎を産し、外に園藝及び食用農産あり。また醸造物・蠶糸・瓦及び竹材・畜産を出す。中央を南北に貫く縣道は間入町へ出てバスを通ず。大正十四年八木村・徳光村を合併して置けるものなり。

トヨサキ 豊崎・豊岩

【豊崎村】青森縣陸奥國三戸郡の東北部。五戸町の東南に隣り、八戸市の西方約一

〇軒にあり。土地東西に稍長く面積約一六方軒。三本木臺地の南部に位し、北部及び南部は一帶に臺地をなして原野廣く、淺水川は西より中部を東流し沿岸の幅狭き低地には耕地拓く。稗・大豆・米・馬鈴薯・林檎を産し、牧馬行はる。道路淺水川低地と北の臺地との界を東西に通じて東隣上長苗代村の省線東北本線尻内驛と西隣淺田村を貫く陸羽街道を繋ぎバスの便あり。また尻内驛に發する社線五戸鐵道これに並行し、七崎驛・志戸岸驛(共に昭和四年開業)あり。町村制施行の時、豊間内と七崎を合して本村を置く。明治十四年八月廿五日、明治天皇、山形・秋田及び北海道行幸の際、此地に御小休あらせらる。(七崎神社)大字七崎に鎮座。郷社。祭神伊弉冉命。社傳によれば承和年中南部四條中納言藤原諸兄公雲夢に依り創建鎮祭すといふ。明暦年中に至り領主南部直崇崇敬厚く、本社並に十二末社を再建して社領五百石餘を寄す。例祭、九月七日。

【豊盛】大阪府西成郡にありし町。大正十四年大阪市東淀川區に入る。

【豊崎村】大分縣豊後國東國東郡の中部。兩子山東南の放射谷を占め、東は國東町に接す。面積一九・七方軒餘。南北兩境は放射谷を限る山稜にして北境上には大岳山(五六一米)あり、中部には狭長の谷地ありて田深川東流し沿岸に田畑よく拓く。米・麥を産し、山地よりは蕎麥を出

す。中央には東西に走る縣道あるも交通なほ便ならず。往昔は田原下野守正晴これを領し、江戸時代末には村松平氏の封内たり。(泉福寺)大字横手にあり。曹洞宗。妙徳山。永和三年三月無著和尚の建立。天正九年大友義興の兵火にかかり慶長十年領主細川越中守忠興再興す。(泉福寺開山堂無著和尚墓塔)國寶。泉福寺境内、覆堂の内に入り。柱拳端・臺輪・斗拱・太瓶束・虹梁及び扉等何れも唐様の形式より成り、手法よく室町初期の特色を示せり。内部壇上中央に開山無著和尚、左に二世明徹鏡眼和尚、右に道元禪師の像を安置し、壇下に開山の石造墓塔あり、墓塔は基臺上の蓮座に安置せられたる低き無蓋塔形のものなり。堂の前面入口上に「可中」の額を掲げ、其背面に應永元年甲戌八月此堂建立の刻銘あり。

【豊崎村】長崎縣對馬國下島上縣郡の北端。西は佐須奈村、南は琴村に接し、北面及び東面は海に臨む。村内概ね山地にて低地乏し。海岸はリヤス式を呈して屈曲多く、東岸には北より泉濱・西泊灣・津和浦・舟志灣等の灣入りて其間に幾多の岬角突出し、小島また數多散置し、北部海老島には海軍架橋あり。その北方海上に浮ぶ三島には明暗白光、光達距離一三哩の燈臺の設備あり。農牧共に振はす。村民多く漁撈をなす。佐須奈港に近く此より定期汽船あり。附近一帶は要地帯なり。古くは和名抄、上縣郡向日

【豊里村】山形縣羽前國最上郡の略中央部。東南の一部は新庄町の北境に隣る。面積約二〇方軒。南部には高さ二〇〇米臺の丘陵地あるも東部と西部は平坦にして東部は原野、西部は水田折け米・蕎・麥を産す。縣道と省線奥羽本線中部を東西に並走し、後者は西北部右名坂に羽前豊里驛(大正十年設置)を置く。この地は姓延氏の領地たりしことあり。(愛宕神社)大字京塚に鎮座。郷社。祭神、迦具土命・大山守命。古來當村の産土神として崇敬せらる。例祭、七月十七日。(顯行寺)大字京塚にあり。眞宗大谷派。雲澤山と號す。長州浪士森將監、眞宗に歸依し蓬髮して顯行坊と稱し當郡桐岡に草庵を結び、のち新庄町に移りて寺號を許さる。其後戸澤氏築造の際現地に移す。

【豊里村】福島縣磐城國東白川郡の南端。南は茨城縣久慈郡北部と界し、西は久慈川を隔てて高城村に隣接す。面積六九方軒餘。阿武隈山地の南西部に當り、東半は五百乃至六百米内外の高原をなし、西半はやや低夷して久慈川谷に下り、全村概ね山林に蔽はる。西北境河岸の久慈川の氾濫原と、南部に發し西北流してこれに合する小流の谷に狭長の小低地ありて耕地拓く。物産に米・蕎・麥・薪炭あり、牧馬も行はる。茨城街道は西北より南方に通じてバスの便あり、また省線水郡線西北を走り東館驛(昭和五年設置)あり、近時交通の便大いに開く。この地は和名

抄、白河郡高野郷の内。大字東館は白川結城氏の臣斑目十郎廣基の子能登守居城せし所。大字大井は大井口と稱せられ、白河・棚倉より太田・水戸への道路とせり。これを南關とも稱す。戦國時代に、此山中に櫓門を置かれしものか。

【豊里村】千葉縣下總國香取郡の東南端。利根川下流の西岸に沿ひ、南は海上郡椎柴村と隣り、東北は川を隔てて茨城縣鹿島郡の南端と相對す。銚子市の西北界へ約七軒、小見川町へは西北約一二軒を距つ。面積一三方軒餘。大部分臺地性丘陵地に於て森林多く、所々に畑地を交へ、利根川沿ひには狭長の低地ありて水田をなす。米を主とし、他に麥・蕎を産し養蠶も行はる。利根川對岸へは渡船の便あり。銚子街道を通じてバスの便あり、また省線成田線の下總豊里驛(昭和八年設置)設けらる。

【豊里村】長野縣信濃國小縣郡の路中央部。上田市の東方約三軒、この間に神科村を隔て、南は千曲川との間に幅狭き神川村を挟む。面積五・八八方軒の小村。火山湯ノ丸山の西麓なる烏帽子岳(二〇六六米)の西南斜面の末端部を占め、土地東北より西南へ緩く傾斜す。西境には神川流れ、村の西半部には田地多く、東部には桑園廣く拓く。蕎・麥・蕎麥の産あり。縣道四通し、西方上田市へはバスの便あり、また省線信越本線大屋驛(神川村内)に近く交通便なり。この地は和

名抄、小縣郡山家郷の内なり。

【豊里】大阪府西成郡にありし村。大正十四年大阪市東淀川區に入る。

トヨサト 豊郷

【豊郷村】茨城縣常陸國鹿島郡の中部。鹿島町の北、中野村の南に隣り、西は北浦の東岸に臨み、東は鹿島浦との間に波野村を隔つ。面積一〇方軒餘。周囲に低き臺地ありて畑地をなし、中部より北浦沿岸にかけては低地にて水田多く、米・麥・野菜を産す。特産に蘆・叭類あり。鹿島・銚子間の縣道西岸に近く南北に通じてバスの便あり。また北浦には水運の便あり。大字塚原は天正年中の創設にして鹿島新當流の祖たる塚原卜傳の出生地とす。大字沼尾は鹿島應永三十一年寄進狀に沼尾郷と見ゆる地にして、古く沼尾平太重幹地頭たりきといふ。

【豊郷村】栃木縣下野國河内郡の中部。宇都宮市の北隣にて、田原村に北接す。面積二六方軒に近し。西半は高さ二百米内外の丘陵地に於て森林あり。東半は鬼怒川流域の平地にて、田原村より来る田川と西北隣宮尾村より来る支流南流し南部にて合流す。川筋には水田多く米を主産し、東部には畑多く蕎・干瓢等を産す。宇都宮市よりの縣道東部を北上し東北隣古里村を經、鹽谷郡阿久津村に至りて陸羽街道に合しバス通ず。大字竹林は宇都宮氏の族竹林氏發祥の地とす。横田氏系圖に安藝守師綱の次男淡路守元業は竹林

の住人にしてその子元胤竹林七郎兵衛と稱すといふ。大字長岡の東端、丘陵の南面に横穴古墳群ありて約六十箇露出す。三段に並列し何れも小規模にして内部の奥壁に半肉彫の千手觀音、或は如意輪觀音などの像あり。これらの像は何れも近世の作とす。

【豊郷村】長野縣信濃國下高井郡中央部の西北偏。西南は瑞穂村に、北は市川村に隣接し、下水内郡飯山町の東北方約一二軒。毛無山(一六五〇米)の山嶺東部を南北に延び、北境にその一峯水尾山(一〇四二米)を起す。大部分はこの山嶺の西北斜面に屬し西部の緩傾斜面に葉落あり。西部に野澤温泉湧出す。物産に米・蕎・麥の産あり。飯山町方面へ縣道通じバスの便あり。この地は和名抄、高井郡神戶郷の内とす。(野澤温泉)泉質硫酸泉。療養並に行樂向。もと大養ノ湯といひ、天曆年間の開湯にて寛永年間飯山藩主松平氏浴場の設備を整へしにより御殿の湯と稱す。大養の御湯・川原湯・麻釜ノ湯・瀧ノ湯・眞湯・寺湯・横濱湯・新田ノ湯に分る。冬はスキーの適地として知らる。(湯澤神社)大字豊郷に鎮座。郷社。祭神、健甕名方命。創建年次詳ならざるも、寛文三年火災に罹り、元祿・明和の兩度再建せらるといふ。村内舊野澤村の産土神たり。例祭九月八日。(健命寺)曹洞宗。傑湯山と號す。文治年中の創建、開基は泉小次郎親衡にして初め

トヨサ トヨサ

トヨサ トヨス

薬師寺と號し水内郡當盤郷にありしが、天正年中上杉景勝の臣市川新助これに現地に移し、南室正尊和尚を開山とし現宗に改む。本尊に釋迦如來を安す。

【豊郷村】 滋賀縣近江國犬上郡の西南部。彦根市の南方約八軒。南は愛知郡に隣接す。面積五六方軒餘の小村なるも湖東平野の中部に位し全村土地平坦にして水利よく、田畑よく拓けて米・麥を産し糠肥用作物も多く、藪・桑葉・茶種・茶・絹織物をも産す。中山道に沿ひて楽落は街村型をなす。社線近江鐵道は中山道の東方を走り豊郷驛(明治三十二年開業)ありて交通便なり。古くは和名抄、犬上郡安食郷に屬す。近江平野の中心を占め古くより開發され、特に中山道に沿へるを以て交通上重要な地位にありたり。村名は町村制施行の際八箇村を合併し雅名を採つて豊郷村と名づけしもの。大字四十九院はもと僧行基の開基と傳ふる同名の寺あり、轉じて地名となれるもの。この寺は文和三年後光嚴天皇の行在所となりしことあり、その後眞宗大谷派となり唯念寺と改む。〔安自岐神社〕 大字安食西に鎮座。縣社。祭神、味耜高彥根神。道主貴神・天兒屋根神外十柱。創建年代沿革等詳ならざるも社記には敏達天皇の勅願所なりとも云ふ。延喜の制小社に列し當郡七座中の二座なり。古來、安食の庄の産主神にして、惟ふに此地に居住せし安食氏一族の先祖神を祀れるものか。

東北界を距る約四軒。面積八・五方軒餘あり。千曲川の支流松川北境を西流しその扇狀地の末端を占め、高度は三五〇米内外なるも土地概ね平坦なり。西南部には田畑、その他は多く桑園にして養蠶盛に行はれ繭の産額最も多く、他に米・麥を産す。社線長野電鐵中部を縦に貫き、豊洲驛(大正十二年開業)あり。また谷街道東境を南北に通じ須坂町及び北隣小布施村へはバスの便あり。此地は和名抄、水内郡大島郷の内なり。

【豊洲村】 岡山縣備前國都窪郡の南部。西北は倉敷市の東北部に接し、東北は早鳥町、東は茶屋町と界す。面積僅に四・三万方軒なるも西北境に小丘阜を見る外は倉敷川の沖積にして土地低平肥沃、耕地よく拓けて米・麥・藪を産し特産に柿あり。倉敷市・茶屋町間のバス路線に近く交通便なり。〔帯江觀音(不洗觀音)〕 眞言宗。舊帯江銅山の南側形勝の地にあり。露着たる松林の中に本堂・大師堂・薬師堂その他の諸堂建ち並び、前方遙に兒島灣を望む。本尊十一面觀音は安産及び子授けの御利益顯著なりといひ婦人の参詣者多し。

トヨスキ 豊住村 千葉縣下總國印旛郡の北東部。安食町の東隣にて利根川の南岸にあり。對岸は茨城縣稻敷郡金江津村なり。面積一五方軒餘。西南部は丘陵地にてその間に畑地・桑畑を交へ、東半は低平にしてその南半に長沼あり。沼

トヨス トヨタ

安食氏は阿知使主より出づ、然るに當祭神に阿知使主の見えぬは怪とするところにて後考を俟つ。例祭、四月十六日。

トヨシ 豊地村 三重縣伊勢國一志郡の中部。松阪市の西北方約四軒。面積約一一方軒。西北部及び南部には二百米内外の山地あるも中部より東部にかけては低地開けて雲出川の支流之を東北流す。低地は水利よく沃野をなし米・藪・麥の産多くまた畜産・鐵産・工業もあり。特産に鶏卵を出す。省線名松線の権現前驛(東隣豊田村内)に近く、また西隣中郷村より天白村の省線参宮線の六軒驛へのバス路線に當り交通便なり。古くは和名抄、壹志郡小川郷に屬せる地なり。大字一志は孝安天皇の皇兄天押帶日子命の裔壹志君の居りし處といひ、その裔は宿禰の姓を賜はり縣造郡司の要職にあり。明治四十一年まで當地薬師寺の隣接地に鎮座ありし龍天神社は正しく一志氏の氏神たりしものなり。また此邊に古墳多し。〔薬師寺〕 大字一志にあり。曹洞宗。一志氏の氏寺にして、その建立が一志氏の祖の居住と共に古く奈良朝時代にありしことは、近時附近より發掘せらるる古瓦によりて立證せられ、其伽藍の雄大壯麗なりしことは境内に残存せる礎石を以て窺はる。本尊薬師如來立像(木造・藤原中期作)一軀は國寶。

トヨシキ 豊四本 千葉縣東葛飾郡にありし村。大正三年廢して千代田村に合併し、千代田村は大正十五年柏町と改稱す。

トヨシゲ 豊茂 愛媛縣喜多郡にありし村。大正十一年本村外一村を廢し大和村を置け。

トヨシナ 豊科町 長野縣信濃國南安曇郡の東部。松本市の西北約一〇軒。穂高町の南方約四軒、面積七・七方軒餘。松本平の略中央を占め土地平坦肥沃にして田畑よく拓く。米の産多く、養蠶行はる。糸魚川街道の要驛にて附近村落よりの農産物・藪等の集散地にして製糸工場あり、生糸の産多し。省線大糸南線鐵道は豊科驛(大正四年設置)・南豊科驛(大正十五年設置)を置き、東方省線篠ノ井線の田澤驛に近く、その間と、糸魚川街道にはバスを通じ交通便なり。この地はもと相成與と稱し、小笠原氏の領地たり。舊郡役所のありし所にして、大正四年町制を施す。

トヨシマ 豊島村 秋田縣羽後國河邊郡の中部北側。秋田市の東南方約一〇軒。東は和岡町、南は川添村に接し、北は南秋田郡太平村に隣す。面積三七方軒餘。村のほぼ中部を雄物川の支流岩見川東より西に貫流し沿岸に平地あり、北半と南境部には高さ一〇〇米内外の丘陵地あり。米産最も多く、また藪を産し、南北両丘陵地には牧畜の行はるる所あり。羽州街道中部の平地を東西に通じ、省線奥羽本線の和田驛・四ツ小屋驛(西南隣

のたに南折して南隣陸川村に出で、また日山丘陵の東面には最上川の支流陸川南流しその東岸に平地をつくりて水田拓く。物産は米を主とし藪の産あり。村の西北部には西山牧場ありて牧場行はる。東隣豊里村にある省線奥羽本線羽前豊里驛に近きも村内の交通はなほ便ならず。明治二十五年豊里村より大字庭月・曲川を分割して本村を置け。

【豊田村】 富山縣越中上新川郡の西北部。神通川の右岸に沿ひ西南は富山市の北界に接し、西は神通川を境に婦負郡草島村に對す。面積五・六方軒餘の小村なるも土地平坦にして灌漑に富み、全村殆ど田地に拓かれ米を主産す。省線北陸本線東部を縦走して東岩瀬驛(明治四十一年設置)を置き、また中部を社線富岩鐵道南北に通じて城川原驛(大正十三年開業)を設け、西部に縣道ありて富山・東岩瀬間に定期バスを通じ、交通至便なり。古くは和名抄、新川郡石勢郷の内なるべく、延喜兵部省式の磐瀬驛も本村邊に求むべきか。近世は廣田郷の内とす。

【豊田村】 岡山縣備前國赤磐郡の東南部。吉井川下流の右岸に沿ひ、西南は萬富村に、西北は小野田村・可賀村に接し、吉井川を隔てて和氣郡熊山村に對す。面積僅に六方軒餘。北部及び西南部に小山あり、その他は平坦にして耕地大いに拓け、米・麥・藪・果實の産あり。縣道東部川邊に近く通じ、省線山陽本線萬富

四ツ小屋村内)にも近く交通不便ならず。この地は和名抄、秋田郡成相郷の内にして附近は戰國の頃豊島郡と稱せられし地。大字戸島に豊島館址あり、傳によれば、島山玄蕃常陸國より來りて築城し、その子豊島次郎重村と稱して此處を居城とす。〔滿藏寺〕 大字戸島にあり。曹洞宗。永祿元年の創建。開基は豊島玄蕃頭にして開山は體現存辰和尚なり。寺内に觀音堂ありて三十三觀音を安置す。

トヨツマ 十倉島村 茨城縣常陸國稻敷郡の東南部。利根川の北岸にあり。西は金江津村・大須賀村に隣り、東は霞ヶ浦南岸の本新島村に接し、南は川を隔てて千葉縣香取郡神崎町その他と相對す。利根・新利根二川中間の低濕地帯の一部にて殆ど水田・沼田より成る水郷なり。米を主産し他に麥を産す。土浦町より一は江戸崎町を經、一は古渡村を過ぎ阿波村にて合する縣道は更に南に走りて村の西部を貫き千葉縣香取郡神崎町に通じ、また利根川には水上交通運輸の便あり。この邊一帶は鮎の釣場として著はれ釣季には東京方面より出漁する者甚だ多し。〔米山寺〕 曹洞宗。松嶋山と號す。開山は隱巖和尚、中興開山は別山良傳和尚、再中興開山は江山良國和尚なり。

トヨス 豊洲 長野縣信濃國上高井郡の西北部。東と南は須坂町に接し、西は千曲川を境に上水内郡長沼村に對し、長野市の

【豊田村】 岡山縣備前國都窪郡の南部。長井町の南に隣り、東は東置賜郡西南部に隣接す。面積一四方軒に近し。米澤盆地の西北部に續く長井盆地の東南部に位し、東部に低き丘陵ある外は概ね平坦にして最上川の上支松川東北部を略北流し、白川は西南部より中部を東北に流れ北部に於て合流して最上川となる。水田多く拓けて米を主産し、外に藪・馬を産す。道路は東南部の大字今泉より北に長井町、東は宮内町、南は小松町、西は小國本村方面へ通じいづれもバスの便あり、省線長井線南北に通じて今泉・時庭二驛(大正三年設置)を設け、米坂東線は今泉驛にて接続し交通便なり。

【豊田村】 山形縣羽前國最上郡の西部。新庄町の西北約八軒。西は飽海郡東南部に隣接す。出羽丘陵の東斜面を占め、西境は高さ七〇〇米を示し東方に次第に傾斜す。曲川は北部及び西部山地の水を聚めて東流し東部の目山(三三二米)の丘陵

【豊田村】 岡山縣備前國都窪郡の南部。西北は倉敷市の東北部に接し、東北は早鳥町、東は茶屋町と界す。面積僅に四・三万方軒なるも西北境に小丘阜を見る外は倉敷川の沖積にして土地低平肥沃、耕地よく拓けて米・麥・藪を産し特産に柿あり。倉敷市・茶屋町間のバス路線に近く交通便なり。〔帯江觀音(不洗觀音)〕 眞言宗。舊帯江銅山の南側形勝の地にあり。露着たる松林の中に本堂・大師堂・薬師堂その他の諸堂建ち並び、前方遙に兒島灣を望む。本尊十一面觀音は安産及び子授けの御利益顯著なりといひ婦人の参詣者多し。

【豊田村】 山形縣羽前國最上郡の西部。新庄町の西北約八軒。西は飽海郡東南部に隣接す。出羽丘陵の東斜面を占め、西境は高さ七〇〇米を示し東方に次第に傾斜す。曲川は北部及び西部山地の水を聚めて東流し東部の目山(三三二米)の丘陵

【豊田村】 岡山縣備前國赤磐郡の東南部。吉井川下流の右岸に沿ひ、西南は萬富村に、西北は小野田村・可賀村に接し、吉井川を隔てて和氣郡熊山村に對す。面積僅に六方軒餘。北部及び西南部に小山あり、その他は平坦にして耕地大いに拓け、米・麥・藪・果實の産あり。縣道東部川邊に近く通じ、省線山陽本線萬富

【豊田村】 岡山縣備前國都窪郡の南部。西北は倉敷市の東北部に接し、東北は早鳥町、東は茶屋町と界す。面積僅に四・三万方軒なるも西北境に小丘阜を見る外は倉敷川の沖積にして土地低平肥沃、耕地よく拓けて米・麥・藪を産し特産に柿あり。倉敷市・茶屋町間のバス路線に近く交通便なり。〔帯江觀音(不洗觀音)〕 眞言宗。舊帯江銅山の南側形勝の地にあり。露着たる松林の中に本堂・大師堂・薬師堂その他の諸堂建ち並び、前方遙に兒島灣を望む。本尊十一面觀音は安産及び子授けの御利益顯著なりといひ婦人の参詣者多し。

【豊田村】 山形縣羽前國最上郡の西部。新庄町の西北約八軒。西は飽海郡東南部に隣接す。出羽丘陵の東斜面を占め、西境は高さ七〇〇米を示し東方に次第に傾斜す。曲川は北部及び西部山地の水を聚めて東流し東部の目山(三三二米)の丘陵

【豊田村】 岡山縣備前國赤磐郡の東南部。吉井川下流の右岸に沿ひ、西南は萬富村に、西北は小野田村・可賀村に接し、吉井川を隔てて和氣郡熊山村に對す。面積僅に六方軒餘。北部及び西南部に小山あり、その他は平坦にして耕地大いに拓け、米・麥・藪・果實の産あり。縣道東部川邊に近く通じ、省線山陽本線萬富

は賀茂郡内に飛地としてあり、所屬の諸島も伊豫諸島と錯列しその所屬の變更を見しことあり。西北境に鷹ノ巣山(九二二米)、西南部に用倉山、東北境に天神嶽(七五八米)、東南境に大峯山(六一〇米)等あり、概ね山地にして一般に北に高く南に低く、所々に小山間盆地あり。沼田川は北部山地に發して東南に流れ三原市にて海に注ぐ。海岸は屈曲少く僅に忠海港あり。されど所屬諸島には良港乏しからず、生口島に瀬戸田港、大崎上島に木ノ江港、大崎下島に御手洗港等あり。農産には米・麥の外に大豆、小豆、甘藷、蕪等あり、蜜柑・桃等も出し、鰻・鯛・烏賊・鮪等の漁獲物あり。島嶼は概ね土地瘠せ僅に甘藷・蜜柑類を栽培するに過ぎず、漁業を營むもの多し。國道山陽道を初め諸縣道南部によく開け、また省線山陽本線は沼田川に沿うて走る。もと沙田郡と稱し、文徳實録に沙田郡の名見え、和名抄は萬須田と註し、「今沙作、豊、止與太」とあり、それ以來豊田郡と改稱せしものなるべし。和名抄は豊田・登能・能美・調芳・安宿・栴梨の六郷を載す。中世に沼田郡廢せられ本郡に併合せられ以て今日の境域をなす。

トヨタ 豊田

流核梨川北隣栴梨村より東部に入りて西折し村の中央部よりまた南折し南境の山地を截りて河内町に出づ。米・麥・蕪・木炭等を産す。道路川に沿ひて通じ、他に東部より東隣大草村に出づるものありれど交通はなほ便ならず。明治二十二年小田村・木和村を合併して、この地名抄の豊田郡豊田郷に當るより豊田村と名づく。

【豊田炭礦】北海蘆石狩國(空知支庁)空知郡にある炭坑。本邦重炭礦の一。鑛區は岩別村にあり。塊炭、粉炭、切込炭、粗炭として出炭し、昭和十年の産額約九萬圓、使用鐵夫一一九人。

【豊田】青森縣陸奥國中津輕郡の東部。西南の一部は弘前市の東南部に隣り、東は北流する岩木川の支流平川を隔てて南津輕郡大光寺村・猿賀村と相對す。面積約一一方許に過ぎざるも津輕平野の南部に屬し、土地概ね平坦にして殆ど耕地をなし米産多く、また林業を産す。西方は弘前市に近く交通不便ならず。

【豊田村】山形縣前河村山郡の西部。山形市の西北方約一〇許。東は長崎町、西北は西村山郡の東境中部に接す。面積一八方許。山形盆地の西側に位し大部分高さ二百米程度の高臺狀の丘陵をなすも、東境南北には平坦地ありて水田よく拓く。蕪の産出も多く、米・馬の産もあり。道路は村の東部を南北に通す。また

省線左澤線羽前長崎驛・羽前山邊驛(南隣山邊町)に遠からざれば交通不便ならず。

【豊田村】福島縣代國安積郡の東南部。郡山市の西南方約五許。南は岩瀬郡仁井田村に隣接す。ほぼ方形の地を占め面積約一四方許。郡山盆地の南部に當り、南半はやや高き臺地あるも北半は全く平坦なり。笹原川は中部を東方に貫流し、東隣水盛村に於て阿武隈川に合す。北部には水田、南部には畑地拓げ、米・麥・大豆・蕪等を産す。縣道北部を東西に通じ、東方郡山市と西方三和村より岩瀬郡白方村へはパスの便あり。天文十七年、伊達植宗、須田備前守の居城館岡を攻めし時、本村の大字成田に於て合戦あり。

【豊田(郡)】下總國(茨城縣)の古郡名。もと岡田郡と稱す。即ち下總國舊事考、岡田郡の註に「豊岡岡田の二郡は元岡田郡なりしを延喜四年に豊岡郡に改められ今代貞享三年に豊岡郡の内相川の西十ヶ村を割きて岡田郡を建てしより二郡分立する事とはなれり」とあるによりて明かなり。本郡は明治二十九年四月岡田郡と共に結城郡に入りて郡名を失ふ。

【豊田村】茨城縣下總國結城郡の南部東偏。石下町の東隣にて、南の海邊道町、北の眞壁郡下妻町との略中間に位し、東は小貝川を隔てて筑波郡吉沼村・上郷村と界す。面積僅に六方許の小村なるも全村平坦にて東部は畑地、西半は水田多

【豊田村】埼玉縣武藏國北葛飾郡の北部。利根川の分流權現堂川の西岸にて、北は栗橋町に隣り、南は幸手町との間に行幸村を隔て、對岸は茨城縣猿島郡五霞村なり。面積六・五方許餘に過ぎざるも全村平地にして田地多く、米を主産し、他に麥・蕪を出す。陸羽街道は川沿ひに北走し、幸手・栗橋間のバス往來し、また社線東武鐵道日光線の幸手驛、省線東北本線栗橋驛(西北隣靜村地内)に近く交通不便ならず。

【豊田村】千葉縣上總國長生郡の時中央部。茂原町の北、本納町の南に隣る。面積九・五方許餘。北境及び西北境附近は丘陵地の末端にて森林あり。その他の大部分は九十九里濱沿岸平地の西南隅に當り田畑よく拓く。米・麥・蕪を産し養鶏行はる。大綱・茂原間の縣道は南走してパスの便あり。また省線房總線の本納驛・茂原驛にも近く交通不便ならず。

【豊田村】千葉縣安房國安房郡の中部。館山北條町の東方約八許を隔て、南に千歳村、東に南三原村あり。面積一〇方許餘。東西兩境には丘陵あるも、中部は低平にして北隣九村より南流する丸山川あり耕地よく拓く。米を主産し、他に麥・蕪・鶏あり。房總街道は村の南部を横斷し、また東隣南三原村の省線房總西線南三原驛よりのパスは九村にも通じ交通不便ならず。此地は和名抄、朝夷郡大瀧郷の内。「莫越山神社」大字香見に鎮座。

【豊田村】神奈川縣相模國鎌倉郡の中部。戸塚町の東南隣にして南は大船町との間に本郷村の西部を挟み、面積五・二三方許の小村なり。東半部は丘陵地にて山林をなし、西半部は南流する柏尾川に沿ふ平坦地にて田・畑拓く。物産に米・麥・粟・甘藷・馬鈴薯・野菜等あり、養蠶も行はる。縣道南北に通じパスの便あり。省線東海道本線の戸塚驛・大船驛にも近く交通便利なり。「永勝寺」大字下倉田にあり。眞宗大谷派。臥龍山祥瑞院。眞宗關東七箇寺の一。もと天台宗なりしが嘉禎年間親覺當地に化を垂るるや住僧こ

郷社。祭神、手置帆負命・彦狭知命。神武天皇元年、小民命・御道命の二神、天富命に従ひて當地に到り、その祖手置帆負命・彦狭知命二神を莫越山に祀り給へるを以て創建となすと傳ふ。式内小社にして安房國六座の一。治承年中源朝社領二十町を寄せしもの漸次社運衰ふ。例祭、九月十四日。(日蓮寺)大字加茂にあり。日蓮宗。勝婆山と號す。往昔は天台宗を奉ざしが、文永元年宗祖日蓮上人巡錫の際、住持行然法印之に歸して改宗す。爾來三百餘年草堂存するのみなりしを、里見義親の老臣正木時通、入道して日蓮と稱し當寺を再興。慶安元年徳川家光寺領十二石の朱印を寄す。

【豊田】東京府南多摩郡日野町の大字。中央本線の豊田驛(明治三十四年設置)を置く。

れに歸して現宗に改む。「戸塚の穴」大字田谷定泉寺境内にある人工の洞窟。天保二年佐藤某夢想によりて之を創め、爾後工を以て今日の狀態をなすに至るといふ。洞窟は南面に入りあり。隧道深く穿たれて、或は上り、或は下り、或は左右に屈折し、或は支路を分ち、所々に室あり、湧水ありて或は漚となり、或は溪流となる。穴の延長、支路を合して約三百米に及ぶといふ。その壁面及び天井には佛像・草木・禽獸等種々の彫刻あり、また所々に石像を設置す。普通には田谷の窟の名を以て呼ばる。

【豊田村】神奈川縣相模國中郡の東部。南の平塚市と北の伊勢原町との中間に位し、前者とは大野村、後者とは岡崎村を隔つ。面積僅に三・一九方許の小村。相模川流域平野の中央西部に當り殆ど田地をなし米・麥・甘藷・野菜等を産し、養蠶も行はる。平塚市・伊勢原町への縣道ありてパスの便あり。この地はもと豊田庄と稱せられしにして、東鑑・文治四年の條に大庭平太景能、父景宗墳墓、在相模國豊田庄とあるは此地なり。

【豊田村】長野縣信濃國諏訪郡の西部。諏訪湖の南岸に位し、東北は上諏訪町、東南は中洲村・湖南村に接し、西南は上伊那郡朝日村と界す。東北部は諏訪湖盆地の沖積地にして宮川これを流さ水田多く、米を主産とす。西南の大部は西南境より東北に傾斜する山地なり。養蠶・製

く米・大豆・小麥を産し、副業にピーマン・蕪の産多し。石下町の社線常總線石下驛にも、縣道にも近く交通不便ならず。古くは和名抄、豊田郡岡田郷の内とす。平重幹の季子政幹、此地を管して豊田氏を稱す。「龍心寺」大字豊田にあり。曹洞宗。豊田山と號す。下妻町多寶院末たり。寛治六年悦堂欣覺和尚の開山に係り現に末寺二院を有す。

【豊田村】栃木縣下野國下都賀郡の中部。栃木市の東南方にあり。これと大宮村の一部を挟み、東南は小山町と隣る。面積約二四方許。思川は東境を、巴波川は西部を南に流れ、全村土地平坦にして殆ど田・畑に拓かれ米を主産し、その他麥・蕪・野菜類等を出す。栃木市・小山町間の縣道通じてパスの便あり。省線兩毛線中部を西北より斜に横ぎりて思川驛(明治四十四年設置)を置き交通便利なり。中世は中泉庄内に於て、大字幸島は小山文書に見ゆる東武家郷の地か。「稱念寺」大字小薬にあり。淨土宗。田谷山。建久元年惠心流念佛行者諸信阿闍梨の創立に係り、のち良懷上人之を中興す。應永年中梶原景行歸依してより遂にその香華院となる。「長榮寺」大字小薬にあり。天台宗。天龍山圓珠院。嘉祥三年慈覺大師の草創に係り、長榮大僧都を開山とす。慶安年中徳川幕府より朱印地二十石を寄せらる。本尊華嚴如來に慈覺大師の作なり。

奉行は、諏訪湖には養蠶も營む。上諏訪町及び岡谷市へ縣道通じてパスの便あり。此地は和名抄、諏訪郡佐補郷の内なるべく、近世有賀郷と稱せられ、出雲神族、神家族、有賀氏の居邑たり。「江音寺」字有賀にあり。臨濟宗妙心寺派。瑞雲山と號す。昔は勅建の一大名刹たりといふ。永久六年有賀四郎當堂を修復。元享年中普照大光國師來住し、應仁年中有賀丹波守好照伽藍を修復して寺田を附す。因りて好照を中興開基とす。爾來上下の尊崇厚かりき。本章に行基作阿闍梨如來を安す。

【豊田村】靜岡縣駿河國志太郡の南東部。瀬戸川下流の右岸。椋津町の西隣にて藤枝町との間には西益津村を挟む。面積僅に五方許餘に過ぎざるも大井川下流三角洲の東北部にありて全村低平、耕地よく拓げ米の産額多く、蕪・茶の産も多少あり、其他工業・牧畜も行はる。省線東海道本線焼津驛に近く、また焼津・藤枝間のバス路線に當り交通不便ならず。「神明社」大字三ヶ名に鎮座。郷社。祭神、天照皇大神神・品陀和氣命外二柱。此地はもと伊勢神領たる小楊津御園のありし地に於て、その因みにより本社を祀れるならんといふ。例祭十月二十一日。

【豊田】靜岡縣安倍郡にありし村。昭和三年靜岡市に編入す。

【豊田(郡)】遠江國(靜岡縣)にありし郡。天龍川に沿ひ、北より南に長さ大郡なり

トヨタ トヨタ

しが、明治二十九年、中泉・二俣の二箇町・二十四箇村は磐田郡に入り、赤佐・中瀬・龍池・豊西・中ノ町の五箇村は濱名郡に入り、豊田郡の名を失ふ。豊田の郡名は和名抄・拾芥抄共に之を載せず。

【豊田】 愛知縣幡豆郡にありし村。明治三十九年他の二箇村と共に廢し、大賣村大字の一部を以て福地村を置く。

トヨタナカ 豊田中村

山口縣長門國豐浦郡の東北部。東南は西市町、西北は殿居村に接し、東北は大津郡依山村と界す。面積三八・六七方軒。中國山脈西端部の臺地性山地中に在り、北境及び西南境にては高度五百米内外を示す、中部と北部山地の中間所々に細長き低地ありて田畑よく拓かれ米の産額多く(約二七萬圓)養蠶行はれ、また土管の製造あり。社線長門鐵道西市駅と省線山陰本線瀧部駅を繋ぐ道路は中部の低地部を東南より西北に貫きバスを通じ交通不便ならず。此地は和名抄、大津郡稻妻郷の内か。中世、今の豊田下村・豊田前村・殿居村(舊名、豊田上)・西市町(舊名豊田奥)は豊田郡と稱せられし地なり。(妙傳寺)大字浮石にあり。本門法華宗。福應山と號す。承應二年頃長府町法華寺二世玄妙院日傳上人ここに開居するや、藩主の歸依を得て遂にその祈願所となる。爾來大原院一門、毛利氏等の歸依厚かりしも近世衰頹す。

トヨタマ 豊多摩(郡)

明治二十九年四月東京府の東多摩郡と南豊島郡との合併して出來し郡。東京市西部の住宅地なりしが昭和七年十月東京市に入り盡

トヨタ トヨト

トヨツ 豊津

【豊津村】 茨城縣常陸國鹿島郡の中部。鹿島町の西隣にして北浦に臨み、湖を隔てて行方郡延方村と對す。面積僅に六・五方軒の小村なるも全村北浦沿岸低地に水田・畑地をなし米・麥を産す。延方村との間には神宮橋架せられ西方潮來町方面より鹿島神宮への參詣路となりバスの運轉頻繁なり。また北浦は水運の便よし。大字大船津はもと舟戶・大舟戶にも作る。北浦に臨み、鹿島を西に距る約二軒、神宮橋の東畔に在り、北浦水運の要點たり。

【豊津村】 千葉県安房郡にありし村。大正三年館山町と共に廢し、その區域を以て更に館山町を置く。のち同町は北條町と合し館山町となる。

【豊津村】 愛知縣八名郡大和村の舊稱。大正九年現名に改む。

トヨタマエ 豊田前

各・中野・流橋・杉並の四區に分る。長門國豐浦郡の東端。西北は西市町と接し東及び南は美濃郡大嶺村・西厚保村と界す。南北に狭長にして面積二七方軒。臺地性山地をなし、南半には高さ三百米を有する處あるも北半は百米内外にして中部に小低地あり耕地拓く。米を主とし麥・藁の産あり。西市町より大嶺への道路北部を横ぎるも交通は便ならず。本村に山陽大嶺山の鐵道跨る。この地は和名抄、大津郡稻妻郷の内とす。

トヨタカミ 豊田上

山口縣豐浦郡の略中部。北は西市町、南は殿居村に隣り、面積一・九方軒の小村。土地平坦にして海岸は極めて平直なる砂濱をなす。米・藁を産し鶏卵をも出す。海岸は漁獲高多し且つ伊勢灣沿岸工業地帯の一部に當り工廠額多し。社線參宮急行電鐵伊勢線貫き豊津浦驛(大正四年開業)あり、また西境近く隣村地内を伊勢街道通じバス往來し交通便なり。

トヨタカミ

【豊田(郡)】 刈田(郡) 讃岐國 熊本縣肥後國下益城郡の西北部。北は隈庄町に、東は上益城郡乙女村に、西の一部は宇土郡花園村に隣る。面積約一九方軒。南部には高さ一・二百米程度の丘陵性山地東西に起伏するも、北半は熊本平野の南部に當り土地平坦にして緑川の支流濱戸川東部を北流し北部に於て西北折し、南境に發して中部を北流する豊田川を併す。流域一帯は耕地發達し米・麥等の農産のほか、生糸・林産あり。隈庄町と堅志田(中山村)を繋ぐ道路は東南部に、松橋(不知火村)への道路は西部を南へ通じ交通便ならず。古く或は和名抄、益城郡益城郷の地にや。近世豊田庄といふ。大字阿高・東阿高には貝塚、大字塚原には琵琶塚・圓塚・三段塚等の古墳あれば本村の開拓の如何に古きかを知るに足るべし。(阿高貝塚)大正五年貝塚中より石器・土器・貝器・骨器等と共に凡そ五十體の完全なる石器人骨を發掘し、前膊骨に二箇の貝製腕輪を纏ひし女性の骨格等も發見せらる。殊に土器は阿高式として九州石器時代土器の一據準となす。(小木阿蘇神社)大字塚原に鎮座。祭神、阿蘇大神・八幡大神外二柱。興國元年菊池肥後守武政の勸請に係る。もと阿蘇宮の末社にして第一阿蘇宮・第二八幡宮・第三甲佐宮といひ、神領五十町を寄せらる。例祭、十月十九日。

【豊田(郡)】 豊田(郡) 大分縣下毛郡にありし村。大正十四年中津町に編入し、中津町は昭和四年市制を布く。

【豊田】 臺灣花蓮港廳花蓮郡壽豐庄豊田村にありし村。明治廿二年西市村と改稱。大正十三年西市町と改む。

トヨタカミ 豊田上

山口縣豐浦郡の略中部。北は西市町、南は殿居村に隣り、面積二四・六六方軒。中國山脈西端部の臺地性山地の中に在り、高度二〇〇米内外の山地廣くして西部は特に高く、その朝山は七一三米を示す。中部には南北に幅稍廣き低地あり吉田川南流してこれを潤し、耕地よく拓く。農産に米・麥・藁その他を出す。市の山陽道(中國街道)と北の西浦街道(新街道)を行橋町の南方約四軒に在り、これと今川村を隔て、東は殿居村に隣接す。面積僅に五・五七方軒。中部には供き丘陵あるも、その東は殿居の、西北は今川の沿岸低地にして耕地よく拓げ、米・麥等の農産少からず。縣道北境を東西に走りバスを通じ、省線田川線今川の東岸を通じて豊津驛(今川村地内)に近く交通便なり。この地は豊前國分寺のありし處。明治の初めに小笠原氏藩邸を此處に移せしことあり。(小笠原神社)大字豊津に鎮座。祭神、小笠原長清・同貞宗・同忠眞。即ち小笠原祖を祀り、文化四年の創建に係る。例祭、十月一日。(國分寺)大字國分にあり。古義眞言宗。御室末。天平九年行基の開創に係り、聖武天皇の勅願所にして九州第一の古刹とす。天正年中大友氏の兵火に罹り、慶安三年國守小笠原忠貞再興す。

トヨトミ 豊田富

省線宗谷本線の一驛(大正十五年設置)。北海道天鹽國天鹽郡幌延村にあり。

トヨタカミ 豊田上

千葉縣下總國千葉郡の北西部。大和田町の西北隣にして、西南は船橋市の東北部に接し、西北は印旛郡白井村と界す。面積約二三方軒。全村、臺地性丘陵地にて森林・畑地相交り、また北境附近は東方印旛沼に接し低濕地にして沼田

トヨタ トヨタ

をなす米・麦を産し、養鶏・養蠶も行はる。船橋市より木下町方面への縣道中部を略南北に通じ交通不便ならず。【豊富村】山梨縣甲斐國東八代部の西端。甲府市の南方約八軒。北は笛吹川を隔てて中五郎郡稻積村・三町村と相對し、西は西八代郡市川大門町との間に大塚村を挟む。南境は御坂山脈の西北支東西に延び、南半はその北斜面にて山地をなし、北部は西流する笛吹川の南岸の平地にて田畑よく拓く。聚落は中央の臺地及び北

【豊富村】愛知縣三河國額田部の南部。西は岡崎市との間に河合村を隔て、南は寶飯郡萩村・長澤村と界す。面積四九方軒餘。三河山地の南部にて高度三〇四〇米の山地起伏し、大平川略中央を貫きて西へ流れ、これと支谷とに幅狭き低地あり、聚落は大部分この谷地に在る。【豊富村】兵衛縣播磨國神崎郡の南端。市川の東岸に沿ひ、西南端は姫路市の東北部に接す。面積一七・五方軒餘。東南半には高さ二〇〇米程度の山地あるもその間所々に低地ありて西北部の廣き沖積低地に續き耕地よく拓く。低地は米作を主とし外に小麦・粟・大豆・蔬菜・果實・食用農産・鶏卵を出し、工業に紙の産多共他製紙・蠶糸・皮革製品・木製品・蠟・製茶・メリヤス等の工業あり。姫路・北條(加西)間の縣道略中部を貫きてバス便あり。市川の對岸風車村には省線播磨線豊野駅あり。中世の

後北條眞宗の一名利たり。〔寶珠寺〕豊野田にあり。淨土宗。豊野代山。長徳年中佛眼上人の開創に傳る。行基菩薩作の聖觀音を本尊とす。上人、花山法皇を尊き奉り豊野三山を巡禮せしが、のち此地を相して靈坊を築造し豊野氏と稱す。中興は圓達和尚、現堂は正徳二年の再建なり。〔佛眼寺〕曹洞宗。熊可山。佛眼上人の草創にして寶珠寺の奥の院と稱し、久しく荒廢せしが、寶曆年間浪華の人規矩某、官慶和尚を聘して再興す。堂宇殿然として郡内の巨刹たり。トヨナカ 豊中市 大阪府五市の一。トヨナカ 豊中市 愛知縣渥美郡にありし村。明治三十九年高根村と共に廢して高豊村を置く。トヨナカ 豊中市 大阪府五市の一。トヨナカ 豊中市 愛知縣渥美郡にありし村。明治三十九年高根村と共に廢して高豊村を置く。トヨナカ 豊中市 愛知縣渥美郡にありし村。明治三十九年高根村と共に廢して高豊村を置く。

畜産物	林産物	工産物	農産物	舊豊田	舊豊中	舊豊井谷	舊豊野田	合計
10,000	20,000	30,000	40,000	10,000	20,000	30,000	40,000	100,000

行して社線阪神急行電鐵實線線走り、市内に岡町・豊中・堂ヶ池の三驛を置き、前記産業道路には阪神合同バスの運輸を見る。また豊中驛を起點として熊野田・櫻井谷を経て其面公園に至るバスありて電車と連絡運輸をなし、この外市を東西に通ずる府道吹田伊丹線・山田岡線ありて頗る交通の便に惠まる。本市の地は古くは和名抄豊島郡餘戸郷並に豊島郷の一部に屬せしもの如し。その後の沿革は文獻の徵すべきものなきも、那家の地に近く且つ舊西國街道附近を通ずるを以て早く文化の發達を見たるものなるべし。舊豊中の大字標塚はその名夙く著はれ、室町時代には一休和尚の子紹積この地に住せしことあり、江戸時代には花の名所たりしことも寶古教信七墓廻・二に「惜しや牡鹿の津の國の標塚こそ盛なれ」とあるによりて知らる。寛永年間以後青木民麻田に居りて麻田藩と稱し子孫世襲して明治維新に及ぶ。市の北部は高嶺の健康地なるを以て、舊麻田には大阪市の刀根山療養所の設あり。本市は將來大阪郊外

トヨナ トヨナ

豊山庄の内にして大字に豊山の名あり。興國二年三月、藤治高貞、京都より逃れ郷里出雲に赴かんとする。高師直、桃井直常をして之を追はしむ。高貞豊山に到るや、追兵すでに及びければ此處に自刃すといふ(太平記)。〔甲八幡神社〕大字豊富に鎮座。郷社。品陀別命・息長足比女尊・比咩大神。古來豊山莊廿四箇村の産土神にして黒印銀五石を有せり。もと八幡に八幡社と云ひ、後今の名に改む。例祭、七月十五日・十一月十五日。〔岩屋寺〕大字神谷にあり。天台宗。有乳山。孝徳天皇御宇法道上人の開創に傳り、同天皇の勅願所なりといふ。往時は本院六院、塔頭十八坊を有し寺門盛觀を極めしもの衰頹す。毘沙門堂安置の毘沙門天立像(木造)一軀は應永時代の特色を有し國寶。トヨナ 豊中市 大阪府五市の一。トヨナカ 豊中市 愛知縣渥美郡にありし村。明治三十九年高根村と共に廢して高豊村を置く。トヨナカ 豊中市 愛知縣渥美郡にありし村。明治三十九年高根村と共に廢して高豊村を置く。トヨナカ 豊中市 愛知縣渥美郡にありし村。明治三十九年高根村と共に廢して高豊村を置く。

つ維株にして、七百年前法然上人の手植と傳へられ、石標・石壁にて固み、幹の基部に接して小祠を安置す。根元の周囲約一米、これより高さ一・二米弱の所に於ける幹圍約一〇米。地上三米ばかりの高處より数本の支幹に分れ、また多くの横枝を出す。岡山縣内第一の巨木と稱せらる。

トヨナミ 豊南

東海岸線の一驛(大正十一年設置)。樺太豊原市にあり。

トヨナリ 豊成村 千葉縣上總國山武郡の中部。東金町の東隣にあり。面積約一四方軒なるも九十九里濱沿岸平地の中部に位し土地低平卑濕にて水田多く、中部はやや高燥にて畑地をなす。米を主産し、他に蕎麦・麥を産し、養鶏行はる。東金より鎌倉村への道路北部を横ぎり、西北隣公平村には省線東金線の求名驛ありて交通不便ならず。この地は和名抄、山邊郡武射郷の地にして、武射御厨のありし地。(成東食糧植物群落)指定天然記念物。本村と成東町の境を接する處にあり、一帯に濕潤なる沼野にして、特異の濕生植物全部に互り發生し、中に食糧植物に屬するいしもちさう・ながばのいしもちさう・まうせんこけ・こまうせんこけ・みみかきぐさ・むらさきみみかきぐさなど混じり、食糧植物の種類に富み且つ多数に發生せるは稀有なることとす。

トヨニ

豊西 豊西

置)。北海道十勝國廣尾郡廣尾村にあり。【豊似岳】日高山脈南端部の一峯。北海道標高の北約一軒、日高支廳幌泉郡幌泉村の中部に峙つ。標高一〇五米。山中に神池と稱する池あり。アイヌ人の信仰厚し。

トヨニシ

豊西村 靜岡縣遠江國濱名郡の東部。濱松市の東北約六軒。西は笠井町に接し、東は天龍川を隔てて磐田郡富岡村に對す。天龍川の沖積による肥沃なる平野にして川は東部を數條に分流をなして南流す。米作を主とし、瓜其他野菜類の産額多く、また染織工業盛にして綿織物を出し、養蠶・牧畜も副業として行はる。笠井町に出づれば濱松電鐵の便あり、また國道東海道にも近く交通不便ならず。明治二十九年までは豊田郡に屬し、且つ天龍川の西岸にあるを以て豊西と稱すといふ。(服織神社)大字羽島に鎮座。郷社。祭神、天徳日命。別殿に健御名方命(諏訪神社)を祀る。創祀年代詳かならざるも古老相傳へて和銅年間に出雲國より勧請すと云ふ。延喜の制小社に列す。もと社名を若一王子とも稱せり。例祭、八月十一日。

豊西村 山口縣長門國豊浦郡の西部。東南、下關市との間に吉見村を挟み、北西南の三方は海に臨み、西方は蓋井島を望む。中部南北に丘陵山地連なり、山脈北方に延びて泊鼻・觀音崎、西南の岬・

以て大阪市の北端をなす東淀川區・西淀川區と界し、東南は三島郡、東北は京都府南桑田郡、北は同船井郡及び兵庫縣多紀郡、西は同川邊郡と界す。昭和十一年南部に於ける豊中町は隣接の藤田・櫻井谷・熊野田の三村と合して豊中市を建て分縣獨立せるため、その南に位する中豊島・南豊島・庄川・小曾根・豊津の五村は郡の北部の諸町村と隔絶せらるることとなれり。郡の南部は西流する淀川、南下する猪名川等の沖積地にして大阪平野の一部をなし土地平坦なれども中央部以北は丹波高原の南縁に當る山地にして、北部の南桑田郡との境上には鯉尾山・小和田山、東境三島郡界には明ヶ尾山等ありて高度六十七七百米を示し、西北境川邊郡界にも三草山・妙見山等ありて五、六百米の高度を有す。その間の水は能勢川・余野川となりて流れ川邊郡に入りて猪名川と會す。南部低地は田畑よく拓けて米・麥・粟・菜種・蔬菜類の産多く、大阪市の工業地帯に接近して工場も多し。中にも夙く有名なりしは池田の清酒なりとす。北部には蜜柑を主とする果實、林産特に木炭の産を以て著る。道路よく發達し西國街道は南部を東西に走り、池田街道と之に連る能勢街道は郡を南北に通じ、また池田町より余野街道延びて中央部を東北に貫き、丹州街道は能勢街道より駛れて西北部に北上す。社線阪神急行電鐵の寶塚線は大阪より池田街道に並走

し、池田町を貫きて川邊郡に出で、池田町より發する社線能勢電氣軌道線は郡の中部の能勢妙見に至りて社線妙見鋼索鐵道線に接続す。本郡は明治二十九年豊島郡と能勢郡とを合併して建てしもの。

トヨノ

豊野郡 埼玉縣武蔵國北埼玉郡の東部。加須町の東方約四軒に位し、東は北葛飾郡靜村に隣る。面積六方軒餘の小村互れども全村平地にて南境を吉利根川流れ、田・畑よく拓けて米・麥・粟を産す。加須町及び北葛飾郡栗橋町へ縣道を通じバスの便あり。

豊野村 埼玉縣武蔵國北葛飾郡の中部。吉利根川の東岸にあり。南は松伏領村、北は幸松村に隣り、西北は川を隔てて南埼玉郡船橋町と相對す。面積僅に四・八方軒餘の小村なり。全村平地にて北と南方軒餘の畑地をなし、その餘の大部分は田地拓く。米・麥・粟・野菜を産す。縣道粕壁町に近く交通不便ならず。

豊野村 長野縣上水内郡神保村の大字。省線信濃本線の一驛(明治二十一年設置)にして社線飯山鐵道の接続點。放方町の南約六軒、守口町の東約八軒、面積僅に四・五方軒餘の小村なり。東部に海拔二・三〇米程度の山林地ある外は地勢低平にして、米を主とし麥・粟種等の農産、綿織物の工業あり。河内街道中央を南下し社線京阪電鐵京阪線の終屋川

戸屋鼻等の突出となり、山脚は直に海波に洗はれて崖をなす。低地は東部に僅に發達して田畑となり、米・麥・粟を産し木材、薪炭を出す。魚族の産も多し。蓋井島は戸屋鼻の西方約六軒にあり。西部には金比羅山の連嶺、東部にも山地ありてその中間は低く、遠望すれば恰も二島の如く見ゆ。山脚は直に海に迫りて海崖をなし、特に西海岸の崖は著しく發達す。島上に蓋井島燈臺あり、燈質速閃白光、遠距離二五・五哩。古くは和名抄、豊浦郡宮津郷に屬す。宝津浦あり、關東評定傳に依れば、建治元年四月十五日、蒙古(改大元)使杜世忠、副使何文著都魯丁等、長門國宮津に着すとあり。村名は豊浦郡の西端の義なるべし。(阿彌陀寺)大字津下にあり。淨土宗。蓬來山毘沙門寺と號す。明應三年創建、開山を月峯壽印上人とす。境外佛堂に甲山觀音堂あり、當國三十三所靈場の一たり。

トヨニシカミ

豊西(郡) 豊浦郡(山口縣)

トヨニシモノ 豊西(郡) 豊浦郡(山口縣)

トヨニシナカ 豊西(郡) 豊浦郡(山口縣)

トヨニシカミ 豊西(郡) 豊浦郡(山口縣) 豊浦郡にありし村。大正十一年吉見村と改稱。後町制を布きしが昭和十二年下關市に編入さる。

豊野村 岡山縣備前國上房郡の東部。高梁町の東北約一〇軒。南は上竹莊・下竹莊二村に接し、東は御津郡長田村・新村と界す。面積一七・八三方軒。西北境と東境には高度五、六百米内外の山地あり、その南側は海拔二、三百米を有するも概ね平坦にして耕地よく拓げ、米・麥・粟・酒類の産あり。省線備前線本野山驛(津川村)より吉川村に至るバス路線に當り交通不便ならず。古くは和名抄、賀夜郡多氣郷に屬せるもの如し。

トヨニシヒカシ 豊西(郡) 豊浦郡(山口縣) 豊浦郡にありし村。明治三十一年豊井村と改稱。

トヨネ 豊根村 愛知縣三河國北設樂郡の東北部。天龍川の一支流大千瀨川の上支大入川の山谷を占め、北は長野縣下伊那郡の西南部と界し、東南は天龍川を隔てて靜岡縣磐田郡佐久間村と對す。面積一〇方軒を越ゆ。本曾山脈の東南端部に當り、その三山肢東境・中部・西境をいづれも南方に延び、西北境の茶白山(一四一五米)を最高點とし、皆高度千米内外を示す。村内はこの三條の山肢のため東・西の二谷に分れ、瀧水南に流れ、西のもの南境に近く中部の山肢を横ぎりて東谷の水に合し、大入川となりて南隣國村に出づ。山地廣く植林行はれ林産多く、谷地には米・粟の産あるもその額多からず。飯田街道西の谷を北上し川宇速を經て高度一〇六〇米の峠を越え下伊那郡且間村に出づるも交通は便ならず。(川宇速花ノ木自生地)指定天然記念物。花の木の自生區域の境界並に要所の一にして分布の範圍を示し學術研究に資す。(津島神社)大字下黒川に鎮座。郷社。祭神、須佐之男尊・天照大御神・鶴草葺不合尊・彦火火出見尊外六柱。古來當地の靈十神として崇敬せらる。

トヨノ

豊能郡 大阪府七郡の一。東岸國の一部にして、府の北西端部を占め、土地南北に狭長にして南は神崎川を

トヨノムラ 豊村 書紀景行紀に見ゆる筑紫の古地名。天皇筑紫御巡狩の時、葦北より舟出し給ひ火國に至り給ふ時、不知火を尋ねて八代縣のこの地に着き給ふ。その地帯かならざるも恐らくは後の和名抄八代郡豊福郷の地にして、いま熊本縣下益城郡豊福村・豊川村の邊をいふか。地は八代灣の東北隅に當る。

トヨハシ 豊橋市 愛知縣三河國東南部の工業都市。渥美半島頭部の北に當り、北は寶飯郡、東北は八名郡、東は靜岡縣濱名郡、南は渥美郡に接し、西は渥美灣に臨む。東西一四・五軒、南北一四・二軒、面積

一〇四・五一方軒。人口約一四萬七千。赤石山脈の西南部に當る弓張山脈は東境を高二三〇米を以て西南走するも、域内の大部分は北部を蛇曲流する豊川を以て梅田川・柳生川・江川等による沖積三角洲にして地頗る低平なり。南部には高師ヶ原横ばる、これは傾動を受けし隆起デルタにして北に向ひて緩傾斜的隆起の状態を示し、その西方海岸には顯著なる砂嘴の発達を見る。又東南部一帯には利兵池・長三池・大池其他大小數十箇の池沼あり。産業は工業を第一とし、工業額が市の生産総額四二五萬圓(昭和十一年、以下準之)中三〇九萬圓を占め、農産の四九萬圓、水産の二二萬圓、畜産の二〇一萬圓等に次ぐ。農業戸数は全戸数の一八%に當り耕地面積約五四八三ヘクタール、米(一九萬圓)を第一とし小麦・大麦・蔬菜・繭(九八萬圓)等を出す。農家副業としては何牛・養鶏・養兔等盛んで、特に鶏卵は産額一三五萬圓に達す。水産は鯉・鱒・鰻・鱈・あまのり等の養殖最も著はれ、産額一三二萬圓、漁獲物は鰻・鱒・鰻・鱈等を主とし、蒲葦・竹輪・佃煮・乾海苔等の水産製造(九五萬圓)も行はる。工業は交通・運輸の至便なるにより近年著しく發展し、特に背城に於ける生産の關係と、河水清冽なる豊川の恩恵を受け製紙業及び染織工業は最も盛なり。蠶糸類の年産二〇八九萬圓中、生糸は一三五八

紡織工業	五、〇〇二
綿織物	三、七六
マニラ麻織物	一、〇五七
綿製物	五〇八
絹製物	三九七
絹絲紡織	一、八〇七
金属工業	三二四
機械器具工業	三八三
窯業	三一九
化学工業	三二六
木製品工業	八四八
指物	三三七
臘物	二一六
五新工業	九八
食料品工業	三、七八六
味噌	五五六
醤油	四二五
和菓子	七六四
洋菓子	七〇四
水砂糖	三九三
清酒	三〇八
皮革製品	一一七
皮製品	一四七

萬圓、玉絲五五七萬圓を占め、兩者の工場数二四一、練糸釜数一二、七二五、職工数一一、五九五を示し、特に玉絲は三河玉絲の名を以て世に知られ、岡谷(長野縣)に於ける製糸業と相並びて本邦製糸業界の二大中心地をなす。その他の工業を表示するに左の如し。(単位千圓)

毛筆	四五二
紙製品	一五二

銀行・愛知銀行支店等及び滙美電鐵・豊川鐵道・豊橋電鐵等の各本社あり。(沿革)この地は和名抄、滙美郡橋太郷及び八名郡多米郷の地。天慶三年東國平定の報賽として朝廷より皇大神宮へ奉られたる館海新神戸の地にして、當時既に今の市域の東西及び中央部に戸日蕃殖し、文化進運の觀ありしが、降つて鎌倉時代に至りて、東端は海道の要地となり、中央部は東國と京地との交通の衝となり、漸次發展の勢を示し、永正二年牧野古伯が今橋城を創築せしよりまた軍事上の要地となる。江戸時代に入りて海運五十三驛の吉田宿として股賑を極め、寛延以後大河内氏の居城たり。この地中世は今橋と稱せられ、大木の頃吉田と呼び、明治二年豊橋と改稱せらる。同四年豊橋改稱の際、三河縣に屬し、のち信州伊奈縣に合併せられ、更に額田縣に隸屬せしが、同五年愛知縣に合併、同二十二年町村制施行の際町村制を施し、同二十八年豊橋村を合併、同三十九年滙美郡花田・豊岡村を合併して市制を施行し、昭和七年滙美郡高師村・同半呂吉田村・實飯郡下地町・八名郡下川村・同石巻村大字多米を合併、同八年院之子町を分離し今の市域を擁することとなり。明治天皇、明治元年東京行幸の際及び京師還幸の際、同二年東京御再幸の際、同十一年北陸東海御遊幸等に御小休ありし。吉田城の市北部、豊川の曲流部に臨む。水

正二年、牧野成時の築く處、享祿二年世良田清康の有となり、天文十三年以降、小原實實、ここに居城し、永祿八年より二十七年間、酒井忠次これを守り、天正十八年池田輝政本城に入る。その播磨に轉じて後、松平清宗・其子忠清・松平忠利・水野忠清・水野忠善・小笠原忠年・久世重之・牧野成春・松平信祝・松平資訓等を経て松平信復(大河内氏)これを領し、子孫相繼ぎて明治維新に至る。城址はいま少兵第十八聯隊の兵營となる。豊橋藩(吉田藩)の藩校時習館は寶曆二年松平信復の創立せるものなり。(一連木城)明應年中、戸田宗光の築きし所。城外は古の葦原にして徳川・武田兩氏の劍戟相摩せし古戰場たり。「吉田神社」關原町に鎮座。縣社。祭神、素戔鳴尊。創立年月は詳かならざれども、永正三年牧野古伯豊橋城造營ののち當社を以て城の鎮守となし大いに崇信すといふ。爾來今川義元・酒井忠次・徳川家康等の崇敬厚く各社領を寄進す。例祭は七月十三日より三日間に於て、吉田天王祭(祇園祭)とて著名なり。「神明社」淡町に鎮座。郷社。祭神天照皇大神。白鳳元年の鎮座と傳へ本殿・拜殿の外、神饌所・渡殿等あり。例祭、二月十四日・十五日。「八幡社」花田町に鎮座。羽田八幡社と稱す。郷社。祭神譽田天皇。白鳳元年の勧請と傳ふ。永祿年中、今川氏の崇事せるあり。古來羽田郷の産土神たり。本殿・拜殿・幣殿

の外、渡殿・祭器舎・寶物殿等あり。例祭九月廿四日・廿五日。附近に羽田文庫あり。「平呂八幡宮」平呂町に鎮座。郷社。祭神、品陀和氣命・息長足姫命。文武天皇元年の勧請と傳ふ。國內神名帳に「從五位上牟留天神」と見ゆるものこれなり。今川・徳川兩氏の崇敬あり。元治元年正一位を授けらる。例祭四月十五日。「鞍掛神社」村社。鎌倉街道に當る。建久元年源頼朝上洛の途上、此地を過ぎ鞍を奉納せし所といふ。「悟真寺」關原町にあり。淨土宗。孤峰山淨業院と號し、貞治五年善忠上人、足利義詮に請ひて建立せし所にして本尊が阿彌陀如來、胎内に恵心僧都最後作の彌陀三像を安置す。書院上段の間に御隠御殿と稱し、長祿戰に徳川家康此に隠れしといふ。明治十一年明治天皇の行在所たり。「正林寺」曹洞宗。市内最古の寺院にして鎌倉初期の創建といふ。門前を緩流せる小泉は吳竹の水と稱せられ、豊橋三名水の一、昔茶道の宗匠宗偏が城主の茶の湯に供せしといふ。「赤岩寺」多米町、赤岩山の南麓にあり。古義眞言宗。神龜三年聖武天皇の勅願により僧行基之を開創すと傳ふ。天安元年、文徳天皇の勅を奉じて空海の十大弟子の一人なる果隣これを中興し眞言宗となす。現に同宗高野末。愛染堂本尊愛染明王坐像(木像)一軀は鎌倉末期の作にて現に國寶たり。「豊橋別院」花園町にあり。東本願寺別院、又は吉田御坊

ともいふ。真宗大谷派。西竺山誓念寺。天文初年本願寺十世證如の開創に係る。明治十二年舊稱を廢して豊橋別院と改稱す。「龍指寺」吉屋町にあり。曹洞宗。永正元年駿河國守今川氏親の臣牧野傳藏(古伯)の開基に係り、休屋宗官和尚を開山とす。本尊は一面觀世音菩薩なり。「高師ヶ原」市の南部。古來高師山として知られ、いま陸軍演習地となる。原に有名なる高師小僧・長葉石持草を出す。前者は樹枝状をなせる沼鐵礦塊にして、植物の根の周圍に含水酸化鐵が沈澱し、後に根が死滅して中央に空洞を生ぜしもの、止血劑として用ひらる。後者は食糧植物の一種なり。「豊橋電氣軌道」豊橋市内の電氣軌道。省線東海道本線の豊橋驛前より東田に至る東田本線(三・一軒)と神明より柳生橋に至る柳生橋線(軒)とより成る。

トヨハタ 豊畑村 千葉縣下總國匝瑳郡の東部。西は八日市場町との間に平和村を挟み、東北は海上郡旭町に、東南は宮浦村に隣る。面積七・五七方軒に過ぎず。九十九里濱沿岸平地の東北部を占め、概ね平坦にして西部には田地、東半には畑地多く、米・麥・繭を産し、養鶏行はる。縣道東西に貫き西は八日市場、東は旭町(海上郡)への便あり。また北部より省線武本線東走して干潟驛(旭町大字太田所在)に近く、交通不便ならず。

宇治山田市との間に御園村を挟む。西南は小俣町に接し、東は宮川の吐口を隔てて大湊町に至る。面積一一方餘。全村平坦にして西部は明野ヶ原に續き、東部は宮川の分流これに潤し、米・麥・蕎麥を産し、水産・畜産また少からず。紡績行はれて工産頗多し。社線參宮急行電鐵明野驛(小俣町内)に近し。和名抄に慶會郡伊蘇郷とあるは本村及び北濱村に當り、本村の大字磯村は郷名の遺稱なるべし。磯村の宇袴田に古墳あり、大若子命墓なりといふ。大若子命は倭姫命に隨從し、大神宮饗座の際に忠勤し、伊勢國造兼大神主と定められし命なり。〔磯神社〕大字磯に饗座。郷社。祭神天照大神御靈。式内社。一に伊蘇社。垂仁天皇二十五年の創建。舊社地は後年宮川氾濫して崩壊せるにより現社地に奉遷せりといふ。例祭、陰曆十一月一日。

【豊濱町】香川縣讚岐國三豊郡の西南海岸。西は濠洲に面し、觀音寺町の南方約五軒、その間に柞田・大野原の二小村を隔つ。面積僅に二・四七方軒なるも三豊平野の西南部に占め村内悉く平坦にして耕地拓げ米・麥その他の農産あり。又近來工業盛にして郡内に於ては觀音寺町に次ぎて繁榮し、その和田濱葉落は貝鉋の製造・織物並に白木綿服地加工品を以て著る。沿海には柔魚・鯛等の漁り少からず。伊豫街道と省線讚岐本線通じ、後者に豊濱驛(大正五年設置)あり、交通の便よろし。古くは和名抄、刈田郡姫江郷の内とし、舊名を和田濱といふ。明治三十一年姫ノ江村を豊濱町と改む。(八幡神社)大字和田濱に饗座。郷社。祭神、帶仲日子命・帶姫命・品陀和氣命。例祭十月六日。

トモハラ

豊原町

豊原市 豊原町の首座。本島南部の

高にして、毎年渡來して波上に群遊し、群集するイカナゴを好餌としてこれを追ふ。同時に海底近くにはイカナゴを好餌とする産卵期の鯛群り来る。漁夫はあひの群遊するところを目標として多数の漁船を乗廻し、イカナゴを捕獲す。この壯觀は毎年三月下旬より五月初旬の間に見らる。イカリ漁場は怒り網代或は鳥附網代ともいひ奇島に一箇所、堂島の二窓に一箇所、大湊に馬乗及びスメの二箇所あり。

鈴谷平野の中央に位置す。北は豊原郡豊北村、東は富内郡富内村、西は眞岡郡清水村、南は大泊郡千歳村と界し、東西約三〇軒、南北二〇軒餘。東境には鈴谷山脈の主峰鈴谷山(一〇四六米)を初め峴登山(一〇二三米)等聳えて西方に低夷し、西部は樺太山脈に屬する山地にして春日岳(七九三米)等あり、此等東西兩山地間は謂はゆる南中央低地帯にて、鈴谷川南流しつつ晴氣川・軍川・弓矢川・玉川・一番川・大澤川・清川・唐松川等の各外支を併せ中部を緩流し、尙ほその西に中ノ川・ツイ川等あり何れも千歳灣に注ぐ。此等流域の平野部は南の一部に枯林燧木の亂立する卑濕地を見る外は地味肥沃、農牧に好適し處々に開墾地發達す。氣候は海岸地方に比し寒暑の差やや大にして降雨は秋冬の交に多く夏季に少く、初雪は概ね十月下旬に之を見るも鈴谷連山は十月月上旬には冠雪あり、融雪は概ね平均四月中旬とす。市街地の接續部落たる西部の軍川・並川、南部の大澤・下並川・清川・豊原・中澤等ははなはだ農業村落にして畑作農業行はれ、燕麥を第一とし稗麥・小麥・豌豆・馬鈴薯・牧草等を出し、牧場面積三千ヘクタールを超え馬・牛・豚を飼養し酪農業も行はれ、邦領樺太の農業の核心地帯をなす。工業は各種産業中の首位を占め、市街東部の王子製紙工場にて硫酸酸パルプ・洋紙等を製造し、其他製材・酒造等行はる。塩産東海

岸線は平野東縁を南北に縱走し豊南(大正十一年設置)・大澤・豊原、共に明治四十年設置)・北豊原(大正十二年設置)の各驛あり。豊原驛よりは西久保驛(大正十四年設置)を経て西方眞岡に至る豊眞線を岐ち、大泊港(約四二軒、眞岡へ約八〇軒にて達す。道路は東海岸線鐵道と並走する東部縱貫道路あり、市街西端より眞岡街道・留多加街道を、豊南より東方富内に至る街道を分ち、いづれも改修よく行はれ車馬の往來に便なり。市街は鈴谷川が支流玉川と合する左岸に位し、街風整然、その廣きは縱横各約二軒に及び、東西・南北の縱横に十五間の大道を設け、これを十間道路を以て六十間四方の區劃とし、更にその中央に八間道路を設けて之を細分す。最も繁華なるは大通及び西一條通にて商店・旅館・康亭・劇場・會社・銀行等軒を並べ、諸官衙・學校及び住宅は主に東一條通に東にあり。樺太廳・豊原支廳・豊原林務署・樺太鐵道事務所・樺太地方裁判所・豊原區裁判所・札幌判務所支所・函館專賣局出張所・警察官練習所・森林作業所・豊原醫院・樺太博物館・中央試験所・廳立豊原中學校・同高等女學校・商工會議所・北海道拓殖銀行支店・樺太日日新聞社等あり。市街近郊には大澤飛行場・旭ヶ丘スキー場・豊原競馬場・日持上人遺像・軍用戦跡等あり。此地は露領時代にウラウミロフカと稱し、村民監督官を置き、流刑囚

の放逐者をして農牧に従事せしめし所、その跡は市街北端の舊市街と稱する地にしてロシヤ式丸太造の家屋によりて當時を偲ぶを得べし。我國の占領當時は民戸百に滿たざりしが、明治四十一年八月大泊より樺太廳及び守備隊を移し、樺太統治の中心たるの基礎漸く定まる。大正四年六月、現今の市街地を豊原郡豊原町となし部落總代制により地方自治に當らしむ。同十年西久保村遺分を編入して町制施行。同十二年四月西久保村の殘部と豊南村等を合して現存の境域となる。昭和十二年七月市制施行。従つて人口も大正九年一九八七人なりしも昭和五年三二六五〇人、同十一年三五八四九人と増加す。(軍用戦跡)市街の西北約四軒。日露役に西久保少佐以下約四十名の戦死せし地。西久保神社を建てその靈を祀る。豊眞線西久保驛の名またこれより出づ。

【樺太別院】眞宗大谷派。もと布教所たりしが、大正三年別院に改む。本派樺太開教總本部たり。【豊原郡】樺太豊原支廳二郡の一。豊原市の北に隣り、東北は榮濱郡に、西は眞岡支廳眞岡郡に接す。行政上は昭和十二年豊原市の市制施行により今は豊北・川上の二村より成る。西部には樺太山脈連より成る鈴谷山脈、西部には結晶片岩類互し、その中間は鈴谷川の流域なる南中央低地帯をなす。低地帯は土地豊饒にして農牧に適し、良好なる所は既に開墾せられ幾多の農業村落發達す。豊北村には養蠶業發達し、鈴谷川の上流川上村には川上炭礦あり。【豊原支廳】樺太にありし支廳。昭和十二年七月豊原支廳と改稱す。【豊原村】山形縣羽前國西置賜郡の東南部。長井町の西南約六軒。面積三五方軒餘。西半部は越後山脈朝日嶽山塊南肢の山地にて、西境に龍ヶ嶽・間ノ洞山等高き六〇〇米の連嶺あり。東半部は米深盆地の西北部に連る長井盆地の南部にて、最上川の上流白川東南境を東北流し、西部山地より来る萩生川東流してこれに合す。東部には水田廣く、物産に米・蕎麥・馬等あり。省線米坂東線東部平地の西偏を南北に走り萩生及び羽前橋の二驛(昭和六年設置)を置き、縣道また長井町方面に通じてバスの往來あり。(諏訪神社)大字萩生に饗座。郷社。祭神、健御名方

命。本社創立の由來は天延年中天下群謀割據の頃信濃國諏訪神社の神職木村忠中なる者、右神社の神靈を帶びて當國へ參じ此處に諏訪の小社を造營し、此地方の山谷沼澤を開墾す。其地甚だ廣大にして漸次繁榮するに至る。郷民これを神徳に依るものとし、舉つて本社を崇敬し以て今日に及ぶ。例祭、三月及び七月二十七日。【豊原】愛知縣西加茂郡にありし村。明治三十九年他の三箇村と共に廢し小原村を置く。【豊原】愛知縣丹羽郡にありし村。明治廿九年瀬部村と改稱。瀬部村は明治廿九年他の五箇村と共に廢し西成村を置く。【豊原村】奈良縣大和國山邊郡の東北部。東は三重縣名賀郡と界し、西北部は添上郡に隣る。面積二九方軒に餘るも笠置高原の東南部に於て殆ど山地をなして森林廣く、ただ東部を北流する名張川の支流ありてその谷に幅狭き低地あり、米・麥を産し養蠶盛にして蠶を出す。村道數多村内を走れど交通一般に便ならず。「毛原廢寺址」指定史蹟。大字毛原にあり。笠間川を南にせる山麓に存する寺址にして造立の由緒沿革詳ならずも、残存の礎石の規模及び配置・遺瓦等より見て、奈良時代大伽藍の遺址と推せらる。金堂址・中門址・南大門址及び塔址等の多數の礎石殘存す。

【豊原】和歌山縣西牟婁郡にありし村。昭和四年三川村へ編入す。【豊原村】岡山縣備前國邑久郡の南西部。西は吉井川下流との間に豊村を挟み、北に今城・邑久の二村あり。面積七・七四方軒。村の大部分はよく開墾されたる臺地性山地にて南境の最高點は海拔一八五米を示す。北部は吉井川の沖積平地に續き平坦にして耕地拓げ米・麥・酒類の産多くまた蕎麥・梨・薄荷等を出す。西方の上道郡西大寺町へバスを通ず。村内に貝塚あり、アイヌ式土器を發掘せりと。大字長沼に巨石城址あり、天文年中、浦上氏の老將宇喜多能家ここに據る。【豊原村】香川縣讚岐國仲多度郡の北海岸。東は丸龜市に連り、西は多度津町に接す。面積四・三五方軒の小村なるも肥沃なる丸龜平野の北西端を占めて土地低平、耕地頗るよく拓げ米・麥・野菜等の農産物多し。省線讚岐線多度津驛に近く多度津町より善通寺町に至る縣道貫通し交通便なり。古くは和名抄、多度郡葛原郷の地にして大字葛原はその遺稱とす。此地は鴨の社領なりしにや大字に北鴨・南鴨の名遺る。「道隆寺」大字北鴨にあり。古義眞言宗。桑田山明王院。現に同宗大覺寺本にて四國八十八所第七十七番札所。寺傳に天平神護二年和氣善茂の次子道隆此地に桑樹千株を植ふ、桑樹長ずるに及び之を以て樂師如來像を刻み一字を創建して之を安置せしに始る。延暦年間道隆の孫朝祐之を再興す。弘仁年間山

内十四坊成る。星曼茶羅圖一幅(根本着色)は國寶。御詠歌(ねがひをば佛道除入り果てて菩提の月を見まほしき)に

す。畜産にて水牛・黄牛は主として運搬及び農耕に使役せられ、豚は種豚及び肉豚の生産地として囑目せられ、管外輸出逐年増加の趨勢にあり、鶏・鶯・鶯等の家禽類と共に一般農家に於て普く飼育せられ、改良堆肥豚舎の普及と共に一面採肥上の利益と相俟つて農村経済の有力なる一支柱をなす。尚ほ内埔庄后里には州營の大牧場建設せられ、總督府の馬産計畫に従ひ將來全島産馬の中心たらんとし注目せらる。工業の主なるものは製糖・製麻・製材・製紙・製油・製氷及び木製品・竹細工・煉瓦・瓦の製造等にして、その他麵類・醬油・紙類・漆子類等相當の生産もある。潭子庄の帝國製糖株式會社潭子工場・内埔庄の大目製糖株式會社月眉製糖所・豊原街の臺灣製糖株式會社・豊原製紙製材株式會社・豊原製材工場・豊原製氷株式會社等の外は何れも小規模もしくは家内工業にして著しき消長を見ず。商業は豊原街の市街を中心に行はれ、その他の地方は僅かに日用雜貨及び食料品等地方日常の消費を幸じて充たすに過ぎず。豊原街はまた東勢郡及び新竹苗栗郡・大湖郡方面に對する物資の集散地として米穀・麻製品、其他食料品・呉服類等の取引盛に行はれ、商況活潑なり。林業は地勢上發展の餘地なく林産物として少額の木炭・薪・竹材・符等を産出するに過ぎず。交通は豊原街を中心とし、官設臺中線は管内東勢郡を

南北に貫通す。私設線には臺中輕鐵株式會社經營の豊原・土牛(東勢郡)線及び大日本製糖經營の后里・大甲線あり、縦貫道路は西隣大甲郡沙鹿街より東に延びて豊原街に至り、之より南に轉じて臺中に向ふ。その他指定道路・保甲道路備はり、乗合自動車よく發達し、近隣各主要地を連絡す。

唯一の製糖工場の外に罐詰製造工場及び製糖・精米・落花生油製造の小工場あり、後者にては總督府營林所臺中出張所に屬する廣大なる貯木場設けられ、また製材工場よく發達す。市街は臺中市の北方一五軒、大字豊原を中心形成せられ、臺中市に次ぐ北方の重要都市たり。東に東勢、西に大甲の兩郡を控へ、古來米の集散地として、また東勢郡及び遠く新竹州大湖郡の山地方面に對する物資供給地として重きを爲し、近時交通の發達に伴ひ當地方に於ける之が中心地となり、臺中線の豊原驛(明治三十八年設置)を中心に縦貫道路其他の重要道路四通八達し、東勢郡土牛との間に臺中輕鐵會社の私設鐵道ある外、四隣各主要地との間に乗合自動車を通ず。管内はもと總て揮東上陸に包含せられ、市街は現行制度以前は葫蘆墩と呼ばれたり。該地名の起源に就き二説あり、即ち一は蕃語地名フルトンの近音譯字なりといひ、他は土地の形状より起るといふも、前者を妥當とす。當地方は初め平埔蕃族たるバセツ部族のラホドプルー即ち岸裏社に屬し、該部族は康熙の末年以來早く清朝に歸附し、爾來頭目は清廷より官に任ぜられ相當勢力を振ひしといふ。其の子孫今日尚ほ西隣神岡庄大社等に現存し、昭和十年の震災による倒壊家屋より同家所藏の古文書多數發見せられ、學界に於ける該方面研究者の注目する所となれり。地方の開拓は清

乾隆初年間の漳州府詔南の人廖舟によりて編籍を阻かれ當時岸裏新庄と稱せしが其名は乾隆廿九年に成りし臺灣府志(續修)に見ゆ。尙ほ同書に「葫蘆墩堡内新莊の小有あり」とあれば、同年代以前既に一小市街の形成せられしを知るべく、その葫蘆墩と呼ばるるに到りしは嘉慶年間にあるもの如く、葫蘆墩街の名は同時代の契字に見ゆ。明治二十八年帝國領臺後數次行政上の變遷あり。之に伴ひ時に辨務署、時に支廳等を置かれ、大正九年十月地方制度の根本的改正と共に清領時代より存続し來りし堡を廢し、葫蘆墩を豊原と改稱し前記十一大字を一括して豊原街となす。

トヨハル 豊治 愛知縣海部郡にありし村。明治三十九年他の三箇村と共に廢し富田村を置く。

トヨヒガシゴ 豊東郷 山口縣豊浦郡にありし村。明治三十二年山口縣豊浦郡にありし村。明治三十二年トヨヒガシシモ 豊東下 山口縣豊浦郡にありし村。明治三十一年生野村と改め、大正十年下關市に入る。

定山の山頂により、開拓使の手によつて道を通じ畜室を建てて定山に管理せしめしに始まるといふ。(真駒内種畜場)大字平岸字眞駒内にあり。(北海道廳經營)明治九年開拓使時代の創設。面積二八方軒。種馬牛の貸付、種鶏及種卵の拂下、調査及び試験實習生の養成等をなし、本道畜産の改良増殖に貢獻する所太なり。(月寒種羊場) 大字月寒にあり。農林省經營。大正十三年もとの瀧川種羊場月寒分場及びもとの畜産試験場北海道支場用地を併合し設置せられしもの、面積一、一〇〇ヘクタールに近く、その内圃場は四〇〇ヘクタール。種羊の配付・貸付及び種付を行ふ。「港別鏡泉」豊平川の支流薄別川畔にあり。西方の無意根山は山岳スキー場として知られ、この地がその根據地なり。鐵鏡泉・加熱浴用。

トヨヒガシマエ 豊東前 山口縣豊浦郡にありし村。明治三十一年山口縣と改む。

トヨフ トヨマ

八ヶ岳の西北斜面にて、土地東西に長く、南は玉川村・泉野村に、北は北山村・湖東村に隣り、東は南佐久郡南牧・北牧の二村と界す。面積七一方秭餘。東境には八ヶ岳の主峯赤嶽(二八〇七米)をはじめ横岳(二八三〇米)・硫黄岳・天狗岳・中岳等南北に連る。東半部は急峻なるも西半部はなだかなる裾野にして桑畑よく拓け、草原は牧畜に利用さる。また西境を南流する上川とその支谷よりの水にて田畑は灌漑され、米・蕎麦の産を主とし、豆・蕎麦・蕎麦、他に楠・凍豆腐等も産す。大門街道西北部を通じ、省線中央本線茅野驛(永明村内)へバスの便あり。この地は和名抄、諏訪郡山鹿郷の内にして、延喜式の信濃十六牧場の一なる大獵牧(鹽原牧・山鹿牧ともいふ)はこの地なり。本村の字南大麓より昭和十二年十二月道路工事に際し墳墓土器を出せり、南大麓には式内社白山・八幡神社あり、南大麓の字山寺には往時弘法大師の開基の寺ありきと、これ等より推せば此地は古への山鹿郷大獵牧の中心地にして少くとも原始時代に此地が開発せられしを知るに足る。諏訪地方にて墨書文字の墳墓土器の出土せしは此地を最初とす。(赤嶽嶽泉)峯ノ松目(二五六七・三米)の南方、柳川北澤にあり。山小屋に供せられ、夏冬とも宿泊可能。(心光寺)字南大麓にあり。浄土宗。南嶽山常照院と號し、開山は通誓上人(享徳三載)なり。本村阿彌陀如來を安す。

【豊平】 福岡縣筑紫郡にありし村。大正四年廢し、大字豊富を福岡市に、大字金平を壱岐市に編入す。

トヨフク

豊福村

熊本縣肥後國下益城郡の西南部、宇土郡不知火村の東方約一秭。西は八代海岸の豊川村に接す。面積一一方秭餘。東半は城山丘陵の北部にて東境にて約二二〇米を示す。西半は八代平野の北部を占め、平坦にして田畑よく拓け米・蕎麦その他の農産物がに林産物からす。鹿兒島街道中部を縦貫し西北は松橋(不知火村)、南方は八代町へバスを通じ、省線鹿兒島本線の松橋驛・小川驛(南隣河江村)にも近く交通便利なり。古くは和名抄、八代郡豊福郷の地に於て、延喜兵部省式の豐向驛も蓋しこの地とす。大字竹崎は多良族阿蘇氏の一流竹崎氏の居りし所。弘安の役に大功を擲てたる竹崎五郎兵衛季長(贈從五位)も此地の人とす。明治三十五年明治天皇皇本行幸の際此地に御野立遊ばされ大演習を御統監遊ばさる。いま明治天皇豊福御野立所として指定史蹟たり。(豊福城)村上彈正少弼頼興の創築に於ていふ。寛正・文正の頃、菊池武邦、父爲邦を根みて當城に據りて叛き、父の軍に攻められて敗死す。また文明・永正の頃相良氏と名和氏と争ひ當城の名和氏の有に歸したる山見中、その廢城の年月詳ならず。(豊福阿彌陀如來)大字豊福に鎮座。社名。

祭神、健甕龍命・浦池姫命外十柱。永承二年關白藤原頼通の建立にして社領西町五反を寄すと社傳にいふ。のち豊臣秀吉社領を没收すと。例祭、十一月十二日。

曹洞宗。飯富山と號す。開山無々遠公和尚は内義隆の後裔なりといふ。文龜三年普照北洲門下これを再興す。(觀音院)大字西長田にあり。天台宗。得智山と號す。安食龍角寺末。元龜元年の創建。亮盈法印の開山にして、嘉永元年海應法印之を再建す。本堂大日如來を安す。

トヨフタ

十倉二

千葉縣東葛飾郡にありし村。大正三年田中村に合併す。

トヨマ

登米

【登米町】 宮城縣陸前國登米郡の東南部。東南は本吉郡西境中部に接す。地は東西にやや長く面積四六方秭餘。北上川は南西部を南に貫きて村を東西二部に分つ。東部は北上山地南部の志津川地塊に屬し西北に傾く低き山地をなし、西部は、南半は補田山の丘陵地、北半は追川低地等に屬する平坦地なり。農産に米・蕎麦・粟を出し、東部山地には森林・牧地ありて薪炭・馬を産す。一關街道は北上川に沿ひて南北に通じ、登米街道は西北佐沼より來りてこれに合す。登米の町は北上川の右岸に沿ひ、道路の分岐點と社線仙北鐵道の終點驛(大正十年開業)に當り、北上川の水運の便もありて地方物資の集散地たり。この地は和名抄、登米郡登米郷の地なるべく、中世、葛西氏割據の時ここに登米城を築き、城邊の地方に寺池郡の滋養あり、近世は藩の公族、伊達式部の食邑たり。明治六年寺池村・日野村・小島村・日根村を合併して登米村を成し、同

郡内風致に富み、郡内屈指の名刹あり。(福生寺)

二十二年町村制施行の際登米町と稱す。

トヨマ

登米城

中世葛西左京大夫平時信の居りし處。慶長九年、伊達相模守宗直水澤より此地に移り、子孫之を領す、明治維新の際水澤縣を置きしもの宮城縣に合併さる。(登米神社) 大字登米寺池に鎮座。祭神、譽田別命・田心姫命・市杵島姫命外五柱。本社地、寺池は天喜年中源頼義の屯軍せし遺跡にして前九年の役終りてのち康平六年鎌倉鶴ヶ岡に八幡祠を建てて戦功を褒し、また此地に勳請し權五郎景政をして修理を司らしむといふ。嘉應年中藤原秀衡更に神領を加へて地方の總領となし、その後葛西氏・伊達氏等亦厚く尊崇し、當時宮殿の結構社殿の莊嚴仙臺以北に冠たりしも、のち數度の火災に遭ひて衰頹す。例祭、四月二十日。

トヨマ

登米(縣)

明治二年八月陸前國に置きし縣。翌三年九月石巻縣を併せ、更に四月十一日に至りこれを廢して仙臺縣に併す。

トヨマ

豊登間村

福島縣磐城國石城郡の東岸中部。平市の東南約一〇方秭。東は太平洋に面し、面積約一〇方秭。常磐海岸段丘の一部を占め、中部に鹽屋岬突出し南の合磯岬、北の富神岬と相對し、その中間海岸と富神崎の北にはやや低地あり。米・薪炭を産し沿海には漁業行はる。道路は海岸に沿ひて南北に通ずるも交通未だ便ならず。鹽屋岬には第一等閃

トヨマ

トヨマ

白光、毎二十秒一閃光、光速計速二三・五哩の燈臺設けらる。この地は中世、佐竹氏の知行たり。豊間彦四郎義繁なるものあり、蓋し此地に住せしものか。豊間氏の館址あり、樋口館といふ。(密藏院) 大字沼ノ内にあり。新義眞言宗智山派。平城天皇の御宇一上人の開基、のち南都の光藏律師を請じて住持となす。境内に辨天堂あり、丹碧燦爛、彫刻亦精緻、岳稱これを圍みて莊麗を極む。

トヨマキ

豊登時

青森縣南津輕郡田舎館村の大字。省線奥羽本線の豊登驛(昭和十年設置)を置く。

トヨマツ

豊松村

廣島縣備後國神石郡の東北部。西は油木町、南は仙養村に接し、東は岡山縣瀬川上郡平川村と界す。面積五三方秭餘。高原性山地にて大部分は海拔五〇〇米内外を有し、東城川北境を東流して峡谷を造りこれに通ずる支谷中部と西部を南北に延び聚落は多くここに散在す。神石牛の産地として著はれ、農産には米・蕎麦・粟等もあるもその額多からす。東城街道の油木より、山陽道井原に連る縣道南部を横ぎりバスを通ずるも交通はなほ便ならず。この地古くは和名抄、神石郡三坂郷の内なりと云ふも詳かならず。明治三十年、上豊松・下豊松・有木・中平・笹尾の五箇村を合併して本村を新設す。

トヨマネ

豊登間根村

岩手縣陸中國下閉伊郡の東南部。南は山田町、西南は

上閉伊郡金澤村に隣接し、北方約一二方秭にして宮古町に接す。面積一二八方秭餘の大村。北上山地中部の東斜面に屬し、西南境上に高濃森(一一六〇米)・水呑場山(九四四米)・山母森(八〇七米)等連り、山脚東方に延び、東境には十二神山(七三一米)ありて西面に急傾斜をなし、大部分山地をなす。西境の山脈に發する諸水の中、大川は北部を、小川は中部を東流し相合して荒川川となり、更に南部を東北流する豊間根と合し東北隣津輕石村に出でて津輕石川となり宮古灣に注ぐ。これら諸川の會流する東北部には小平坦地ありて耕地拓く。大豆・蕎麦・米・稗・蕎麦・粟・馬鈴薯・小豆等を産し、山地には薪炭の産少からす。また畜産あり。道路また東部の平地を略ぼ南北に通じ、省線山田線も略ぼこれと並走し、豊間根驛(昭和十年設置)を設け、交通不便ならず。

トヨマ

豊登海村

千葉縣上總國山武郡の東南部。片貝町の南隣にて西北は東金町との間に正氣村を隔て東は太平洋に臨む。面積八・八方秭餘に過ぎざるも九十九里濱沿岸平地の中部に位し、中部には田地その他畑地よく拓け、米・蕎麦・粟を産し、養鶏も行はれ綿織物を産す。海岸は九十九里濱の一部にて單調なる砂濱をなし、鰻の漁業行はる。縣道は片貝町に通じ、同町には社線九十九里鐵道上總片貝驛ありて交通不便ならず。

トヨマ

豊登實

【豊登實村】 新潟縣越後國東蒲原郡の北東隅。阿賀野川中流右岸に合する實川の山谷にて、北は北蒲原郡赤谷村の東南部、東北は山形縣西置賜・南置賜二郡の西南部、東南は福島縣郡山郡奥村と界す。東北より西南に延び、長さ約二四秭、幅六・八秭、面積一四二方秭に餘る。北境の東部に飯豊山(二一〇五米)嶺りその西嶺は西ヶ岳・大日岳・鳥帽子山を起して北境を限り、大日岳の山肢は村の北部より南に延びて牛首山・笠掛山・水晶峰となり、東南境に連る三國岳・鏡山・立石山・高陽山等の山嶺との間に實川の谷を造り、西境をなす鳥帽子山の南嶺築山との間に支流實川の山谷を挟む。實川・実川は西境中部にて相合し、西南流して村の西南部を西北に蛇行する阿賀野川に合し、西隣日出谷村に出づ。面積廣きも殆ど山地にしてただ阿賀野川の谷に所々に狭小の低地ありて農耕行はれ米作と養蠶行はれ、人口も僅に一七六〇餘人を數ふるに過ぎず。阿賀野川に沿ひて若松街道・省線磐越西線通じ、後者は大字豊田に豊登驛(大正三年設置)を置くも交通便ならず。村内に電信電氣會社豊登實電所あり。出力最大五四〇〇キロワット。

トヨマ

鳥取縣

【豊登實村】 鳥取縣因幡國氣高郡の東部。鳥取市の西南方にて之と大正村を隔て、北方の湖山池との間に松保村を挟み、西南は明治村に接す。面積六・六方秭餘の

小村。土地西南より東北に延び、東南・西北の兩端には高さ一〇米臺の丘陵の末端連するも中部は西南隣明治村の西部より東北流する千代川の支流野坂川の流域にて土地平坦、概ね田地に拓かれ米・藁を産し、少額なれども畜産・工業あり。鳥取市へ近く交通不便ならず。古くは和名抄、高草郡野坂郷に属せるものなるべし。

トヨミシ

豊水村

熊本縣肥後國玉名郡の南部。菊池川下流の左岸に沿ひ、北は高瀬町と彌富村を隔て、南は大濱町、東は伊倉町に接す。面積僅に三・九九方町の小村なれども菊池川三角洲の地を占むるを以て全村平坦にして一望沃野開け、田・畑をなし米・麥の産多く、他にまた工業・畜産もあり。東部には高瀬町より南下する道路走り、北方約一軒にして省線鹿兒島本線高瀬驛へバスの便あり。景行天皇御西巡の御當村に御立寄あらせらるとの傳説あり。當時は菊池川吐口の堆洲なりしもの如し。然るに近世如藤清正の高瀬川掘替工事により現今の如き川筋となり豊富なる美田を得るを得たり。江戸時代は肥後細川民の所領にして小田手永に属し、伊倉會所の支配を受けたり。村名は村内を用水井手四通八達し、大川小川の水頗る豊富なりしより起りしものならん。

トヨヤマ

豊山山

愛知縣尾張國西春日井郡の東部。名古屋市の北約二・五

軒。東は東春日井郡に隣る。尾張平野の中部に位し、海拔二〇米餘の平坦地にしてやや湿地をなす。米を多産する外に名古屋市に供給する蔬菜を栽培し、養鶏も盛なり。街道は東西・南北に通する二條ありてバス通ず。人口は逐年増加し昭和十年の人口は三七〇五人、一方軒密度は六〇〇人にして極めて稠密なり。本村は明治卅九年、青山・豊場の二箇村を廢して置けるもの。(常安寺) 大字豊場にあり。曹洞宗。大永年中當地領主溝口富之助これを再興せり。本尊の釋迦・阿彌・迦葉の三體は、京都嵯峨の釋迦堂と同木同作なりといふ。

【豊浦津】 河内國(大阪府)の古地名。書紀仁德天皇の十八年大溝を掘りて上豊浦・下豊浦外二箇所の郊原を潤し水田を開き給ふ。和名抄、河内郡に豊浦郷あり、蓋しこの地なるべく、いま中河内郡枚岡村の大字に豊浦あり、古名を傳ふるものなるべし。

トヨラ

豊田浦

【豊田浦】 長門國(山口縣)の古地名。書紀・仲哀紀に天皇熊襲を征し給はんとて紀伊國德津津宮より西征し給ひ、此の地に宮室を營み給ひ豊田浦宮と云ふ。神功皇后も亦此處に至り給ふ。その地今下關市長府の海岸をいふ。

トヨウ

豊和村

【豊和村】 千葉縣下總國香取郡の南部。前は原郡郡八日市場町との間に同郡原島

に上り軍議を議らし、後三年再び小谷を圍みしときも、此處に旗を築き、羽柴秀吉をしてこれを守らしむ。天正元年淺井長政を亡ぼせしとき信忠をして此處を守らしむ。昔、せざらき長者の龍蝦虎御前なるもの、小蛇を産みたるを恥ぢ、附近の池に投じて死せりと傳説あり、地名はこれに由りて起るといふ。(玉泉寺) 大字三川にあり。天台宗。榮光山。天元四年の開創と云ふ。良源(慈慧大師)生誕の地と稱し今良源の廟あり。寺寶の慈慧大師坐像一軀(木造)は鎌倉期の作に係り國寶。(五村別院) 大字五村にあり。眞宗大谷派。本願寺教如故ありて法燈を弟准如に譲りてより、此地に來りて化導するや、郷士大村利部左衛門深くこれに歸して草庵を建てて獻す。のち宗風愈々興るに及び本堂建立を徳川家康に請ふ。家康、日下部玄昌を普請奉行として堂舎を建立。慶長七年教如京都東六條に東本願寺を興すや當院を掛所となし五村御坊と稱するに至る。爾後堂塔の増修相繼ぎ、いま地方屈指の大伽藍たり。

【東浪見村】 千葉縣上總國長生郡の東南部。一宮町の南、太東村の北に隣り、夷隅郡古澤村と界し、東は太平洋に臨む。面積九方町餘。西境より南境にかけては丘陵地の東端にて森林あり。東半は九十九里濱沿岸平地の南端を占め田・畑よく拓げ米・麥を産し、養鶏・養蠶も行はる。房總街道は丘陵の東側を縦

のは魍魎果(約四十八萬圓)・タロ芋(約四萬圓)・芭蕉(約三萬圓)等にして、その他甘蔗・鳳梨及び蔬菜等を出すも何れも特記するに足らず、また農家副業として豚・山羊・牛・鶏・鵞等飼育せらるれども殆ど見るべきものなし。住民は南洋群島中最も習俗低く淫風盛んなり。宗教は新約舊約の三倍を占む。この諸島は獨領時代は全く顧みられざりしも、我軍の占有當時はこの礁湖内が我が海軍全艦隊を入るに足るといふ點と、全群島の中央部に在るとの関係より司令部民政部を置かれ、一時盛大たり。然し南洋艦のパラオに設置せられてよりは一列任支廳長を置く一小行政区に過ぎず。

トラヒ

虎姫村

滋賀縣近江國東淺井郡の西南部。琵琶湖畔の竹生村の東に隣り、南は坂田郡神照村に接す。北部に虎姫山の小丘阜ある外は所謂近江盆地の一部にて地低平、姉川南部を西流し、南流し來る支流を合す。村内は姉川の沖積地にして水田よく開け、米を多産す。省線北陸本線は中部をほぼ南北に走り虎姫驛(明治三十五年設置)を置き、北國街道また西南部を通ず。(虎御前山) 虎姫村に孤立する山。また虎姫山とも書く。田川その南麓を流れ、北國街道道を隔てて東北に小谷山と相對す。小谷山は淺井氏三代の居城の地。元龜元年續田信長、淺井長政を小谷城に攻めしとき、この山

トラビ

東浪見村

走し、省線房總東線又これに沿ひ、中部に東浪見驛(大正十四年設置)を置く。この地は和名抄、墳墓那植生郷の内にして、里傳によれば往時日本武尊東征の御當海岸に上陸せられ、東方の波浪を望見して愛妃弟橘媛の危難に遇はれしを歎かれし所なるを以て東浪見の名生ぜり。附近は海水浴場として知らる。(軍荼利堂) 岩切にあり。法樂寺の所管にして軍荼利明王を本尊とす。創建年代詳かならず、一に行基菩薩の草創に係るといふ。本尊明王はもと天台宗の互刺軍荼利山東浪見寺の本尊たりき。寺城廣潤、海拔八〇米の高丘にありて標榜たる大洋に面し絶勝の地たり。

トラ

都蘭庄

として長く推察され、明治十九年玉置葉が阿呆島の羽毛採取の目的を以て百餘の入夫を移して以來定住者を見しも、同三十五年八月に大爆發をなし中央火口丘なる子持山は殆んど破壊飛散し、千歳灣に瀕せし民家は人畜と共に地下に葬られたり。この爆發の餘骸は今日にも及びそこに沸々と熱泉を噴出す。かく全島青色を失ふの慘狀を呈せしも、今や山腹には再び雜草繁茂し三十餘の居住者ありて羽茂採取及び若干の耕作を行ふ。

トラ

斗維南

朝鮮黃海道信川郡の東南隅。郡邑信川の東南東約一〇軒。南部海州郡との境には城岩山(四六八米)・屏風山(六一二米)・指南嶺・天峰山(六二五米)等連り東北に向ひて低夷するも、北境にも亦二〇〇—三〇〇米の丘陵連りし、域内また山勝ちにて、北部及び東部を流る龍寧江の一支箭灘川の沿岸に僅に平地拓く。産物は米・麥・豆・棉・煙草・藁等。幹線道路の通ずるものなく交通不便なり。

トラ

斗維南

【島鳥】 東京府八丈支廳に屬し、青ヶ島の南方約二〇軒に位する小火山島。東西二・五軒、南北二軒、島周七軒。最高處は東部の旭山(三八七米)とす。無人島

トラ

都蘭庄

臺灣臺東廳新港郡の南部。西境を海岸山脈走り、東は太平洋に面す。海岸山脈の山脚は域内に延互して殆ど山地を成し、ただ海濱に僅に平地あるのみ。隨つて産業中見るべきものなく、米・甘蔗・甘藷等を其主産物とす。道路は臺東街より新港に通ずる自動車道路海岸に沿ひて通すのみなるも、當道路は平坦路なるを以て交通至便なり。都蘭は古く都蘭に作りしが昭和十二年現名に改む。

トラ

島鳥

【島鳥】 沖繩縣島尻郡の一小島。久米島の北方約二〇軒、或は津島とも呼ばれ、標高七七七米の小火山島なり。

トラ

十里上峰

茨城縣の北東端、多賀郡磯原町と高岡村の

【島鳥】 長崎縣南松浦郡福江島大瀬崎の西南三三連。北緯三二度一五分、東經一二八度七分に位し三岩より成る。そのうち南岩最も大なり。洋中無人の孤島なるも長崎より琉球・臺灣に赴く航路に當る。

【島鳥】 沖繩縣の最北の島。徳之島の西方三八連、土噶喇列島の西南に當る霧島火山帯の火山島。二基の火山南北に並列して生じる雙子島にて北の硫黃岳(六九二米)を最高とし、明治三十六年大活動なせしことにて知られ、南は二重の外輪山をめぐらし、その中央に城と稱する火口丘を有す。火口原には火山活動以前は人口七百に近き島鳥村を形成し、硫黃の採取行はれたり。

トリイ トリイ

境上に最高點を置く。東降すれば常磐線原野に、西降すれば田村大畑に高至る。峠上より東面すれば太平洋の展望極めて良し。

トリイ 鳥井村

鳥根郡石見國安濃郡の北部。大田町の北、久手町の西に隣り、西は酒摩郡の静間村に接し、北は日本海に臨む。百米餘の丘陵起伏し東北部に延びて笠ヶ鼻の突出となる。低地は海岸及び丘陵間の谷地でありて耕地開く。本村は半農半漁の景観をなし、米・蕎麦を産し魚族も少からず。街道は海岸線に沿って走り久手町にバス通す。

トリイ 鳥居

【鳥居村】 白根火山群と浅間火山群との接合せる山腹に最高點(一三六二米)を置く。東降路は群馬縣吾妻郡嬬野村に属し、長野原方面に至り、西降路は長野縣小縣郡長村に属し、終に上田市に通ず。最高點の北東は岩山・四阿山を経て白根山に續き、南東は小在池山・籠ノ塔山を経て浅間山に連る。南西流する千曲川支流神流と東流する利根川支流吾妻川の水嶺たり。峠上に石の鳥居と小祠あり、日本武尊と橘姫を祀り、吾妻権現と稱す。峠上よりの展望よし。近年この附近はスキー場として名高く、北西方の蒼平は特に著名なり。冬季この峠をバスにて通行するスキーヤー多からず。

【鳥居村】 赤城山東方外輪帯を乗越り峠。群馬縣勢多郡黒根村と富士見村の境上に最高點(一三九三米)を置く。北西に降れば登瀛湖(沼)を右に見て大沼南岸大洞に着す。ここに赤城神社あり。南東に降れば遠く水沼乃至梨子嶺方面に至る。峠上より北西面すれば、東方駒ヶ岳、西方地蔵岳(一六七三米)の中間に登瀛湖・大沼を下瞰し、大沼の彼岸に薬師岳を望む。

【鳥居村】 甲府市の北東方約一八軒に當る。山梨縣東山梨郡諏訪村と西保村の境上に最高點を置く。南東斜面より笛吹川支流琴川發して南東流し、路はこれに沿って通す。北西方に至る路は荒川上流を経て金峰山方面に通す。

【鳥居村・鳥居嶺】 長野縣西筑摩郡本宿村と楢川村の境上に最高點(一九五米)を置く。北方に高遠山(一四六三米)續き、南方に姥神嶺最高點(一二七米)連る。永享三年の關原に依る中仙道の要所にして、東北降すれば厚川支流奈良井川流域に出て、南西すれば木曾川上流に至る。本曾路の東の關口に當る。いま省線中央本線はトンネルを穿ちて通じ、北麓に奈良井驛(楢川村)、南麓に葦原驛(本宿村)あり。峠の名は木曾の御岳(一説に諏訪)の遙拜所の鳥居ありしに因る。峠上より西方に御岳山、南方に木曾駒ヶ岳連嶺、東方には南アルプスの群峰を望見し、近くは木曾・奈良井の溪谷を俯瞰す。峠上にその昔お助け茶屋ありしといへど今は無し。されど、雲雀より上にやすらふ峠」の芭蕉の句碑及び木曾山道沿革碑立ち、又森林調査所もあり。西南麓葦原郡落にては傳説に名高きお六の製造行はる。この峠中古に於ては交通の要路なりしかば歴史的にも名高し。尙ほこの峠の東西麓にて人文・景觀を著しく異にするは注意に値す。古く三代實録に縣坂上峯とあるは、此の峠を指せるものなりといふ。三代實録・元慶三年九月「令美濃信濃國以縣坂上峯二爲國堺、縣坂上峯、在美濃國惠那郡與信濃國筑摩郡之間と

岸にあり。名古屋市の東北約二・五軒。尾張平野の中部に位し、卑濕なる平坦地にして庄内川岸には堤防を築きその水害を防ぐ。一面水田をなし所々に蔬菜畑を交へるに過ぎず。養蠶も行はる。省線中央本線は北部を通じ大宇和爾良に鳥居驛(昭和二年設置)、大宇和河川に勝川驛(明治三十三年設置)を置く。この地は和名抄、山田郡志波郷の内なるべく、近世拍井庄と稱せし地。明治三十九年、小野村・和爾良村を廢し本村を置く。名古屋藩島羽守備の際功績あり、明治の初めに草薙隊を編成して皇居の警衛に力めし林金兵衛(附従五位)は此地の出身者たり。

トリイモト 鳥居本村

【鳥居村】 長野縣信濃國上水内郡の東部。千曲川の左岸に位し、長野市界を距る東北約一〇軒。南と東は北流する千曲川を境に上高井小布施村・下高井高丘村に、東北は下水内郡豊井村に接す。面積一〇方軒餘。北部と南部は傾斜緩やかなる山地なるも戸隠山に發源する鳥居川西隣中郷村より來りて略中部を東南に流れ南境に於て千曲川と合しその沿岸に平地あり。田畑拓げ、山地の傾斜面に桑園あり。養蠶を主生業とし繭の産多く、外に米・麥の農産あり。社線飯山鐵道通じ東南部の大字淺野に信州淺野驛(大正十年開業)を設け、縣道また千曲川に沿ひて走り交通不便ならず。この地は和名抄、水内郡中島郷の内なるべく、村内に小笠原清之の築きし大倉城址あり。

トリイモト 鳥居本村 滋賀縣近江國坂田郡の南部。彦根市の東に隣り、西北は米原町に、南は大上郡岸谷村に接す。面積二七方軒餘。鈴鹿山脈北部の靈仙山(一〇八四米)の西岐東部に延びて高度六百米内外の山地をなし、西境にも佐和山の丘陵あり、その東側に低地あり琵琶湖岸に續く。農産に米・蕎麦・桑葉・綠肥用作物・麥・茶・菜種等あり、山地に木村・薪炭を出す。中山道西部低地を通過し北國街道これより分岐して北方長濱方面に向ふ、いづれもバスを通じ省線東海道線彦根驛・米原驛にも近く交通便利なり。古くより交通の要地として發達し、昔の鳥居驛址に大宇小野の邊なるといふ。後鳥居村和爾良村を置き給ふやこの地

り交通不便ならず。上古は延喜左馬寮式に見ゆる鳥養牧のありし處。(鳥養神社)大字鳥飼西に鎮座。郷社。祭神、崇徳天皇・菅原道真公。菅公筑紫へ左遷の途ここに船を寄せて岸に上りしに因み公を祀ると傳ふ。高槻城主松平氏・長井氏崇敬す。例祭、十月十八日。

【鳥飼村】 兵庫縣淡路國(鳥)津名郡の西南端。北に郡志町、南と東に三原郡松帆村・堺村あり、西は播磨灘に面す。面積一一方軒餘。海岸は直線的なる斷層海岸にして北部に佛崎の小突出あり、紅黄白紫黒等の小砂礫堆積し五色濱と稱せらる。村内概ね削刺されたる丘陵性山地にて松林多きも、中部に東隣廣石村より來る小流ありてその兩岸と山地の谷合に沖積地を形成し、耕地よく拓く。米・麥・蕎麦・果實を産す。縣道村内に貫通し東岸志筑町及び松帆村・郡志町へ自動車の便あり。西岸を鳥飼浦といふ。海岸附近は花崗岩・花崗質斑岩・判岩・粘板岩等大さ・色を異にする圓礫より成り、海水はこれを破壊して海岸に堆積さる。これより五色濱といふ。この地古くは鳥飼庄と稱す、昔鳥飼部を置きし處か。(八幡神社)大字鳥飼に鎮座。縣社。祭神、應神天皇・神功皇后・比賣大神。夙に石清水八幡宮の別宮として知られ、近世に入りては加藤・蜂須賀家の崇敬あり。例祭、十月一日。

なその領とし給ふ。小野に小町塚と稱するものあり、丹波興作に「大津八町で八百負ける。小野の宿の小野塚で九十九文してやらる」と見ゆ。村名は縣社山田神社の大鳥居あるに因るものなりと。佐和山は有名な佐和山城のありし處。鳥籠山は一に床山に作る。壬申の亂に村國連男依等近江方の將秦友足の軍を破りし所。文武紀・元年七月「男依等、討近江將秦友足於鳥籠山、斬之萬葉・四」近江路のこの山なるいさや川この頃は戀ひつつもあらん「岳本天皇」古今・東歌「犬上」とこの山なるいさや川いとこたへよ昔が名もらすな「金葉」妻戀ふる鹿ぞ鳴くなる獨寝のこの山風身にやしむらん「三宮大進」(佐和山城址)佐和山(澤山)あり。永正の頃より京極氏の支城たり。元龜二年二月、織田信長來りて、京極の家臣磯野員政をこの城に攻め員政出でて降る。信長、丹羽長秀に與へ次で明智光秀の有たり。天正十一年秀吉、堀秀政を封じ、次で十五年石田三成を封じ三成二十三萬石を領す。慶長五年九月、三成兵を美濃に出すや、その父爲成・兄重成等留守す。既にして三成の軍關ヶ原に敗れ、家康自ら將となりて來り、田中吉政・福島正則等をして攻めしむ。城兵叛するものありて火を縱つに及び、遂に落城し爲成以下一族悉く自殺す。翌六年二月、井伊直政に此地を賜はりしも水利の便あらずを以て、同九年七月井

トリウ トリカ

伊直勝の時城地を彦根山に移し城廢す。【山田神社】 大字宮田に鎮座。縣社。祭神、譽田別命・田心姫命・淵津姫命外二神。創祀年代詳ならずも天平年間再建の事あり。延喜の制小社に列せらる。例祭、五月二日。「上品寺」大字鳥居本にあり。眞宗本願寺派。もと天台宗を奉ぜしが明暦二年眞宗に改む。有名な法界坊の釣鐘は本寺にあり。法界坊海、明和六年江戸市中を勧進して鑄造せるものなり。「淨琳寺」大字原にあり。眞宗本願寺派。老谷山と號す。古へ天台宗にして大上郡正法寺村正法寺たりしが、天文の頃現宗に改む。(專宗寺)大字鳥居本にあり。眞宗本願寺派。洞泉山と號す。聖徳太子三十七歳の自像を作りて近匠橋時方に與ふ。時方出家して本寺を草創。のち現宗に改む。(少林寺)大字菅尾にあり。臨濟宗妙心寺派。大森山と號す。當國江國寺末。聖徳太子の開創と傳へ、初め天台宗たりしが正保三年崩山再興して現宗に改む。國寶、觀世音菩薩立像(木造、藤原朝作)一軀。

トリカ 鳥飼 筑後國(福岡縣)の古地名。和名抄に三浦郡鳥飼郷あり、いま久留米市に入るもと鳥飼村は郷名を得ふるもの、郷地は筑後川の東岸、久留米市の西部より安武村の邊に當るか。トリカ 鳥飼 筑後國(福岡縣)の古地名。和名抄に三浦郡鳥飼郷あり、いま久留米市に入るもと鳥飼村は郷名を得ふるもの、郷地は筑後川の東岸、久留米市の西部より安武村の邊に當るか。

トリカ 鳥飼 筑後國(福岡縣)の古地名。和名抄に三浦郡鳥飼郷あり、いま久留米市に入るもと鳥飼村は郷名を得ふるもの、郷地は筑後川の東岸、久留米市の西部より安武村の邊に當るか。

【鳥飼村】 筑後國(福岡縣)の古地名。和名抄に三浦郡鳥飼郷あり、いま久留米市に入るもと鳥飼村は郷名を得ふるもの、郷地は筑後川の東岸、久留米市の西部より安武村の邊に當るか。

トリウチ 鳥打村 東京府伊豆國八丈島支廳の村。八丈島の西に近く浮ぶ小島の北半を占め、南は宇津木村に接す。面積一・六八方軒。大平山火山の西北斜面を占め、裾野は直に海波に洗はれて崖をなし、平坦地なく檢査の地を開きて畑(水田はなし)及び家屋を結び、斷崖絶壁に棧道をかけて往來す。住民は漁業を主

八年福岡市に編入す。
【鳥飼】福岡縣三浦郡にありし村。大正六年久留米市に編入す。
トリガクビ 鳥ヶ首岬 新潟縣中頸城郡西北端の岬。岬端は赤色の斷崖を成す。一に名立鼻といひ舊稱を江崎と呼ぶ。遠望すれば鷲首に似たるよりこの名ありと。

トリカタ 鳥形山・鷄形山 高知縣高岡郡長者村と別府村との境に起る山。標高一四六〇米、山體秩父古生層及び石灰岩より成る。北方に石神峠最高點・三方山嶺、南方に矢管峠最高點連る。
トリカブト 鳥甲山 越後山脈白根火山群に屬する一峯。長野縣下高井郡界村に峙つ。標高二〇三八米。東麓は北流する信濃川の一支出津川に洗はれ、之を隔てて苗場山(二四五米)と對峙し、南方脚下には東流して中津川に注ぐ雜魚川を下駛し、遂に岩菅の連嶺を望見す。

トリカミ 鳥上村 鳥根縣出雲國仁多郡の東端。斐伊川の水源地に位於す。西は横田町に隣り、北は能義郡比田村、東より東南は鳥取縣日野郡阿尾線・山上・多里の三村と界す。面積三九・五二方村。東南境には八岐大蛇に關する傳説ある船通山(一四三米)聳え、北境には玉峰山(八二〇米)の東嶺ありて北・東・南の三境を限り概ね山地なるも中央には斐伊川上源の谷地ありて西隣横田村の中央部に連りて一の盆地を形成す。米・用材・木炭・蠶・牛馬等の産あり。また山を掘りて土砂を流し砂鐵を採集す。省線本次線の出雲横田驛(横田村内)より能義郡廣瀬町方面への縣道西北部に通じてバスの便あり。大字竹崎より約三村にして船通山の絶頂に達すべく六合目に鳥上灘あり。頂上は既望雄大にして鳥根半島・中海・穴道湖・藤川平野を指すを得。絶頂より南へ一〇〇米下れる處に有名なる榎の老樹あり。此山は記紀に見ゆる鳥髮山(一に鳥上峯)の地方は藤川の川上にて斐伊川の水源地なり。素戔鳴尊高天原よりここに降り、稻田姫を救ひて八岐大蛇を退治し、大蛇の尾端より靈劍を獲て天照大神に獻上し給ふ。この靈劍は天叢雲劍にて三種の神器の一となり、後に草薙劍といふ。

トリカワ 鳥川村 福島縣岩代國信夫郡の略中央部。福島市の西南約四村。面積七方村餘。西南に低き山地をなし、東北部は福島盆地の南部をなし南半には百米臺の丘陵あるも北半は土地平坦なり。荒川の分流北部を東流して阿武隈川に合す。全村水田・桑園多く、米・蕎麥を主とし、また麥・大豆等を産す。福島市より來る若松街道は北部を西方に通り、西南方土湯村へはバスの便あり。大森嶺山の嶺奥木村にも峠あり、金・銀を産す。この地は明治二十五年大森村の一部を以て新設す。〔下鳥渡供養石塔〕指定史蹟。陽泉寺の背後の丘上にあり。高

地上五尺九寸五分。幅四尺二寸、厚さ一尺二寸の安山岩質凝灰岩の石面を研磨し表面に彌陀三尊來迎佛を平肉彫に造顯せるものなり。左側に右志者爲悲母也平氏女敬白、右側に正嘉二年大才戌午九月廿八日と刻せり。鎌倉時代此地方に於ける彌陀來迎思想の表現を見るべき稀有のものに屬す。

トリゴエ 鳥越

【鳥越】 下鳥上見村(富山縣東礪波郡)

【鳥越村】 石川縣加賀國能美郡の東北部。石川郡鶴來町の南方、手取川中流左岸一帯の山地を占め、地南北に長く東は手取川によりて石川郡河内村・吉野谷村と界す。東南部には鷲走ヶ岳(一〇九七米)の北嶺南北に延び、西境には南方に大倉山(六五二米)、中部に火燈山(四八一米)、北部に揚原山(四八七米)等の山地連り、前者との間に手取川支流の谷をつくる。この川谷と、東境を北流する手取川沿ひに幅狭き平地ありて耕地拓げ、米・蕎麥等の農産物の外山林よりは薪炭を出す。東部の谷地を社線金名鐵道通じ加賀廣瀨・瀬木野・加賀河合・下野・上野・釜清水・下吉谷・西佐良・三ツ屋野・白山下の十驛(大正十五年開業)を置き、加賀廣瀨驛より対岸の金澤電軌の終點神社前驛に連る。近世隣接諸村と共に鳥越庄と稱せらる。末養合殿記に據れば天正十二年前田村家木村邊に攻め入りしを以て鳥越主(不詳)は後退し、その邊一圓利家の領地

となると。明治四十年別宮・河野・吉原の三村を廢し、その地域を以て本村を建て。村内に三階瀧・綿瀧・鶯巢瀧などあり。(白山別宮神社) 大字別宮に饗座。郷社。本社祭神古より詳ならざるも天忍尊耳命・栲幡千千姫命と傳へられたるは尤も近きもの如し。當社は白山比咩神社の攝社として所謂白山七社の一にして、一條天皇永延二年始めて社を置かるる由社傳に見ゆ。源平盛衰記・安元二年の條下に「浦泉寺開争の時別宮佐藤中宮三社の宗徒急ぎ下りて一なる云々」と記しあるを以て、往古よりその如何に盛大なりしかを推知するに足る。例祭、九月十五日。

トリサカ 鳥坂

【鳥坂】 下鳥坂(河内)

【鳥坂村】 八幡濱市の東方約一〇村。愛媛縣喜多郡南久米村に最高點を置く。北方の大洲町方面より南方の東宇和郡宇和町方面に至る交通路に當る。この時に鳥坂城址あり。土佐の一條頼房・長曾我部・宇都宮等と共にこの城を圍みし時城主村上古龍急を河野通直に告ぐ。通直、

毛利・小早川と共に來り撲けしが終に敵兵を退けたり。

トリサワ 鳥澤 山梨縣北都留郡富嶺村の大字。中央本線の鳥澤驛(明治三十五年設置)を置く。

トリシマ 鳥島 鳥島(肥後)

トリタ 鳥田 肥後國熊本縣の古地名。和名抄に山本郡鳥田郷あり、訓を缺くもトリタと訓むべきならん。その地畵かならずれども、いま鹿本郡吉松村の大字に豊田あり、香島田に近し。或は此邊に鳥田郷を擬すべきか。尙後考を俟つ。

トリテ 斗利出村 茨城縣常陸國新治郡の西南部。土浦町の西北方にてその間に榮村・藤澤村を挟み、西北は筑波郡小田村と隣す。面積六・七方村の小村なり。東境附近は臺地をなすも他は西南境を東南に流る標川流域の平地にて水田をなし、米を主産し、他に麥の産あり。土浦・北條間の縣道通じてバスの便あり。また社線筑波鐵道の常陸藤澤驛(東隣藤澤村内)に近く交通便なり。村内に城主不詳の小田城址あり。村名斗利出は蓋し磐より出でしものといふ。〔法運寺〕大字高岡に饗座。臨濟宗建長寺派。大雄山。復庵宗己此地に小庵を營みしが、後光嚴院大にその遺風を崇敬し給ひ、文和三年足利尊氏及び小田治久に命じて伽藍を造立せしめ宗己を開山たらしむ。境内の風光明顯、龜井の泉、雷鳴石等の奇石名泉あり。

トリテ 取田町 茨城縣下總國北相馬郡の東南部。利根川の北岸。南方は川を隔てて千葉縣東葛飾郡我孫子町と相對す。面積僅に四・七方村餘。西北部には低き臺地あるも、大部分低地にて米・麥を産し、その他奈良漬・綿織物(北總木綿)の産あり。また酢の名産地として知らる。陸前濱街道の一驛、利根川水運の河港として發達せしところ。省線常磐線取手驛(明治二十九年設置)あり。社線常陸鐵道線(こより水岐)あり。縣道は東南は布川町へ、西北は海道町に通じいづれもバスの便あり。交通上の一中心をなす。

トリカトトリ

トリテ 此村 熊本縣肥後國菊池郡の中部西偏。隈府町の西に隣り、南は菊池川の上支迫間川によりて菊池村・加茂川村と界し、西は鹿本郡稻田村に隣る。面積八・九方村餘に過ぎず。東北部は低き臺地にして南に緩く傾き畑地多く、南西部は迫間川に沿ふ平坦地にて田地よく拓く。米・蕎麥等を産す。西北方面鹿町より隈府を繋ぐ縣道中部をなすも東西に走りてバスの通す。古くは和名抄、菊池郡水島郷の地とす。村内に古戰場ありて水島古戰場といふ。菊池城西面の天險にして、天授元年今川貞直が倭大軍を以て來攻せしが、菊池武朝年餘僅に十數歳、この城に據りて遂へ打ちこを撃破し了俊をして肥前方面に退却せしめたる古戰場とす。幕末尊攘の志士中津彦太郎(贈從五位)はこの地の人とす。

トリテ 古くは和名抄、相馬郡相馬郷の内とす。大鹿城址あり。天正年間、大鹿氏、常陸の小田天庵に屬すといふも、大鹿氏のこに他に見えず。町名取手は蓋しこれに因るものか。明治十七年明治天皇女化原行幸の際此地にて御小休遊ばさる。(東福寺) 粟原臺にあり。眞言宗高野派。明治年中新建の梵刹にして平本正志の開基たり。境内に大師堂あり。新四國相馬八十八ヶ所の一にして、第三十一番五佐五臺山の寫とす。〔長禪寺〕臨濟宗妙心寺派。大鹿山と號す。承平元年相馬小次郎平將門の開基と稱す。文曆中大鹿太郎左衛門尉時平再興す。郡内屈指の名利にして、境内光音堂に光音禪師の遺骨を納む。師は相馬靈場新四國八十八箇所を開きたる近世の名僧たり。(念佛院) 片町にあり。淨土宗。大鹿山弘經寺に隣す。開基は染野藤左衛門にして、中世荒廢せしを眞譽隆辨上人これを冷興す。境内に大師堂あり。新四國相馬八十八ヶ所の一にして第二番阿州極樂寺の寫とす。(弘經寺) 大字取手にあり。淨土宗。大鹿山。結城郡結城町、同郡豊岡村の弘經寺と共に下總三弘經寺と呼び、關東十八檀林の一。開山は嘆譽良景、開基は大鹿氏。大鹿氏の菩提所。

トリノコ 鷲子山 八幡山脈の一峰。茨城縣那珂郡那珂村と栃木縣那須郡馬頭町の境上に位し標高約四〇〇米。東麓を久慈川、西麓を都賀川いづれも南流す。

トリノミ 鳥海村 岩手縣陸奥國二戸郡の東部。一戸町の西南に隣る。面積

山頂に鷲子山上神社あり、その床下に縣境あり。神社は鎌倉幕府の崇峻王の御代々別當たり。山中老樹茂り、巨木良材多く又七奇ありて名高し。

トリハ トロク

八・七方軒餘。岩手火山群に屬しコニ...

トリハミ 鳥喰沼 千葉縣山武郡東...

トリベ 鳥部・鳥戸 山城國(京都府)の古地名...

トリマツ 鳥松庄 臺灣高雄州鳳山...

の中心地たる斗六街を起點として四通八...

候温和にして、湿度割合に低く、気温は...

トロク トロハ

なし赤山里と稱せり。大正九年十月地方...

トリヤ 鳥屋村 石川縣能登國鹿島...

トロン 哆囉嗎 阿里山線の一驛...

トロカワ 壽川山 中國山脈の...

に勝る事大なり。また交通に於ても、斗...

トロン 哆囉嗎 阿里山線の一驛...

トロク トロクモン

トロシ 取石村 大阪府和泉國泉北...

四四四

一峰。鳥取市の南東方約三〇軒。兵庫縣...

トロク 斗六 臺灣臺南州二市十郡の一。州...

東、福泉町の西に隣り、面積僅に二・三...

トロハツチョー 壽八丁 和泉縣吉野...

四四四

に属し、上述所謂上湖の下湖及上湖と稱するものは其殘骸に他ならず。これ等斷崖の上方には天然林繁茂し、中にはさばら・つが・かうやまき・ひのき・もみぢが・すぎ等の老樹を混生し、其他多数の常緑及落葉樹あり。崖上にはさつき極めて多く、四月より七月に至る間水底に映るの狀頗る美觀なり。幽邃と麗美と兩趣に富める溪谷として他に類例少し。峡中には洞天門・中天門・後洞門を初めとして屏風岩・鳥帽子岩・天柱岩等あり、其他龍窟窟・涌玉潭・美仙窟・仙遊洞等の奇勝數ふるに遑あらず。以上はこれら下湖と稱し、田戸以上約一軒にも下湖に劣らざる奇勝あり、これを上湖と稱す。觀光は熊野河川の新宮市よりプロペラ船(飛艇)ありて新宮・遊・本宮の間を周航す。湖は地方にてはドロと稱す。

ドロマチ 泥町

山城伏見の遊廓の一名。現今京都市伏見區。好色一代男「新枕」とみし伏見の里へ、……唐物屋の源平といふ小者をさそひ行に、東福寺の入相、程なくしもく町、こころざす所は愛也……見つくして又、泥町に行もなかし。

トロロ 都呂々村

熊本縣肥後國天草郡天草下島の西部。西は天草灘に臨み北は志岐村、南は下田村に隣る。面積二・二四方軒餘。南境には一連の山脈連り東は西に天竺(五三・八米)あり。これ等山地は西北方に緩く傾斜し、北境を西北に海

岸に延びる柱嶽(五一八米)の山地との間に都呂々川の市狭き谷地あり。田畑よく拓けて米・甘藷・蕎麦・粟・菜・果實・栗等を産し其他鐵産・水産もあり。道路は海岸に沿ふものと都呂川谷を廻るものとあり、いづれもバスを通す。古くは和名抄、天草郡志紀郷の内なるべし。

トワタ 十和田

【十和田村】青森縣陸奥國上北郡の西南部。三本木町の西に隣り、北西は東津輕郡及び南津輕郡に、西南は秋田縣鹿角郡に接す。面積約三・四四方軒の廣きに互る。西南部に陥没カルデラ湖の十和田湖あり。本村はその東半部を占む。村の西北境には八甲田山(一五八五米)、西境には駒ヶ峯(一四一六米)、膳棚山(一〇一〇米)、北境には黒森山(一〇二三米)、南境に戸來嶽(一一九九米)あり、全村火山岩によりて蔽はる。十和田湖の水は奥入瀬川となりて北東に流れ上流に峽谷あり。左岸に西北部山地より下る大峯内川・黄瀬川・葛川・中里川、右岸に南部山地に出づる惣邊川・生内川を合して東隣三本木町に出づ。溪流あり、瀧ありて美觀を呈し、殊に奥入瀬溪谷は溪谷美・山林美を具備し十和田湖と共に天下絶勝と稱せらる。八甲田山の東麓には北より谷地温泉・猿倉温泉・葛温泉等湧出。葛温泉は葛川の溪谷に湧出する単純泉にして、大町桂舟の地としてその名高し。本村は十和田湖國立公園の地域に入り、夏

秋の候には探勝者頗る多く、温泉及び湖畔には旅館あり。村の東部奥入瀬川畔には平地ありて耕地拓け米作行はれ、十和田湖には姫嶽産す。鐵道沿線より湖畔に達するには凡そ三道あり。一は東北本線三戸驛より、奥入瀬川に沿ひて進む十和田道により湖の南岸子ノ口に達するもの、二は青森驛より省營バスによりて南進し、八甲田山の西麓酸ヶ湯を經、葛温泉を過ぎて燒山にて前者に合するもの、三は花輪線によりても毛馬内驛より省營バスに發着點を經て湖の南岸休屋に達するものなり。子ノ口・休屋間には省營バス及び湖上遊覧船の便あり。この地は法量・奥瀬・澤田の三村を合し法奥澤村と稱せしが、昭和六年、十和田湖により十和田村と改稱す。大字奥瀬・法量は十和田國立公園の内。十和田湖及び奥入瀬溪は本村及び秋田縣鹿角郡七瀬村にあり、名勝天然記念物に指定さる。〔葛温泉〕奥入瀬川の一支葛川の溪谷に湧出。泉質、單純泉。大町桂舟愛着の地として知られ、またその終焉の地となり、驛の附近にその墓あり。附近に沼多く、葛十沼と稱せられ、中にも葛溜最も大なり。【十和田湖】青森・秋田二縣に跨り、八甲田火山群の南に位置。湖岸は青森縣上北郡十和田村及び秋田縣鹿角郡七瀬村に互る。水面は海拔四〇一、輪郭方形に近く、東西約一〇軒、南北約八軒、湖岸線延長四六・二軒、面積約六〇方軒、全

構成せらる。湖邊一帯の山岳は落葉闊葉樹より成り林下植物と共に種類頗る多なる正に東西一帯の山地産を網羅せる觀あり。就中著しきは中湖・外湖等の屹立せる岸邊に於ける蕨若其他の美麗なる水際植物群を落して水位の殆ど變化せざるにより常に水際を裝飾し影を碧潭に映したり。水深は三四八米なるも湖岸より水面に至る高は三〇〇米にも及ぶ。されど水位は昔は高かりしもの如く、十和田鐵山附近に砂礫層の歴然たるものあり、宇楡部附近にも今の湖岸より數十米高き所に浮石の厚層より成る湖成階段もあり、奥入瀬が北方の壁を突破して流出し川床の低削を來す等により、現在水位の低くなりしを知るを得べし。湖に注ぐ河は西岸に大川、南岸に神田川、東岸に宇楡川あり、各河川の下流には山地の火山灰・浮石・火山礫と河流の運搬力大なるにより扇狀地をつくる。湖水は鹽基性にして、一立中の固形分約一四〇、硫酸鹽類最も多く、碳酸鹽類・硫酸・鹽酸鹽類これに次ぐ。中ノ湖のみは特異なる化學的成層を現はし、表面は鹽基性、中層は中性、底水は酸性なり。湖はプランクトン豊富にて水産養殖に適し、明治三十六年和井内貞行の努力によりて北海道より移殖されたる姫嶽は、いま年産百萬尾以上に達し、和井内鱒として著はる。湖畔には觀光、舟遊の中心地たる子ノ口、宇楡部・休屋・生田・鉛山等の部落あり、

トワタ——トonda

旅を・賣店・交通機關の便備はれり。湖上には子ノ口、休屋間に觀光船就航し、御倉半島・中山半島の湖岸の探勝を主とし約一時間半にして兩地を連絡す。【十和田國立公園】青森・秋田の兩縣に跨り、面積約四・二九〇ヘクタール、全面積の八三約は青森縣に、一七約は秋田縣に屬す。大部分は國有林に屬し、僅かに公有地・私有地を介在せり。昭和十一年二月一日國立公園に指定せらる。本國立公園の區域は、陥没火口湖の典型として著名なる十和田湖(その項参照)を中心とし、幽邃なる奥入瀬の溪谷(その項参照)閉塞なる八甲田火山群(その項参照)を含むる南北に細長き山岳地帯にして、山岳・湖沼・溪谷・濕原等極めて豊富なる各種の風景要素を具備する點に於て特色を有す。殆ど全域に互りて本邦有数の落葉闊葉樹の美林生じ、特に十和田湖畔・奥入瀬溪谷に於て美觀を極む。區域の北方に蟠居する八甲田八岳を始め乗鞍岳の櫛ヶ峯等の諸岳はアオモリトドマツの如き高山性針葉樹林により蔽はれ、山腹・山麓には到る處美麗なる高山植物群落・濕原・地塘を戴き、また八甲田山の東北一帯には廣く田代谷の閉塞なる草原を展開す。かくの如く景觀の變化に富みその優秀を誇ると共に學術研究上幾多の貴重なる資料をも蔵す。加ふるに八甲田八岳を繞る山間山麓を始め各地には酸ヶ湯・猿倉・萬その他の温泉湧出し、觀光・登

山・自然研究・療養の根據地としての諸施設完備し、十和田湖畔の休屋・宇楡部・子ノ口・生田・鉛山等と共に本公園利用の中心地をなす。本公園の交通は概ね至便にして青森縣の青森市・三本木・黒石・五戸・秋田縣の毛馬内各地より自動車を通す。十和田湖上には聯絡船及び遊覧船の便備はれり。利用上の特質としては自動車觀光を始め登山・野營等の自然生活、自然研究・舟遊・釣魚・温泉浴等を数ふるを得。冬期は八甲田山一帯を中心として東北地方屈指のスキー地たり。〔交通及觀光コース〕本國立公園は交通比較的良好發達し、探勝すべき重なる風景地點は大凡自動車上において觀光するを得。觀光コースとしては種々挙げ得らるるも最も便にして且つ一般的なものを記せば左の如し。(一)青森驛―酸ヶ湯温泉(八甲田山)―猿倉温泉―谷地温泉―葛温泉―燒山―奥入瀬溪谷―十和田湖(子ノ口)―宇楡部・休屋・生田・鉛山―大湯温泉―毛馬内驛。またはこの逆。本コースは全線省營バスを通す、其の運轉期間は五月中旬より十一月下旬までとす。(二)東北本線古間木驛―三本木(この間十和田鐵道)―燒山(此間バス)―十和田湖(この間バス)。(三)奥羽本線川部―黒石(この間黒石鐵道)―溫川温泉―御花部山―十和田湖(子ノ口)。

【十和田鐵道】社線。青森縣上北郡六戸村の省線。東北本線古間木驛より西方の

國湖沼中第十三位の大湖なり。最大水深三四八米にて、田澤・支笏の二湖に次ぎ全國第三位、水温は表面夏季二・三度、冬季零度、深層に於ては一年を通じて五度を示す。水色は極めて美麗なる藍色を呈し、透明度一八米、フオーレル氏三號色に相當し、我國湖沼中、田澤湖につぎて透明なり。湖の成因は蓋し舊火山の頂部が一部陥落し一部爆發し舊火山の大部分を尖ひたる結果として生じし謂はゆる陥没カルデラに屬するもの如し。湖の北岸御花部山及び西岸鉛山方面に數段の階段あるは其陥没作用のありしことを示す。湖の畧中心に御門石の礎あるは陥没爆裂より免れたる遺址なるが如し。湖の周圍は高さ八百里内外の青巒綠峯を以て包圍せられ子ノ口の一角破れて奥入瀬の火口湖を成す。南岸には御倉半島及び中山半島の二大突角あり其中間を中湖、御倉半島の東を東湖、中山半島の西を西湖といふ。中湖は十和田湖中に新に噴出したる中湖火山の火口址にして御倉半島の其東半部、中山半島は其西半部を代表す。御倉半島の千丈幕は東部火口壁にて中湖の火山内部の構造を示し、御倉山は後に火口壁土に噴出したる熔岩岩丘なり。中山半島の水中に没するところは奇岩怪壑相連なり老松蒼蒼其上に簇生し風光頗る明媚なり。岩礎の主なるものを惠比壽島・兜島・鶴島・葉黃島・六方石とし孰れも柱狀・圓面狀等の彫彫ある中湖岩岩より

三本木町の三本木驛に至る。一四・九軒、軌間〇・七六二米、省線と連帯運輸。三本木驛より更に十和田湖畔の子ノ口までバスを連絡し、十和田國立公園・奥入瀬川溪谷の探勝者によりて利用せらる。

トングリノツジ 團栗の辻

京都市の町名、建仁寺町四條下る、西へ宮川筋石垣町へ出る所。現今東山區。長町女取切・中「どん團栗の辻を出れば建仁寺」

トнда 富田

【富田町】大阪府攝津國三島郡の東部。茨木町と高槻町との間にあり。大阪平野北部に位し全き極めて平坦なり。産業よく發達し農産に米・麥・杞柳・菜種・富田漬・粟粟等を出し又清酒の産多く菜種酒・粟製品その他の工業あり、高槻町と茨木町とを結ぶ府道中部を走りてバスを通じ其北に社線京阪電氣新阪線富田驛(昭和三年開業)あり、更に北隣高槻町内の省線東海道本線攝津富田驛に近く交通便利なり。古の三島藍野の一部にして和名抄嶋上部見屋郷に屬す。中世は富田莊の名あり。大正十四年町制施行。〔富田壽榮の松〕指定天然記念物。宇馬場町町本照寺境内にあり。古來名松として知らる、一株の松樹とす。樹高約五・六米、横枝東西南の三方に擴り最大延長二十三米に達す。黒松の名木として有数のものたり。〔本照寺(教行寺)〕真宗本願寺派。富田養壽院。本願寺派別格別院。嘗て蓮如、本宗本興教行信證を敷説せる舊跡な

りとて修行寺とも稱す。應永年間本願寺七世存如の開創に係る。正保三年本願寺三僧良如の弟良教當寺に住持し大いにこれを興隆す。爾來西本願寺蓮枝の住職寺となる。(普門寺) 臨濟宗妙心寺派。慈雲山。明徳元年僧叡殿の開創に係る。永祿年間領主細川晴元堂宇を再興し寺祿七十四石を附せしが、遂に入道して一清と號し入寺して當寺に寂す。のち龍安寺となるや、徳川家康特に當寺に二百石を寄す。(慶瑞寺) 黄檗宗。祥雲山。持統天皇八年道昭の開創に係り、もと法相宗に屬す。のち廢絶せしを、應永年間僧松嚴これを中興す。再中興は龍溪にして、延寶二年後水尾上皇方丈を建立せしめ給ふ。

【富田川】 和歌山縣西牟婁郡にある川。郡の東北境黒無山脈の安堵山・千丈山の西南麓に發して西南流し二川村の西部に中川を右岸に入れ、朝來街道に沿ひて西南流し南富田村にて海に注ぐ。流程約一〇〇軒、急流なるため舟楫の便なし。

【富田町】 山口縣周防國都濃郡の南海岸徳山灣の北岸に位し、東は徳山市、西は福川町に隣る。面積一方軒。益北部は丘陵性山地にて富田川これを潤し耕地よく發達す。前面の海上には松林茂れる屬島に仙鳥浮びて風光美し。米・麥・繭の農産の外瓦・漆・蠶繭・造船等の工業多し。中國街道(國道)と省線山陽本線平行して東西に通じ、道路にはバス運

轉し、鐵道には周防富田驛(大正十五年設置)設けられ交通の便よろし。この地和名抄、都濃郡富田郷(訓止無多)の地に於て、中催は富田莊と云ひ東大寺の寺領たり。のち陶氏の所領たり。江戸時代には徳山藩に屬す。のち分れて富田上村・富田下村となりしが、明治廿二年町制施行の際、富田上村は加見富岡の二村となり、富田下村は富田村とす。大正四年町制施行。(山崎八幡宮) 縣社。祭神、應神天皇・田心姫命・湍津姫命・市杵島姫命。和銅二年に豊國字佐より勧請せるものと云ひ、もと河内寶山に鎮座ありしが寶龜元年に現地に遷すと云へるも詳かならず。社領は八箇國分限帳に六十石九斗六升餘と見ゆ。明治四十年に填安神社外二社を併合す。例祭、陰曆八月十一日。(建院院) 大字富田にあり。曹洞宗。富田山。文明十四年創建、開基は徳山良陶尼殿守弘房。寺領を附して其香華院とす。開山は隆寶禪師。元龜二年領主毛利右馬頭元就中興、寺田五十五貫を附す。

【富田村】 宮崎縣日向國兒湯郡の東南端。一ツ瀬川川の北岸に沿ひ、南は宮崎郡廣瀬村に對し、北は高鍋町に接し、東は日向灘に面す。面積一八・八方軒餘。西北半部は臺地性の丘陵起伏し其間に市狭き數條の低地西北方へ切りこみ、南東部の一ツ瀬川流域の沖積低地に連る。東岸は極めて豊潤なる砂濱をなし砂嘴丘發達して一ツ瀬川の吐口を擁し瀉瀉狀を呈す。低地には田畑よく拓けて農産多く丘陵は山林と畑地をなして林産少からず。外に絹織工業あり。國道・省線日豊本線並行して東北より西南に通じ、省線には三納代驛(大正九年設置)ありて交通不便ならず。古くは和名抄、那珂郡夜間郷の内か。村名はもと庄名と呼ばれたり。(八幡神社) 大字三納代に鎮座。郷社。祭神、仲哀天皇・神功皇后・應神天皇。例祭、九月十九日。

トントク トンタ

【別別村】 北海道宗谷支庁管内、北見國枝幸郡の北西部。南は枝幸村・中別村に接し、西南は天鹽國天鹽郡延延村に接し、西北は宗谷郡猿拂村に接し、東一帯はオホーツク海に面す。面積四〇二方軒餘。西半部は北見山脈の北端部に丘陵性の臺地をなし、境上のイソサヌメツリ山は五八一米を示すも北部のトキタイ山は二九二米に過ぎず。東南部も北見山脈支脈の山地なるもその珠文岳は七六一米あり北面は比較的急傾斜をなして海岸に低下す。東北部は低平にてその中部にクッチャロ湖大沼、北部にクッチャロ湖小沼、南部に頓別川下流の濕地帯あり。村内なほ大部分は山林なれどもクッチャロ湖畔と頓別川流域には開墾進み各種の農産あり。省線北見線略南北に通じ、頓別川流域に下頓別・濱頓別の二驛(大正七年設置)を置き、クッチャロ湖畔に山輕驛(大正八年設置)を設け、興濱北線は濱頓別より分れて東南部海岸を南下し豊牛・斜内二驛(昭和十一年設置)を経て枝幸村に出づ。道路また東岸に沿ひて南北に通じ、舊濱頓別に旭川方面より來る道路に會し更に北上して稚内方面に向ひ、その濱頓別・枝幸間にはバスの便あり。面積廣きも人口はなほ六千人内外にて一六軒の密度は僅に一五人に過ぎず。

トントク トンタ

トントク トンタ

トントク トンタ

トントク トンタ

トントク トンタ

トントク トンタ

トントク トンタ

トントク トンタ

トントク トンタ

トントク トンタ

トントク トンタ

トントク トンタ

トントク トンタ

トントク トンタ

トントク トンタ

トントク トンタ

トントク トンタ

トントク トンタ

トントク トンタ

トントク トンタ

トントク トンタ

トントク トンタ

トントク トンタ

トントク トンタ

トントク トンタ

トントク トンタ

トントク トンタ

トントク トンタ

トントク トンタ

トントク トンタ

トントク トンタ

トントク トンタ

トントク トンタ

トントク トンタ

トントク トンタ

トントク トンタ

トントク トンタ

トントク トンタ

トントク トンタ

ナ

ナ 苗村

滋賀縣近江國蒲生郡の西部。日野川流域に位し、八幡町の東南約一〇...

ナイ 内面

朝鮮江原道麟蹄郡の南部。郡邑麟蹄の東南約二五軒。東は襄陽郡、...

ナイコ 内湖庄

臺灣臺北州七星郡の西南隅。東は汐止街、西は臺北市(舊...

丘陵性の山地をなすも流域には肥沃なる平野を展開す。基隆河流域には水田開け...

Table with 2 columns: 産額 (Production) and 經營者 (Operator). Lists various agricultural products and their respective companies or individuals.

工業方面にては煉瓦及び瓦の製造盛にして、臺灣北部の需要を充たし、臺灣鍋、...

都落道路開け、輕便軌道(手押臺車)ありて交通運輸に資する所多し。管内の内、...

ナイサン

朝鮮忠清南道扶餘郡の西部。郡邑扶餘の西約一三軒。四...

ナイシヨ

朝鮮平安北道。朝鮮平安北道。朝鮮平安北道。...

ナイシ

陽智より西方龍仁、東方利川、南東方竹山に何れもバスの便あり。露日驛より約...

ナイソ

陽智より西方龍仁、東方利川、南東方竹山に何れもバスの便あり。露日驛より約...

ナイシ

朝鮮京畿道龍仁郡の中部東部。郡邑金良場里の東六軒。北...

ナイシ

陽智より西方龍仁、東方利川、南東方竹山に何れもバスの便あり。露日驛より約...

ナイシ

陽智より西方龍仁、東方利川、南東方竹山に何れもバスの便あり。露日驛より約...

ナイソ

陽智より西方龍仁、東方利川、南東方竹山に何れもバスの便あり。露日驛より約...

ナイソ

朝鮮京畿道龍仁郡の中部東部。郡邑金良場里の東六軒。北...

ナイソ

陽智より西方龍仁、東方利川、南東方竹山に何れもバスの便あり。露日驛より約...

ナイソ

陽智より西方龍仁、東方利川、南東方竹山に何れもバスの便あり。露日驛より約...

ナイソ

陽智より西方龍仁、東方利川、南東方竹山に何れもバスの便あり。露日驛より約...

ナイサ

朝鮮京畿道龍仁郡の中部東部。郡邑金良場里の東六軒。北...

ナイサ

陽智より西方龍仁、東方利川、南東方竹山に何れもバスの便あり。露日驛より約...

ナイサ

陽智より西方龍仁、東方利川、南東方竹山に何れもバスの便あり。露日驛より約...

ナイサ

陽智より西方龍仁、東方利川、南東方竹山に何れもバスの便あり。露日驛より約...

ナイホー——ナイロ

とす。水産には鱈・鰯・蟹等あり。推内川下流沿岸の内幌炭山より石炭を出す。本斗町より社線南樺太炭礦道海岸沿ひに南走し氣主・北内幌・内幌の各驛を経て内幌炭山驛（以上は北内幌の昭和九年開業を除き何れも同六年開業）に至る。また海岸に沿ひ西部縦貫幹線道路通じ、内幌より東南方の中市街へ良路を岐ち、更に海上は内幌と本斗及び海馬島との間に定期航路開け、交通便なり。主邑内幌は推内川吐口に發達し、炭田開發によりて近年急激なる盛況を示すに至れり。町の東南約四軒に温泉湧出す。氣主には氣主脚燈臺（大正七年設置）あり、燈質は連閃白光、二秒を隔てて八秒間に二閃光を發す、光達距離二一哩。

ナイホー

内幌炭礦 樺太の炭礦。南樺太炭礦鐵道株式會社の經營に屬し、鑛區は本斗郡内幌村及び好仁村に跨り約二一〇〇ヘクタールを占め、南部封鎖炭田の一部を成す。炭層は西海岸上部夾炭層群に屬し、鑛區内を南北に縱走せる一向斜軸を中心として東西に〇・六米乃至三・四米の炭層數枚を介在し、傾斜は平均七〇度東又は西なり。現在斜坑により本層上炭（三米）及び同下炭（三米）を採行中にして、その産額昭和九年七八二五噸、同年一三二八九噸を示せり。炭質は低度揮発炭に屬するも、炭種用・家庭用並に低温乾留用に適し、産出炭は附屬低度乾留工場及び鐵道用として使用せ

ナイモノ

内門庄 臺灣高雄州旗山の西南邊。主邑旗山街の北に連り、楠梓仙溪右岸一帯の山地を占む。東北より西南に細長矩形をなし、面積九万九千餘。住民は大部分福建系本島人なり。比較的廣大なる面積を擁するも、管内總て山地にして、低き荒山幾重にも重り、南部の内埔・親香亭方面は二層行溪上流域に當りて盆地を形成し、主要部落たり。内埔は郡役所を隔つること六・五軒餘、自動車にて僅か二十分にして達し得らるるも、北部の溝坪・菜子坑方面は奥地に當るを以て交通極めて不便なり。耕地は丘陵の間隙に散在するも、地勢上灌漑の便な

ナイホンコク

社 臺灣臺東廳里壩にある舊社。タビリン・タンジキ・マホブズ・マテングル・カブラタン・マリアラン・マハラジ・サルベ等の部落に分れ、パイラン族の下三部落とアメン族の施武部落とに屬する高砂族の舊社。戸數約一五七、人口約一五八五（昭和十一年調査）。

ナイラロー

内羅老島 臺南（朝鮮釜山）の支、大白山脈の五臺山（一五六三米）の西、北針面に發する各一支流合して勝鬨郡内羅を横穿するや西流、遠

きため、總て看天田または畑として開かれ、土地の生産力貧弱にして、人家は其間に點在し、全く山間僻地の農村なり。近時看天田の改良行はれ、臺灣製糖株式會社と協力してヒースブラウに依る深耕を實施したる結果、土地の生産力倍加し甘藷を主作となす。尙るる處山地なるを以て龍眼・椗仔・芭蕉・茱萸・木綿及び芭蕉籠の材料たる蒼竹の生産頗る多く庄の特産物たり。就學歩合三・一％、内埔・溝坪に各公學校を有し合計十二學級なるも就學狀况頗る悪く郡下最低率なり。交通は不便を免れざるも、南隣旗山街との間に兼合自動車を通じ、なほ旗山より觀音亭を経て四方關廟庄（臺南州新豐郡）に至る謂はゆる關廟道路開鑿せられ、當地方は臺南・屏東間自動車道路の通路となりて産業・交通上頗る重要性を加ふるに至れり。なほ管内にして、東北部の菜子坑・溝坪二字はもと羅漢外門里に、爾餘は羅漢内門里に屬し、南部は北部に比して早く拓殖の緒に就き、清の康熙末年より内埔・中埔は地方の中心地たりき。溝坪は初め嶺坪と書かれ、菜子坑と共に乾隆年間開かれたり。

ナイリ

内隣川 朝鮮江原道の間。漢江の支、大白山脈の五臺山（一五六三米）の西、北針面に發する各一支流合して勝鬨郡内羅を横穿するや西流、遠

ナイロ

内羅老島 臺南（朝鮮釜山）の支、大白山脈の五臺山（一五六三米）の西、北針面に發する各一支流合して勝鬨郡内羅を横穿するや西流、遠

ナイロ

中にて興亭山（二七七米）に發し、北流し來る一支を容れ、芳臺山西麓にて昭陽江に合す。流程三〇軒餘。
内路村 樺太敷香支廳敷香郡の南部。敷香町の南に隣り、東は多來加灣に臨む。西部は樺太山脈の東斜面にして内川山（五九二米）・内路山（三九六米）等聳え、東北に傾斜して中央低地帯に連る。河川は内路川を最大とし、北部には内川、チロナイ川等あり、何れも多來加灣に注ぐ。低地帯の北部にはツンドラ横はるも、南部は開墾せられて農牧行はる。河岸は單調なる砂濱にて僅に内路の泊港あるのみ。産業は製材を第一とし、また内川炭田より石炭を出す。同炭田は内川流域に位し、昭和三年來三井鑛山會社の經營に係り、敷香町より炭礦部落内川まで炭礦軌道を通ず。社線南樺太鐵道東部海濱を走り内路驛（昭和十一年開業）あり、道路は東部縦貫幹線（平田街道）の中道を貫くほか、内路より海岸に沿ひ敷香街道を岐ち、また西方香葉山脈を跨えて惠須取に至る路線あり、交通便なり。内路は内路川の左岸に位し、明治三十九年初めて邦人渡來して開拓せられし地、大正七年市街地を建設せらる。交通の要衝に當り、夏季定期航路の寄港あり。製材工場・税關支署・飛行場等あり。北郊には當村の共同牧場あり。本村は大正十三年舊町村制施行、翌十三年に南部の泊岸村を分村、昭和四年七月二級町村制施

ナウネ

長畝村 福井縣越前國坂井郡の中央東部。福井市の東北約一〇軒、丸岡町の東に隣る。越前平野の東縁部に位するを以て、東部の小丘陵を除く外は低平なり。東隣竹田村に發源する竹田川北境を西流し、灌漑に便す。主産業は農にして米・煙草を産し、また近年白絹を多産し、清酒・鯉・鮎等をも出す。社線永平寺鐵道通じて長畝驛（昭和四年設置）を置き、國道北陸道丸岡町より來り西部を貫通して北走す。和名抄に坂井郡長畝郷とあるは本村及び竹田村の地なるべし。盛衰記に三條長畝城とあるは此地にありしもの。大字長畝に齊藤實盛の池井にその塚あり。また大字女形谷には櫻の大木あり、周圍約四・五米、高さ約一八米、推定樹齡は六百年なり。（白山神社）大字豊原に鎮座。村社。伊那那美命を祀る。昔の豊原寺の址なり。泰澄大師の創建にして建治年中には尙ほ七堂伽藍、二百世五坊ありしが、天正年中に兵燹に罹る。（高岳寺）大字篠岡にあり。天台宗。慶長十九年延岡藩主有馬康純の建立。其後元禄九年、有馬清純の當國丸岡に轉封せらるるや本寺も亦これに隨ひて現寺地に移る。同侯の善持所なり。（齊藤實盛）藤原利仁將軍の子孫にして代々本郡に住せしが、實盛の時轉じて武藏國長井に住す。初め源義朝に仕へ、義朝の死後平家盛に仕ふ。壽永二年木曾義仲の舉兵によ

ナエキ

り維盛に從ひて北國に入り白髮を染め、請うて錦の直垂を着けて死後かざり條原に飛死す。年七十三。尊卑分脈には實盛を在原氏の出といふ。
苗木町 岐阜縣美濃國惠那郡の中部東偏。木曾川中流の右岸に位し、北は坂下町に隣り、南は川を隔てて中津町と相對す。面積約三二方軒なるも飛騨山脈の南麓部に當り、北境に高峯山（九四五米）あり西南に傾き、高原性をなす。東境より南境を西流する木曾川、西境を南下する付知川は西南隅に於て合流す。この附近以下は謂はゆる惠那峽と稱せらるる溪谷なりしも今下流に發電用のダム築造せられダム湖と化する。西南の平坦部には田畑折れ農業・養蠶盛なり。また石材を出し、副産物としてその量多からざるも水晶・トパーズ・サファイヤ、錫石・苗木石・フェルグソナイト、其他種々の鑛物を産し鑛物界に著名なり。尙ほ長石・陶土・磨砂等をも産す。社線北惠那鐵道電車は省線中央本線中津川驛に起り西南部を横切りて北方付知町に向ひ町内に惠那峽口驛（大正十四年開業）・山之田川驛（大正十五年開業）・苗木驛（大正十三年開業）・上苗木驛（昭和四年開業）並松騾（大正十三年開業）の五驛を設け交通便なり。この地は和名抄、惠那郡繪下郷の内にして近世遠り氏一萬六千石の城下町たり。（苗木城）城山にその址あり。一に霞ヶ城ともいふ。木曾川の左

ナエシキ

苗木山 山は、新潟縣南魚沼郡野縣下高井郡界村に屬す。標高二一四五米。サスヒトシ型の火山にして、西方に向ひて傾斜する南北三・五軒、東西二軒内外に及ぶ平頂面を有するを特異とす。

ナエシキ

苗木山 山は、新潟縣南魚沼郡野縣下高井郡界村に屬す。標高二一四五米。サスヒトシ型の火山にして、西方に向ひて傾斜する南北三・五軒、東西二軒内外に及ぶ平頂面を有するを特異とす。

ナウネ

ナオイ

ナオ

ナオイ

直島 山は、香川縣大分縣十二郡の一。豊後國の一部にて縣の南部。阿蘇火山の東麓に位し大野川上流の地を占め、南は九州山脈より北は九重火山の東半部に跨る。北は玖珠・大分二郡、東は大野郡に隣り、南の一部は宮崎縣西臼杵郡、西は熊本縣阿蘇郡と界す。南北約三六軒、東西一六・二〇軒、面積五一八方軒餘。南境には九州山脈の最高峰祖母山（二七五八米）聳えて北へ傾斜し、西北部には九重火山群の九重山（二七〇四米）・久住山（二七八八米）・黒嶽・花牟嶽山等の諸峯聳居して東南部に裾野を曳き、西部は阿蘇山東麓の地にして東方へ緩く下る。大部分山地と高原にして大野川は南部を東北に貫流し、郡の東部に於て西境より東流する玉來川其他の水を容れて大野郡に出で、東北境には芥川東北流し大分郡に出づ。河川に沿ひては耕地拓けたるも其他は概して山林・原野なり。農・蠶業を主とし米・蕎麥・大豆・粟・玉蜀黍・甘

諸・葉煙草等を産し、その外林産・畜産あり、工業に和紙・麥粉等を産す。大野川に沿ひ竹田町・玉来町等発達し、竹田町の如きは人口密度二、〇三一人を算するも、他の町村は人口少く平均密度は九三人なり。郡内は以上二町及び久住町の外十七箇村を含む。縣道（肥後路）は大分より東部の竹田町・玉来町等を通り、中分より東部に横斷し阿蘇郡に出で別路は東北境より湯原・久住を経て前者に合す。省線肥後本線、また竹田町・玉来町を経て東西に通す。書紀、景行天皇の十二年筑紫巡狩の際に豊前直入縣に入りて土蜘蛛を誅し給ふと見ゆ。これが國郡制定の際郡となりしものなるべく、和名抄は奈保里と註し、三宅・直入・柏原・球取の四郷を管す。

ナオエ

直江村 鳥根縣出雲國旗川郡の中郡。今市町の東約五軒。南部には佛經山（三六六米）ありて山肢北方に延び、山麓を斐伊川の分流新川は東西に貫流し、その北岸にも小丘阜あれども低平なる地ありて兼川平野の一部をなす。米・藁の外に清酒・製茶あり、副業として繩を作る。北部を國道山陰道東西に走り、これに沿うて省線山陰本線直江驛（明治四十三年設置）は西隣伊波野村にあり。この地古くは和名抄、出雲郡漆沼郷に屬す。「御井神社」大字直江に鎮座。神社 祭神、木保神、式内社、例祭十月九日。

ナオエタニ 直江谷

北郡にありし村。明治四十年他の二村を合し三谷村を建つ。ナオエツ 直江津 新潟縣越後國中頸城郡北郡の海岸。荒川の河口に跨り、高田市を距る北方約五軒。面積三・二五方軒に過ぎざるも頸城平野の西北端に位置し、前面は日本海に臨み直江津港を控ふ。古來北陸道の要驛として水陸交通の中心をなし、いま信越本線と北陸本線の分岐點なる直江津驛（明治十九年設置）あり。南は高田市、東は松代、東北は柿崎方面へバスの便あり、海上は北海道・新潟・佐渡への航路開け、頸城三郡の物資の集散地、長野縣への米・鹽・肥料・海産物供給の要地として商業盛んなり。港は荒川の河口港にて水深淺く、特に西風の衝に當り出入不便の港なるより、もとは此風の來らんとする時は諸船皆佐渡の夷港（兩津町）に避くるを常とし、平時本船は海濱より三鐘乃至一瀝の所に假泊し、舳舟は常に川内に藏し、用ある毎に舳舟にて河口に出し、乗客・貨物は舳舟夫を以て波間を伺ひて舳舟に移し、のち之を本船に搭載す、波浪激しき時は本船を郷津（隣村春日村）に廻し積卸をなす。その上陸の困難なる海内無比と稱せられしも、要橋の地なるを以て新潟港と共に北越の二大港と並稱する。鐵道の發達と共に著しく發達せしむるを遂げ、昭和五年には信越本

線の貨物驛直江津港驛の設置を見、更に同七年より新潟縣の手により築港工事に著手、工費約四十三萬を費して昭和十年竣工。左岸防波堤四九六米、右岸防波堤二八六米、水深四米にて水深七二米の棧橋に約五百噸級の船を積付にし得るに至る。移出は特記すべきもなく總計約六萬六千圓に過ぎざるも、移入は石炭の約二百七十九萬圓を主とし食鹽・魚類等計約三百五十六萬圓に及ぶ（昭和九年）。この地古くは和名抄、頸城郡直江津郷の内門驛とあるはこの邊に求むべきものの如し。中古今の大字鹽田新田の地に越後の國府を置き一國政治文化の中心地たり。其頃は府・濱と呼び、上杉氏春日山（春日村）に築城せし後も別館を存し府内と呼べり。慶長年中堀秀治入國し府内城を修めて之に居り、次で福島城を築きしも久しからずして廢す。慶長年中堀川忠輝高田に築城するに及び舊府内城及び人民亦多く高田に移りしが、のち商工漸く移住し終に一市街を成し今町と呼び明治維新に至るまで高田藩に屬す。直江の名義全く不詳なるも由来古し、源義家陸奥征討の際、土室直江次郎從て功あり、上杉氏の時は直江大和守實綱とて諸領の寵臣あり、天正五年横死せしかば、樋口與六郎を養子として其嗣を承けしむ、これ後高田藩守家継代なり。義經には直江の津あり、文治三年甲斐國主隆盛この地

ナオシマ 直島村

香川縣讃岐國香川郡の北方海上。瀬戸内海中の直島を主島とし附近に散在する直島諸島より成る。直島は高松市の西北約一〇軒、岡山縣兒島郡宇野町の東南約二軒。直島は東南より西北に細長く、地蔵山（一二四米）が最高とする山地起伏し、中部東西に互る隘路あり、海岸は屈曲に富み、北に重石ノ鼻・獅子渡ノ鼻等、南にオカメノ鼻の突出、宮ノ浦・玉積浦・泊ヶ浦等の灣入りあり、之等の灣奥には僅に低地ありて耕地開け、東部の直島、西部の宮ノ浦には墾墾發達す。本島人口の約半数は製錬所關係者にして、この製錬所に依存すること大なり。この外各島に水産盛にして鯛・鯉等の漁獲多く、直島・家島には鹽田あり、また石工業も發達。交通は高松市及び宇野港に毎日數回定期發動汽船の便あり。保元物語に崇德天皇諸州遷

ナオエ — ナカ

幸の時、この島に泊らせ給ふこと見え、金屋名所會には、新院既に香東八輪島（今の高松）に着船し給ふに、在廳三木の何某殿し申して、陸に上げ奉らず、是に因りて御舟を直島に回させ泊り給ふ、折しも月さやかなりければ、實にや鄙人の心さがなくて、都には異なれど月影のみは變らじと、おん嘆きの中にも、心を慰め終夜琴を弾じ給ふとあり。「直島製錬所」北岸の風ノ浦にあり、宇野及び高松より船便あり。三菱製錬業會社の經營にかかり、生野鐵山・佐渡鐵山・獨峯鐵山（宮崎縣）などの三菱直營の諸鐵山産出鐵及び買鐵を搬入して製錬を行ふ。製錬所にはマクドナルド式燒爐、反射爐、グレイトプロセスコンバーター等を設備し、また粉炭設備としてコールドライヤー、レイモンドパルペライザーを、發電設備として蒸氣タービン發電機二臺を備ふ。「直島諸島」本村に屬する島嶼群。宇野港の東南に位する小島群にて直島を初め荒神島・高島・柏島・井島・家島・杵島の外二十餘島にして縹々の形をなして浮ぶ。直島の琴反地海岸は内海有数の海水浴場として知られ、且つ附近は春季鯛網の名所として聞ゆ。牛ヶ首島には日蓮上人の石像あり、參詣者多し。屏風島・喜兵衛島間には養魚場が設けられ一名所となれり。「八幡神社」大字高田浦に鎮座。郷社。祭神、仲哀天皇・應神天皇・神功皇后。古來當村の産土神たり。例祭、十月

十五日。ナオミ 直見村 大分縣豊後國南海部郡の中郡。東北は佐伯町と切畑村を隔て、東南は佐伯町の西南部に接す。面積約二一・五方軒。東南・西北兩部は山地をなし中央部を久留須川曲折しつづ東北流し北隣中野村に出で國尾川に合す。流域は平坦にして耕地拓け米・麥等の農産あり。國道（日向街道）この谷を通りて自動車往來し、省線日豊本線も亦これに並走し直見驛・神原驛（共に大正九年設置）あり。明治二十二年町村制施行の際直見・直見下の二村を合して、直見村と稱す。

ナオシマ 直島村 香川縣讃岐國香川郡の北方海上。瀬戸内海中の直島を主島とし附近に散在する直島諸島より成る。直島は高松市の西北約一〇軒、岡山縣兒島郡宇野町の東南約二軒。直島は東南より西北に細長く、地蔵山（一二四米）が最高とする山地起伏し、中部東西に互る隘路あり、海岸は屈曲に富み、北に重石ノ鼻・獅子渡ノ鼻等、南にオカメノ鼻の突出、宮ノ浦・玉積浦・泊ヶ浦等の灣入りあり、之等の灣奥には僅に低地ありて耕地開け、東部の直島、西部の宮ノ浦には墾墾發達す。本島人口の約半数は製錬所關係者にして、この製錬所に依存すること大なり。この外各島に水産盛にして鯛・鯉等の漁獲多く、直島・家島には鹽田あり、また石工業も發達。交通は高松市及び宇野港に毎日數回定期發動汽船の便あり。保元物語に崇德天皇諸州遷

ナオシマ 直島村 香川縣讃岐國香川郡の北方海上。瀬戸内海中の直島を主島とし附近に散在する直島諸島より成る。直島は高松市の西北約一〇軒、岡山縣兒島郡宇野町の東南約二軒。直島は東南より西北に細長く、地蔵山（一二四米）が最高とする山地起伏し、中部東西に互る隘路あり、海岸は屈曲に富み、北に重石ノ鼻・獅子渡ノ鼻等、南にオカメノ鼻の突出、宮ノ浦・玉積浦・泊ヶ浦等の灣入りあり、之等の灣奥には僅に低地ありて耕地開け、東部の直島、西部の宮ノ浦には墾墾發達す。本島人口の約半数は製錬所關係者にして、この製錬所に依存すること大なり。この外各島に水産盛にして鯛・鯉等の漁獲多く、直島・家島には鹽田あり、また石工業も發達。交通は高松市及び宇野港に毎日數回定期發動汽船の便あり。保元物語に崇德天皇諸州遷

ナカ 那加村 岐阜縣美濃國稻葉郡の南部。西北の大部は岐阜市との間に北長森村を隔て、その一部は市の東南部と接す。面積一四方軒餘。北部に低き山地あり外は概ね平坦にして田畑よく拓げ、東南部は各務ヶ原の西部に當り原野にして今飛行場の一部をなす。米・藁・麥・甘菜等の農産あり。中山道・省線高山本線

ナカ 那加村 岐阜縣美濃國稻葉郡の南部。西北の大部は岐阜市との間に北長森村を隔て、その一部は市の東南部と接す。面積一四方軒餘。北部に低き山地あり外は概ね平坦にして田畑よく拓げ、東南部は各務ヶ原の西部に當り原野にして今飛行場の一部をなす。米・藁・麥・甘菜等の農産あり。中山道・省線高山本線

ナカ 那可 出羽國羽前・山形縣の古地名。和名抄出羽國に那可の郷名二箇所にあり。一は最上郡にあり、諸本郡可（高山寺本は郡下）に作るも那可の譯なるべく、その地いま山形市の西北郊大郷。

金井・明治の諸村の邊なるべし。他の一は田川郡にあり、諸本那津に作るも、これらも那可の謬なるべし。その地は春かならざるも、いま東田川郡の泉村の邊ならん。同村の大字に中里あり、郷名を傳ふるものにあらざるか。

ナカ 那珂

【那珂郡】 茨城縣十四郡の一。常陸國に屬し縣の北部を占む。東北境をなす久慈川、南境を流るる那珂川に挾まれたる地域にて、西北より東南に延び東南端は太平洋に面す。北は福島縣東白川郡、東北は久慈郡、南は東茨城郡・水戸市及び西茨城郡、西は栃木縣芳賀郡・那須郡と界す。面積五二一三方寸餘、縣の八・四〇餘を占む。西北半部は八溝山脈の北部にて主として秩父古生層と第三紀層より成り、その中部を東流する押川(久慈川の支流)の谷によりて南北の二地塊に分れ、北部は八溝山(一〇二二米)を主とし六十七百米の高度を示す處から、南部は即ち鷲子地塊にして北部に比し稍低きも共に山地にして森林多し。郡の東南半部は主として洪積層の丘陵地にして高き百米臺を呈し、東南に至ると共に低下し二〇一三〇米の臺地となり畑地よく拓く。久慈川・那珂川に沿ふ細長き沖積地には田地あり。農産は米・麥を主とし豆類・粟・甘藷・青芋・大根その他の野菜を出し、また蘆薈の産多し。林産は木産少からず、工業に和紙・漆器・醤油等あり。陸前濱

街道と省線常磐線は東南部の臺地を横きり、水戸市に起り久慈川に沿ひて福島縣白河に至る縣道と省線水郡線は郡の東境を北上し、水郡線は上菅谷にて久慈郡太田に至る支線を岐ぢ、縣道は山方より那須郡烏山へ、大字より同馬頭に至る道路を分ち、これらの縣道にはいづれもバスの便あり。湊・平磯・瓜連・大字四町の外廿九箇村を含み、人口約二二・八萬、密度二四九人を算す。成務天皇の朝國造を置きし仲國を大化改新の際那珂郡となす。今の那珂郡と東茨城郡の北半とに當る。和名抄は入野・朝妻・吉田・岡田・安賀大井・河内・川邊・常石・全隈・日下・志萬・阿波・芳賀・石上・鹿島・茨城・洗井・那珂・八部・武田・幡田二十二郷を管す。中世私に分けて東邊を吉田郡とし、西北那珂川を挟みて那珂東西二郡とせしが、文祿の檢地に際し吉田及び那珂西部を茨城郡に入れ、更に久慈郡の北部を加へて新那珂とす。後世これに據る。

【那珂川】 栃木・茨城兩縣を流るる川。水源は那須火山西北の三斗小合温泉附近にて、那須野を貫流し、栃木縣東北部地方を流るる余節川・蛇尾川・藤川・武茂川・内川・荒川等を容れ、東にて茨城縣との縣境をなす八溝山脈中に横谷をなして東流し、水戸平野に出て、水戸市の北端を流れ、濁沼の餘水を合せ海に至りて太平洋に注ぐ。流域には蘆薈の栽培甚だ盛んで、我國第一の標本栽培地帯をなす。後世これに據る。

【那珂郡】 讚岐國(香川縣)の古郡名。那珂は即ち中にして鶴尾・多度二郡の中間に位置するより稱する。續紀慶雲四年五月讃岐國那珂郡名初めて見え、天平十九年法隆寺資財帳にも同様郡名見ゆ。萬葉集卷一に中乃水門とあるは本郡の海岸とす。和名抄は那珂に作り眞野・良野・子松・高橋・權無・垂水・喜徳・那家・杵原・金倉・智多の十一郷を置く。明治三十二年九島郡より獨立しその餘は多度郡と合して仲多度郡を建つ。

【那珂郡】 筑前國(福岡縣)の古郡名。那珂は中の意にして國の中央に位置するを以てかく稱せしものならん。その地は古の備前郡の中部にして那珂川に沿ひ、其津津を那津または那大津といふ。後の博多津即ち是なり。郡號は延喜式・和名抄共に那珂に作るも近世那珂・那賀・那珂に作りて一定せざりしが、明治に至り那珂に従ふ。明治二十九年本郡及び席田・御笠二郡を廢して新に筑紫郡を置く。

【那珂村】 福岡縣筑前國筑紫郡の北部。西北半部は福岡市東南部に突入し、東南は大野村、西南は日佐村、春日村に接す。東南より西北に細長く面積七・八方軒。全村地形平坦にして西北境には那賀川、東北には御笠川共に西北に流れ、田畑よく拓けて米・麥・野菜等を産す。鹿見島街道は東部を、省線鹿見島本線は西部を東南に走りて後者の竹下驛(大正二年設

す。中流以下約一〇〇軒には舟楫の便あり。この川には鮭・鮎・鱒・鱒及び鯉等を産し、殊に鮭・鱒を名産とし、鱒は水戸にて那珂鱒と呼び聲價あり、流域一二七種、流域面積約三二七〇方軒。

【那珂】 常陸國(茨城縣)の古地名。和名抄に那珂郡那珂郷あり、郡家の所在地なり。往昔仲國の國造の駐せし處も亦この地ならん。その地はいま明らかならざるも、小瀨川の大字に那賀あり、これ或は郷名の遺稱ならんも、那珂川を距ること約四軒の山中にあり、形勢上一國一郡を控ふべき位置にあらず。吉田東伍氏は渡里村・飯富村の邊に當ると云へり。

ナカ

【那珂郡】 武藏國(埼玉縣)の古郡名。萬葉集に郡名見ゆ。和名抄には那珂・中澤・水保・弘紀の四郷を載す。明治二十九年兒玉・賀美二郡と共に兒玉郡となる。

【那珂】 武藏國(埼玉縣)の古地名。二箇所あり、一は那珂郡那珂郷と和名抄に見え郡家の所在地。その地はいま兒玉郡松久村の邊を云ふか、同村の大字に中里ありこれ郷名の遺稱なるべし。一は和名抄に幡羅郡那珂郷と見ゆ。郡の中央なりしより起りし名稱なるか。その地はいま大里郡の別府・玉井・奈良諸村なるべし。

【那珂】 越後國(新潟縣)の古地名。和名抄に魚沼郡那珂郷あり。その地春かならざるも、いま南魚沼郡六日町・鹽澤町及び中之島村に置る邊ならん。鹽澤町の大字中に郷名の遺稱ならんかといふ。

【那珂】 美濃國(岐阜縣)の古地名。那珂は即ち中にして郡の中央に位置するより起りし名稱なるべし。東大寺傳の大寶二年戶籍に各務郡中里とあり、中は和銅年間以後改められたる那珂なるべし。和名抄に各務郷・那珂郷あり、其地春かならざるも、いま稲葉郡の蘇原村・那加村の邊なるべし。那加は郷名によりて建てたる名稱ならん。

【那珂】 美濃國(岐阜縣)の古地名。和名抄に席田郡那珂郷とあり、その地春かならざるも、いま本巢郡の西郷村の大字に中村あり、郷名を傳へしものか。

【那珂】 美濃國(岐阜縣)の古地名。和名抄に安八郡那珂郷あり、蓋し揖斐・長良二川の中間に位置するより起りし名稱なるか。いま安八郡福東村に中郷の大字あり郷城は大笠町及び福東・仁木二村に互る地ならん。

【那珂】 播磨國(兵庫縣)の古地名。和名抄に多可郡那珂郷と見ゆ。然るに播磨風土記には本郷を載せず。郡内にいま中村あり、郡の中央に當る。これ郷名を傳ふるものか。

【那珂】 大和國(奈良縣)の古地名。國內に三箇所あり。即ち和名抄に見ゆる平群郡の那珂郷、有(宇)智郡の那珂郷、吉野郡の那珂郷是なり。前者は凡そ今の生駒郡平群村なるべく、中者は中世中井莊と稱せし地にて凡そ坂合部の邊なるべし。同村の大字中は郷名の遺稱ならんか。後者はその地春かならざるも吉野川上流の

【那賀】 伊豆國(静岡縣)の古郡名。和名抄に那賀郡那賀郷あり、郡家の所在地なり。その地は伊豆の西海岸にして賀茂郡中川村・仁科村及び松崎町に互る地なり。中川村の大字那賀は郷名の遺稱とす。

【那賀郡】 鳥根縣一市十三郡の一。石見國中部にあり。東北は鹿鹿郡、東は邑智郡、南は美濃郡及び廣島縣山縣郡と界し、西は日本海に臨む。東北より西南に細長く長さ五〇軒、幅二〇軒あり、面積八〇・三九方軒。南境に聳立せる中國山脈の阿佐山(二二八米)・大佐山(一〇六九米)その他の高峻なる連嶺の北斜面の山地を占め、山岳重疊して海に迫り平野殆んどなし。東北部を斜に江川屈曲して北流し、日本海に注ぐ。また西南に周布三隅の西河川あり、何れも山間溪谷を流れて日本海に注ぐ。北半海は砂濱地處處に發達して出入に乏しきも、南半は沈降性の岩石海岸をなし濱田港・唐館浦附近は良港灣をなす。産業は林業・牧畜盛にして木村・牧牛は名あり。また日本海は豊漁區をなす爲、魚類豐富にして水産業さかんなり。海岸に沿うて省線山陰本線西走し、國道山陰道もまた之と交錯並行しつゝ通過し濱田町より東南方に縣道を出し廣島市に至る。この地方は地産乏しき爲海外に出稼する人多し。濱田・江津・三隅・那賀津の四町と三十二箇村を包含し人口約九萬八千四百人、密度稀薄なり。郡名は、國の中央の意より出づ。

【那賀】 伊豆國(静岡縣)の古郡名。和名抄に那賀郡那賀郷あり、郡家の所在地なり。その地は伊豆の西海岸にして賀茂郡中川村・仁科村及び松崎町に互る地なり。中川村の大字那賀は郷名の遺稱とす。

三代實録貞觀九年紀にその名見ゆ。和名抄は都農・郡於・石見・周布・三隅・杵東・伊甘・久佐の八郷を管す。
【那賀郡】徳島縣一市十郡の一。阿波國の南部に在り。北は勝浦郡、西及び南は海部郡と界し、東は紀伊水道に臨む。面積六六八・三六方畝。四國山脈に屬する剣山山脈の東部を東西に走り、その東端は海に沈み出入多きリヤス式海岸をなす。郡の大部分は山岳重疊して深山幽谷をなし、それを切りて那賀川曲折しつづ西南より、また桑野川は南方よりいづれも東北方に流れ、兩河川の合流川口に低平なる沖積地開き、合成して廣き勝浦平野の南部をつくる。山林地積廣く、従つて主生業は林業にして農業これに乏ぐ。また東部海岸は漁業盛なり。北東部より國道來り、東部を南下して海部郡に至り、縣道はその東部に發達す。省線牟岐線また國道に沿うて南下す。郡内、宮岡・羽ノ浦・新野・橋・鶯敷・立江の六町と十八箇村を含み、人口九二二・一五。本郡は成務天皇朝國造を置き長國を大化改新の際に郡となし今の字に改めしものか。三代實録元慶五年の條に郡名初めて見ゆ。和名抄は山代・大野・鳥根・坂野・幡羅・和泉・和射・海部の八郷を管す。而してナガと訓みしもの如し。中世、私に海部郡を割きて海部郡を置き、更に那賀郡を那東・那西の二郡とせしが、近世これを那賀・海部二郡となして今日に

至る。
【那賀川】 徳島縣那賀郡及び海部郡を流るる川。水源の一は海部郡木頭村の西部剣山の南斜面、他は那賀郡深谷村岩倉の剣山の西南面に發す。那賀郡に入り宮濱村の西南部に合流し東流し、延野村にて東北に流路を變じ、更に加茂村にて東折して平島村に至り廣き川幅を形成して紀伊水道に注ぐ。流程約一一〇軒、中流以上は穿入航行をなす部分多し。その代表的河川として知らる。但し河口より合流點附近までは舟を通ず。沿岸平野は縣下第一の米産地にて縣内産出額の半以上に占め、品質も南方米の名を以て讃岐米と並稱さる。また流域一帯の山地に産する木材は薪炭と共に河口の宮岡町にて集散され、東京・横濱方面にも移出され名聲を揚ぐ。
【那賀】 伊豫國(愛媛縣)の古地名。和名抄に風早郡那賀郷あり、近世、中村に作る。いま温泉郡立岩村の地即ち是なり、大字の中村は郷名の遺稱なり。
【那賀川】 福岡縣筑紫郡にある川。郡の南部脊振山地に發源し北流し、福岡市の中央を過ぎり博多灣に注ぐ。流程約三〇軒。上流の一部は狭流を成すも、大部分は沿岸低平にして灌溉に便すること多し。
【那賀村】 長崎縣壹岐國壹岐郡(島)の中央部。北は勝浦郡に接し、東北は海部に近し。全村丘陵性に東北及び西南に

に僅に低地あり、米・麥・甘藷・薪炭等を産す。北方勝浦町、南方武生水町とを結ぶ縣道は西部を縦に、武生水町より東隣田河村蘆邊への縣道は東南部を斜に通じ島内への交通はさのみ不便ならず。古くは和名抄、壹岐郡那賀郷の地とす。全島の中央に當るを以てかく稱せしものならん。大字國分の郡城址は國府の址なりといふ。また大字中野郷に國分寺あり。蓋し延喜式に「壹岐島、直氏寺、爲島分寺」と見ゆるもの之なり。「住吉神社」大字住吉に鎮座。國幣中社。祭神、上筒之男命・中筒之男命・底筒之男命。神功皇后三韓より凱旋の御奉齋。神位、貞觀元年從五位上。式内名神大社。例祭十一月九日。
ナカ中
【中村】 香春縣陸奥國西津經郡の中部。鯉ヶ澤町の南方にて、東南及び南は中津經郡岩木村と界す。面積一、三三〇方畝を有するも岩木山(津輕富士)の西北裾野に在り、地勢南部に高く北方に低下し山地廣し。中村川は村の中部西偏を北流し、下流沿岸狹狭平地ありて耕地拓げ、米を産する外、山地よりの木炭、杉も出す。人口は二千七百餘人にして密度は僅に二四人に過ぎず。省線五能線鯉ヶ澤驛(北隣舞戸村内)に近き交通尙便ならず。
【中岳】 奥羽火山脈に屬する一峯。田澤湖南岸より南方約二〇軒に當り、岩手縣二戸郡山田村と秋田縣鮎川村を隔る。南

上を跨る。標高一〇二四米、山體礫石安山岩より成る。東稜四角岳(一〇〇三米)直に續き、南西稜には鶴ヶ森(八三六米)連る。
【中村】 山形縣羽前國東村山郡の西部。山邊町の西方にて、之と大寺村の西南部を隔て西は西村山郡宮宿町に接す。面積約一八方畝。出羽丘陵東南部の臺地性丘陵にあり。鳥海山(五三二米)は村の略中央部に聳ゆ。中部西北に幅狭き低地ありて耕地は主としてここに拓げ、米・蕪を産す。道路は村の中部を東西に通じ、東方省線左津線の羽前山邊驛へ自動車の便あり。
【中村】 茨城縣常陸國眞壁郡の北西部。下館町の北にて、これと伊津村の一部を挟み、北は栃木縣芳賀郡下田町と隣る。南北に細長く面積七、四方畝餘の小村。東端を小貝川の支流五行川南流し全村平地にて西南部には田地より拓げ、その他は畑地多し。小麥・大麥・米を産し、足袋底の製造行はる。縣道と省線眞岡線南北に通じ、前者にはバス運轉し、後者は折本驛(明治四十五年設置)を置き交通便なり。此地古くは和名抄、新治郡伊津郷の内なるべし。文明五年、伊達朝宗の陸奥國伊津郡に移らざる以前、伊達氏(中村氏を稱す)の領せし地なり。古野時代伊佐城(大字中曾の邊といふ)あり、伊達行朝これに據りて正室に還し、關城の北山麓、大宮城の北山麓を築く。

興國二年以来、高師冬等來り攻め、同四年十一月、關城等の陥ると共に此城も亦陥れり。
【中村】 栃木縣下野國下都賀郡の中部。北は栃木市との間に瑞穂村を隔て、東は小山町と穂積村を挟む。面積九方畝餘。全村平地にて中央を巴波川南流し、北部には畑地、其他には田地より拓げ、純農村にて米・麥を産し養蠶行はる。縣道村の略中央部に交叉し、北方栃木市、南方茨城縣古河町、東方小山町、西方安蘇郡佐野町方面に通じ、何れもバスの便あり。古くは和名抄、都賀郡生馬郷の内とす。もと下總國古河藩主土井大炊頭領の中郷と稱せしより村名起るといふ。
【中村】 栃木縣下野國芳賀郡の西南部。鬼怒川の東岸に沿ひ、東北は眞岡町に隣り、西は川を隔て河内郡上三川町・本郷村と對す。面積二七方畝餘。全村平地にて畑地多く林地を交へ、東西兩部に田畑より拓げ一部沼田をなす。米・麥・蕪を産し、特産物に果實・葉煙草あり。眞岡・下館間の縣道は東南部を、眞岡・石橋間のものには北部を通じ、共にバスの便あり、また省線眞岡線前者と並走して寺内驛(明治四十五年設置)を置く。和名抄に芳賀郡石田郷とあるはこの地か。中世は中村庄と稱せられ、東鑑文治四年三月の條にも中村庄の名見ゆ。大字八十間あり。芳賀系圖に次郎大夫高親の六代の孫肥後守高房、八十間を領す。その子高

政は八十間四郎と稱すと見ゆ。蓋しこの地の人とす。大字寺内にはもと莊嚴寺と稱する天台宗の古刹ありといふ。(八幡神社)大字南中に鎮座。祭神、磐田別尊。古來中村庄の鎮守たり。例祭陰曆八月十五日。
【中村】 千葉縣下總國香取郡の南部、多古町の東隣にて、成田町と八日市場町との略中間に在り。面積約八、六方畝の小村。大部分成り臺地に森林あり。西部は平野南北に續き、栗山川西端を南流し田地より拓く。農業行はれて米・麥を産し養蠶・養鶏も盛なり。多古・成田・八日市場間の縣道南部を横ぎりバスの便あり。多古町内の社線成田鐵道多古驛に近く交通不便ならず。この地は和名抄、匝瑺郡中村郷の地にして、匝瑺郡家はここにありしものならんといふ。大字南中の字中城に中村磐址あり、高さ約一五米の壘址を存す。享徳康正年中、中村但馬守磐址あり、千葉氏の臣飯田三左衛門の居城なりとす。(日本寺)日蓮宗。正東山。一に日本講寺。當宗四十四箇本山の一にして、永仁年中日當の開創する所なり。第三世日祐の代に領主千葉胤貞禮越となりて諸堂を造營。のち談林となり飯高談林と共に日蓮宗の二大談林と稱せらる。
【中村】 千葉縣上總國君津郡の中部。木更津町の東南約八軒。東は小糸村、西は八重原村に隣り、面積一二・五方畝。北

南兩部は共に低き臺地性丘陵にて森林あり。中部東西に低地ありて小糸川これを西流し、耕地より拓く。米を主とし麥・蕪を産し、また養蠶行はる。川沿ひに縣道通じ、西北木更津町、西方富津町方面へバスの便あり。この地は和名抄、周淮郡額田郷の内。
【中川】 東京市内東部の川。埼玉縣より南流し來る利根川の流れ古利根川の下流にして、隅田川・江戸川間の低地地を流し、下流は城東・江戸川兩區の境界をなして東京灣に注ぐ。埼玉縣境より河口までの流程は約一八軒にて、その中央部に於ては相當の蛇行をなす。途中荒川放水路のため横斷され、河水の多くは舊河道を通らずして荒川放水路の東側に沿ひ中川放水路となりて海に注ぐ。この川はもと利根川が南流して東京灣に注ぎし頃はその支流にて、猿ヶ又附近より西折して今の綾瀨川より隅田川に入りたりといふ。のち三つに分れ、一は東折して江戸川に入り、一は西折して綾瀨川に入り、中央のもの南流して海に注ぎ、これが中川となれり。要するに低濕地なるため河道の變遷は自然的にも人工的にも容易なり。江戸時代にはその西岸小名木川の日に番所が置かれ、江戸・行徳間の通船を監査せり、之を中川御關所といふ。
【中村】 神奈川縣久良岐郡にありし村。明治三十四年、横濱市に編入さる。
【中村】 神奈川縣足柄上郡にありし村。

明治四十一年、井ノ口村と合し、中井村を置く。
【中郡】 神奈川縣十郡の一。相模國の一部にて縣の中部南偏に在り。東は相模川下流によりて高座郡と界し、東南は平塚市に接し、西南は相模灣に面し、西は足柄下郡・足柄上郡に、北は愛甲郡に隣る。面積二二・二方畝、縣の九、八〇餘を占む。西北部は丹澤山塊の東南部に當り境上の中部に大山(二二五三米)、西部に塔ヶ岳(一九九二米)峙す、南部は濁流地塊に屬する大磯丘陵ありて最高處にて二百米内外を示し、西北には丹澤山塊との間に秦野盆地を圍み、南は相模灣岸に低下し、その沿岸は夏涼冬暖の氣候を有し保養地として著れば、その砂浜はまた恰好的海水浴地たり。郡の東部は丹澤山塊東側の段丘とその裾を南北に續く相模川平野の南部より成る。産物に米・麥・落花生・甘藷・大豆・粟等のほか秦野地方には葉煙草の産多く、養蠶亦榮えて蕪の産少からず、他に沿岸漁業も行はる。東海道及び省線東海道本線南部の海岸に近く東西に通じ、足柄街道は伊勢原・秦野を経て矢倉澤に向ひ、社線小田原急行鐵道(電車)また略これと並走して東京と小田原を結び、その餘縣道また東部を南北に通じ、これら道路はいづれもバスの運轉あり郡内交通便なり。大磯・二宮・伊勢原・大山・秦野五町の外甘藷村を含み、人口約一〇・三萬人、密度四四三人を示

す。中郡の名稱は足利幕府の頃の私稱たり。小田原北條氏之を襲用し、天正年中に至り郡號復古し中郡の名亡ぶ。明治二十九年改めて海鏡・大住の二郡を合し中郡を成す。

【中山】八ヶ岳火山群の一峯。西方長野縣諏訪郡豊平村と東方南佐久郡北牧村の境上に位す。標高二四九三米。北方丸山(二三三〇米)と南方天狗岳(二四六六米)との中間に起る。

【中村】岐阜縣美濃國可兒郡の北部。御嵩町の西に接し、木曾川の支流可兒川に沿ふ。南北に二―三百米の丘陵を負ひ、中央を可兒川東より西に流れて沿岸平地に田畑拓く。農・蠶業を主とし米・繭の産多く、次いで製絲・鍛冶等の工業盛なり。また石灰の産多少あり。可兒川に沿ひ中山道東西に貫通し南方へ縣道も分岐す。社線東美鐵道を廣見町より通じ、村内に須戸(昭和三年設置)・御嵩(大正九年設置)の二驛を置く。この地は和名抄可兒郡那家郷の内なり。「春日神社」大字中に饗座。郷社。祭神、武甕槌神外三神。社傳に據れば上古中村開闢の元祖中村連といへる人の創祀と傳ふ。例祭二月十一日。(八幡神社)大字須戸に饗座。郷社。祭神、應神天皇。社傳によれば延長八年石清水八幡宮を勧請して創祀す。當時、社領三千五百石を有せる大社なりき。其後康平六年源義家再建す。爾來上下の社領四千石餘の本社を有してしが

中世悉く烏石に歸す。例祭九月十五日。

【中村】靜岡縣遠江國小笠原の中南部。掛川町の東南約八村。北部及び西南部に丘陵隆るも他の大部分は低平、東境を菊川西南に流れ、北部丘陵の裾なる池と共に灌漑の便よく田畑よく拓く。米・繭・茶を産す。街道は東部をほぼ南北に通じ掛川町及び東方榛原郡相良町にパス通す。【中(村)】愛知縣愛知郡にありし村。大正十年、名古屋市に編入さる。

【中郡】京都府十七郡の一。丹後國の一部にして府の西北部に位し、東部は與謝郡、北は竹野郡、西は熊野郡に隣り、西南に至りて急に北折し、中部に於て西南隅より東に支流を併せ北流し竹野郡を経て日本海に注ぐ。川の沿岸はその沖積地たる峰山盆地にして郡の主要生産地を成す。農産は米・麥を主とし蠶蠶行はれて繭を出し、工業には生絲の外、機械榮え丹後縮緬の産地として著る。盆地の西北部を占むる峰山町を中心都邑とし外に十二箇村を含み、人口約二四・八千人、密度は一八三人。但馬街道は與謝郡より來り西に嵯峨山峠を越えて熊野郡に出て、北方竹野郡御野に至る府道之より岐る。

省線富津線中部を南北に貫走するも交通

なほ大に便利なりといはれず。もと丹波郡と稱し近世中郡に作り以後之による。【中村】大阪府河内國南河内郡の略中央部。金剛山脈西麓に位し、富田林町の東南方約三村、これと彼方村・大伴村を隔つ。面積僅に三・七五方村。東南部は細長くなりて東隣河内村と南隣赤阪村との間に突入す。東南より西北に緩く傾斜する平地にて、石川の支流東條川干早村より來りてほぼ中部を北流し田地よく拓け、西北境の丘陵地には果樹園あり。米・麥等の外蜜柑・葡萄等を出し工業も少からず。富田村街道は西部を、古市街道は東部を南北に通じ交通不便ならず。古くは和名抄、石川郡掛口郷の内なり。

【中町】兵庫縣播磨國多可郡の中部。加古川の支流移原川中流の地。東南は西脇町との間に日野村を隔て、東北は水上郡和田村に接す。面積四八方村餘なるも東北・西南兩部には高さ四一五米の山地あり、北境の妙見山は六九三米を示す。移原川は西北隣松井庄村より來り西北より東南に中部を貫き、その沿岸に廣潤なる低地ありて田畑よく拓け米・麥類を主とし食用農産・苧・苧・蕪等々の農産あり、また製茶・薬草・木製品・蠶製品・瓦・醬油・墨等の工業あり。西脇より佐治(水上郡)へ、北條(加西郡)より柏原(水上郡)への縣道南北と東西に通じ、また社線播磨州鐵道加治原野村村(重春村)より分岐

北上して村内に入り播磨中村驛及び終點

鍛冶屋驛、共に大正十二年開業。なせき交通不便ならず。古くは和名抄、多可郡荒田郷に屬す、大字安樂は郷名の遺稱なるべし。中世は荒田郷といふ。大正十三年町制を布く。(稻荷神社)大字稲屋に饗座。縣社。祭神、倉稻魂命外相殿神二柱。推古天皇二年九月の創建と云ひ、初め宇土井後に饗座し、古來安田庄の氏神として聞ゆ。神護景雲三年社殿を建立、仁壽二年四月神託により天安元年現社地に遷座す。元龜二年兵火に罹り天正元年十一月再建す。武將の崇敬厚く、地頭中原氏・足利景氏・赤松氏・池田氏等の寄進多し。例祭、十月十四日。(加都良神社)大字間子に饗座。郷社。祭神、加都良乃命。相殿、高皇產靈神・天忍穗耳命。天平元年の創建と傳へ、式内の加都良乃命神社なりといふ。例祭、十月十七日。【量興寺】大字天田にあり。古義真言宗。高香山と號し高野末。天仁年中寂信の開創に係り、天正年中良通中興す。明治三十四年境内に八十八箇所靈場を創設す。

【中島】下河津村(島根縣海士郡)【中村】島根縣隠岐國周智郡の北部。隠岐島後の北端に位し、北は海に臨む。東境に葛尾山(五九八米)、南境に時張山(五二二米)、西境には大峰山(五〇八米)聳立し、末端は北方に突出して海苔田島等の岬となる。中村川は南端山地に發し北流し大字中村にて海に注ぐ。海岸は概ね

斷崖をなし岬端には白鳥・沖ノ島・松島・琴島等の小島散布す。山地多く低地は僅に中村川沿岸及び海濱にありて耕地開け米を産するも、山地に於ける木材は良質なるを以て知られ、なほ魚族・鹿辛も少からず。街道は溪流に沿うて走るも檢路ありて交通便ならず。(高尾暖地性常緑樹林)指定天然記念物。宇高尾にあり。樹種は主として椴類・さかき・ひさかきにして、少數のれすみち・もぢのき・つばき・しひのき・ゆづりは・しきみ・やまもも・かごのき等の暖地性常緑樹葉樹を交ふ。ひめこまつ・くろべ・すぎ等の針葉樹・うりはだかへて・いたやかへて・かつら・みづなら等落葉樹葉樹は極めて僅かなり。樹梢よりは蔓性植物垂下し附着せる羊齒・蘭類には、ひらら・なごらんの如く日本南部亞熱帯性植物の北限と見做すべき珍らしきものなり。(明神ノ松)指定天然記念物。中尋常高等小學校の校庭にあり。防風林の名残にして大小二株の黒松なり、枝振美しく、大なる方は地上約一米半に於ける周圍七米四角。

【隠岐海苔田ノ鼻】指定天然記念物及び名勝。大字元屋の宇平島・琴島・五葉島・イモリの海濱及び海面、石礁を含む。(隠岐白鳥海岸)指定名勝天然記念物。大字西村字後浦地内笠崎より白鳥岬を経て同村字風浦地内壽仙崖に至る絶壁地及び其地先二〇〇米以内の海面・島嶼・岩礁を含む。白鳥は白色の石英粗面岩より成

り、奇岩怪窟多く、青松參差名狀すべからざる勝地にして、ここに大木風鳥と稱する猛禽棲息す。

【中ノ岳】新潟縣越後國南魚沼郡五十澤。東兩村と北魚沼郡湯之谷村との境上に位す。標高二〇八五米。又、銀山、御月山といひ古來の靈山なり。山頂は草原をなし國常立堂の銅像あり。「八海(山)銀山駒ヶ岳」と號はれ、此三山を巡るを三岳めぐりといひ行者の登拜少からず。

【中ノ島】島根縣隠岐の島南群島の一島。西にある西島とは別府灣と中井口を以て相對し、南の知夫里島とは木棧口(大口)によつて隔たる。中ノ島の東北方には松島・舟島・大森島等のほかに大磯・塚磯等の暗礁あり。島の東端は知々井崎といひ、南端を木棧ヶ崎といふ。島内の最高點は西端の家督山(約二四六米)にして、大部分は二〇〇米の山地なり。灣頭に僅の平地あるのみにて、海士・宇受賀・豊田・保々見知々井・布施崎・須賀・菱等の灣頭聚落が僅に存するに過ぎず。背後の丘陵性山地には畑・牧あり、栗・稗・蕎麥等の畑作物と牛馬を産す。海よりは柔魚・鯖・鰺等を産し、特に北西別府灣に面する菱と、知々井半島頭部にある知々井とに多し。周圍の島と共に海士村に屬す。周圍約六六村、東西約七村、南北約六・五村。刈田山には後鳥羽天皇の行在所の遺地あり、隠岐神社を奉祀す。昭和十年人口五〇四八にして、大正九年六〇

〇一、同十四年五四七八、昭和五年五三〇八一に比し著しき遞減を示す。

【中村】岡山縣備中國用上郡の中部。成羽町の西にあり、北は吹屋町・宇治村、西は湯野・平川二村、南は宮家村と界す。面積約一八方村、地勢一般に三―四百米餘の山地より成り、西部は高さ約六百米餘の山岳層居して高峻なり。西南境を巡りて成羽川流れ、その流域に僅に狭長なる谷を開き平地を見る外は殆んど低地なり。米・麥・繭の外に苧・苧・生柿・木炭等の産多く、また廣く牧牛を營む。成羽町に至る縣道ありてバスを通す。この地古くは和名抄、下道郡成羽郷に屬す。

【中村】廣島縣安藝國佐伯郡にあり。廣島灣上に浮ぶ西能美島の中部にありて東は飛渡瀬村を隔てて江田島と對し、北は内海及び高田村、西は三高・沖の二村、南は鹿川村と界す。面積六方村。東部及び西部は丘陵性山地にて森林地をなし、中央部は低平なる地域をなして耕作行はる。米・麥・繭・蘭草等の産あり、また水産業・牧畜業も、従つて工業多し。高田村へは渡船の便あり。

【中(村)】高知縣幡豆郡にありし村。明治三十一年中村町と改む。

【中村】福岡縣筑前國鞍手郡の中部西偏。直方市の西方約四村にて、その間に宮田町・若宮村を隔つ。面積九・八六方村。西部より西北部一帯にかけては山地をなし、西隅は約六百米の高さを有す。中部

より東部へは緩く傾斜して概ね平川、東境には遠賀川に注ぐ大鳴川東北に流れ、米麥を主とする農産あり。大鳴川に濱ひて道路通するも交通不便ならず。古くは和名抄、鞍手郡金生郷の内なりしものか。江戸末期の醫者にして筑前洋醫學の首唱者武谷元立(贈正五位)はこの地の人、又その子にして名醫術の贈從五位も此地に生る。殊に祈之の經營せる養生館は九州帝大醫科の礎をなせり。

【中(村)】熊本縣宇土郡にありし村。明治三十二年、郡浦村と共に廢し、新たに郡浦村を建つ。

【中(岳)】阿蘇山(熊本縣)【中村】熊本縣肥後國天草郡の東北部。大矢野島の南半を占め、東は千島島・維和村)に、南は小島嶼多くそれと柳ノ瀬戸・満越瀬戸等を隔てて天草上島に對す。高嶺百米以下の丘陵起伏し、東南部及び東北部海岸には稍低地開く。東岸には野牛島・横島、南岸には永浦島・樋合島・高李島等をはじめ小島嶼散在して風景に富む。農業行はれ乳牛・大豆等を主産物とす。柳ヶ浦海岸より縣道北上し登立町へバス、南方今津村へ發動機船の便あり。

【中之島】鹿児島縣大島郡十島村に屬する一島。口ノ島と諏訪瀬島の間に在る寶七島の一。周圍約一―二村餘の活火山島にて、中央より北西に偏して御嶽(一〇三七米)聳ゆ。山はコニエデ式の未だ削削の進まざる幼年期の火山にして頂上部

ナカ

に噴火口を有し、大正三年火口底沼の平より泥土を噴出し小池を形成せり。東北端の高元地と南端のセリ岬との間は一大淺灘をなし、鹿兒島・那覇間の定期船寄港す。御嶽西南麓に聚落あり。

ナカ 仲(國)

國造本紀に見ゆる古國名。成務天皇の朝、建信馬命を以て國造に定め給ふ。國郡制定の時に郡となり、常陸國に隸す。那珂郡即ち是なり。されど現時の那珂郡は文祿の檢地に際して郡境を異動せしめたること夥からざるを以て、往時の那珂郡と久慈郡との各一部に當る。※那珂郡(常陸國)

ナカ 名賀郡

三重縣十五郡の一。伊賀國の南半にて縣の中郡西側に在りし、北は阿山郡(伊賀國)、東は一志郡、南は奈良縣宇陀郡、西は同山邊郡と界す。面積三二八方軒餘。東境には布引山脈南北に連り、南部は室生火山地域の山地にて東山界に尼ヶ岳(九七八米)、南境に國見山(八六〇米)、西境に茶臼山(五三五米)あり、郡内は東部及び南部に高く北部は上野盆地の一部にて伊賀川の支流長田川西北に流れ幅狭き低地とその北東の臺地をなし、西南部には宇陀川と長瀬川の合流に因る名張川の小盆地をなす。長田川流域に阿保町、名張川流域に名張町の二町あり、外に十七箇村を含む。低地は肥沃にして田畑よく拓け米・麥の産多し差蠶亦行はれて繭を出し、外に豆類・甘藷・馬鈴薯・青芋等の食用農産あり。林産・

ナカ 那賀

〔那賀郡〕和歌山縣七郡の一。紀伊國の一部にして縣の西北部に在りし、東は伊都郡、南は有田郡、西は海草郡に接し、北は大阪府泉南郡と界す。面積四三〇方軒餘。地形上、北部の和泉山脈、南半の高野山塊の西につづく山地及び中間の紀ノ川流域の三部に分かる。和泉山脈は白聖紀層より成りて東西に連り、葛城山(八五七米)・犬鳴山・三峯山(五七七米)・四石山(三三四米)等を起すも概して高峻ならず、南方紀ノ川谷に傾斜す。南半の山地は高野山塊と同じく主として結晶片岩及び變成岩より成り、その南境を限りて東西に天狗岳(九六八米)・尖峯山(八六二米)・生石ヶ峰(八七〇米)等を起す長峯山脈とその北方に貴志川及び新瀬川・栢瀬川の谷によりて切られたる東西に延びたる二條の山脈より成る。紀ノ川流域は和泉山脈の南側に生ぜし斷崖に因る縱谷にして、南北山前地に接する部分には洪積

ナカ 長

〔長沼〕宮城縣登米郡西北部の沼。新田村と北方村に跨り、東西約五・五軒、南北約一軒、周囲約三〇軒あり。佐沼山、日向臺などの丘陵を以て圍まれ湖沼海抜は二八米、沼潭の排水は日向臺の北より東へ流る。この沼は灌漑用に供せらるること多く、且つ鰻魚養殖の産に富む。

三四四

- 〔長(村)〕宮城縣名取郡にありし町。もと茂ヶ崎村といひしが大正四年長町と改稱、昭和三年仙臺市に編入さる。
- 〔長沼〕千葉縣印旛郡北部の沼。豊住村に屬し、南北二つに分れ、北岸より排水して利根川に注ぐ。沼面は海抜一米、沼岸の延長三・九軒。面積は南沼〇・八方軒にして北沼は一・六方軒、深度は南沼とも一米内外なり。沼面は秋季ヒツシツクサを以て蔽はれ、底棲動物としては介類多し。
- 〔長島〕↓愛掛村(岡山縣邑久郡)。
- 〔長島〕廣島縣豊田郡中野村の島。一に大崎長島といふ。↓中野村。
- 〔長島〕↓上關村(山口縣熊毛郡)。
- 〔長(國)〕國造本紀に見ゆる古國名。成務天皇の朝、觀松彦色止命九世の孫韓背足尼を以て國造に定め給ふ。國郡制定の時郡となり阿波國に屬す。凡そ今の那賀郡の地是なり。
- 〔長島〕鹿兒島縣の西北端、出水郡に屬する島。東南の本陸とは黒ノ瀬戸(薩摩追門)の狭水道を以て相隔て、東は八代灣、西南は天草灘に臨み、東北に伊唐島・諸浦島等、西北に天草下島を望む。南北約一六軒、東西八一〇軒。天草上島の東部に起り西南定する念珠岳山脈と走向及び構造線に於て一致し、全島の大部分は白聖層より成る開析臺地に於て、中部に四百米前後の行人岳、尖峯等あり、南部に四百米前後の鹿島臺地をなす。海岸は割

る處に海崖を見、脚角灣入多し、これ本島が一度隆起し巖谷の開析されたる後、程度の高降を見たるに因るとせらる。平地に乏しく、聚落は多く海岸に發達し、生業は半農半漁なり。中部の分水嶺によりて東長島・西長島の二村に分たる。東岸の鹽道・宮ノ浦は八代灣沿岸汽船の發着所たり。

ナカアイ 中合

新潟縣西蒲原郡にありし村。明治三十九年、曲通・株津の二村と合併して月潟村を建つ。

ナカアイヘツ 中愛別

北海道石狩國上川郡愛別村の大字。省線石北線の中愛別驛(大正十二年設置)を置く。

ナカアシガワ 中芦川村

山梨縣甲斐國東八代郡の南部。御坂山脈の北面、芦川の山谷に在り、東は上芦川村、西は鶯宿村にて、南は南都留郡と界す。南北に山嶺を負ひ、聚落は中間の谷を西流する芦川に沿ひ、農・蠶を主業とし、秋冬は木炭製造に従事す。主産物は蠶・木炭・木材なり。道路東西に通ずるも交通不便なり。此地はもと芦川郷と稱せし地の一部にして明治十三年より上芦川・中芦川・鶯宿の三箇村を以て組合村をなし役場を本村に置く。

ナカアスマ 中吾妻山

吾妻山(福島縣)の峰。

ナカアマダ 中甘田村

石川縣能登國羽咋郡の中部。高濱町の南に接し、羽咋町を距る北方約一〇軒。西は日本海に

ナカア——ナカイ

南す。面積九・二六方軒。概ね低き丘陵をなし、その中間と北部に平地ありて田地拓げ、海岸は砂濱をなす。農・蠶業を主とし米・蠶の産あり。海岸に沿ひ外浦道と社線能登鐵道並走し、鐵道は大島驛(昭和六年開業)を置き、また外浦道には高濱町・羽咋町へのバスを通じ、交通不便ならず。

ナカアライ 中新井

東京府北豊島郡にありし村。昭和七年東京市に編入し他町村と共に板橋區を成す。

ナガアリ 長有

陸奥國の古地名。續紀、弘仁二年四月に、「廢陸奥國海道十驛、更於通常陸道、置高野・長有二驛、爲告機急也」と見ゆ。延喜式兵部省式にも陸奥國高野・長有二驛驛馬二疋とあり、これ常陸國より直に東山道の本路に合する支道に置きたるもの。長有驛はその位置からならざるも白河郡依上保内と見るべく、後世常陸國久慈郡に在る宮川村の大字下野宮の邊なるべし。

ナカイ 中井

〔中井村〕神奈川縣相模國足柄上郡の東南隅。北は中郡秦野町との間に南秦野村を隔て、東は同郡土深村、東南は同二宮町に、南西は足柄下郡下中村・下曾我村と界す。面積二〇方軒餘。湖陵丘陵の西部にて南部は三百米の高度を有するも北部へ次第に低下して臺地をなし如地・林地を交へ、またその中間には南北に通ずる細き谷地あり。麥・甘藷・粟・蕎麥・

三四三

- 大豆等を産し、魚沼行はる。縣道は南北に通じ、三宮町・秦野町へのバスの便あり。此地は和名抄、餘綾郡中村郷の内なるべく、中世は中村庄と稱せし地なり。明治四十一年中村及び井ノ口村を合併し本村を置く。〔八幡社〕大字遠藤に鎮座。郷社。祭神、譽田別尊・猿田彦命外十九神。後白河天皇の保元二年僧義圓の勸請に成ると傳へ、源頼朝祈願所六十一社の一といふ。また當社を一に五戸八幡と稱するは、宇佐八幡を勸請してより次第を追うて第五に當るが故なり。即ち一に宇佐、二に日光、三に男山、四に鎌倉、五に當社なりと傳ふ。例祭四月二十日。〔中井〕愛知縣碧海郡にありし村。明治三十九年、他の五箇村と共に廢し新に六ツ美村を置く。
- 〔中井村〕岡山縣備前中國上房郡の西部。東は中津井・眞祖二村、南は川面村及び高梁川を隔てて川上郡高倉村と界し、西及び北は阿哲郡那間・豊永二村と隣る。面積三一方軒餘。全村高約三三四米の臺地性山地より成り、東南部に秋葉山(五九一米)聳ゆ。平地は中央部の山間谷地及び高梁川に沿ふ河岸にあるのみ。山地は良好なる牧場をなして牧牛盛に行はれ、また米・麥を産する外、木炭・蠶・生柿・蒟蒻等を出す。南境高梁川に沿うて省線伯備線通じ方谷驛、昭和三年設置あり。この地は和名抄、美賀郡中井郷の地なり。齋田城址あり、戰國の頃城主植
- 〔永井村〕岡山縣備前中國西野井郡の南端。西南は宮城縣登米郡石越村・石森町に、東南は同郡上沼村に隣接す。村内には一〇〇米内外の丘陵起伏し、南部に高倉山(二三四米)あり、東北境を東南流する北上川は北境を東流し来る金流川を合れ、また西南境には追川の一支夏川東南に流れ、流域に低地ありて耕地開く。米・麥類・大豆等を産し、蠶蠶も盛なり。街道一關登米線は西北より東南に縱貫し、石越川口線は西部を南北に走り、バスを通す。この地は和名抄、八代郡長江郷の内なり。いま米倉村と共に組合村をなし役場を本村に置く。
- 〔永井村〕山梨縣甲斐國東八代郡の中部。甲府市の東南約五軒。面積〇・七九方軒の小村。瀧戸山嶺の北麓層層線に沿ひ、笛吹川の一支金川の扇状地の扇端に在り、西方にやや傾くも土地低平、甲府盆地の東側縁に當る。米・麥を産するも蠶蠶を主とする農業經營をなす。他の町村に至る幹線道路なく交通便ならず。人口は大正九年六二七人、同十四年六五

七人、昭和五年六三一人、同十年六三八人と一進一退して増加率悪しきも、昭和十年の一方糶密度は面積小なるにより八〇八人の稠密を示す。

ナカイ 長井

〔長井町〕山形縣羽前國西置賜の東北都。南に平野村、北に長井村あり、東は東置賜郡伊佐澤村と界す。面積九・四七方軒。最上川の支流のなす長井盆地の略中央部に位置し、郡の首邑たり。東半は金井神山(約四〇〇米)の丘陵性山地なるも、西半は平坂にして、その山地との境を最上川北流し、西北部には支流野川流る。田地よく折けて米の産あり、附近一帯は養蠶地をなし、その中心たる本町は生絲・眞綿を始め長井綿・米琉等の機業榮ゆ。また町内の龍森鑛山よりは、消備鐵が産す。道路四通し東南は赤湯町、北方は荒砥町、西南は秋生(豐原村)方面へバスの便あり、また省線長井線南北に走り長井驛(大正三年設置)を置く。和名抄に置賜郡長井郷と云ふは本町の邊を指させるものならん。中世、一時は置賜郡の名を失ひ長井郡或は長井郷の名を以て呼ばれし事あり、而してこの地はその中心部邑たり。初め平泉藤原氏の館たりしが、鎌倉時代に大江廣元の次子大江時廣の所領となり子孫相襲ぎ世々長井氏と稱し、のち伊達氏に亡ぼさる。本町を本場とする長井綿の發達は甚だ古き、新業中興の祖として發達の基礎を築きたるは上杉鷹

山、専ら殖産興業に鋭意し特に意を蠶桑の業に用ひたるに因る、而も當時の製産品は極めて單純なる自または綿糸に止まり、未だ今日の如き精練の製出なりしが文化年間に浮浪人某に因りて精練製法の方法を傳へられ、これ實に精練の溢艦とす。其後、下總結城にて綿織の方法を研究して歸る者あり、また精練の製法を考案する者ありて漸次に改良進歩を示し、更に精練完全なる蠶糸を製出され、斯業の面目を一新し以て今日に至る。〔總宮神社〕大字宮に鎮座。縣社。祭神、日本武尊・大己貴命。延暦年間(坂上田村麿)が、日本武尊東夷征討の初此地にて民の水害を除き給ひし神徳を追尊して本社を創建。のち寛政せしを康平六年源頼義これを再興す。降りて文政年中に蒲生氏郷當郡兼頭となり勳農に努めたりし際、神社・佛閣の肥地の地に鎮座せる爲め收穫不足を告ぐるにより長井庄五十餘箇村の神佛を廢し、これら神靈を總て宮村神社に合祀し、長井庄總鎮守として崇奉し、神號を總宮と稱へ、神領三百石を寄せて、以て五十餘箇村の氏神と定む。爾來上下の尊崇厚く、元禄十五年(正一位總宮大明神)の神號奉授す。例祭、九月十九日。〔通照寺〕大字宮にあり。新義眞言宗豐山派。金剛胎藏院。往古は奥ノ高野山と稱せられ高嶺山實性院末にして、堂宇莊嚴を極めしが、のち次第に衰頹す。應永年中、信喜日再興せしが、大正十一年の城

代が片倉小二郎の當寺に歸依すること深くして、遂に仙臺に一字を創建して通照寺と號し、以て祈願所となす。上杉公徳も當寺を以て祈願所と定む。爾來、下長井四十餘郷の檀那寺となり、末寺三十三箇寺を擁して法威盛んなりき。

〔長井村〕山形縣羽前國西置賜の東北都。郡の首邑長井町の北に隣り、北部は狹長に西北方に延びて西隣西根村、北隣豐桑村の間に突入し、東南は東置賜郡伊佐澤村に接す。面積約一七方軒。東部は金井神山、西北部は葉山東面の山地なるも、中央部は最上川上流の長井盆地に屬し土地平坦にして田地・桑畑よく折げ、米・蕪を産す。長井町・荒砥町の道路は中央部を南北に通じ、兩町へはバスの便あり。省線長井線また西部に通じ羽前成田驛(大正十一年設置)を置く。〔葉山神社〕大字自苑に鎮座。郷社。祭神、保食命外三神。創建は朱雀天皇天慶年中なりといひ、附近四十ヶ村の崇敬社。例祭七月十五日。〔八幡神社〕大字成田に鎮座。郷社。祭神、仁徳天皇。後冷泉天皇永承七年源頼義、安倍貞任征討の時、これを勧請すといふ。その後の來歴傳はらず。例祭、九月十五日。

〔長井線〕省線奥羽線の一。山形縣東置賜郡神宮村の奥羽本線の赤湯驛より西置賜郡に入り、今泉驛・豊田村・長井驛(長井町)を経て荒砥町の東置賜に至る三三〇、六軒。今泉驛にて省線米穀線に連絡す。

ナカイオチ 中魚落

十四年に大坂市住吉區に編入す。

ナカイクエ 長生村

德島縣阿波國那賀郡の東部。東は見能林・寶田二村に、北は中野島・大野二村に、西は加茂谷村に界す。面積一七方軒餘。西部及び東南部に數百米の山岳連立して聳立し兩山の裾を切つて桑野川北流し、北部には那賀・桑野二川によつて造られたる稍や沃かつ水利の便よろしきため耕地よく拓けて農業盛なり。米・麥・蕪その他の農産物多し。北境中央より國道南下して來りて山間低地を通り桑野村に至る。省線牟岐線國道に沿うて南走するも村内に驛なし。大字宮内に八柿神社、大字明谷に吉利明谷寺あり。〔八柿神社〕大字宮内に鎮座。郷社。祭神、大己貴命。創祀年代詳かならざれど延喜の制小社に列す。社寶中、大己貴命立像(木造)一軀・男神立像(木造)一軀は藤原時代作にて、金泥法華經八卷と共に國寶。例祭、九月二十七日。

ナカイケ 長池

奈良縣の一驛(明治二十九年設置)。京都府久世郡宮野莊村宮野にあり。

ナカイジュウイン 中伊集院

鹿兒島縣日置郡にありし村。大正十一年伊集院町と改む。

ナカイスミ 中泉

〔中泉町〕靜岡縣濱江國野田郡の南部。北は見附町に接し、濱松市の東方約一二軒に位置す。面積僅に三・三六方軒。北部は磐田原の南西端部に低き臺地をなし、町はその南西に建ち、南部は天龍川平野の一部にて土地平坦肥沃なり。米・茶等の農産及び畜産あり、清酒・醬油の醸造、製茶・製糸・染織等の工業榮え、その産額多し。古くは東海道の一驛にて今は省線東海道本線の中泉驛(明治二十二年設置)置かれ、縣道また四通して附近町村へバスの便よし。古くは和名抄、磐田郡豊國郷の内なるべし。此地は往古國府の置かれし地といひ、一説に隣接の見附町の地ならんといふ。遠江國風土記傳には此地を古府とし、見附町なるを新府とすと見ゆ。或は然るか。天正中に徳川家康この地に別墅を構へし頃附近の政務を分掌せしめんために陣屋を置きしが、のち遺跡の礎石をこゝにて支配せしめたり。其地今猶ほ存す。昭和四年梅原村を廢しその地域を當町に編入す。〔田中森具塚〕一に手長森といふ。具塚の遺跡にして嘗て石器を發見すといふ。

ナカイスミ 長泉村

〔長泉村〕靜岡縣濱江國野田郡の南部。野野川の支流黃瀬川に沿ひ、南は沼津市との間に大岡村・金岡村を挟み、東南は伊豆國田方郡三島町に接す。愛鷹山の一峯位牌岳(一四五八米)東南斜面に、西北より東南に細長く面積約二六・四方軒。大部分は山地にて森林なるも山麓を南流する黃瀬川の東は平坦にて田地・桑畑よく拓く。製紙業盛にしてその産額最も多く農産これに次ぎ、

なほ本線は將來に於て省線左澤線に連絡すべきものなり。

〔長井村〕埼玉縣武蔵國大里郡の東北部に隣る。利根川の右岸に沿ひ、土地卑濕なるを以て利根川岸には堤防を設く。その小支は中部を東南流し、津波の便よく、利根川岸一帶の桑畑地域の他は水田となる。熊谷市より妻沼町に至る縣道は西部を南北に通じ、他は利根川に並行し妻沼町に至る街道ありてバスを通ず。此地はもと長井庄と稱し、新編武蔵風土記に依れば奇麗實盛の住せし地といふ。

〔長井町〕神奈川縣相模國三浦郡の西部。相模灣東岸に沿ひ、南は初聲村に接し、東北は横須賀市の西南部と、武山村を隔つ。面積僅に三・七方軒なるも東半は土地平坦にして耕地よく折げ、農産行はれて米・麥・甘藷・馬鈴薯等を産す。西部は丘陵にて荒崎海岸に突出し、北部は大楠村との間に小田和灣を成し、漁業また榮ゆ。返子・葉山より三浦半島の南端なる三崎への縣道東部を南走し自動車を通じ、交通不便ならず。大正十五年町制を布く。この地は和名抄、御浦郡安城郷の内か。こゝは三浦大介義明の子、長井五郎兼季の住せし地なりと云ふ。

〔長井〕山城國(京都府)の古地名。和名抄に乙訓郡長井郷あり。長岡京の廢地に配設せし町の一にして、北部にありしもの、如く、その地を見し日向町の北

ナカイ 長居

〔長居〕下總國(千葉縣)の古地名。和名抄に匝瑳郡長居郷あり、蓋し長居に長居の誤なるべく、その地は匝瑳郡共興村の邊なるべし。

〔長居〕大阪府東成郡にありし村。明治二十七年に依羅村より分離獨立す。大正

都の邊にありしもの、如く、いま日向町の邊なるべし。

ナカイ——ナカウ

山地の裾には牧羊行はれ畜産また少からず。省線御殿場線通じ、下戸狩野。明治三十一年設置あり。又その省線は東海道本線との連絡三島驛に近し。縣道は南北に通じてバスあり。この地は足柄官道の古驛にて、もと永倉郷と稱す、大字長津に戦國の頃城あり。小田原北條氏に屬せしが後に武田氏に屬す。武田氏の滅後は徳川氏の有となり、牧野康成これを守る。

ナカウチ 中井田 大分縣大野郡にありし村。明治四十年に外四村と共に廢されて東大野村を置く。のうち大野町と改稱す。

ナカイト

長糸村 福岡縣筑前國糸島郡の南部。前原町の南に接し、南は佐賀縣小城郡北山村・東松浦郡七山村に界す。面積二三・六方軒餘。香振山塊西部の北斜面に位し、南境に羽金山(九〇〇米)聳ゆ。概ね山地なるも中央部より北邊にかけては平坦にて、田畑よく拓けて米・麥を産し、木材・竹材等の林産を出す。省線筑肥線に加布里驛(前原町神在)・一貴山驛(西隣一貴山村田中)・筑前深江驛(深江村)等へ各々バスの便あり。明治二十三年、長飯本村を長糸村と改稱す。大字飯原より雷山村に亘り、雷山神籠石(指定史蹟)あり。雷山村。古くは和名抄、怡土郡長野郷の地にして、大字長野はその遺稱とす。(宇美八幡宮)大字川竹に遺傳。縣社。祭神、譽田開命。

ナカウチ 中浦 福岡縣越後國北浦原郡の中部。新發田町の南に隣接し、福島湯海岸に臨む。面積二四・四方軒餘。東南部に眞木山の丘阜横はる外は全、低平にして美田拓く。加治川の流れは中央を東西に貫流し福島湯に注ぎ漕漕便なり。米を主産物とし、養蠶・養魚等の副業も行はる。省線筑肥本線と縣道並行して村内を南北に走り、省線の新發田驛・天王新田驛(南隣木田村内)にも近く交通便なり。寛永五年新發田藩主溝口宣勝その三男宣利を當村の大字池端の地に封じ、新知五千石を與へて幕府の旗本に加へしめ、爾後その子孫相嗣ぎて明治維新に至る。

ナカウチ

中浦村 大分縣豊後國南海部郡の東部。北は佐伯湾に臨む。東は東西浦村、西は西中浦村に、南は米津津村に隣接す。佐伯湾の南を扼する中浦半島の中浦北岸を占め、狭長なる村にて西北部は北に突出して白崎となる。全村山地にして平地に乏しく半農・半漁の形態をなす。街道は海岸に沿うて通じ、佐伯湾沿岸の發動機船の便あるも、交通便ならず。大正十一年、東中浦村の大字羽出浦・中越浦を以て本村を置く。

ナカウチ

長浦 千葉縣上總國君津郡の北部。昭和町の東隣にて北は東京灣に臨み、東は市原郡姉崎町と隣接す。面積一八方軒

ナカウチ——ナカエ

息長足姫命・玉依姫命・氣比大神。社傳に神功皇后三韓より凱陣後、武内宿禰をして此處に祭祀せしめ給へるを當社の創建と云ふ。此地もと精屋郡宇美神社の神領なりしこと續風土記に見えれば、當社は宇瀬八幡の分靈を勧請せしものなるべし。舊藩時代、中津領怡土郡東十二村の總社として土俗の崇敬を蒙りたり。例祭、九月十五日。

ナカイ

永井野村 福岡縣岩代國大沼郡の東部。高田町の西南に隣接す。面積約一五・六方軒。村の西部は西南隣りの尾岐村の西北境に時つ明神ヶ嶽(一〇七四米)の東北嶺の山地にて、約六〇〇米を示し東側の斷層線に向つて急斜す。東半部は沼沼川の支流宮川の扇狀地に屬し會津盆地の西南部をなす。平坦地の東部には田地よく拓けて米を主産し、西部には畑地多く大豆・蔬菜・柿等を産しまた養蠶行はる。東北若松市へ道路を通じてバスの便あり、また省線會津線高田驛(東北隣高田町内)へ近く交通不便ならず。この地は和名抄、會津郡屋代郷の内なるべし。村内の船岡の屋敷は松木氏代の居所なり。

ナカウチ

中魚沼郡 新潟縣のほく中央の南部。信濃川の中流に沿ひ、東は南魚沼郡に、西は刈羽・東頸城兩郡に、北は北魚沼郡に、南は長野縣下高井・下木内兩郡に界す。面積六二五方軒餘。長野縣と

餘。全村低き臺地性に於て森林あり。丘陵間には巾狭き低地数段東西に横き、田地如地をなし、米・麥・蕎麥を産し養蠶行はる。海岸は單調なる砂濱にて遠淺をなし貝類の養殖營れる。縣道は海岸に沿ひて走り姉崎町・昭和町へバスの便あり。省線筑肥線西線の築紫驛(昭和町内)・姉崎驛にも近く交通不便ならず。大字蔵波に蔵波岩址あり。里傳によれば里見義亮ここに砦を築き、近藤綱利大膳をして守らしむ。のち北條氏の攻むることとなりて磐石。大字久保田には久保田城址あり。里傳によれば里見義成の築きしところと云ふ。その子義通これに居り、のち笠原新六郎これを守り、北條氏に攻められて笠原氏ここに死す。而して北條氏の臣某の居る所となしが、天正十年豊臣氏の爲に城陥る。

長浦村 新潟縣越後國北浦原郡の西部。福島湯の西南岸に沿ひ、北は葛塚町、南は水原町に界し、面積一八・六方軒餘。福島湯の餘水は新井郷川となりて西境を西流す。全村平坦にして、肥沃なる水田をなし。米の産額多し。葛塚・水原兩町に通ずる道路にはバスを通じ、省線筑肥線水原驛への交通の便よく、また新井郷川には舟楫の便あり。

長浦村 長崎縣肥前國西彼杵郡の北東部。西彼杵半島の東岸中部に位し大村湾に臨む。南は村松村、北は龜居村なり。面積三六方軒餘。半島の香染山脈の東斜

の境上には富場山(二四五米)を初め一千米を出づる山岳重疊し、東西の郡界はいづれも高度六七十米の山脈南北に走る。信濃川は郡の中部を穿ち、西偏して略南北に貫流し、右岸に下高井郡より来る中津川、南魚沼郡より下る清津川の二支流を合す。流域に細長き平地開け、殊に中部の兩岸には河岸段丘發達し、そこに十日町・千手町相對して興り本郡の中心地をなす。平地には水田・桑園拓け、農業盛にして米・豆類・粟・蕎麥・甘藷等の農産、繭・生糸の蠶業品あり、山地は森林繁茂し林業・製炭が主産物とするもの多し、本郡の主産物は絹織物にして十日町はその中心機業地をなし、十日町明日石の名は世に著る。省線十日町線は上越線の越後川驛より分岐南下して十日町に來り、社線飯山線は信越本線野郎に起りて十日町に達し省線に連絡す。信濃川右岸に沿ひ谷街道は往時より信越を結ぶ重要道路の一にして寒落は概ね之に沿ひて發達す。其他、十日町より道路東西に分岐し、山越に隣郡に通じ何れもバスの便あり。郡内は十日町・千手町外二十箇村を含み、人口約九・三萬人、密度一四九人を示す。本郡は古への魚沼郡を明治十三年南・北・中魚沼の三郡に分ちて置けるものなり。

ナカウチ

中白杵 大分縣北海部郡にありし村。明治四十年に外一村と共に廢して南津留村を置く。

ナカウチ

奈賀江村 大分縣豊後國東國東郡の南東部。東北には安岐町、北は南安岐村、西は遠見郡杵築町、東南部は半島狀をなして突出し、その尖端春石鼻は別府湾の東北界をなす。大部分は丘陵性山地にして高度は二〇〇米内外を示すも、東部と西南部の海沿ひには巾狭き低地ありて耕地拓く。東南部半島の西南端には砂嘴西方に發達して北に守江港を抱く。米・麥・蕎麥等の農産の他に木産少からず。縣道と社線國東鐵道も海岸低地を通じ、鐵道は瀬手・守江・狩宿・奈多・八幡・北奈多の五驛(前二者は大正十一年、其他は同十二年開業)を設け、また大阪商船の細島通は守江港に寄航し、交通不便ならず。古くは和名抄、國崎郡安岐郷の内にして、圓田郡に安岐郷、守江浦三町、地頭戸次太郎時親と見ゆ。守江浦は即ちいま大字守江の地とす。大字守江の守江浦の東端に住吉ノ濱なる景勝地あり。白砂青松連り、天ノ橋立に景勝たるものあり。(えびあやめ)自生南限地帯)指定天然記念物。えびあやめは鳶尾科に屬する矮小なる植物にして、春季に

ナカウチ

中里有知村 岐阜縣美濃國武儀郡の中部。長良川中流の左岸に沿ひ北は美濃町に接し、南は關町との間に下春知村を挟む。面積六・五七方軒の小村。東半は高さ二百米の丘陵起伏するも、西半は開盆地の一部にて土地平坦。南部は畑地、北部は田地多し。農業・養蠶を主業とし、米・蕎麥の他に蔬菜園藝植物の産あり。略中央を南北に省線越美南線と社線名古屋鐵道美濃町線貫通し、前者の美濃町驛に、後者の美濃驛前驛に近く、越前街道また之に並行して南北に通じ、北は美濃町、西南は岐阜市へバスの便ありて交通便なり。この地は和名抄、武藝郡生備郷の内なり。

ナカウチ

中内田村 静岡県遠江國小笠郡の中部。掛川町の東南約四軒、北は上内田村、南は下内田村に隣す。西部には二百米以内の丘陵性山地連り山地を開拓する水は東境を南流する菊川に合し、流域にやや廣き低地なりて耕地よく開け米・麥・蕎麥を産し養蠶も行ふ。縣道は東北部を貫通しバスを通ず。下内田村と組合村を成し本村に役場を置く。

ナカウチ

中海村 石川縣加賀國能美郡の中部。小松町の東方約三軒。北境には觀音山(四〇二米)、東境に火燈山(四八一米)、南境に大峰(四五三米)・梅木(山二〇五米)あり。中部を梯川の一支出北に流れ、沿岸に低地ありて田畑よく開け、米・蕎麥を産す。縣道は川に沿ひ

藍色の花を開く。(奈多神社) 大字奈多に備置。縣社。祭神、應神天皇・比賣大神・神功皇后。創建年代詳ならずとも古來宇佐八幡の別宮として地方の名刹たり。足利末期大永年間以降は社運隆昌を極め、後水尾天皇の勅書を得ること豊後國誌に見ゆ。社殿の再興は天保九年以後詳かならず。降りて寛永年中に諸殿の造替成り、細川・小笠原の兩氏相續いで崇敬愈々す。社殿造替・神領寄進等あり。社寶中、僧形八幡神坐像・木造二軀。女神坐像・木造二軀は共に國寶に指定せらる。例祭、四月五日。

ナカウチ

中江の瀬戸 鳥取縣西伯郡弓ヶ濱半島と島根縣八束郡の半島部との間にある水道。長さ約五・五軒、幅二〇—一九〇米にて、中の海と美保灣とを聯絡す。入口狭く且つ淺き爲に小汽船の他は出入すること不可能なり。

ナカウチ

長江 福岡縣南會津郡にありし村。昭和三年に二川村と合併し江川村を建つ。此地は北會津郡大戸村・大沼郡本郷町と共に和名抄、會津郡長江郷の地にして、中世に長江荘と稱せられし處なり。

ナカウチ

長江 加賀國・石川縣の古地名。和名抄に江沼郡長江郷あり。その地は凡そ今の三木村の邊なるべし。同村の大字永井は郷名の轉訛なるべし。

ナカウチ

長江 甲斐國(山梨縣)の古地名。和名抄に八代郡長江郷あり、奈加江と訓す。

ナカエ——ナカオ

その地今の東八代郡水井村・米倉村・増田村・岡村の邊に當る。

【長江】攝津國にありし莊園。今その地詳ならず。承久三年、後鳥羽上皇の寵を蒙れる白拍子龜菊がこの地及び倉橋の莊を領せしが、關東より咲きし地頭がこれを押領せるため、上皇は關東に命じてこれを停止せしめ給ひしこと兩度に及ぶも、義時命を奉ぜず、上皇進賢甚しく、よりに義時を追討せしめ給ふ。これ承久の亂の一導因をなせり。

【長江】鳥根縣八東郡にありし村。明治四十一年に古賀志村・古志村と共に廢しその地域を以つて古江村を建つ。

ナカエ 長柄村 群馬縣上野國邑樂郡の西部。館林町の西方にて、これと多多良村を挟み、西は小泉町に接す。面積一四・五方軒餘。全村平地にて畑地多く、林を交へ、西部と東北部には田地折げ、米麥を産す。縣道は館林町・小泉町に通じ、また北走するものは足利市方面に至る。社線東武鐵道小泉線は館林町より來り、北部を掠め篠塚驛(大正六年開業)を置く。〔長柄神社〕大字篠塚に鎮座。郷社。祭神、事代主神・藤原長良。別に大國主命・大日靈命等二十二柱を合祀す。創立年代詳かならず。石打村・川村・秋妻村等七ヶ村の土産神なり。例祭、四月十五日。

ナカエチ——中越後

【長尾村】群馬縣上野國群馬郡の北部。南は吾妻川を隔て、澁川町の北隣なる金山村に界し、東は白濁井村、西は小野上村なり。南北に狭長にして面積一四・五方軒 子持火山(二九六〇)の南斜面にて緩く南傾斜し、山林多きも南部吾妻川の北岸には平坦地ありて耕地折げ麥・米を産し、また養蠶盛にて繭を多産す。澁川町より吾妻郡中之條・草津方面への縣道は南部を略東西に通じバスの便あり。古くは和名抄、群馬郡別所郡の内とす。延喜式馬寮式に別所郡とあるは別所郡を指す。

ナカオ 長尾

【長尾村】群馬縣上野國群馬郡の北部。南は吾妻川を隔て、澁川町の北隣なる金山村に界し、東は白濁井村、西は小野上村なり。南北に狭長にして面積一四・五方軒 子持火山(二九六〇)の南斜面にて緩く南傾斜し、山林多きも南部吾妻川の北岸には平坦地ありて耕地折げ麥・米を産し、また養蠶盛にて繭を多産す。澁川町より吾妻郡中之條・草津方面への縣道は南部を略東西に通じバスの便あり。古くは和名抄、群馬郡別所郡の内とす。延喜式馬寮式に別所郡とあるは別所郡を指す。

ナカエチ——中越後

【長尾村】群馬縣上野國群馬郡の北部。南は吾妻川を隔て、澁川町の北隣なる金山村に界し、東は白濁井村、西は小野上村なり。南北に狭長にして面積一四・五方軒 子持火山(二九六〇)の南斜面にて緩く南傾斜し、山林多きも南部吾妻川の北岸には平坦地ありて耕地折げ麥・米を産し、また養蠶盛にて繭を多産す。澁川町より吾妻郡中之條・草津方面への縣道は南部を略東西に通じバスの便あり。古くは和名抄、群馬郡別所郡の内とす。延喜式馬寮式に別所郡とあるは別所郡を指す。

ナカオ 長尾

【長尾村】下總國千葉縣の古地名。和名抄に匝瑳郡長尾郷あり、その地詳かならず。或はいま興興村の大字に長谷あり、郷名の轉訛にあらざるかといひ、また一には長尾は生尾の謬にして、生尾は匝瑳村の大字なるより長尾郷を以て匝瑳村の邊に擬せんとするも定説なし。

如をなし米・麥を産し養蠶も行はる。海岸は磯濱にて風景雄大、また海水浴場をなす。北方の館山北條町に縣道を通じ、省營自動車通す。この地は和名抄、安房郡白濱郷の内にて、近世は長尾藩のありし處なり。〔長尾藩〕駿河國田原藩の本多氏は明治元年ここに移り四萬石を領す。同四年藩を廢し長尾縣・木更津縣を経て千葉縣に入る。

【長尾】神奈川県鎌倉郡にありし村。大正四年に外二村と共に廢し、大正村を置く。

【長尾村】箱根火山北西部の外輪山を越す交通路の一。神奈川県足柄下郡仙石原村と、靜岡縣駿東郡富士岡村に跨る。最高點九〇三米。北麓に續く丸岳(一五四四米)・乙女峠(一〇〇〇米)・長尾山(一四四四米)、南麓に連る湖尻峠(八五〇米)と共に東方仙石原火山を圍む一大馬蹄形火山口壑を形成す。小田原よりは湯本・宮ノ下・仙石原を経てこの峠にかかる。この間約四二軒。峠はいま陸道を穿ちて通過の便を計る。陸道を出で靜岡縣側に出づれば前面に駿府富士・愛鷹展望み、展望開設せらる。乙女峠と共に富士の展望地として海内にその名高し。峠より御殿場まで約一四軒。小田原・御殿場間に乗合自動車を通ず。また東方峠下より南方鐵道湖尻に至る山道あり。この間約四軒あり。

【長尾山】箱根火山北西部の外輪山を越す交通路の一。神奈川県足柄下郡仙石原村と、靜岡縣駿東郡富士岡村に跨る。最高點九〇三米。北麓に續く丸岳(一五四四米)・乙女峠(一〇〇〇米)・長尾山(一四四四米)、南麓に連る湖尻峠(八五〇米)と共に東方仙石原火山を圍む一大馬蹄形火山口壑を形成す。小田原よりは湯本・宮ノ下・仙石原を経てこの峠にかかる。この間約四二軒。峠はいま陸道を穿ちて通過の便を計る。陸道を出で靜岡縣側に出づれば前面に駿府富士・愛鷹展望み、展望開設せらる。乙女峠と共に富士の展望地として海内にその名高し。峠より御殿場まで約一四軒。小田原・御殿場間に乗合自動車を通ず。また東方峠下より南方鐵道湖尻に至る山道あり。この間約四軒あり。

ナカオ——ナカエ

【長尾村】兵庫縣攝津國川邊郡の中部。伊丹町の西北にて、東は川西町に、西は小濱村に接す。面積一二・七方軒餘。西半は長尾山の南斜面にて、北境に中山(四七八米)ありて南に緩く低下す。南半は武庫平野の一部にて土地平坦、田畑よく拓く。北部と東部は古來園藝業盛にして田畑は殆ど庭園樹・苗木・花卉の植栽地に使用せらる。南部と西部は米麥作をなせるも近時漸次に園藝業を營むもの多くなれり。生産物の主なるものは米・麥・庭園樹・苗木・花卉・繭類・セルロイド加工品等にして鶏卵・瓦等もあり。山地は松茸の産額多し。中部山麓には道路東西に通じ、その南には社線阪神急行電車寶塚線・省線福智山線通過し、前者に山本・中山等の諸驛、後者に中山寺驛(明治三十年設置)あり。大阪市方面との交通至便なり。明治二十二年長尾村と稱し村制施行す。此地は和名抄、河邊郡山本郷の地にして、いま大字に山本の名を存す。允恭天皇の朝、河邊の臣をして治めしめ給ひ、文武天皇の六年に關北公磨の支配に屬し、のち坂上額次を以て此地を領せし

【長尾村】兵庫縣攝津國川邊郡の中部。伊丹町の西北にて、東は川西町に、西は小濱村に接す。面積一二・七方軒餘。西半は長尾山の南斜面にて、北境に中山(四七八米)ありて南に緩く低下す。南半は武庫平野の一部にて土地平坦、田畑よく拓く。北部と東部は古來園藝業盛にして田畑は殆ど庭園樹・苗木・花卉の植栽地に使用せらる。南部と西部は米麥作をなせるも近時漸次に園藝業を營むもの多くなれり。生産物の主なるものは米・麥・庭園樹・苗木・花卉・繭類・セルロイド加工品等にして鶏卵・瓦等もあり。山地は松茸の産額多し。中部山麓には道路東西に通じ、その南には社線阪神急行電車寶塚線・省線福智山線通過し、前者に山本・中山等の諸驛、後者に中山寺驛(明治三十年設置)あり。大阪市方面との交通至便なり。明治二十二年長尾村と稱し村制施行す。此地は和名抄、河邊郡山本郷の地にして、いま大字に山本の名を存す。允恭天皇の朝、河邊の臣をして治めしめ給ひ、文武天皇の六年に關北公磨の支配に屬し、のち坂上額次を以て此地を領せし

【長尾村】兵庫縣攝津國川邊郡の中部。伊丹町の西北にて、東は川西町に、西は小濱村に接す。面積一二・七方軒餘。西半は長尾山の南斜面にて、北境に中山(四七八米)ありて南に緩く低下す。南半は武庫平野の一部にて土地平坦、田畑よく拓く。北部と東部は古來園藝業盛にして田畑は殆ど庭園樹・苗木・花卉の植栽地に使用せらる。南部と西部は米麥作をなせるも近時漸次に園藝業を營むもの多くなれり。生産物の主なるものは米・麥・庭園樹・苗木・花卉・繭類・セルロイド加工品等にして鶏卵・瓦等もあり。山地は松茸の産額多し。中部山麓には道路東西に通じ、その南には社線阪神急行電車寶塚線・省線福智山線通過し、前者に山本・中山等の諸驛、後者に中山寺驛(明治三十年設置)あり。大阪市方面との交通至便なり。明治二十二年長尾村と稱し村制施行す。此地は和名抄、河邊郡山本郷の地にして、いま大字に山本の名を存す。允恭天皇の朝、河邊の臣をして治めしめ給ひ、文武天皇の六年に關北公磨の支配に屬し、のち坂上額次を以て此地を領せし

【長尾村】兵庫縣攝津國川邊郡の中部。伊丹町の西北にて、東は川西町に、西は小濱村に接す。面積一二・七方軒餘。西半は長尾山の南斜面にて、北境に中山(四七八米)ありて南に緩く低下す。南半は武庫平野の一部にて土地平坦、田畑よく拓く。北部と東部は古來園藝業盛にして田畑は殆ど庭園樹・苗木・花卉の植栽地に使用せらる。南部と西部は米麥作をなせるも近時漸次に園藝業を營むもの多くなれり。生産物の主なるものは米・麥・庭園樹・苗木・花卉・繭類・セルロイド加工品等にして鶏卵・瓦等もあり。山地は松茸の産額多し。中部山麓には道路東西に通じ、その南には社線阪神急行電車寶塚線・省線福智山線通過し、前者に山本・中山等の諸驛、後者に中山寺驛(明治三十年設置)あり。大阪市方面との交通至便なり。明治二十二年長尾村と稱し村制施行す。此地は和名抄、河邊郡山本郷の地にして、いま大字に山本の名を存す。允恭天皇の朝、河邊の臣をして治めしめ給ひ、文武天皇の六年に關北公磨の支配に屬し、のち坂上額次を以て此地を領せし

【長尾村】兵庫縣攝津國川邊郡の中部。伊丹町の西北にて、東は川西町に、西は小濱村に接す。面積一二・七方軒餘。西半は長尾山の南斜面にて、北境に中山(四七八米)ありて南に緩く低下す。南半は武庫平野の一部にて土地平坦、田畑よく拓く。北部と東部は古來園藝業盛にして田畑は殆ど庭園樹・苗木・花卉の植栽地に使用せらる。南部と西部は米麥作をなせるも近時漸次に園藝業を營むもの多くなれり。生産物の主なるものは米・麥・庭園樹・苗木・花卉・繭類・セルロイド加工品等にして鶏卵・瓦等もあり。山地は松茸の産額多し。中部山麓には道路東西に通じ、その南には社線阪神急行電車寶塚線・省線福智山線通過し、前者に山本・中山等の諸驛、後者に中山寺驛(明治三十年設置)あり。大阪市方面との交通至便なり。明治二十二年長尾村と稱し村制施行す。此地は和名抄、河邊郡山本郷の地にして、いま大字に山本の名を存す。允恭天皇の朝、河邊の臣をして治めしめ給ひ、文武天皇の六年に關北公磨の支配に屬し、のち坂上額次を以て此地を領せし

【長尾村】兵庫縣攝津國川邊郡の中部。伊丹町の西北にて、東は川西町に、西は小濱村に接す。面積一二・七方軒餘。西半は長尾山の南斜面にて、北境に中山(四七八米)ありて南に緩く低下す。南半は武庫平野の一部にて土地平坦、田畑よく拓く。北部と東部は古來園藝業盛にして田畑は殆ど庭園樹・苗木・花卉の植栽地に使用せらる。南部と西部は米麥作をなせるも近時漸次に園藝業を營むもの多くなれり。生産物の主なるものは米・麥・庭園樹・苗木・花卉・繭類・セルロイド加工品等にして鶏卵・瓦等もあり。山地は松茸の産額多し。中部山麓には道路東西に通じ、その南には社線阪神急行電車寶塚線・省線福智山線通過し、前者に山本・中山等の諸驛、後者に中山寺驛(明治三十年設置)あり。大阪市方面との交通至便なり。明治二十二年長尾村と稱し村制施行す。此地は和名抄、河邊郡山本郷の地にして、いま大字に山本の名を存す。允恭天皇の朝、河邊の臣をして治めしめ給ひ、文武天皇の六年に關北公磨の支配に屬し、のち坂上額次を以て此地を領せし

【長尾山】兵庫縣西宮市の北方約一二軒前後、猪名川と武庫川の中間なる一連の丘陵性の山々の稱。川邊郡西谷村と長尾村に属す。構成岩は主として石英斑岩なり。主峰中山(四七八米)を中心とし、東方は白く輝く岩肌に松樹點綴し、西方は暗色の樹林帯をなす。南方は直に大阪平野に接すれども北方は丹波高原の山波にうち連る。南麓に中山寺あり。

【長尾村】兵庫縣攝津國有馬郡の中央西部、北境東半は三田町に、東は道場村に接し、西北は美濃郡奥吉川村に界す。面積一三・三方軒餘。南・北には低き山地あるも中部東西に細長き低地ありて田畑よく拓く。米・蔬菜・食用農産物・繭・麥・鴉卵等を出し、製製品・双物・瓦等もあり。北部には縣道東西に貫通して三田・天神(加東郡上東條村)間のバスを通じ、東部は社線神戸有馬電鐵の横山驛に近し。【多聞寺】曹洞宗、寺寶中、毘沙門天立像(木造)一軀。吉祥天立像(木造)一軀は共に藤原時代作、他に地藏菩薩立像(木造)一軀は鎌倉時代にして以上は何れも國寶なり。

【長尾鼻】鳥取縣氣高郡の西北部に突出する岬。岬は八一米にして山脚直ちに海に迫り、殆んど海岸をなす。

【長尾町】岡山縣備中國津口郡の東北部。東は船橋村に、南は玉島町に、西は富田村に界し、北は古備郡穂井村に接す。面積五・七五方軒。北には高野約百一十

百米の丘陵起伏し、南麓には高梁川下流の沖積平野廣く開けて漕漕の便利と相俟つて耕作よく行はれ、米・麥・蕎麥・薄荷・繭等の産出多く、また葡萄の特産あり。域内の中央を東西に省線山陽本線走り、玉島驛(明治二十四年設置)を設く。北方より來る縣道は中央を縱走して玉島町に至る。市街は兩交通路の交錯する處に開け、麥稈眞田・綿絲紡績・造酒業等を管む。玉島港及び岡山市に至る自動車道の便を有し活況を呈す。古くは和名抄、淡口郡船橋郷に属す。大正十四年町制を布く。

【長尾炭鑛】大嶺町(山口縣)北は造田村に、東は石田村に、南は五名村・多和村に界し、西は木田郡井戸・奥鹿二村に隣す。南北に細長く、面積約二一・七方軒。南境には讃岐山脈に属する矢筈山(七八八米)聳え、町の南半はその北斜面の地を占めて山岳重疊し中央に於て百米以下に低下し、北半は低平なる讃岐平野の東部を占めて土地肥沃なり。平地と山麓には處々に用水池ありて灌漑の便よく農業盛なり。主産物は米・麥類・木材・竹材等に於て扇扇・竹籠等の工業もあり。市街は北部平野の西端にありて平地を東西に走る阿波街道に沿ふ街村型をなす。社線高松電軌の終點長尾ありて高松市と連絡し、また平野の便あり。明治二十三年町制の施行するや郡役所の所在地となり。大正四年町制施行す。古くは長尾郷に作る。和名抄に宗川郡長尾郷あり、奈賀手と調す。徳治中の記文に長尾莊の名見え、興善院領なり、後には醍醐寺法華堂領となり。正平七年の文書に、東長尾莊の名見ゆれば、當時は既に東西二莊に分れたるにや。元龜年中、寒川元隆、大字前山の地に城きて之に居り、城を長尾城と呼ぶ。天正年中、十河存保と長曾我部氏の兵を拒ぎ敵する能はずして城陥り、寒川氏亡ぶ。のち松平氏の領地となりて明治維新に及ぶ。【龜鶴公園】大字長尾東、宇佐神社境内にあり。八幡池及び附近の山林を含み櫻の名所として知らる。【宇佐神社】大字長尾東に鎮座す。神社、仲哀天皇外二神。社傳に後醍醐天皇永徳二年の創建といひ、當村の産土神として、古來崇敬の社。例祭、十月二日。【長尾寺】大字長尾西にあり。天台宗寺門派。補陀落山觀音院と號し、西國八十八所第八十七番札所。もと當國天台宗七樹林の一にして國內七觀音の一に數へらる。天平十一年行基の草創と傳ふ。のち開闢これを再興す。生駒氏・藩主松平氏等の崇敬厚かりき。詠歌「あしびきの山鳥の尾の長尾寺秋の夜すが彌陀を稱へよ」(嵯樂寺)大字長尾東にあり。古義直言宗。紫雲山寶藏院と號し、同宗大覺寺末。寺傳に據れば行基の開闢に係り、自作の樂師和來俊も安置すといふ。天長元年に地味再興

所在地となり。大正四年町制施行す。古くは長尾郷に作る。和名抄に宗川郡長尾郷あり、奈賀手と調す。徳治中の記文に長尾莊の名見え、興善院領なり、後には醍醐寺法華堂領となり。正平七年の文書に、東長尾莊の名見ゆれば、當時は既に東西二莊に分れたるにや。元龜年中、寒川元隆、大字前山の地に城きて之に居り、城を長尾城と呼ぶ。天正年中、十河存保と長曾我部氏の兵を拒ぎ敵する能はずして城陥り、寒川氏亡ぶ。のち松平氏の領地となりて明治維新に及ぶ。【龜鶴公園】大字長尾東、宇佐神社境内にあり。八幡池及び附近の山林を含み櫻の名所として知らる。【宇佐神社】大字長尾東に鎮座す。神社、仲哀天皇外二神。社傳に後醍醐天皇永徳二年の創建といひ、當村の産土神として、古來崇敬の社。例祭、十月二日。【長尾寺】大字長尾西にあり。天台宗寺門派。補陀落山觀音院と號し、西國八十八所第八十七番札所。もと當國天台宗七樹林の一にして國內七觀音の一に數へらる。天平十一年行基の草創と傳ふ。のち開闢これを再興す。生駒氏・藩主松平氏等の崇敬厚かりき。詠歌「あしびきの山鳥の尾の長尾寺秋の夜すが彌陀を稱へよ」(嵯樂寺)大字長尾東にあり。古義直言宗。紫雲山寶藏院と號し、同宗大覺寺末。寺傳に據れば行基の開闢に係り、自作の樂師和來俊も安置すといふ。天長元年に地味再興

ナカオ ナカオ

【長尾】筑豊本線の一驛。明治三十四年設置。福岡縣嘉穂郡桂川村にあり。

【長尾】 筑豊國の古地名。和名抄に鶴足郡長尾郷あり、奈賀手と調す。その地今の綾歌郡長尾村・造田村の邊に當る。

【長尾】 筑豊本線の一驛。明治三十四年設置。福岡縣嘉穂郡桂川村にあり。

【長尾】 筑豊國の古地名。和名抄に鶴足郡長尾郷あり、奈賀手と調す。その地今の綾歌郡長尾村・造田村の邊に當る。

【長尾】 筑豊本線の一驛。明治三十四年設置。福岡縣嘉穂郡桂川村にあり。

【長尾】 筑豊國の古地名。和名抄に鶴足郡長尾郷あり、奈賀手と調す。その地今の綾歌郡長尾村・造田村の邊に當る。

【長尾】 筑豊本線の一驛。明治三十四年設置。福岡縣嘉穂郡桂川村にあり。

【長尾】 筑豊國の古地名。和名抄に鶴足郡長尾郷あり、奈賀手と調す。その地今の綾歌郡長尾村・造田村の邊に當る。

ナカオ ナカオ

【長尾町】岡山縣備中國津口郡の東北部。東は船橋村に、南は玉島町に、西は富田村に界し、北は古備郡穂井村に接す。面積五・七五方軒。北には高野約百一十

ナカオ ナカオ

【長尾町】岡山縣備中國津口郡の東北部。東は船橋村に、南は玉島町に、西は富田村に界し、北は古備郡穂井村に接す。面積五・七五方軒。北には高野約百一十

ナガオ ナガオ

【長尾山】兵庫縣西宮市の北方約一二軒前後、猪名川と武庫川の中間なる一連の丘陵性の山々の稱。川邊郡西谷村と長尾村に属す。構成岩は主として石英斑岩なり。主峰中山(四七八米)を中心とし、東方は白く輝く岩肌に松樹點綴し、西方は暗色の樹林帯をなす。南方は直に大阪平野に接すれども北方は丹波高原の山波にうち連る。南麓に中山寺あり。

ナガオ ナガオ

【長尾町】岡山縣備中國津口郡の東北部。東は船橋村に、南は玉島町に、西は富田村に界し、北は古備郡穂井村に接す。面積五・七五方軒。北には高野約百一十

ナガオ ナガオ

【長尾町】岡山縣備中國津口郡の東北部。東は船橋村に、南は玉島町に、西は富田村に界し、北は古備郡穂井村に接す。面積五・七五方軒。北には高野約百一十

然記念物。樹の下部より大小十数本の支...

【長岡市】東京府武蔵國西多摩郡の東部...

【長岡市】新潟縣のほぼ中央、信濃川の...

Table with 2 columns: Category (e.g., 工業物, 農産物) and Value (e.g., 一四、四五三、五八二).

て高低の差比較的多し。昭和十年の天気...

即ち明治二十六年古志郡山本村の加津保...

に割當つれば一四五四圓となり、一人當...

に合して長岡に至るが、上野驛よりは僅...

商業學校等あり。また五等文庫、蔵書五...

守の居城す。慶長三年堀秀治は越後を領...

また信濃川筋の要津として築たが、官...

ナカオ——ナカオ

年市町村制實施當時は現在の市域に七箇町村あり、其内の六箇町村は三十四年合併して長岡町となり。三十九年市制を布く、大正十年更に四郎丸村を市域に編入して現在に至る。古文書「村山七郎義盛代方切七郎光義軍忠事」右越後國奥郡四徒池多劫石坂以下之輩合衆起今年三月押寄藏王堂、及散々合戦因徒等打負、楯籠大面庄之由、依有其間大將軍風間越後守御發向之間屬于彼御手同五日馳向富田、令致軍忠候上者、給御證判爲備後證恐々言上如件。正平七年八月「日承了」。「三浦和田三郎左衛門尉義成軍忠事」當國御發向之間自最前馳參、同時渡阿賀河追籠河内因徒等城内、今月五日出張小國城御敵之間、於新堀宿致合戦同六日古志郡乙面陣に馳付候之處、同八日朝一品宮、新田武州、鴨谷金吾以下没落候事。同十三日至于藏王堂下着、致忠節候了。此等子細御見知之上者爲賜御證判之狀如件。文和二年十一月十六日。「三浦和田三郎左衛門尉義成軍忠事」右當國因徒等蜂起之間屬三浦和田土佐守致手。不測時日馳向之鹿河内御敵等出張、差塞路次之間今月二日青海庄賀茂日於陣卒致散々合戦退落畢。同三日藏王堂仁馳著、同七日一品宮脇谷金吾以下御敵等志度乃岐庄於木野島出向之間守護相共致散々合戦之時、被切乘馬、吉田彌次郎時綱被突。同日於大島庄平方原致散々合戦畢。此等次第御見知之上者、賜證判爲備後證恐々言上如件。承

了。文和四年四月廿九日「金峯神社」藏王町に鎮座。俗に「きんぼう」と呼ぶ。舊稱は藏王権現。藏王神社ともいふ。縣社。祭神は金山彦命、一説に少彦名命といふ。式内の宇奈具志神社に擬せらる。創建年代に三説あり、和銅二年大和國吉野郡金峯の藏王権現の勧請と云ひ、又は寶龜五年の創祀と云ひ、或は大同五年の創建とも云ふ。往昔は楡原(いま古志郡楡尾町)に鎮座ありしが、永祿三年、矢田(いま三島郡大河津村)に移り、更に股倉(後の藏王)に移る。いま信濃川の河中なるべし。慶安元年幕府朱印地三百石を寄す。當時、古志郡の小島氏の女は家光に寵され、家光没後に尼となり當社の神領を管理すと云ふ。正徳三年に社地信濃川の洪水其他の天災に崩潰せしため現社地に移遷す。維新の際に藏王権現を改め現社號を稱す。例祭、七月十五日。なほ當社に俗に玉神様と稱する神坐し一男神二女神を以て一組となり四組坐します。維新前には此神は上條・中條・下條・河西の豪家へ各一組止宿し給ひ藏王社に止まらせ給ふは、年の内十月末より十一月中旬のみとす。而して一年毎に宿を替へ給ふ。此神の止宿し給ふ間、其家の主人は外出することを不得す。正装にて家に止り近隣の誰れとなく来る者を迎えて馳走する義務を有す。此神を以て藏王権現と混同するものあれど、此神は権現が股倉(今の藏王)に移る以前より股倉郡内に鎮座し給ひしものと云ふ。明治新維新、天台宗靜觀院安禪寺は境内にありて別當寺たり。近世中興の祖を道義僧正となす。明治維新に一旦廢絶せしが、十數年の後いまの石内町に復興せらる。「平湯諏訪神社」表町一丁目鎮座。縣社。祭神、健甕名方富命外配祀二神。別に青木神社を合祀す。創建年代詳ならずも、天平八年僧行基は當社に自作の普賢菩薩像を納めて此地に流行せる惡疫退散を祈願せりと傳ふ。天文・天正の交、上杉謙信・景勝父子の祟敵篤く、殊に牧野氏は元和四年上野國大河より入部以來、當社を祈願所とし慶安二年現在地に造營せらる。社地はもと舊藩主牧野氏の城址西北(今の省線長岡驛邊)にありて地名に因りて平湯殿とせり。享保十三年社殿炎上、同二十一年再建、明治二十七年再度炎上、同三十二年再築さる。當祭神は大國主命の御子にて、配祀神の后神・八坂刀賣命と共に北陸一帯の地を平定、且つ土民に耕作・漁撈・狩獵を教へ給ひき。なほ合祀の青木神社は、元祿元年藩主牧野氏の命にて古志郡高畑村(いま山田村大字青木)に創せしめ、享平年中に當社に合祀す。例祭、七月二十六日・二十七日。社地は正平年中、宗良親王が新田義貞・脇屋義治等を率ゐて北軍と戦ひ給ひし平方原の故地なりと傳ふ。「千蔵院」千手町にあり。眞言宗靈山派。普門山觀音寺と號し、俗に千手觀音とて知らる。本尊

邦津書界先驅者の一人。安政五年に藩醫良運の長男に生る。十四歳の時上京して川上冬庵・ケリノ(佛人)に従學、のち陸軍士官學校・工部美術學校に入る。十一年十一月同窓の松岡等十二人と十一字會を創立。二十二年明治美術會の創立に盡し、また關子坂に家塾不同舎を設く。第一回・第七回文展審査委員。大正五年十一月歿。名作に山村嫁女・濁醜療湯・黃葉村店・川上冬庵像などあり。

【長岡鐵道】社線。新潟縣三島郡にあり。來迎寺村の省線信越本線及び魚沼線の來迎寺驛より、長岡市の西對岸にある西長岡驛「深才村」及び省線越後線の大河津驛(大河津村)を経て寺泊町の寺泊驛に至る三九・二村。寺泊驛附近には海水浴場・寺泊温泉あり。軌間一・〇六七米、動力はガソリン・蒸氣・重油。省線と連帶運輸す。

【長岡村】富山縣越中國婦負郡の北部。富山市の西北に接す。面積僅に三・八二方軒の小村。南隅に吳羽山(七六米)の小丘陵ある外は概ね平坦にして、南半は桑畑・果樹園多く、北半は田地をなし、米を主産し、繭の産あり。富山市に起る社線越中鐵道(電車)の八ヶ山驛(東隣百塚村)、省線北陸本線の吳羽驛(西隣西吳羽村)にも近く交通不便ならず。

【長岡】越中國(富山縣)の古地名。和名抄に瀛波郡長岡郷あり奈加乎加と訓す。その地今の西瀛波郡正得村・荒川村・大

【長岡】三島郡志摩郡の東岸。東は太平洋に面し、南は約矢瀨を隔て、安乘村・國府村を望む。面積一四・九方軒。北境には百米臺の丘陵性山地連り、西南部の淺間山(一九九米)を最高處とする。中央南部に小平島突出し、その南端普崎は對岸の安乘崎に對して矢瀨口を扼し、それより北岸には鯨崎・鏡崎ありてその頸部に相差・國崎葉落あり、的矢瀨北岸には小支瀨ありて唯崎・千賀・堅子の聚落發達す。土地概ね東南への傾斜地なるも、中部半島の頸部にはやや廣き低地ありて半農半漁行はれて米・麥(合計九萬圓・繭二萬圓)の農産の外、水産(八萬圓多し。西南隣の的矢瀨へ巡航船あれど、陸上交通は概して便ならず。大字畔端の海岸を安太古瀨と云ひ、地は的矢瀨の北岸にして北に青山を負ひ、南に安乘崎を見渡し風光明朗、古來、志摩國

の所なり。大字相違より古くより神宮に毎年龜を獻進する例とし、その龜給を伊勢縣と呼ぶ。

【長岡】近江國滋賀縣の古地名。和名抄に坂田郡長岡郷あり奈加乎加と訓す。その地今の坂田郡東黒田村・柏原村の邊なるべく、東黒田の長岡はその遺稱なるべし。

ナカオ ナカカ

郡佐良山村・加美村の邊に當る。【長岡郡】高知縣(土佐國)七郡の一。縣の中央部より東に偏し、東は香美郡、西は土佐郡及び高知市に隣り、北境の東半は徳島縣香美郡、西半は愛媛縣宇摩郡に界し、南は土佐灣に臨む。南北に長く東西は北に廣く南に狭く銀杏の葉を倒立せるが如き形を呈し、面積約六九二方キロに及ぶ。北境には石鏡山脈東西に連りて、美馬郡界には黒龍山(一一一〇米)・野鹿池山(一二九五米)・宇摩郡境には椋尾山(一二二二米)・大森山(一四一六米)・玉取山(一三三三米)等の山脈を築き、中部東西に銀山脈に屬する梶ヶ森(一四〇〇米)・杖立山(一一三三米)・國見山(一〇八九米)等の脈つゞき郡を南北の二部に分つ。北部は即ちこの兩山脈間の山谷にして自ら一境をなし森林繁茂し良材あり、吉野川の上流四隣土佐郡より來りて東流し、北より下る汗見川・立川川、南よりする穴内川を合し黒龍山の東面を截りて美馬郡に出づ。南部は土佐灣の斜面にして東の物部川、西の浦戸灣の間の地を占め北半は山地なるも南半は高知平原の中央部に當る平坦地なり。農産に米・麥を主とし蕎麥・玉蜀黍・甘藷・青芋・茶・繭・三鞭等、林産に木材・炭等、水産に魚類、工業に和紙・生糸あり。阿波街道は高知市より郡の南部を北上し穴内川に沿ひて吉野川の谷に出でて東し、同街道は南部の平野を横

ナカカミ 中頭郡

源香義を討つ。(「新神神社」大字廿枝に鎮座。郷社。祭神、大年神。創建年月詳かならざるも、清和天皇貞觀八年正六位上祈年神に從五位下を授けられたる由、三代實錄に見ゆ。長曾我部氏の崇敬厚かりいふ。例祭、七月二十三日・十月十九日。 【長岡村】高知縣土佐國長岡郡の南部。後免町の北に隣り、東は香美郡山田に隣接す。南部には年越山(祈年山)の丘聳るも、他の殆どは土地低平にして香長平原の中心地域に位す。國分川は北境を西南に流れ漕漕の便よく水田よく開け、裏作に麥作を行ひ籾穀も盛なり。縣道は中央部に十字に交叉し、山田町・後免町・高知市方面にパスを通じ、省線土讃線東南部を通じ、後免驛(大正十四年設置)を置き、ここに更に社線高知鐵道を分ち交通便利なり。交通の便よきと農業の發達に伴ひ、人口密度も大にして昭和十年の國勢調査によれば、人口六三〇三人に及ぶ。一方耕地面積は七四九人、後免町に次ぎ最も稠密なる地域をなす。古くは和名抄、長岡郡宗部郷に屬せしもの如し。南部の年越山は高知市と後免町間に於ける險路をなし、坂折とも云ふ。毎年年間平安の祈る進道齋會ここに十七代延喜

ナカカミ 中頭郡

し、蓋し手納に至り、直後後前記鐵道と並走して名護に至るもの、奥郡原と泡瀨を繋ぐもの、普天間より那覇へ至るもの等の各縣道道通じ何れもパスの便あり。行政上、十一箇村に分つ。郡の總人口は昭和十年末に約一四六、六一八にして、人口密度は一方軒當り五〇九人を數へ、特に宜野灣・中城・浦添の各村に稠密なり。その最も疎なる村と雖も三四九人(越來村)にして、之を縣平均密度の二四八人に比する時は、本郡が農耕地域として他に類例なき程大なる人口密度を有す。古へは中山王直轄の地にして島尻を下方と呼ぶに對し、上方とも稱ふ。舜天・英祖・察度の三王統は引續き此處より興りしものにして、浦添城・牧港・ようどの玉陵や普天間宮等史蹟に乏しからず。 【長上村】静岡縣遠江國濱名郡の東部。濱松市の東北方向約三軒、笠井町の南に接す。天龍川デルタの一部を占め土地平坦肥沃にして田畑拓く。米・野菜等の農産物に富む外、近年は染織工業頓に興り、その産八十萬圓の多額に上る其他に養蠶・牧畜も盛なり。濱松市・笠井町に道路通じ、社線遠州電鐵の遠江上島驛に近し。昭和二年に市町村・天王村の廢しその地域を以て本村を置く。村社大歲神社あり、大年神外數神を祀り、式内の古社たり。 【中川】北海道的釧路郡の一。その

ナカオタイ 中小田井

愛知縣西春日井郡にありし村。明治三十九年に外四箇村と共に廢し山田村を置く。 【ナカオバラ 中小原】大野縣の一驛。昭和九年設置。樺太留多加郡留多加町にあり。 【ナカカサイ 中笠居】香川縣香川郡にありし村。大正四年に香西町と改む。 【ナカカズミ 中加積村】富山縣越前郡中新川郡の北部。上市町の北方約二軒、滑川町の東南方向約三軒。富山平原の東部を占め、土地概ね低平にして、西南境を上川川に臨む。村内水田に富み、米の産多し。また製藥業盛にしてその産多額に上り、賣藥行商に從ふものもた多し。社線富山電鐵西部を掠り中加積驛(大正二年設置)を置く。縣道また南北に走り、奥津町・上市町間の自動車往來頻繁なり。 【ナカカツシカ 中葛飾郡】葛飾郡(千葉縣) 【ナカカノ 中狩野村】静岡縣伊豆國田方郡の中部。狩野川上流に沿ひ、修善寺町の南方約四軒。西部に連廢火山帯を負ひ、東部は天城山脈の餘波を受け、この兩山地に夾まれ中央より東寄り狩野川南北に貫流す。平野は河岸に僅に開くるのみ、山地は森林・原野をなす。平野には水田拓け、米・蕎麥・山麥等の農産物盛に多く、大いで林業盛なり。其他、工

ナカカミ 中頭郡

業・教育・娯樂も進行し、南部狩野川支流に沿ひ船原温泉涌出す。南北に縣道走り、更に、れより西方土肥に至る縣道を分岐す。社線駿豆鐵道修善寺驛へは約六軒、パスの便あり。大字上船原より月出石を産す。灰色、緻密の角閃安山岩にて角閃石・雲母の斑片あり。専ら東京・横浜にて建築材として用ひらる。古くは和名抄、田方郡狩野郷の内とす。大字松ヶ瀬は名跡志に據れば狩野介茂光の居住地なりと云ふ。上船原に船原温泉あり。黄金湯(弱酸性泉)・子寶湯(炭酸泉)の二あり。天城山の北嶺中の棚場山御料地の東麓に當り頗る閑寂の境なり。(「狩野神社」大字松ヶ瀬に鎮座。郷社。祭神は不詳なるも一説に哀邪本玉を以て之に充つ。創立年代は應神天皇の御代といひ、同天皇五年冬伊豆國に令して長さ十丈の船を造らしめ給ふ。船成りて水に浮べしに、軽く浮き速力また速し。依りてその船を枯野と名づく。枯野は即ち輕野にして、本社おそらくはこの舟木を伐出せし時に祭れる神ならん。延喜式の輕野神社なりといふ。例祭、十月九日。 【ナカカト 常念山脈の一峯。長野縣上高地の北東方に峙ち、南安曇郡安曇村に屬す。標高二五五米。巔ヶ岳の南西方、大瀧山の北西方に當り、西方は梓川溪谷を距りて穂高連峯と對峙す。 【ナカガミ 中神】東京府北多摩郡にありし村。昭和二年に外七箇村と共に合し

ナカカミ 中頭郡

源香義を討つ。(「新神神社」大字廿枝に鎮座。郷社。祭神、大年神。創建年月詳かならざるも、清和天皇貞觀八年正六位上祈年神に從五位下を授けられたる由、三代實錄に見ゆ。長曾我部氏の崇敬厚かりいふ。例祭、七月二十三日・十月十九日。 【長岡村】高知縣土佐國長岡郡の南部。後免町の北に隣り、東は香美郡山田に隣接す。南部には年越山(祈年山)の丘聳るも、他の殆どは土地低平にして香長平原の中心地域に位す。國分川は北境を西南に流れ漕漕の便よく水田よく開け、裏作に麥作を行ひ籾穀も盛なり。縣道は中央部に十字に交叉し、山田町・後免町・高知市方面にパスを通じ、省線土讃線東南部を通じ、後免驛(大正十四年設置)を置き、ここに更に社線高知鐵道を分ち交通便利なり。交通の便よきと農業の發達に伴ひ、人口密度も大にして昭和十年の國勢調査によれば、人口六三〇三人に及ぶ。一方耕地面積は七四九人、後免町に次ぎ最も稠密なる地域をなす。古くは和名抄、長岡郡宗部郷に屬せしもの如し。南部の年越山は高知市と後免町間に於ける險路をなし、坂折とも云ふ。毎年年間平安の祈る進道齋會ここに十七代延喜

ナカカミ 中頭郡

し、蓋し手納に至り、直後後前記鐵道と並走して名護に至るもの、奥郡原と泡瀨を繋ぐもの、普天間より那覇へ至るもの等の各縣道道通じ何れもパスの便あり。行政上、十一箇村に分つ。郡の總人口は昭和十年末に約一四六、六一八にして、人口密度は一方軒當り五〇九人を數へ、特に宜野灣・中城・浦添の各村に稠密なり。その最も疎なる村と雖も三四九人(越來村)にして、之を縣平均密度の二四八人に比する時は、本郡が農耕地域として他に類例なき程大なる人口密度を有す。古へは中山王直轄の地にして島尻を下方と呼ぶに對し、上方とも稱ふ。舜天・英祖・察度の三王統は引續き此處より興りしものにして、浦添城・牧港・ようどの玉陵や普天間宮等史蹟に乏しからず。 【長上村】静岡縣遠江國濱名郡の東部。濱松市の東北方向約三軒、笠井町の南に接す。天龍川デルタの一部を占め土地平坦肥沃にして田畑拓く。米・野菜等の農産物に富む外、近年は染織工業頓に興り、その産八十萬圓の多額に上る其他に養蠶・牧畜も盛なり。濱松市・笠井町に道路通じ、社線遠州電鐵の遠江上島驛に近し。昭和二年に市町村・天王村の廢しその地域を以て本村を置く。村社大歲神社あり、大年神外數神を祀り、式内の古社たり。 【中川】北海道的釧路郡の一。その

ナカカミ 中頭郡

東市橋の上川郡と共にいま上川支那管下に屬し、管下の最北を占む。西南は石狩國釧路郡、西と北は天童郡、東北は北見國枝幸郡、東南は同枝幸郡に界す。天童川中流々城の地にて西北より東南に長く面積約一六八四方軒を有す。北見國との境に北見山脈連り、東南部にヒヤシロ山(九八七米)・シア山(九〇三米)、中部に函岳(一一二九米)、北部にペンヤ山(七一六米)・ペンヤ山(六三三米)等あり。山腹は緩く傾き高峻ならず。中部には雨龍郡より續く夕張山脈の延長とも見るべき山嶺ありて北方に延び、南部に布袋山(七〇三米)、北部に鬼刺山(七三八米)ありて、その北端はペンヤ山の南方に移り、西境には天童山脈の北端部ありて南部にて四百米臺を示すも北するに從ひ次第に低下し二百米臺の丘陵となる。これ等の山地により郡内は東西の谷に分れ、天童川は東南上川郡より來りて東谷を北流し、徳西折して東刺山の北麓を截り、西谷と南方より來る安志内川を併せて北流し、郡の西北境にて更に西折して天童川に出で、東谷南部に美濃、北部に管成子府、西谷北部に磐平の三盆地を作る。省線宗谷本線は天童川に沿ひて南北に通じ、管成子府盆地にて支線北見線を岐ち、道路また鐵道線と同方向に通ず。三盆地をばじめ天童川及び支流の谷には耕地開墾せられ、各種の農産物出し、山地には良材ありて木材を産す。人

ナカカミ 中頭郡

ナカカ ー ナカカ

日二萬六千五百餘人にて、密度はなほ一方軒一人に満たず。

【中川村】北海道天國國中川郡の最北部。上川支廳管内最北に位し天鹽川に沿ふ。北は宗谷・留萌二支廳に、西は留萌支廳に、東は常盤村・美深町に接す。面積五九九平方軒。四周山岳重疊として村内概ね三、四百米の山地に占めらるるも、天鹽川西北流し譽平附近より大いに蛇行を初め流域に沃野を作り、交流なる安平志内川また北流し中部にて合流す。流域に耕地・粟落多く、また山地の一部に泥炭地存す。馬鈴薯・甜菜・米の産あり。省線宗谷本線川沿ひに通じ、神路・佐久・譽平・宇戸内の四驛(前三者は大正十一年、後者は同十二年開業)を置く。この地は大部分御料地及び國有林にして明治三十九年頃天鹽川の舟筏を唯一の交通機關とせる爲に天鹽川近接に移住し、のち交通の便や加はり、同三十七八年に至り移民漸次増加し二百餘戸を算したり。同四十五年下名寄村より分離獨立して本村をなし、大正五年、本村の一部を割きて常盤村をく。

む。北境は東三國山(二二三〇米)・クマネシリ嶽(一五六六米)等連立し、極めて高峻なるも郡内中央部に傾き、丘陵性の臺地となりて展開す。北部山地に發したる諸川は合してヒリベツ・斗滿川となつて東南流し利別川に注ぐ。沿岸に沃野開く。南部また二、三百米の丘陵性臺地にして、十勝川支流猿別・牛首別川流域に属す。中央を十勝川東流し諸川の水を集む。沿岸に十勝平野展開す。河水氾濫多きため未だ潤潤なる未開墾地多く存すれども一般に土地肥沃農工行はれ、池田町を始め粟落集る。米・裸麥・大豆・小豆・馬鈴薯・亞麻・甜菜等を産し、池田町には王子製紙工場・大正製糖工場設けられ、また本別町・幕別村に煉乳・ベニヤの製造盛んなり。北部山中の西足寄村には林産多し。省線網走本線南北に通じ、大譽地・足寄・勇足・本別・仙美里・高島・池田の諸驛を置き、池田驛に於て省線根室本線連り、豊頃・十勝・利別・北若の諸驛あり。他に池田町に被民軌道あり、地方費道にはバス四通す。

【中川村】青森縣陸奥國北津輕郡の西南部。五所川原町の北に隣り、西南は岩木川を隔てて西津輕郡に對す。津輕平野の中部に位し全村概ね平坦なり。十川は村の東南部より來り、中央部を横斷し村の西境をなして北流す。岩木川は西南境を北流す。米を産す。道沿は村の東部を南北に通じ、南方の五能線五所川原驛へはバスの便あり。

【中川村】秋田縣河邊郡にありし村。明治二十八年に種平・戸米川の二村に分割さる。

【中川村】山形縣羽前國南村山郡の中部。上山町の東に隣り、東は宮城縣に接す。奥羽山脈の西斜面に屬し、東境に蔵王山(二八四一米)あり、西方に傾斜し、蔵王川は東境に發源して西流し西北部に於て宮川に合す。宮川は西境を北流す。村の西部は山形盆地に屬して平坦なり。米・蕎麥・蔬菜・木炭を産す。西方の奥羽本線上ノ山驛へは約三軒あり。

【中川村】山形縣羽前國東置賜郡の北部。西南は宮内町・赤湯町、東は南村山郡に隣接す。東南境に大洞山、七三七米、西北境に鶴石山、西境に鷹戸山あり。宮川の一支流は、中央部を西南より東北に流

140

れ沿岸に耕地拓く。米・蕎麥を産し葡萄の栽培行はる。道沿は中央部を西南より東北に通じ、西南方の米澤市、東北方の山形市へはバスの便あり。この道沿に並行して奥羽本線通じ、中川驛(明治三十六年設置)あり。明治十四年、明治天皇は山形・秋田及び北海道行幸の際にこの地に御小休あらせらる。村内に城址あり、蒲生氏の時に蒲生左文、また上杉氏の臣横田曾俊の居城せりといふ。(白鬚神社)大字中山に鎮座。郷社。祭神、久延尾古命。相銅七年に近江國の白鬚明神を勧請せるものと傳ふ。

【中川村】茨城縣下總國猿島郡の南部。岩井町の南隣にて利根川の東岸にあり。西は川を隔てて千葉縣東葛飾郡の一部と相對す。全村平地にて北境は鶴戸沼の南端をなす。畑地多く南の一部は水田をなす。蕎麥・米を産し、華煙草の栽培も盛なり。岩井町に縣道を通す。古くは和名抄猿島郡石井郷の内に當る。

【中川村】栃木縣下野國芳賀郡の東北部。茂木町の北隣にて那珂川に跨る。北は那須郡、東は茨城縣那珂郡及び東茨城縣の一部と隣す。八溝山脈の一部を占め、北境に松倉山(三四五米)あり。南境附近も約二五〇米の山地をなし、村の中央はそれ等の概合にて那珂川東流す。また支流道沿は西南より來り、村の東端にて那珂川に合す。那珂川流域のみ狭き平地ありて、米・蕎麥を産し華煙草の栽培盛

【中川村】群馬縣上野國群馬郡の東南部。高崎市の北隣にて面積僅に六方軒餘の小村。全村平地にて農業行はれ、米麥を産し、蕎麥また盛にて蕎麥の産多し。高崎市に近きため交通便利にて、高崎市より前橋市に通ずる國道、省線上越線と社線東武鐵道高崎線は何れも村内を北走す。古くは和名抄、群馬郡八木郷の内にして、大字の大八木・小八木はその遺稱とす。明治二十六年に明治天皇前橋・高崎行幸の際、本村にて演習天覽遊ばさる。

【中川村】埼玉縣武藏國秩父郡の南部。秩父町の西南約四軒にて荒川の南岸にあり。南は東京府西多摩郡水川村と隣す。關東山脈中の一部を占め、南境に天目山(一七一八米)、東境に矢嶽(一三五八米)あり。これ等の山は何れも北方に傾斜し北境附近はその山裾にて荒川東流す。川沿ひに狭き平地ありて蕎麥・米を産し、また蕎麥盛にて蕎麥・生糸を多く出す。山地一帯には林産も多し。川沿ひに縣道通じ社線秩父鐵道またこれに沿ひ浦山口・武州中川・武州日野の三驛(昭和五年設置)を置く。他は山地のため交通不便なり。この地は和名抄、秩父郡上郷郷の内なるべし。明治二十六年に本村の大字久那を分離獨立して久那村を置く。(長泉院)

ナカカ ー ナカカ

【中川村】神奈川縣武藏國都筑郡の東北

大字上野野にあり。曹洞宗・春日山住戸院と號す。間山は散翁性徳、中興は香庵春公なり。本堂は聖觀世菩薩。秩父三十四所第二十九番札所なり。詠歌(わけ登り結ぶに候の戸おしひらき佛を拜む身こそ頼もし)

【中川村】千葉縣上總國夷隅郡の中部。大多喜町の東隣にて夷隅川に跨る。北境南境共に一五〇米前後の丘陵地連りて、何れも村内に傾斜し森林多く、その都合を夷隅川東流し、流域は狭き低地をなして田地・畑地拓く。米・蕎麥・蕎麥を産し蕎麥も、行はる。川沿に縣道あり。省線本原線また之に沿ひて西走し、村内中央に上總中川驛(昭和五年設置)を置く。此地は中世に伊北莊と稱せし地にて、大字大野は延喜兵部省式の上總國大野馬牧とある地なりといふ。また大野城址あり、上總廣常の居城なりと云ひ、大字引田の伊保館址は和田義盛の居館ならんと傳ふ。

【中川村】千葉縣上總國君津郡の北部。小櫃川の北岸にあり。木更津町の東約九軒。面積は七方軒の小村なり。小櫃川流域平野の一部を占めて水田多く米を主産し、他に蕎麥・蕎麥の産あり。縣道は村の中央を西走して木更津に通じ、省線久留里線また之に沿ひ、村内中央に横田驛、東部に東横田驛(共に昭和十二年設置)あり。この地は和名抄、望陀郡磐田郷の内なり。

【中川村】神奈川縣相模國鎌倉郡の北部。戸塚町の北隣にて北は都筑郡の一部と隣す。多摩丘陵の一部を占めて森林ありて耕地をなす。蕎麥・甘藷・馬鈴薯・粟・大豆等を産し、蕎麥も行はる。縣道は戸塚町に通じ、同町の省線東海道本線戸塚驛へバスの便あり。また村の西北部大字阿久和に社線神中鐵道の三ヶ塚驛(大正十五年設置)を置く。この地は近世に矢部郷と稱せられし地。もと鶴岡八幡宮の御供料所なり。

【中川村】長野縣信濃國東筑摩郡の東部。東は小縣郡に界す。松本市の東北方約一〇軒。北部・東南部は筑摩山脈の山地を負ひ、中央に細長き平地を狭む。農業・蕎麥を主生産とし、米・蕎麥の産あり。松本平・善光寺平を結ぶ西街道に沿ひ、省線篠ノ井線西條驛へ約六軒、バスの便あり。なほ社線上田温泉電軌青木驛へバ

【中川村】静岡縣伊豆國賀茂郡の西部。松崎町の東に接す。天城山脈の餘波なる七、八百米臺の山地全村に起伏し、略中央を中川西流す。平地は西部河岸に僅にあるのみ。概ね山林にして木材・木炭の産多く、平地よりは米・蕎麥を出す。また中川上流の溪谷には山葵の特産あり。村の略中央の谷には温泉湧出す。縣道は谷沿に東西に走り箕作・松崎町間にバスの便あり。此地は昔時の那賀郷の地にて、仁科庄に屬す。もと中ノ郷村と稱せしも、明治二十四年中川村と改む。

【中川村】静岡縣遠江國引佐郡の南部。

ナカカ

都田川に沿ひ、北は金指町に、西は氣賀町に、南は濱名郡に接す。村の東部は三方ヶ原の西北端なる臺地をなし、北部に二〇〇米内外の山地あり、略中央を都田川東西に貫通し沖積地開く。南部臺地には三方ヶ原に續く茶園多く、平地には水田拓かる。農業を主とし米の産多く、次いで茶・蕎麥多し。近時は染織工業勃興し、織物の産も相當あり、其他、牧畜・林業も行はる。社線濱松鐵道東西に貫通し、金指驛まで約一・五軒バスの便あり。宇刑部に刑部城址あり。元龜三年十二月武田信玄三方原に大勝を得て兵を此の城に收め、翌天正元年正月まで滯留し、進んで三州野田城を攻め病に罹りて遂に起たざりき。大字三和地内に一ノ坪及び十ノ坪と呼ぶ字ありて、約六十間百九米、つづつ方形となれる田地あり。宇刑部・刑部にもほこれと同系統の田を在す。中古條里の遺址なるべし。「寶林寺」黄葉宗、寛文九年領主近藤語石の開基にて、支那僧獨漢禪師を開山となす。近世寺領百石を有せり。

ナカカ

駕も行はる。山地よりは木炭・木材(杉・榎・松)を産す。北部に村道通じ、また省線紀勢本線榎原驛(川添村内)に近きも交通概して不便なり。往時より皇大神宮に由緒ある村にして、大字に津連指なる名稱遺り、また現在に神宮茅生地ありて神宮の屋根葺料となる。「正法庵」大字津連指にあり。曹洞宗。天龍山。寺内に觀音堂ありて、同所に安置さる十一面觀音立像一軀は光背に天永〇年十一月日願主藤原有助の銘あり。國寶たり。

ナカカ

北方より流下する清瀧川は東部の谷を南へ貫流す。谷に沿ひ周山街道・北桑田郡周山村に至る。通じて栗落(ここに發達し、低地乏しきも米・麥を産し山地は薪炭を出す。承久元年の文書に中河莊と見え、仁和寺領たり。

【中川村】兵庫縣但馬國朝來郡の中部。圓山川に跨り、北は竹田町に接し、東南は生野町の北東部に隣り、西南は生野町の西部と山口村を挟む。面積四六方軒に餘る。全村概ね山地にして東境に青倉山(八一一米)、東北境に朝來山(七五七米)聳え、西北境にも高度七百米内外の山地あり。ただ圓山川中部西偏を北流し沿岸に稍々沖積地ありて田畑拓く。藩の産物最も多く其他米・麥類・蔬菜・果實・蒟蒻芋・鶏卵・製菓・菓子類・穀類・栗・蠶の産あり。圓山川河谷に沿ひて縣道南北に走り北方竹田町・和田山町及び南方生野町方面へバスの便あり。省線播但線の新井驛(山口村)・竹田驛(竹田町)にも遠からず。和名抄に朝來郡桑市郷と云ふは本村にして、大字桑市は郷名の遺稱とす。東大寺天平勝寶二年の文書に朝來郡桑市郷戸主赤染部大野と見え、但馬記に東鑑建久五年の條に、但馬國多々良岐莊は源宰相領たり、而して鳥居源尼の湯沐料に充つたあり。弘安大田文に「朝來郡多々良岐莊、安島門院領、立賜御紙田」とあり、これ上古より桑市郷にして多々良岐方にて西は南川・西川二村、北は北川・南川に接し、東は川を隔てて福岡縣三浦郡大野島に對す。南北に細長く面積六・三一方軒。筑後川下流域沖積地の一部を占め、地形極めて平坦にして南方は有明海北岸に近く、田地よく拓げ、米を主とし、蕎麥・菜種その他農産あり。省線佐賀線の南佐賀驛(北川副村)に近くまた佐賀市へバスを通過交通便なり。古くは和名抄、佐嘉郡城崎郷の内か。大字早津江は、肥陽軍記には孟津に作り海軍所址あり。海軍所は藩藩主鍋島直正が海軍兵學を學ばしめる爲に創設したる學校にて、もと縣立商船學校もここに置かれたり。「志賀神社」大字早津江に鎮座。郷社。祭神、底筒勇命外二神。例祭、四月二十五日。

地方にて西は南川・西川二村、北は北川・南川に接し、東は川を隔てて福岡縣三浦郡大野島に對す。南北に細長く面積六・三一方軒。筑後川下流域沖積地の一部を占め、地形極めて平坦にして南方は有明海北岸に近く、田地よく拓げ、米を主とし、蕎麥・菜種その他農産あり。省線佐賀線の南佐賀驛(北川副村)に近くまた佐賀市へバスを通過交通便なり。古くは和名抄、佐嘉郡城崎郷の内か。大字早津江は、肥陽軍記には孟津に作り海軍所址あり。海軍所は藩藩主鍋島直正が海軍兵學を學ばしめる爲に創設したる學校にて、もと縣立商船學校もここに置かれたり。「志賀神社」大字早津江に鎮座。郷社。祭神、底筒勇命外二神。例祭、四月二十五日。

【中川村】三重縣伊勢國度會郡の中部北偏。宇治山田市の西界を去る西南方約一二軒、北は多氣郡西城田村・川添村に界す。南境に獅子ヶ鼻(七三三米)聳えて北方に急傾斜し山地多し。宮川北部郡界を東流し、次いで東市に曲流して東隣内城田村に出で、その沿岸と山間の谷に小低地あり。農業を主とし米を産し薪炭も行はる。山地よりは木炭・木材(杉・榎・松)を産す。北部に村道通じ、また省線紀勢本線榎原驛(川添村内)に近きも交通概して不便なり。往時より皇大神宮に由緒ある村にして、大字に津連指なる名稱遺り、また現在に神宮茅生地ありて神宮の屋根葺料となる。「正法庵」大字津連指にあり。曹洞宗。天龍山。寺内に觀音堂ありて、同所に安置さる十一面觀音立像一軀は光背に天永〇年十一月日願主藤原有助の銘あり。國寶たり。

【中川村】愛媛縣伊豫國東宇和郡の西北部。八幡濱市の東南約三軒。東西兩部に高度五百米内外の山嶺南北に縦走し、その兩山麓下の低地を宇和川の上支流流して流域に耕地發達す。農業盛にて米・麥・蕎麥等の産多く瓦・茶種を特産す。中央低地を南北に縣道通り南方宇和町に至り、バスの便あり。此地は和名抄、宇和郡石野郷の内なり。近世まで宇都宮氏、木下城にありて統治せる處とす。

【中川村】愛媛縣伊豫國東宇和郡の西部。小松町の西約四軒、西は温泉郡北吉井村に接す。西境には石鏡山脈の千米内外の支脈南北に走り、東三方ヶ原(一三三三米)聳立す。東南部は石鏡山脈にして東

【中川村】大分縣豊後國日田郡の東部。筑後川の上支流珠川の左岸に沿ひ東南より西北に細長く、西北部は日田町に近く東は珠珠郡北山田村・珠珠町に界す。面積ほ二九方軒に近きも山地多く、山間と川岸の所々に幅狭き小低地ありて農耕行はれ、山地よりは良材・薪炭・椎茸等の林産を出す。日田町より阿蘇の内ノ牧町方面に至る縣道は西部を貫きて自動車の便あり。また省線久大本線ほ珠珠川に沿ひて通過し、豊後中川・天ヶ瀬の二驛(前者は昭和九年、後者は同八年設置)を設け、交通は近時大に便利となれり。古くは鞍馬郷の内とす。村内に女子畑水力發電所あり。九州水力電氣會社の經營に係り、筑後川水系の珠珠川、大山川の水利用を利用し、出力二萬六千七百キロワットなり。また天ヶ瀬温泉あり。泉質は硫酸泉。附近に三州峽ありて、風景頗る佳

【中川村】愛媛縣伊豫國東宇和郡の西部。小松町の西約四軒、西は温泉郡北吉井村に接す。西境には石鏡山脈の千米内外の支脈南北に走り、東三方ヶ原(一三三三米)聳立す。東南部は石鏡山脈にして東

【中川村】愛媛縣伊豫國東宇和郡の西部。小松町の西約四軒、西は温泉郡北吉井村に接す。西境には石鏡山脈の千米内外の支脈南北に走り、東三方ヶ原(一三三三米)聳立す。東南部は石鏡山脈にして東

【中川村】愛媛縣伊豫國東宇和郡の西部。小松町の西約四軒、西は温泉郡北吉井村に接す。西境には石鏡山脈の千米内外の支脈南北に走り、東三方ヶ原(一三三三米)聳立す。東南部は石鏡山脈にして東

ナカカ

【中川村】愛媛縣伊豫國東宇和郡の西部。小松町の西約四軒、西は温泉郡北吉井村に接す。西境には石鏡山脈の千米内外の支脈南北に走り、東三方ヶ原(一三三三米)聳立す。東南部は石鏡山脈にして東

ナカカ

【中川村】愛媛縣伊豫國東宇和郡の西部。小松町の西約四軒、西は温泉郡北吉井村に接す。西境には石鏡山脈の千米内外の支脈南北に走り、東三方ヶ原(一三三三米)聳立す。東南部は石鏡山脈にして東

ナカカ

【中川村】愛媛縣伊豫國東宇和郡の西部。小松町の西約四軒、西は温泉郡北吉井村に接す。西境には石鏡山脈の千米内外の支脈南北に走り、東三方ヶ原(一三三三米)聳立す。東南部は石鏡山脈にして東

ナカカ

【中川村】愛媛縣伊豫國東宇和郡の西部。小松町の西約四軒、西は温泉郡北吉井村に接す。西境には石鏡山脈の千米内外の支脈南北に走り、東三方ヶ原(一三三三米)聳立す。東南部は石鏡山脈にして東

に稍長く、全村山勢にして殊に西北部には千五百米の山岳重疊す。東境を大井川南流し、沿岸に僅かの平地あるも峡谷なす部分も多し。林業を主産とし農産はこれに次ぐ。林産額最も多く次いで茶・米・蕎麥等の農産額、その他工産・畜産も多少あり。交通は舟運によるのみなりしも、最近、對岸に社線大井川鐵道の開通するに及び一躍發展す。駿河徳山・田野口・下泉・鹽郷の各驛に近し。山地より伐出されし木材は概ね大井川に依り下流の志太郡島田町に送る。

ナカカワベ 中川邊 なにかがべ 岐阜縣加茂郡川邊町の大字。高山本線の中川邊驛(大正十一年設置)を置く。

ナカガワラ 中川原村 なかがわら 兵庫縣淡路國津名郡の東部。洲本町の北に接し大坂灣に臨み西南部は三原郡に界す。東西兩部は山地をなし、西南境に先山あり。東岸は丘陵海に迫りて平地乏しく北部を厚嶺と云ふ。中央は低地開けて北部に小河東北流す。米と稗の産多く蔬菜・花卉・食用農産・果實・小麦・大麥等の産出もあり。外に錫・銅・磁石・水産産物・双物・庭園樹等を出す。四國街道中央を南北に走り、東岸には洲本町・由良町方面へ至る縣道通じバスの便あり。

ナカカンバヤシ 中上林村 なかとんばやし 京都府丹波國何鹿郡の東部。由良川の支流上林川中流の地にて、東は奥上林村、西は口上林村に接す、西北は舞鶴市の東南部に隣り、南は船井郡上和知村なり。面積五一・七方畧あるも西北境と南境には山嶺連り、北境に養老山ありてその山脚東境に延びて君尾山となる。奥上林村に發する上林川中部を西南に貫流し、その流域に狭長の低地ありて田畑拓く。米・麥・園藝農産・食用農産・繭等を出して山地より木炭・木材の産あり。また工産額も少からず。河谷に沿ひて縣道通じバスの便あり。村は要塞地帯に屬す。(八幡宮)大字八津合に鎮座。郷社。祭神。應神天皇・大山祇神・伊邪那岐神・伊邪那美神。江戸時代、領主藤懸氏歴代崇事す。古來附近八ヶ村の惣氏神たり。

ナカカンバ 中蒲原郡 なかとんば 新潟縣十六郡の一。越後國の中部。阿賀川と信濃川に東西を扼されたる地域にして、東北は阿賀川を境に北蒲原郡、東南は越後山脈を境に東蒲原郡、西南は南蒲原郡、西は中ノ口川・信濃川を以て西蒲原郡に界し、北の一部は新潟市に、一部は日本海に面す。面積七四二一一方畧。南北に長く、東南部に越後山脈の一支脈連り矢筈山(二二五八米)を初め一千米前後の山岳重疊し、其餘は養毛山の丘陵となりて郡の中部に延び新潟町の南に終る。信濃川・阿賀川はこの丘陵によりて東西に流域を分たれ、能代川を始め數多の支流を合して北流し、北部にて小阿賀川・通船川の二支流によりて連絡す。兩川の流域は廣大肥沃なる越後平野にて、水郡

はその主要部を占む。西北部は中ノ口川と信濃川本流とによる三日月形中洲及び鳥屋野湯を含み、土地一帯に低濕にて越後平野特有の湛水地多し。平野には農業盛にして越後米の産額多く、西部濕地の土質は和蘭に似て花卉栽培に適し、近時チューリップ・ヒヤシンス等の球根植物は、東京・大阪は元より遠くアメリカまで輸出さる。また龜田町附近の新潟梨、村松附近の茶は有名なり。阿賀川の流域一帯は本縣に於ける主要なる養蠶地帯にて五泉町はその中心をなし、絹織物業も盛なり。五泉町・村松町は原料を遠く山形・福島等より求め五泉平・村松綿の産を以て著はれ、其他、龜田町・小須戸町の布圍綿及び木綿織物、白根町の白根絞など、本郡の主要部はこれらも染織工業を以て繁榮す。また新潟町附近の石油、農家の冬の副業たる薪炭品等も本郡の主要なる物産なり。省線越後本線は郡の西部を南北に貫通し、新潟町に於て東より来る羽越本線及び東南より来る磐越西線と合し、新潟町は本縣交通の中心地をなす。縣道また之等諸線に並行し更に郡内諸町村へ分岐し自動車の往來頻繁なり。其他、五泉町より村松町を経て加茂町に至る社線蒲原鐵道及び阿賀川・信濃川兩川に舟運の便等ありて交通便なり。郡内は新潟・五泉・龜田・小須戸・白根・村松の六町外二十八ヶ村を含む。本郡は明治十三年五月、高田郡を新潟國

及び東・西・南・北・中の五郡に分けし時に置かれしもの。
ナカキ 長木村 なかき 秋田縣羽後國北秋田郡の東北部。大館町の東北に隣り、東は鹿角郡、北は青森縣に接す。面積一三四・二九方畧。北部には東北境に炭塚森、東に東殿山(五八五米)、西境に黒森(五五五米)聳立し長木川の水潭をなし、東殿山の南には高地山(四八四米)、南境には高森(五九三米)あり。全村概ね山地にして、長木川は北境に發源して村の略中央部を南流し、村の東南部に於て流路を變じて西流す。村の南部長木川沿岸には耕地拓く。山地は長木澤川沿岸にして杉の産あり。米・木材を産す。長木川に沿ひて社線小坂鐵道東西に通ず、西より信野(明治四十二年設置)・小雪澤(大正四年設置)・新澤(昭和二年設置)・茂内(明治四十二年設置)の四驛あり。人口密度は一方畧につき二六六なり。

ナカキサイチ 中私都村 なかせさいち 鳥取縣因幡國八頭郡の北部。東は上私都村に、南は安部・大御門二村に、西は下私都村に界し、北は岩美郡に隣す。面積一・二八六方畧。各村境には高距約五百米の山岳蟠居して、何れも中央に傾斜し狭長なる谷を隔き、東南より西北に流るる千代川の上支ありて流域に耕地拓き、米・繭等の農作物を出す。山地は牧牛を營み、また木材を産す。省線因幡郡家崎へは約八畧の便あり。此境古くは和名抄

八上郡私都郡に屬す。大字市場の秋葉山に私市城址あり。因幡志に「鎌倉幕の時大江廣元に當國守護職を賜り、その子孫は毛利を家號とし私都に留任し、累代の領主たり。天正の始め毛利豐後守豐元山名家に隨從し藝州毛利に一味す。然るに雲州浪人山中鹿之助に攻め破られ、滯意入道豐元島取へつづみける。即ち當城には尼子浪人入替て之を守る。同三年藝州より吉川元春大軍にて押寄せ尼子勢退散私市城も落城し、滯意入道も還住ありしが、同九年羽柴のため再び没落し、毛利の一趾斷絶せり」と見ゆ。〔美幣奴神社〕大字篠波に鎮座。郷社。主祭神、太玉命。合祀神、瀬織津姫命・保食神。式内社。中世に現社地東二町の灰塚なる地より移遷す。附近に安全田と稱する耕地あり、肥料に尿尿を用ひず、もし誤りて用ふる時は必ず祟ありと云ふ。また同村字梅ヶ津に供田と稱する二町餘の耕地ありて舊時の祭典耕地なりと云ふ。蓋し往昔社領の遺跡なるか。なほ太玉命は忌部氏の祖神にて且つ幣帛を作り給へる神の故に一に社名を美幣奴、また忌部とも云ひ、忌部大明神と稱せし事もあり。合祀の瀬織津姫神はもと宇瀧山に鎮座せしもの、保食神はもと境内社なる稻荷社に鎮座ありしもの。例祭、四月九日。

ナカキ 中貴志村 なかき 和歌山縣紀伊國那賀郡の西部。紀ノ川支流貴志川の西岸に沿ひ和歌山市の東方約一〇畧。西は

西貴志村、東南は東貴志村、北に丸柄村なり。面積四・七四方畧あるも、北部には御茶屋御殿山(二七九米)の山地ある外は低平にて田畑よく拓け米・麥・繭を出しまた蜜柑の産あり。縣道南北に走りまた西方和歌山市へも通じてバスの便あり。省線和歌山線船橋戸駅(北隣小倉村内)へも近し。東貴志村・西貴志村と共に中世の貴志荘の内なり。

ナカキト 中木頭村 なかきと 徳島縣阿波國海部郡の北部。西は上木頭村に南は川上村に界し、北及び東は那賀郡に隣す。面積五七・四五方畧。村の北部を横に那賀川上流貫流して峡谷をひらき、村内は高峯聳立して高峻なる山岳地をなし平地殆んどなし。農業畑に行はれ米・麥・繭の産あり、山地は森林よく繁茂し美林をなす。南方精興町へ約四〇畧餘、縣道を通じ道程の半までバスの便あり。山間の僻村なれば交通不便なり。本村は木頭村・上木頭村と共に木頭谷と總稱さるる處なり。

ナカキヨ 中京區 なかきよ 京都市の行政區の一。京都市は久しく三條通を以て上京・下京の二區に分けしが、漸次市域の四方に擴張せらるるに及び増設の必要を生じ、昭和四年遂に中京・東山・左京の三區を増設す。即ち中京區は東は賀茂川を限り、北は凡そ丸太町通を以て上京區に、南は凡そ四條通を以て下京區に境す。西はもと葛野郡に接せしが、昭和六

年の市域大擴張の結果、新設の右京區となる。面積は僅に七・五〇方畧あるも、人口は十八萬餘にして一方畧の密度實に二四、一九四人なり。本區は實に京都市の中心にて、三條通・四條通・新京極及び河原町通の商店街を含み、二條御宮をはじめ京都市役所・京都郵便局・京都ホテル等は本區の中にあり。

ナカキリ 中切村 なかきり 廣島縣安藝國賀茂郡の南部。東は内海町に、西は川尻町に、南は安登村に、北は野路村に界す。面積三・九方畧。全村殆んど二三百米の山地より成り森林地をなし、北東隅に僅に平地ありて、農業・養蠶業・牧畜業を營む。東南部に縣道縱走し安登村を經て吳市に至り、三津町・内海町と連絡す、何れもバスの便あり。

ナカクキ 中久喜 なかくき 大谷村(栃木縣下都賀郡)ありし村。明治三十九年に外六箇村と共に廢され大府村を置く。

ナカグサ 長草 なかくさ 愛知縣知多郡にありし村。明治三十九年に外六箇村と共に廢され大府村を置く。

ナカグスク 中城 なかくすく 神戶縣中頭郡の東南部。那須市の東北一〇餘畧に位し、東は中城灣に臨む。南北約八畧、東西約三畧、面積二七・九方畧。西部は南北に連る低き第三紀層の臺地をなし、海岸には肥沃なる沖積層ありて田畑開く。海岸は概ね單調にして、たゞ北端に奥武庫山ありその南に小灣を擁するも、海岸一帯に互りて樹叢發達するを以て良泊を缺く。農業盛に行はれ、甘蔗・甘藷・米等を産し、軽酸も家内工業として行はる。東岸に沿ひ奥那原・池瀬間の縣道走りバスを通じ、北端に近き渡日よりは普天間を經て那須・名護間の縣道に連絡し、交通便利なり。字の泊に中城ヶ址あり、尙家の忠臣なる護佐丸盛右の居城にて石壘を存し、眺望佳なり。附近に護佐丸の墓あり。城の北なる萩堂部落には貝塚發見せらる。宇安里は今は沃野の中央にあるも、舊は港灣なりしと傳ふ。熊野權現を祀る安里寺の小祠あり。

ナカグチ 中口 なかくち 石川縣河北郡にありし村。明治四十年外三村と合して小坂村となり、小坂村は昭和十一年に金澤市に編入す。

ナカク

ナカク 長久手
【長久手村】愛知縣尾張國愛知郡の東北

【長久手村】愛知縣尾張國愛知郡の東北
部。瀬戸市の南約三軒の丘陵地にあり、

ナカク

ナカク 中頸城郡
【中頸城郡】新潟縣十六

【中頸城郡】新潟縣十六
郡の一。越後國の西南部にて、東北は刈

ナカク

ナカク 長久保新町
【長久保新町】長野

【長久保新町】長野
縣信濃國小縣郡の東部。舊中山道の一

ナカク

ナカク 長久保村
【長久保村】長野

【長久保村】長野
縣信濃國小縣郡の東部。長久保新町の北、

ナカク

ナカク 中頸城郡
【中頸城郡】新潟縣十六

ナカク

ナカク 中頸城郡
【中頸城郡】新潟縣十六

ナカク

ナカク 長久保新町
【長久保新町】長野

ナカク

ナカク 長久保村
【長久保村】長野

ナカコ——ナカサ

く。村民の九割八分は農業を営み米・麥等の産額多く、林産これに次ぎ工業・畜産もあり。大字梅北に後一條天皇の御代より鎌倉幕府の開かるまで約百七十年間島津津の庄衛置かれたり。村名は島津庄を北郷・中郷・南郷に分ちし際、その中郷の地に當れるを以て今に尙ほその名を留むるものならん。(今町一里塚)指定史蹟。本村及び都城市に互る。縣道の兩側約二米七を隔て、相對し、高さ二米七、基底徑七米三弱あり。殆んど完形を保つ。

ナカゴリー 中郡 靜岡縣濱名郡にありし村。明治四十年有玉村と小野田村の大字半田と共に磯志村を建つ。
ナカゴリーウ 中郡宇 鹿兒島縣鹿兒島郡にありし村。昭和九年に鹿兒島島市に入る。

ナカコシ 中越 石北線の一驛。(昭和四年設置)北海道石狩國上川郡上川村にあり。

ナカコマ 中巨摩郡 山梨縣九郡の一。甲斐國の中部。北及び西に翼狀に突出部を有し東北端は長野縣南佐久郡に、西は同上伊那郡に接し、北は北巨摩、南は南巨摩・西八代、東は西山梨・東八代の各郡及び甲府市に界す。面積四四・二一方軒。東北部に金は峰山(二五九五米)一帯の山岳起伏し、西部には赤石山脈の諸峯いづれも二〇〇〇米以上の高嶺を連ね一帯の山林をなす。この兩山地を

負ひ中央に平地開け甲府盆地の主要部を占む。郡の東境を荒川、略中央を釜無川いづれも南流し、東南境を西流する笛吹川と合して富士川となり南下す。中央平地は之等諸川の本支流に開析されたる混扇沖積地にして豊穰なる耕地拓く。主に東南部には水田多く、山麓の御勅使川扇狀地帯には桑園多し。養蠶に主力を注ぎ農業これに次ぐ地方にて、峡西の産額は縣下第一なり。農産物は米・麥を主とし、五所柿の特産あり。其他、金峯山附近の水晶、白峰山地の勝栗の特産、及び林産物もあり。峡西諸部落には製糸・機業また盛なり。交通は東南隅を社線富士身延鐵道貫通し、國母・西條常永・小井川・東花輪の四驛あり、また略中央を東西に横切りて省線中央本線走りて龍王驛を置く。其他、甲府市より南巨摩郡御澤町に至る社線山梨電鐵の便あり。道路は郡の中央を南北に貫き信州より甲斐を経て駿河に通ずる縣道を初め幾多の縣道四通し、主要町村へはバスを通ず。本郡は明治二十九年、巨摩郡を南・北・中の三郡に分ちし時置きしもの。昭和十二年、貢川、國母二村を甲府市に編入、いま小笠原町の外、三十七箇村を含む。

ナカゴメ 中込町 長野縣信濃國南佐久郡の北部。千曲川右岸に沿ひ、川を隔て、西南は野澤町に對し、北は北佐久郡に界す。佐久平の一部を占め土地概ね平坦にして水田・桑園に富む。農産栗盛

省線大船渡線陸中松川驛へは約三軒。西方省線の東北本線平泉驛へはバスの便あり。此地は和名抄、磐井郡丈部郷の内なるべし。村内に鐘引城址(唐梅館ともいふ)あり、往昔、千葉刑部少輔の居城なりと云ふ。今は陸田となる。

ナカサキ 長崎

【長崎村】 宮城縣陸前國栗原郡の南部。一迫町の西に隣り、南は玉造郡に接す。臺山丘陵の北斜面に屬し、南境に大森(二三六米)、東南に臺山(一一七米)あり、北方に傾斜し、長崎川は北部を東流し、沿岸に耕地拓く、米・繭・麥・木炭等を産し、南部に牧馬行はる。また慶長嶺山ありて金を産す。登米街道は北部を東西に通じ、東方の一迫町に至る。

【長崎町】 山形縣羽前國東村山郡の西部。山形市の西北約九軒。北は西村山郡寒河江町に接す。山形盆地に屬して全村概ね平坦なり。最上川は北部を東流す。須川は東境を北流し、東北境に於て最上川に合す。米・繭・果實を産しまた絹織物・絹織交織物の産あり。道路は中央部を南北に通じ、東南方山形市、北方寒河江町へはバスの便あり。大字長崎に省線左澤線の羽前長崎驛(大正十年設置)を置く。此地は和名抄、最上郡山邊郷の内なり。明治三十年最上村を長崎町と改稱。長崎

ナカサ——ナカサ

館は長崎式部少輔の居りし所。(八阪神社) 大字長崎に鎮座。郷社。祭神、素戔鳴尊。後土御門天皇文明元年に疫病流行の際、長崎村領主中山宗朝、祇園牛頭天王宮を館の鬼門として勸請せしに始る。例祭、七月十五日。
【長崎】 茨城縣筑波郡にありし村。昭和十三年に鹿島村と共に谷原村を建つ。
【長崎】 東京市豊島區の町名。昭和七年大東京實現以前は北豊島郡に屬せる町なりき。江戸時代享保十二年公收し、春秋二季に騎馬勢子の調馬の地に定められし所に、古來純農村たり。雜司ヶ谷より練馬に至る往還に當り、椎名町(いま長崎町)の小商店街ありき。現在は住宅地となる。町内に武蔵野鐵道通じ、椎名町(大正十三年設置)・東長崎(大正四年設置)の二驛あり。
【長崎】 新潟縣南魚沼郡にありし村。明治三十九年に南・旭村外三村を合併し上田村を置く。
【長崎】 愛知縣碧南郡にありし村。明治三十九年に外一町二村と共に廢され知立町を置く。大字篠目は安城町へ、井杭山は依佐美村に入る。
【長崎縣】 九州島の北西部に位し、東は佐賀縣に隣り、西方は海に臨み、壹岐・對馬・五島・平戸島等の諸島嶼を含む。面積約四〇七六方軒にして小縣に屬するも、水平的肢節よく發達し、東西一五〇軒、南北二一四軒に跨り、面積に比して

にて、米・繭の産多く、生大根・桑苗・馬鈴薯等の特産また多額に及ぶ。近時は工業盛にして山岡製絲場・愛興製絲場をはじめ、製絲業最も榮え、生絲の産多額に及べり。其他、養蠶業行はれ無仔の産また相當の額なり。野澤町と共に佐久平中心地にして縣道四通し、白田町へはバスの便あり。省線小海線は町の東部を南に走り、滑津(大正五年設置)・中込(大正四年設置)の二驛を置く。この地は近世平賀庄に屬し、明治三十二年に中瀬村を中込村と改稱、のち町制を布く。
ナカゴヤ 中小屋 札幌線の一驛(昭和十年設置)北海道石狩國石狩郡當別村にあり。
ナカサ 長狹 【長狹】 上總國(千葉縣)の古地名。和名抄に夷高郡長狹郷見ゆ。いま夷高郡の東村の邊ならん。同村の大字に長志あり、これ或は郷名の轉訛ならん。
【長狹(國)】 古國名。即ち古事記神武天皇の段の最後に、御子神八井耳命の子孫の繁衍せる諸國を註せる中に長狹國造あり。國造本紀には國名をあげず。その地は後に郡となりて安房國に歸せる長狹郡の地なるべし。※長狹(郡)
【長狹(郡)】 安房國(千葉縣)の古郡名。もと長狹國の郡となりしもの。續紀、養老二年五月上總國長狹外三郡を割きて安房國を置くとあり。和名抄は奈加佐と註し、壬生・日置・田原・酒井・伴部・賀

四三六

茂・丈部・置津の八郷を載す。明治三十年四月安房四郡を合して安房郡となし、郡名を失ふ。
ナガサ 長讀村 茨城縣常陸國眞壁郡の東部。眞壁町の西隣にて筑波山の西北麓にあり。全村平地にて、東境を櫻川南流し、北部は如地多く、南部は水田をなす。米・小麥大麥を産す。眞壁町に縣道を通じ、同町に社線筑波鐵道眞壁驛を置く。古くは和名抄、眞壁郡伊讀郷の内とす。大字推尾は古く推火にも作り、鎌倉圓覺寺文書元應二年に、正續院領、常陸國推火郷宮山村とあるもこれとす。
ナガサオ 長竿村 茨城縣常陸國稻敷郡の南部。利根川の北岸にあり、面積五・七方軒餘の小村なり。全村低地に水田多く、米を主産し、他に大麥・小麥の産あり。副業として養蠶行はる。縣道は西走して龍ヶ崎町方面に至るもの、及び北走して江戸町町方面に至るものあり。また利根川は水運の便多し。

ナガサカ 長坂 【長坂村】 岩手縣陸中縣東磐井郡の西部。大原町の西方約一軒。北境に霧ヶ森山(三三三米)、南境に弓折山(四三四米)あり、西部もまた山地にて、砂鐵川は東方より來り村の中部を西流し、北方より猿澤川を合して村の西部を南流す。砂鐵川の西流するあたり梨泉溪の勝地ありて指定名勝たり。米・麥・大豆を産す。道路は村の中央部を略東西に通じ、西南方の

見岳地帯あり、其他、南北と東西の地帯に分たる。河川は東彼村部の郡川・波佐見川、北松浦郡の志佐川・相浦川・佐々川等やや著るしく、此等の流域には沖積地よく發達するも大なる平野なし。なほ北松浦郡及び西彼村部の第三紀層よりは石炭を産す。本土との間に平戸瀬戸を距つる平戸島は北東方向の地帯にて、殆ど火山岩に被はれ中央に長き低地帯あり。五島列島は前者の西南海中に北東―西南に連ること約八〇軒、その基盤は白雲層なるも隨處に花崗岩・玄武岩・安山岩等噴出して地形複雑を極め、特に福江島は處々に玄武岩のホマーチあり、中央に沖積盆地をつくり、農業行はる。壹岐・對馬は共に丘陵性又は臺地性にて、海岸出入に富む。而して壹岐の山地は準平原化して農牧盛に行はれ、對馬は平地少く、中央に淺海灣の陥落窪谷あり、自然美に勝れ、良港また少からず。之を要するに本縣の地體構造は極めて複雑にして、山岳丘陵多く、平地は總面積の十分の一にも足らず、耕作は臺地・丘陵上の人工的段丘に行はるもの多し。港灣頗る多くその主なるものは長崎・佐世保(軍港)を始め、茂木・瀬戸・高崎・時津・野母(以上西彼村)・諫早(北高來)・大村・早岐(東彼村)・島原・口津(南高來)・平戸・田助・今福(以上北松浦)・福江・富江(以上南松浦)・嚴原・竹敷・大船越・佐須奈(以上對馬)・郷ノ浦・勝本(壹岐)等とす。

四三九

ナカサ ナカサ

〔氣候〕九州西部海岸氣候區に屬し、對馬海流の影響を受けて氣溫や高く、雨量も可成り多く、一般に海洋性氣候を示す。この傾向は五島列島・對馬等に於て特に顯著なり。また植物も熱帯・亞熱帯のものを見、平戸島の北に散在する生月島・廣島・大島は榕樹帯の北限をなす。

Table with columns for climate (測候所), temperature (氣溫), and precipitation (降水量). Rows include Nagasaki, Unsuiko, Sasebo, and other locations.

いま縣下に於ける主なる氣象要素(昭和十年中)を比較するに別表の如く、雨量

長崎縣生産總額(單位千圓)

Table showing production totals for Nagasaki Prefecture in 1919 and the previous year's increase/decrease.

が九州の他地方より著しく多きを見るべく、また一年を通じて北風卓越す。温泉岳附近には冬の霧氷及び風穴・鳩穴等の特異現象あり、氣候また冬季を除きては頗る快適なるを以て、内外人の避暑・行樂地として知らる。〔産業〕縣下の職業別戸口を見るに農業九五、一七五戸(四〇%)、工業八、三九五戸(四%)、漁業一六、九九九戸(八%)、商業四〇、七〇六戸(一八%) (以上昭和九年末現在)にして、その生産總額は別表の如し。耕地は總面積の約四分を占む。縣下の平地面積は全體の約十分の一に過ぎざるを以て、土地利用が殆ど飽和状態に達せるを察すべく、殊に南高来(島原半島)・西彼杵(彼杵半島)兩郡にては藁地・丘陵は殆ど段丘を以て埋め盡さる。而して田地三萬四千ヘクタールに對し畑地五萬四千ヘクタールにて、畑は甘藷を最も多く作り、之に反し米は收穫率少なく、住民の常食も芋主米從の狀態にあり。米は島原半島北部より諫早に至る間の平野に多く約六九萬石、麥は粟・小麥を主とし島原半島及び壹岐に多く約六〇萬石、甘藷は七三五〇萬貫、その他、馬鈴薯・大豆・粟等の普通作物の外、蔬菜は大根・三七〇萬貫を始め、白菜(四五七萬貫)・西瓜(三一〇萬貫)等顯はれ、特用作物には楮(三七萬貫)・茶(八萬貫)等あり、果實は枇杷(九二萬貫)・蜜柑(一四四萬貫)の外、柿・夏

蜜柑・梨・ネーブル等栽培さる。養蠶は島原半島に最も盛にて、縣下の收購高三六二萬圓、蠶絲類もほぼ同額を出す。牧畜は島原地方の馬、壹岐の養鶏等殊に著はれ、牛の多きこと九州にては鹿兒島縣に次ぎ、約七萬四千頭を數ふ。之に次ぐは馬(一萬二千頭)・豚(九千頭)・山羊(八千頭)にて、温泉岳には綿羊飼養せらる。林産は木竹材(二一萬圓)・木炭(一九萬圓)を主とす。海岸線延長二千四百軒に餘り、沿海市町村數一七〇を數へ、沿海に好漁場・好漁港多きを以て水産業はよく發達し、漁獲高は北海道を除きて全國の首位にあり、而して對馬海流の影響によりて暖流魚の漁獲多く、且つ漁獲物の多種多様なるは本縣漁業の特色とす。遠洋漁業は五島の富江・玉之浦等を最大根據地とし、約九九五萬圓の漁獲あり、沿岸にては鱈・鱒・鰯・柔魚・鯛・鰯・鱈・其他に鮑・若布等を合し、約一、九五萬圓を漁獲し、なほ五島に瓊瑤の産あり。水産製造物は嘗ては對支貿易上重要な部分を占めしものにて、乾魚・節類等の食用品五二〇萬圓の他、魚油肥等一六四萬圓を出す。鐵産は石炭を第一とし、鑛區數二八一中、二六七は石炭鑛區にして、昭和十年の産額三三五萬圓、二、五六三萬圓あり、鑛區は第三紀層のよく發達せる北松浦郡に多き(肥前炭田)、炭質・炭量等の勝れたるは西彼杵郡の海岸島嶼又は海底に埋藏さるるものにて、

四三〇

時戸島・松島を始め、高島炭田に屬する高島・端島・中ノ島・離島・二子島等著はる。工業は産額に於て各産業の首位にあるも、造船・鐵工業・紡織等の大工業は長崎市に集中し、佐世保市及び島原地方に之に次ぐ工業地帯をなすも、他は大村附近の甘藷を原料とする澱粉製造、糧實よりする製糖等の地方的小工業に過ぎず、特産物としては長崎の藍甲細工・カステラ・人形等著はる。主なる工産物は次の如し。造船一、九二九萬圓(昭和九年二、八五二萬圓)、鐵工業製品二、二一萬圓(同九年二、八〇二萬圓)、酒類四七五萬圓、醬油一三六萬圓、蠶繭詰二六九萬圓、陶磁器一五五萬圓、澱粉一、二七萬圓、木製品一三六萬圓。次に天然産物の移動状況を見るに、米は産額縣民需要の半ばにも達せるを以て多く輸入に仰ぎ、甘藷並に鮮魚は近畿以西の各縣に移出し、石炭また長崎港より全国各地に供給す。また交通の關係上、壹岐・對馬は福岡の、平戸・五島は佐世保・長崎の各商團に屬す。外國貿易は長崎港によるものが古く且つ盛大を誇りしも、その位置の偏れると、後背地・貧弱とによりて逐年衰へ、長崎・口ノ津・嚴原の三開港の貿易額は輸出一四一五萬圓、輸入一七五六萬圓(昭和十一年)にして、長崎港はその貿易額に於て門司・若松兩港に遠く及ばざる状態にあり。(交通)鐵道は省

線長崎本線東北より來り大村灣岸を縫うて長崎港に達し之を幹線となし、早岐より省線佐世保線を岐つ他に北部に伊萬里線・松浦線通じ、また本縣の主要産業地帯なる島原半島には島原鐵道・口ノ津鐵道・雲仙鐵道・小濱鐵道の各社線あり。島嶼部には未だ鐵道を通ぜざるも、道路網よく發達し、交通不便ならず。海上は長崎港が内國・外國航路の一焦點を成すほか、主なる港口六十餘を數へ、本縣並に島嶼間に九州商船・九州郵船等の定期航海あり、また壹岐・對馬へは福岡より日航の定期船往復す。(人口及び都邑)昭和十年國勢調査によるに總人口は一、二九六、八八三(うち男六六二、一七四、女六三四、七〇九)なるも、本籍人口は一、三六三、二〇五にして、縣外移住者の多きを見るべく、この内には朝鮮・滿洲を始め、海外に移住し出稼する者も多からざるを見る。一方、在留外國人は一、五二一人を數ふ。人口密度は一方軒當り三一八一人なるを以て、全國平均に比し著しく稠密なり。これを地方別に見る時は、市郡を除きては南高来郡に最も密にて三七三を數へ、壹岐・北高来・西彼杵の各郡は之に次ぎ、對馬は八〇にして最も疎なり。都邑は縣政の中心にして、貿易・交通・工業の中心たる長崎市、軍港及び軍需工業都市たる佐世保市の外、交通の要衝に當る諫早町・早岐町、軍事的都市たる大村町等を主とし、その他、島原・

ナカサ ナカサ

茂木・平戸・福江(五島)、武生水・藤本(以上壹岐)・嚴原(對馬)等はそれより地方的中心都邑となす。因みに長崎・佐世保・平戸を中心とする地域及び壹岐一圓、對馬の大部分は何れも要塞地帯に編入せらる。(沿革)本縣の地は江戸時代に島原半島・福江・大村の諸原の五藩によりて分領せられ、佐賀藩の諫早氏・鍋島氏等の所領その間に介在し、長崎市及び其附近は幕府に直屬せり。明治元年長崎に裁判所を設け西海道諸藩の鎮撫總督たらしむると共に、外國事務を統べしめしが、幾干もなく之を廢して長崎府を置き次で縣に改む。同四年諸藩の改稱たる島原・平戸・福江・大村の諸縣及び本縣を廢して、新たに長崎に長崎縣を置き、彼杵・高来の二郡と松浦郡の一部、並に壹岐國を管す。同九年佐賀縣を併せ肥前國一圓並に壹岐・對馬兩國を管し、同十六年佐賀縣を分縣復活せしめ、以て今日に至る。

〔長崎市〕長崎縣の首都。嘗て異國文化輸入の門戸にして、いま九州樞要の貿易港。縣の南部、長崎半島・西彼杵半島の相合する基部に位し、東は西彼杵郡矢上村・日見村・茂木町に隣り、北は西浦上村・西は小櫛村・福田村に、南は小ヶ倉村・香焼村に隣接し、西南は長崎灣に臨む。東西五・五軒、南北七・三軒、面積三九方軒餘。人口約二七萬。(地形)四周殆ど丘陵を以て圍まれ、此間に西南より

四三一

産物五四九萬六千圓、工産物六〇三三五萬六千圓(昭和十年七三六一萬六千圓、計六七一一萬九千圓)にして、工産額は總生産額の九〇%強を占め、同年度に於て工産物が減額を示したる外は、何れも逐年増産を見つあり。工業のうち造船・鐵工業の重工業は歴史的優位を占め、大工場に三菱重工業會社造船所・三菱電機會社製作所・三菱重工業會社兵器製作所等あり、特に三菱造船所の盛衰は市況に關

Table titled '昭和十一年工産額(單位千圓)' showing production amounts for various categories like shipbuilding, iron works, etc.

だ見るべきものあり、即ち堂舎の建立・書物の印行・慈善の事業・祭禮の行事等

長崎府を置くに及び、府の行政と長崎の市政とは分離し、市には町會所を設け肝

まる行事にて、市内男子ある家へ近親知

來り天主教を弘むるや、土人多く之を信

す。神事は十月一日より十三日まで執行

〔松森神社〕上西山町に鎮座。縣社。祭

御開創未詳にして住し、より長崎在住の

往時は塔頭五院ありしが今は減す。境内

教化せしめんとして、その宅址に小堂を
建立せしに始まる。いま寺内に四院を有
す。〔長崎別院(佛光寺別院)〕小島町に
あり。眞宗佛光寺派。光壽山正覺寺。慶
長九年道智の開創に係る。慶長八年小笠
原一庵長崎奉行となり幕命を奉じて切支
丹宗を禁壓するや、道智は大音寺傳譽、
光永寺慶西等と共に召されて専ら破邪の
任に當る。元禄十一年本願寺派を脱して
佛光寺派末となる。〔福濟寺〕下筑後町
にあり。黄葉宗。分業山。俗に唐寺とい
ふ。寛永五年支那福建泉州の僧覺梅、長
崎在留支那商人の請に應じて東渡、現地
に堂宇を建立して支那商人の菩提寺とな
す。いま境内に四院あり。堂宇の建築様
式は支那明式に属し、うち本堂(大雄寶
殿又は釋迦堂)・前堂(護法堂、彌勒堂又
は天王殿)及び廻廊・持蓮堂(觀音堂)・中
門(大觀門)及び廻廊等は國寶。〔本蓮寺〕
西坂町にあり。日蓮宗。聖林山。長崎五
山。京都本願寺末。元和六年日蓮の開創
に係る。日蓮は當國大村の人、當地に來
りて法を弘むるや代官之に歸依し切支丹
の舊址を寄せて堂宇を建てしむ。現に塔
頭五院を有す。寺内の南登井戸は切支丹
宗徒を處殺して埋葬せしところと云ふ。
〔浦上天主堂〕浦上郡の北部、もと浦上
村の中央小丘上に立つ。東洋一の大教會
堂と稱せらる。往年、禁教時代に長崎を
逐はれし切支丹宗徒が、この浦上に止ま
り村民は殆ど皆その信者なりしと云ひ、

今なほ信仰厚し。佛國宣教師フレイノ、
元浦上村庄屋の邸宅を買求め假聖堂とな
せしが、明治二十八年新たに本聖堂を起
工、大正三年三月獻堂式を挙げ、同十四
年五月正門の高塔を竣成す。堂の高さ、
間口各一八米餘、奥行六〇米餘、六千人
を收容し得。〔大浦天主堂〕國寶。南山
手町にあり。切支丹殉教者二十六名の靈
を祀るため、文久二年末佛國宣教師フエ
ール(Puey)の開創にかゝり、翌三年教
區長シラル(Girard)及び宣教師ブチッ
ン(Putignan)相次ぎて工事を監督し、元
治元年十二月一日竣工、慶應元年一月二
十三日獻堂式を舉行せり。當初は三側式
木造の教會堂なりしを、明治七、八年の
間、宣教師ホリアエ(Patino)擴張を企
て左右に各一間の側廊を増築、且つ外壁
を煉瓦積となし以て現在の如きものとな
す。其外観は稍々平凡なるも、内部の身
廊・奧陣及び左右側廊等に木造漆喰塗の
方法により穹窿天井を巧に構成せるは歎
賞に値す。其他、細部またゴシック式手
法を表はす。内陣中央には壯麗なる祭壇
を構へ、左右側廊には處々に小聖龕を作
る。要するに本會堂は佛國宣教師の意匠
により、その指揮の下に我國工匠の經營
せしものにして、我國洋風建築輸入の初
頭を飾るべき、現存の代表的遺構なり。
〔五社山〕長崎驛の北、西坂町に續く高
臺にて、外人間にはセント・ヒル(聖山)
の名によりて知らる。往昔、耶穌教徒の

新罪・磔刑・焚殺等の極刑行はれし血闘
の史蹟。天草一揆の盟主益田四郎以下三
千三百人を埋むる有馬塚及び寛永十七年
南蠻人六十一人を懲刑に處せし南蠻塚と
いふ二基の塔婆あり。天和七年には葡
牙人・邦人・朝鮮人等五十五人の伴天連
が虐殺され、以後明治初年まで凡ての犯
罪者を獄門に曝したり。二十六聖人殉教
の日、二月五日には市内は勿論、全國の
信徒、山頂に集りて終日祈禱す。〔シー
ホルト宅址〕指定史蹟。鳴瀧町、鳴瀧
り上流約一〇〇米の所にあり。一に鳴瀧
學舎と呼ぶ。近世わが國文化の恩人なる
蘭醫フレイプ・フランツ・フョーン、シー
ホルトが島蘭館の醫官として長崎滞
在、奉行の許可を得て設けし別宅にて、
もと南蠻寺の址なりしと云ひ、文政六年
來朝以來ここに居す。いま古井戸・石
垣倉庫址等存し、また有名なシーホル
ト樹(クワタノミ)科、學名Rhamnus
Sieboldiana, Ak.)あり、その前面に當
時の二階建書齋あり、向つて右方の井戸
の前には平屋建の住宅ありしといふ。シ
ホルト此處に在りて醫學及び植物學の
研究に没頭し、傍ら全國より集りし俊才
の薫陶に當り、その門下より高野長英・
橋本宗建・戸塚静海・伊東圭介・高良齋・
二宮歌作・緒方洪庵・三宅良齋等の碩學
を輩出せしむ。文政十一年國禁の地圖を
入手せし廉に速座して歸國を命ぜられ、
安政六年再び渡來せしが、幾干もなく歸

國、慶應二年七十一歳にてミュンヘンに
逝去す。學舎背後の高臺は俗に「城の古
址」と稱し、貞應三年長崎小太郎貞綱の
築城せしところ。〔諏訪公園〕諏訪公園
の神域に隣る玉園山の一帯、もと安禪寺
のありし地を、明治七年公園となせるも
の。面積四六三アール、眺望絶佳なり。
域内に東照宮・武徳殿・音楽堂・縣立圖
書館・商工獎勵館等あり。シーホルト・
ツンベルク・ケンネル及びグランド將軍
等の記念碑あり。前三者は公園入口に並
び、シーホルト碑は明治十二年建設、大
森惟中の撰文を刻す。ツンベルクは瑞西
の植物學者にて和蘭東印度會社の醫師、
シーホルトと共に日本研究の雙壁にして
彼此の學界に貢獻する所多く、ケンネル
は元禄三年來朝せる和蘭の旅行家にして
『日本誌』(一七二七)により我國情を歐洲
に紹介せし學者、此兩者の碑はシーホル
トがもと出島敷敷の花田に學績を追慕し
て建設せしものとす。〔高島秋帆宅〕
指定史蹟。小島町にあり。我國洋式砲術
の鼻祖高島秋帆の別邸。天保九年本邸焼
失後、ここに移り砲術を諸生に教授す。
嘗て秋帆の書齋たりし「楓の間」、その他
書籍・銃器等を納むる倉庫、彈痕石・石
燈籠・土塀の一部等遺存す。〔出島和蘭
商館址〕指定史蹟。出島町にあり。此地
もと扇島と呼ばれ、寛永十一年江戸幕府
が長崎商人に命じて商賣の爲に江戸
町前方の海面三九六坪(周圍二八〇間)

の扇形の地を埋立てしめし所。同十三年
工竣りて葡荷商人をここに移し邦人の
雜居を禁じ、島原亂後、同十六年葡荷商
人の通商を禁じ退去を命ぜしむ。一時空
屋となりしが、同十八年平戸より和蘭人
を移してその商館となす。爾來安政元年
神奈川條約締結に至るまで我國に於ける
唯一の海外貿易場たりき。當時、島の中
央より今の通路を進み江戸町に向ひ突當
りに橋を架して、外部との唯一の交通路
となし、出入を嚴にす。島内には商館長
以下の住宅を始め乙名部屋・通詞部屋・
札場・倉庫・番所等の建物あり。和蘭の
甲比丹(領事)ここにありて貿易事務を掌
る。即ち約二百三十年間、出島は泰西文
物流入の門戸として我國文化の上に大なる
貢獻をなし、同時に長崎市の今日ある
を胚胎せしめたり。明治十九年及び三十
二、三年兩度の港灣修築以後、出島前面
の海は埋築せられて悉く市街地と化し、
往年の梯なきも、扇形の町並・道路・河
岸・石塀・倉庫等に當時の遺構を見るべ
し。〔唐人屋敷遺蹟〕長崎驛の南方、館
内町附近にあり。天后堂は元文元年在留
南京人等の創建、明治三十九年改修せら
れし木造煉瓦壁、八三方米弱の建物にて
天后聖母・千里眼・順風耳の神像を祀り
海上安全を祈る。觀音堂は觀世音菩薩と
關帝とを安置し在留唐人の靈柩を、今
なほ毎年祭典を行ふ。その他、土神堂・
團圓堂(廣馬場町)等あり。〔長崎醫科大

學〕江戸平町にあり。もと長崎醫學專門學
校の組織を變更し大正十二年四月開設せ
る官立醫科大學。その前身は萬延元年創
設の長崎養生所に起れる第五高等學校醫
學部なりとす。〔三菱造船所〕東洋第
一の造船所。長崎港の西岸。西泊灣より
平戸小屋に至る沿岸一帯約三軒、面積約
三五ヘクタールを占め、小菅船渠・製鋼
工場・社宅用地等を合すれば總面積約七
三ヘクタールに及ぶ。安政三年、江戸幕
府が蘭人を聘して船ノ浦機工場を開きし
に初まり、明治十七年、三菱社の經營と
なる。立神工場は造船工場、船ノ浦工
場は機械類(ディーゼルエンジン・ター
ビン、發電機等)の製作鑄造を主とし、
船渠は立神・船ノ浦・八軒屋の三箇所にあ
り、八軒屋の第三船渠は長さ約二二二米
幅約三五米、水深約一〇米、我國最大の
ものといひ、艦艇日向・霧島、商船淺間
丸・龍田丸等はここに建造された。本
造船所は時により一萬一、二萬の従業員
を擁し長崎市民の約三分の一を直接間接
に養へる功大なり。〔眼鏡橋〕東酒屋町
より磨屋町に通ずる中島川に架せる唐風
の石橋。寛永十一年興福寺を建設せし明
僧如定の築くところ、唐風拱式刻石積の
様式による日本最初の眼鏡橋なり。脚柱
を中に挟んで双圓を描き、滿潮時には橋
影恰も眼鏡の形に映り、江戸の日本橋、
岩國の錦帯橋と共に嘗て日本三橋の一に
數へらる。〔高島秋帆〕江戸時代の砲術

家。通稱四郎太夫、のち喜平と稱す。寛
政十年長崎町年寄の家生まれ、長じて町
年寄にして鐵砲方を兼ね、のち長崎會所
頭取となる。清英戦争の勝敗に鑑み、火
技の獎勵、兵器の改良を痛感し屢これを
奉行に建白すると共に、自ら蘭人につ
き蘭學・兵學を學び、私財を投じて銃砲を
輸入、砲術を研究し兵書を翻譯せしむ。
入門する者多く、遂に西洋流のちに高島
流砲術を創む。天保十二年召されて江戸
に至り火技を演じ、且つ技を諸士に傳授
す。江戸垣廬等も彼に師事せり。のち長
崎に歸りて九州藩藩士を誘掖し名聲大に
舉りしが、讒によりて天保十四年に其子
の淺五郎等と共に江戸に檢送、弘化三年
に中津放逐に安部侯に預られしが、の
ち垣廬の盡力により赦免、垣廬に屬して
砲術教授方を命ぜらる。秋帆は高島喜平
の名を以て幕府の詰問に對へ、攘夷の無
謀なる事、兵器改良の急務、通商貿易の
有益なることを建白す。安政二年講武所
の砲術師範後、文久三年具足奉行となり
子弟を教授す。慶應二年正月、年六十
九。贈正四位。〔本木昌造〕我國活版界
の恩人。文政七年長崎北島三彌太の四男
に生れ、十一歳和蘭通詞本木左衛門に
養はれる。長じて家業の傍、泰西の技術を
修め特に活字製造を研究、嘉永元年活字
植字判及び印刷機を和蘭より購入し、同
四年活字製造法を案出す。次で造
船術を會得し小蒸汽船の模型を造り、ま

た兵書・醫書・會話書を活字活字にて撰
立て刊行す。萬延元年長崎船ノ浦製鐵所
に勤務、造船・鐵機・航海の事に與り、
翌年外國船を購し、自ら船長として諸方
を航海す。明治元年製鐵所頭取後、二年
製鐵局機關傳習方頭取となり、傍ら科學
校を開きて子弟を教ふ。同三年上海より
米人ケンネルを招き電燈法母型を傳へて
鑄造活字を完成、大阪に活版所を開き翌
四年横濱にも活版所を開き、日刊橫濱毎
日新聞を刊行せしむ。築地活版所・石川
島造船所は皆な彼の指針に據り高島平野
富二が基礎を築きしものとす。八年九月
病歿、年五十二。贈從五位。(福地源一
郎)明治時代の文學者。櫻痴また夢之會
主人と號す。天保十二年長崎の醫家に生
れ、蘭語を學び、のち江戸に來り外國奉
行水野梅雪の家に移す。文久元年竹内下
野守一行に隨ひて歐洲に往し、歸朝後、
幕府に出仕して通譯御頭取となり、又
渡歐す。慶應二年下谷に私塾を開き外國
語を教授、維新に際し江湖新聞を發刊、
筆禍により一時退京。明治三年より六年
まで大藏省に出仕し大に重用せらる。辭
官後、東京府會議長となり、東京商法會
議所を創設、また明治七年東京日々新聞
を發刊、十四年立憲帝政黨を組織、三十
七年に東京府選出代議士となり憲政本黨
に屬す。その筆になる社説は一世を風靡
す。風流才人の稱れ高く、二十二年歌舞
伎座創立に盡し、その經營に任ずると共

に劇作を遺すところ多し。明治三十九年一月、年六十六。「幕府衰亡論」...

百米のトロイア丘多し。地形上、北東部の八郎岳地壘及び南西側の二ノ岳地壘...

ナカサツナイ 中札内 廣尾線の一

〔長崎鼻〕 山川町(鹿兒島縣掛箱郡)...

ナカサト 中里

〔中里〕 樺太大泊郡千歳村の大字。東海岸線の中里驛(明治四十年設置)を置く...

仁親王猶子たり。寛曆十二年東山天皇の舊殿一棟を賜ひ更に輪奐の美を整ふ...

ナカサト 中郷村

千葉縣下總國印旛郡の東北。成田町の北隣。中部より東部にかけては丘陵地にて森林あり...

ナカサト 中佐都村

長野縣信濃國北佐久郡の中部。岩村町の西に隣る。淺間山の南麓、佐久平の一部をなす...

ナカサト 中里

〔中里村〕 青森縣陸奥國北津輕郡の北部。金木町の北部に隣り、東は東津輕郡に接す...

ナカサト 中里

五年設置)の三肆を置く。この地は源義經の侍大守寺力の討死せし地と云はる...

〔中里村〕 茨城縣常陸國久慈郡の東部。太田町の北方約九軒にて久慈川の支流里川に沿ふ...

なし、森林あり。中央を南流する鶴見川の流域にのみ細き低地ありて畑地多し...

老郡時村と界す。南北に細長く面積一八方軒餘。養老山脈北部の西麓に當り北半は低き山地をなし南端部は伊勢平野の西

【中里村】長崎縣肥前國北松浦郡の南部。東南は佐世保市の西北部に接し、西南は相浦町に隣る。面積約九・五方軒。南北

三春町の南に接す。阿武隈山脈の西斜面に屬し、全村概ね高原性丘陵地をなし、

【中郷村】長野縣信濃國上水内郡の東北部。千曲川支流鳥居川に沿ひ、長野市の

○米前後の丘陵地にあるほか概ね平坦なり。狩野川本支流に灌漑され水田拓け

【中郷村】三重縣伊勢國一志郡の東南部。坂阪市の西方約一〇軒。東北は豊地村、

灌漑の便よろしきをもつて、傾斜地といへども耕作によく利用せらる。海岸には

【中郷村】長野縣信濃國上水内郡の東北部。千曲川支流鳥居川に沿ひ、長野市の

【長澤村】青森縣陸奥國三戸郡の東南部。八戸市の西南約一二軒。南は岩手縣に接す。北上山地の北部に位し、南境は海抜

ナカサ

【長澤】山形縣最上郡舟形村の大字。陸羽東部の長澤驛(大正四年設置)あり。

ナカサ

【長澤】山形縣最上郡舟形村の大字。陸羽東部の長澤驛(大正四年設置)あり。

ナカサ

【長澤】山形縣最上郡舟形村の大字。陸羽東部の長澤驛(大正四年設置)あり。

ナカサ

川を境に八名郡と接し大野町に對す。北方に聳立する寶來寺山(六八四米)の東南山裾を占め、全村山林多し。三輪川は東・南境を西南に流れ西境を流るる寒狭川と合し豊川となり南流す。河岸は概ね溪谷をなす。養蠶最も盛にして繭の産多く、次で米・麥の耕作行はる。社線風來寺鐵道、三輪川に沿ひて北上し、長篠古城址驛(大正十三年設置)・風來寺日驛・三河大野驛・湯谷驛・三河横原驛(以上大正十二年設置)・柿平驛(昭和四年設置)を置き三河川合驛(三輪村)にて社線三信鐵道に連絡す。ほかに村内風來寺日驛より北に分岐して田口町に至る社線田口鐵道もあり、交通概して便なり。此地は有名なる長篠城の古戰場として著名なり。天正三年、武田勝頼、當時徳川家康の有たりし此地の長篠城を圍み、村の北部なる醫王寺山に陣す。家康、織田信長の援を得て當時新兵器たる鐵砲を利用し武田勢を潰走せしむ。此戦は戦術史上一新紀元を劃したるものと云はる。「長篠古城址」指定史蹟。大字長篠字市場、三輪川と寒狭川との交流點にあり。三方は自然の懸崖をなし、背面には山を負ひし要害の地に於て、本丸址には宏壯なる土壘を存し、その周縁には濠あり。本丸の西北に彈正郭あり、土壘址を存し、本丸の東南には野牛郭址あり。その他帯郭、巴城郭等の遺址には何れも濠あり。城は永正五年今川氏親の築く所にして、その後武田

氏の有となりしが、信玄歿後、徳川家康これを攻略し奥平信昌を置けり。天正三年五月、武田勝頼來りて攻撃せんとせるも、家康諸將を率ゐて出陣し、織田信長も來援せしをまつて勝頼敗戦し、圍を解きて甲州に歸れり。本丸址の土壘には長篠城址の碑あり、附近には奥平方の忠臣鳥居強右衛門墓等あり。「馬背岩」指定天然記念物。本村及び八名郡七郷村に互る。第三紀の集塊質凝灰岩を買きて三輪川の河床に其の全長を露出せる流紋岩の岩脈なり。東北より西南に向ひて走り、長さ約一二二米、幅二・九米乃至六・三米、高きは平水面上最高七米に及ぶ。此種岩脈の最も標式的のものなり。

【中島(郡)】美濃國(岐阜縣)の舊郡名。笠松輪中の西南部に當り、もと尾張國中島郡の一部なりしが、木曾川河道の變遷により地形上美濃國に屬せしめられた。天正以後之を美濃國に屬せしめ一郡を建て中島郡とし、尾張の中島郡と分つ。明治廿九年羽東郡と合して羽島郡を建つ。【中島】愛知縣碧海郡にありし村。明治三十九年、他の五箇村と共に廢し六ツ美村を置く。【中島郡】愛知縣十八郡の一。尾張國の西北部。濃尾平野の中部を占め、木曾川の左岸に位し、東地郡は一宮市に接す。木曾川沖積地にて地形平坦、中央には日光川の支流數條南流するあり。東南境には庄内川支流南へ流れ、木曾川は西境に沿ひて西南流し西南隅にて屈折し南に向ふ。低濕なる沃地なる爲め農産物少からざるも、工業として全國屈指の毛織物の産地なり。街道郡内を縱横に横切り東部には名古屋市・一宮市・岐阜市を結ぶ国道あり。省線東海道線同く東部を走り、社線名古屋鐵道は一宮市を中心として各方面へ放射狀に走り本郡を通過す。交通至便なり。郡内奥町・起町・稻澤町・萩原町・祖父江町の五町外八箇村を含む。人口密度多くして平均八六三人を算し奥町は最高にて二四三七人にして起町の二三四九人、今伊勢村の二一六三人にして最低は長岡村の三四八人及ぶ。もと木曾川吐口の土砂の漸次堆積地となり、や

【中島(郡)】美濃國(岐阜縣)の舊郡名。笠松輪中の西南部に當り、もと尾張國中島郡の一部なりしが、木曾川河道の變遷により地形上美濃國に屬せしめられた。天正以後之を美濃國に屬せしめ一郡を建て中島郡とし、尾張の中島郡と分つ。明治廿九年羽東郡と合して羽島郡を建つ。【中島】愛知縣碧海郡にありし村。明治三十九年、他の五箇村と共に廢し六ツ美村を置く。【中島郡】愛知縣十八郡の一。尾張國の西北部。濃尾平野の中部を占め、木曾川の左岸に位し、東地郡は一宮市に接す。木曾川沖積地にて地形平坦、中央には日光川の支流數條南流するあり。東南境には庄内川支流南へ流れ、木曾川は西境に沿ひて西南流し西南隅にて屈折し南に向ふ。低濕なる沃地なる爲め農産物少からざるも、工業として全國屈指の毛織物の産地なり。街道郡内を縱横に横切り東部には名古屋市・一宮市・岐阜市を結ぶ国道あり。省線東海道線同く東部を走り、社線名古屋鐵道は一宮市を中心として各方面へ放射狀に走り本郡を通過す。交通至便なり。郡内奥町・起町・稻澤町・萩原町・祖父江町の五町外八箇村を含む。人口密度多くして平均八六三人を算し奥町は最高にて二四三七人にして起町の二三四九人、今伊勢村の二一六三人にして最低は長岡村の三四八人及ぶ。もと木曾川吐口の土砂の漸次堆積地となり、や

【中島(郡)】美濃國(岐阜縣)の舊郡名。笠松輪中の西南部に當り、もと尾張國中島郡の一部なりしが、木曾川河道の變遷により地形上美濃國に屬せしめられた。天正以後之を美濃國に屬せしめ一郡を建て中島郡とし、尾張の中島郡と分つ。明治廿九年羽東郡と合して羽島郡を建つ。【中島】愛知縣碧海郡にありし村。明治三十九年、他の五箇村と共に廢し六ツ美村を置く。【中島郡】愛知縣十八郡の一。尾張國の西北部。濃尾平野の中部を占め、木曾川の左岸に位し、東地郡は一宮市に接す。木曾川沖積地にて地形平坦、中央には日光川の支流數條南流するあり。東南境には庄内川支流南へ流れ、木曾川は西境に沿ひて西南流し西南隅にて屈折し南に向ふ。低濕なる沃地なる爲め農産物少からざるも、工業として全國屈指の毛織物の産地なり。街道郡内を縱横に横切り東部には名古屋市・一宮市・岐阜市を結ぶ国道あり。省線東海道線同く東部を走り、社線名古屋鐵道は一宮市を中心として各方面へ放射狀に走り本郡を通過す。交通至便なり。郡内奥町・起町・稻澤町・萩原町・祖父江町の五町外八箇村を含む。人口密度多くして平均八六三人を算し奥町は最高にて二四三七人にして起町の二三四九人、今伊勢村の二一六三人にして最低は長岡村の三四八人及ぶ。もと木曾川吐口の土砂の漸次堆積地となり、や

【中島(郡)】美濃國(岐阜縣)の舊郡名。笠松輪中の西南部に當り、もと尾張國中島郡の一部なりしが、木曾川河道の變遷により地形上美濃國に屬せしめられた。天正以後之を美濃國に屬せしめ一郡を建て中島郡とし、尾張の中島郡と分つ。明治廿九年羽東郡と合して羽島郡を建つ。【中島】愛知縣碧海郡にありし村。明治三十九年、他の五箇村と共に廢し六ツ美村を置く。【中島郡】愛知縣十八郡の一。尾張國の西北部。濃尾平野の中部を占め、木曾川の左岸に位し、東地郡は一宮市に接す。木曾川沖積地にて地形平坦、中央には日光川の支流數條南流するあり。東南境には庄内川支流南へ流れ、木曾川は西境に沿ひて西南流し西南隅にて屈折し南に向ふ。低濕なる沃地なる爲め農産物少からざるも、工業として全國屈指の毛織物の産地なり。街道郡内を縱横に横切り東部には名古屋市・一宮市・岐阜市を結ぶ国道あり。省線東海道線同く東部を走り、社線名古屋鐵道は一宮市を中心として各方面へ放射狀に走り本郡を通過す。交通至便なり。郡内奥町・起町・稻澤町・萩原町・祖父江町の五町外八箇村を含む。人口密度多くして平均八六三人を算し奥町は最高にて二四三七人にして起町の二三四九人、今伊勢村の二一六三人にして最低は長岡村の三四八人及ぶ。もと木曾川吐口の土砂の漸次堆積地となり、や

【中島(郡)】美濃國(岐阜縣)の舊郡名。笠松輪中の西南部に當り、もと尾張國中島郡の一部なりしが、木曾川河道の變遷により地形上美濃國に屬せしめられた。天正以後之を美濃國に屬せしめ一郡を建て中島郡とし、尾張の中島郡と分つ。明治廿九年羽東郡と合して羽島郡を建つ。【中島】愛知縣碧海郡にありし村。明治三十九年、他の五箇村と共に廢し六ツ美村を置く。【中島郡】愛知縣十八郡の一。尾張國の西北部。濃尾平野の中部を占め、木曾川の左岸に位し、東地郡は一宮市に接す。木曾川沖積地にて地形平坦、中央には日光川の支流數條南流するあり。東南境には庄内川支流南へ流れ、木曾川は西境に沿ひて西南流し西南隅にて屈折し南に向ふ。低濕なる沃地なる爲め農産物少からざるも、工業として全國屈指の毛織物の産地なり。街道郡内を縱横に横切り東部には名古屋市・一宮市・岐阜市を結ぶ国道あり。省線東海道線同く東部を走り、社線名古屋鐵道は一宮市を中心として各方面へ放射狀に走り本郡を通過す。交通至便なり。郡内奥町・起町・稻澤町・萩原町・祖父江町の五町外八箇村を含む。人口密度多くして平均八六三人を算し奥町は最高にて二四三七人にして起町の二三四九人、今伊勢村の二一六三人にして最低は長岡村の三四八人及ぶ。もと木曾川吐口の土砂の漸次堆積地となり、や

【中島(郡)】美濃國(岐阜縣)の舊郡名。笠松輪中の西南部に當り、もと尾張國中島郡の一部なりしが、木曾川河道の變遷により地形上美濃國に屬せしめられた。天正以後之を美濃國に屬せしめ一郡を建て中島郡とし、尾張の中島郡と分つ。明治廿九年羽東郡と合して羽島郡を建つ。【中島】愛知縣碧海郡にありし村。明治三十九年、他の五箇村と共に廢し六ツ美村を置く。【中島郡】愛知縣十八郡の一。尾張國の西北部。濃尾平野の中部を占め、木曾川の左岸に位し、東地郡は一宮市に接す。木曾川沖積地にて地形平坦、中央には日光川の支流數條南流するあり。東南境には庄内川支流南へ流れ、木曾川は西境に沿ひて西南流し西南隅にて屈折し南に向ふ。低濕なる沃地なる爲め農産物少からざるも、工業として全國屈指の毛織物の産地なり。街道郡内を縱横に横切り東部には名古屋市・一宮市・岐阜市を結ぶ国道あり。省線東海道線同く東部を走り、社線名古屋鐵道は一宮市を中心として各方面へ放射狀に走り本郡を通過す。交通至便なり。郡内奥町・起町・稻澤町・萩原町・祖父江町の五町外八箇村を含む。人口密度多くして平均八六三人を算し奥町は最高にて二四三七人にして起町の二三四九人、今伊勢村の二一六三人にして最低は長岡村の三四八人及ぶ。もと木曾川吐口の土砂の漸次堆積地となり、や

【中島(郡)】美濃國(岐阜縣)の舊郡名。笠松輪中の西南部に當り、もと尾張國中島郡の一部なりしが、木曾川河道の變遷により地形上美濃國に屬せしめられた。天正以後之を美濃國に屬せしめ一郡を建て中島郡とし、尾張の中島郡と分つ。明治廿九年羽東郡と合して羽島郡を建つ。【中島】愛知縣碧海郡にありし村。明治三十九年、他の五箇村と共に廢し六ツ美村を置く。【中島郡】愛知縣十八郡の一。尾張國の西北部。濃尾平野の中部を占め、木曾川の左岸に位し、東地郡は一宮市に接す。木曾川沖積地にて地形平坦、中央には日光川の支流數條南流するあり。東南境には庄内川支流南へ流れ、木曾川は西境に沿ひて西南流し西南隅にて屈折し南に向ふ。低濕なる沃地なる爲め農産物少からざるも、工業として全國屈指の毛織物の産地なり。街道郡内を縱横に横切り東部には名古屋市・一宮市・岐阜市を結ぶ国道あり。省線東海道線同く東部を走り、社線名古屋鐵道は一宮市を中心として各方面へ放射狀に走り本郡を通過す。交通至便なり。郡内奥町・起町・稻澤町・萩原町・祖父江町の五町外八箇村を含む。人口密度多くして平均八六三人を算し奥町は最高にて二四三七人にして起町の二三四九人、今伊勢村の二一六三人にして最低は長岡村の三四八人及ぶ。もと木曾川吐口の土砂の漸次堆積地となり、や

ナカシマ 中島

【中島村】埼玉縣武藏國北埼玉郡の中部北偏。羽生町の東方にて間に手子林村の一部を挟み、面積僅に二・四四方軒の小村なり。全村平地にて古利根川の一流流れ水田・畑地をなし米・麥を産す。縣道羽生町に通じ自動車の便あり。

【中島(郡)】美濃國(岐阜縣)の舊郡名。笠松輪中の西南部に當り、もと尾張國中島郡の一部なりしが、木曾川河道の變遷により地形上美濃國に屬せしめられた。天正以後之を美濃國に屬せしめ一郡を建て中島郡とし、尾張の中島郡と分つ。明治廿九年羽東郡と合して羽島郡を建つ。【中島】愛知縣碧海郡にありし村。明治三十九年、他の五箇村と共に廢し六ツ美村を置く。【中島郡】愛知縣十八郡の一。尾張國の西北部。濃尾平野の中部を占め、木曾川の左岸に位し、東地郡は一宮市に接す。木曾川沖積地にて地形平坦、中央には日光川の支流數條南流するあり。東南境には庄内川支流南へ流れ、木曾川は西境に沿ひて西南流し西南隅にて屈折し南に向ふ。低濕なる沃地なる爲め農産物少からざるも、工業として全國屈指の毛織物の産地なり。街道郡内を縱横に横切り東部には名古屋市・一宮市・岐阜市を結ぶ国道あり。省線東海道線同く東部を走り、社線名古屋鐵道は一宮市を中心として各方面へ放射狀に走り本郡を通過す。交通至便なり。郡内奥町・起町・稻澤町・萩原町・祖父江町の五町外八箇村を含む。人口密度多くして平均八六三人を算し奥町は最高にて二四三七人にして起町の二三四九人、今伊勢村の二一六三人にして最低は長岡村の三四八人及ぶ。もと木曾川吐口の土砂の漸次堆積地となり、や

【中島(郡)】美濃國(岐阜縣)の舊郡名。笠松輪中の西南部に當り、もと尾張國中島郡の一部なりしが、木曾川河道の變遷により地形上美濃國に屬せしめられた。天正以後之を美濃國に屬せしめ一郡を建て中島郡とし、尾張の中島郡と分つ。明治廿九年羽東郡と合して羽島郡を建つ。【中島】愛知縣碧海郡にありし村。明治三十九年、他の五箇村と共に廢し六ツ美村を置く。【中島郡】愛知縣十八郡の一。尾張國の西北部。濃尾平野の中部を占め、木曾川の左岸に位し、東地郡は一宮市に接す。木曾川沖積地にて地形平坦、中央には日光川の支流數條南流するあり。東南境には庄内川支流南へ流れ、木曾川は西境に沿ひて西南流し西南隅にて屈折し南に向ふ。低濕なる沃地なる爲め農産物少からざるも、工業として全國屈指の毛織物の産地なり。街道郡内を縱横に横切り東部には名古屋市・一宮市・岐阜市を結ぶ国道あり。省線東海道線同く東部を走り、社線名古屋鐵道は一宮市を中心として各方面へ放射狀に走り本郡を通過す。交通至便なり。郡内奥町・起町・稻澤町・萩原町・祖父江町の五町外八箇村を含む。人口密度多くして平均八六三人を算し奥町は最高にて二四三七人にして起町の二三四九人、今伊勢村の二一六三人にして最低は長岡村の三四八人及ぶ。もと木曾川吐口の土砂の漸次堆積地となり、や

【中島(郡)】美濃國(岐阜縣)の舊郡名。笠松輪中の西南部に當り、もと尾張國中島郡の一部なりしが、木曾川河道の變遷により地形上美濃國に屬せしめられた。天正以後之を美濃國に屬せしめ一郡を建て中島郡とし、尾張の中島郡と分つ。明治廿九年羽東郡と合して羽島郡を建つ。【中島】愛知縣碧海郡にありし村。明治三十九年、他の五箇村と共に廢し六ツ美村を置く。【中島郡】愛知縣十八郡の一。尾張國の西北部。濃尾平野の中部を占め、木曾川の左岸に位し、東地郡は一宮市に接す。木曾川沖積地にて地形平坦、中央には日光川の支流數條南流するあり。東南境には庄内川支流南へ流れ、木曾川は西境に沿ひて西南流し西南隅にて屈折し南に向ふ。低濕なる沃地なる爲め農産物少からざるも、工業として全國屈指の毛織物の産地なり。街道郡内を縱横に横切り東部には名古屋市・一宮市・岐阜市を結ぶ国道あり。省線東海道線同く東部を走り、社線名古屋鐵道は一宮市を中心として各方面へ放射狀に走り本郡を通過す。交通至便なり。郡内奥町・起町・稻澤町・萩原町・祖父江町の五町外八箇村を含む。人口密度多くして平均八六三人を算し奥町は最高にて二四三七人にして起町の二三四九人、今伊勢村の二一六三人にして最低は長岡村の三四八人及ぶ。もと木曾川吐口の土砂の漸次堆積地となり、や

ナカシ—ナカス

斜地には耕種類を栽培し、東南海岸の砂... ナカシヨ—中庄村

ナカシヨ—中庄

【中庄村】石川縣能登郡羽咋郡の南部... 【中庄村】奈良縣大和郡吉野郡の北部

ナカシヨ—中條

【中條町】新潟縣越後國北蒲原郡の北部... 【中洲村】滋賀縣近江國野洲郡の西北部

四三六

の據守せる島坂城これとす。【中條村】新潟縣越後國中魚沼郡の北部... 【中知床半島】

ナカシヨ—中知床

【中知床半島】単に知床半島とも呼ぶ... 【中洲】

ナカシヨ—中須村

【中須村】山口縣阿國郡都波郡の東部... 【中洲】

ナカス—中須村

【中須村】山口縣阿國郡都波郡の東部... 【中洲】

ナカス—中須村

【中須村】山口縣阿國郡都波郡の東部... 【中洲】

ナカス—ナカス

上諏訪町の南に隣る。諏訪平の中部を占め、土地平坦肥沃、西南境を宮川西北流し... 【中洲村】

ナカス—長洲

【長洲町】熊本縣肥後國玉名郡の西部... 【長洲】

ナカス—長柄

【長柄】筑後國(福岡縣)の古地名... 【長洲】

四三五

ナカス 長須村

美城縣下總國發鳥郡の南部。岩井町の西隣にて利根川の北岸に位置す。全村平地にて北境より東境にかけて鶴戸沼あり。南部はそれに續く沼地をなす。農業を主とし米・麥・粟・雜穀を主産し、特産物に蕎麥ありて年産數萬圓あり。岩井町に村道を通じ、利根川は水運の便あり。延喜式に下總國長洲馬牧とあるはこの地なるべし。「阿彌陀寺」眞宗大谷派。屈折山と號し、惠鑽の開基なり。その宗派は三論・天台を經、十四世安了の親鸞に歸依せるより現宗に改めらる。

ナカスガヤ 中菅谷

水郡線の一駅（昭和十年設置）。茨城縣那珂郡菅谷村にあり。

ナカスジ 中條村

水郡線の中條村。鳥根縣霞岨町吉野後部の中央。西郷町の西北に隣り、海に接せざる内陸村をなす。面積三九・五三平方軒の大村。北境に鳥後の高峰なる大湯寺山（六〇八米）・葛尾山（五九八米）・時張山（五二二米）の山嶺連り、西境にも横尾山（五七三米）あり、山地の水は集りて八尾川となり東南に流れ西郷湖に注ぐ。八尾川流域には、耕地よく開け、米・雜穀の外に用材・木炭を出し、縣立農事試験場あり。街道は八尾川に沿うて通じ西郷町に達す。この地は和名抄周吉郡新野郷の内なり。村内に隱岐判官清政の少松の故城及び國分寺あり。（國分寺）大字池田にあり。眞言宗東寺派。

ナカスジ 中筋村

京都市右京区にありし村。昭和十一年舞鶴市に編入す。

中筋村

京都府丹波國何鹿郡の西南隅。山良川の南岸に沿ひ東は綾部町に隣り、西は福知山市との間に天田郡西中筋村を隔つ。面積一四平方軒餘。南境には高嶽（四一六米）の山嶺ありて北方へ緩傾斜し概ね山地をなす。たゞ北境を西流する山良川の南岸に狭長なる低地あり、米・麥を産し養蠶行はれ、山地よりは薪炭を出す。縣道北部を東西に走り、綾部町と西方福知山市を結び、また京都を南に下りて南隣の天田郡上六人部村に出づるものあり。省線山陰本線の綾部驛・石原驛（西中筋村）にも遠からず。「八幡宮」大字高津に鎮座。府社。主祭神、應神天皇。配祀神、仲哀天皇外三神。元慶五年、國守橋良基の勳を奉じて創建するところと云ひ、石清水八幡宮の別宮たり。明應九年安上、翌文龜元年再建せる。室町時代以降、武人の崇敬厚く、福知山領主有馬氏はその一人なり。寛文十年綾部に封ぜられし九鬼隆季また社領・什器を寄せ社殿を修造す。嘉永五年造替の事あり、現社殿これなり。例祭、十月十五日。

ナカス 中野村

豊前國中津郡の南端にあり。面積約九・四平方軒。東部には高度一三四米の山地南北に連るも中部以西は伊賀盆地の一部を占め、地形平坦にして伊賀川の上支那用東岡田山村より東部の山地を切り、中央を西に貫流し、田畑よく拓く。農業を主産とし米・麥の産多し南部には桑園多く、養蠶行はれて繭を出し近時は野菜栽培盛に行はれ、特産物に筍・石材あり。伊賀街道は中央を横断してパスを通じ、西隣上野町には社線參宮急行電鐵伊賀線通じ交通不便ならず。地に國分寺址あり。古くは文化の中心地たり。和名抄の阿拜郡那賀郷内に屬し服線部の居住せし處と云ふ。大字荒木は劍客荒木又右衛門の生地なりと傳ふ。須智荒木神社。大字荒木に鎮座。村社。祭神、猿田彦命・武内宿禰・葛城襲津彦。相殿神として大鷲鷲命等十四柱。式内社。もと朱智明神・白鷲大明神と稱す。伊賀五社の一として鎮主藤堂氏の崇敬篤し、例祭、十一月二十日。伊賀國分寺址。指定史蹟。西明寺長者屋敷にあり。女生街道の南側に沿ひ、山林中に上壇・礎石等遺存し、且つ方形の土壘が周圍に存し、遺瓦を出す。「長樂山慶寺」指定史蹟。國分寺址の東方、西明寺長樂山にあり。女生街道の南側に沿ひ、山林中に土

ナカス 中野村

を渡つて群馬縣に入り、伊勢崎町方面に通ず。利根川の北流の便もあり。【中野村】三重縣伊賀國阿山郡の中央南部。上野町の東、山田村の西に隣る。面積約九・四平方軒。東部には高度一三四米の山地南北に連るも中部以西は伊賀盆地の一部を占め、地形平坦にして伊賀川の上支那用東岡田山村より東部の山地を切り、中央を西に貫流し、田畑よく拓く。農業を主産とし米・麥の産多し南部には桑園多く、養蠶行はれて繭を出し近時は野菜栽培盛に行はれ、特産物に筍・石材あり。伊賀街道は中央を横断してパスを通じ、西隣上野町には社線參宮急行電鐵伊賀線通じ交通不便ならず。地に國分寺址あり。古くは文化の中心地たり。和名抄の阿拜郡那賀郷内に屬し服線部の居住せし處と云ふ。大字荒木は劍客荒木又右衛門の生地なりと傳ふ。須智荒木神社。大字荒木に鎮座。村社。祭神、猿田彦命・武内宿禰・葛城襲津彦。相殿神として大鷲鷲命等十四柱。式内社。もと朱智明神・白鷲大明神と稱す。伊賀五社の一として鎮主藤堂氏の崇敬篤し、例祭、十一月二十日。伊賀國分寺址。指定史蹟。西明寺長者屋敷にあり。女生街道の南側に沿ひ、山林中に上壇・礎石等遺存し、且つ方形の土壘が周圍に存し、遺瓦を出す。「長樂山慶寺」指定史蹟。國分寺址の東方、西明寺長樂山にあり。女生街道の南側に沿ひ、山林中に土

ナカス 中野村

を渡つて群馬縣に入り、伊勢崎町方面に通ず。利根川の北流の便もあり。【中野村】三重縣伊賀國阿山郡の中央南部。上野町の東、山田村の西に隣る。面積約九・四平方軒。東部には高度一三四米の山地南北に連るも中部以西は伊賀盆地の一部を占め、地形平坦にして伊賀川の上支那用東岡田山村より東部の山地を切り、中央を西に貫流し、田畑よく拓く。農業を主産とし米・麥の産多し南部には桑園多く、養蠶行はれて繭を出し近時は野菜栽培盛に行はれ、特産物に筍・石材あり。伊賀街道は中央を横断してパスを通じ、西隣上野町には社線參宮急行電鐵伊賀線通じ交通不便ならず。地に國分寺址あり。古くは文化の中心地たり。和名抄の阿拜郡那賀郷内に屬し服線部の居住せし處と云ふ。大字荒木は劍客荒木又右衛門の生地なりと傳ふ。須智荒木神社。大字荒木に鎮座。村社。祭神、猿田彦命・武内宿禰・葛城襲津彦。相殿神として大鷲鷲命等十四柱。式内社。もと朱智明神・白鷲大明神と稱す。伊賀五社の一として鎮主藤堂氏の崇敬篤し、例祭、十一月二十日。伊賀國分寺址。指定史蹟。西明寺長者屋敷にあり。女生街道の南側に沿ひ、山林中に上壇・礎石等遺存し、且つ方形の土壘が周圍に存し、遺瓦を出す。「長樂山慶寺」指定史蹟。國分寺址の東方、西明寺長樂山にあり。女生街道の南側に沿ひ、山林中に土

ナカス 中野村

を渡つて群馬縣に入り、伊勢崎町方面に通ず。利根川の北流の便もあり。【中野村】三重縣伊賀國阿山郡の中央南部。上野町の東、山田村の西に隣る。面積約九・四平方軒。東部には高度一三四米の山地南北に連るも中部以西は伊賀盆地の一部を占め、地形平坦にして伊賀川の上支那用東岡田山村より東部の山地を切り、中央を西に貫流し、田畑よく拓く。農業を主産とし米・麥の産多し南部には桑園多く、養蠶行はれて繭を出し近時は野菜栽培盛に行はれ、特産物に筍・石材あり。伊賀街道は中央を横断してパスを通じ、西隣上野町には社線參宮急行電鐵伊賀線通じ交通不便ならず。地に國分寺址あり。古くは文化の中心地たり。和名抄の阿拜郡那賀郷内に屬し服線部の居住せし處と云ふ。大字荒木は劍客荒木又右衛門の生地なりと傳ふ。須智荒木神社。大字荒木に鎮座。村社。祭神、猿田彦命・武内宿禰・葛城襲津彦。相殿神として大鷲鷲命等十四柱。式内社。もと朱智明神・白鷲大明神と稱す。伊賀五社の一として鎮主藤堂氏の崇敬篤し、例祭、十一月二十日。伊賀國分寺址。指定史蹟。西明寺長者屋敷にあり。女生街道の南側に沿ひ、山林中に上壇・礎石等遺存し、且つ方形の土壘が周圍に存し、遺瓦を出す。「長樂山慶寺」指定史蹟。國分寺址の東方、西明寺長樂山にあり。女生街道の南側に沿ひ、山林中に土

ナカス 長須村

兵庫縣但馬國城崎郡の東部。豊岡町の南方約二軒に位し東は出石郡に界す。南部に小丘陵ある外は平野にして豊岡盆地の一部を占む。岡山川は西部を村境に近く北流し、北部にて東南方より來たる出石川を合す。米・麥・粟・蔬菜・花卉・食用農産・大豆・果實・小麥・裸麥等の農産を産し、外に養蠶あり。東北部に豊岡町と東南方出石郡出石町とを結ぶ縣道通じ、南部には東西に走る道路あり。省線山陰本線豊岡驛へは北方約三軒を隔つ。この地は和名抄、氣多郡賀陽郷に當り、大字加陽は郷名の遺稱とす。「東樂寺」大字清冷寺にあり。古義眞言宗。高野末。奉安の四天王立像。木造。四軀は、寺傳に源信作とすも藤原末期の作に係る。

ナカスガヤ 中菅谷

水郡線の一駅（昭和十年設置）。茨城縣那珂郡菅谷村にあり。

ナカスジ 中條村

水郡線の中條村。鳥根縣霞岨町吉野後部の中央。西郷町の西北に隣り、海に接せざる内陸村をなす。面積三九・五三平方軒の大村。北境に鳥後の高峰なる大湯寺山（六〇八米）・葛尾山（五九八米）・時張山（五二二米）の山嶺連り、西境にも横尾山（五七三米）あり、山地の水は集りて八尾川となり東南に流れ西郷湖に注ぐ。八尾川流域には、耕地よく開け、米・雜穀の外に用材・木炭を出し、縣立農事試験場あり。街道は八尾川に沿うて通じ西郷町に達す。この地は和名抄周吉郡新野郷の内なり。村内に隱岐判官清政の少松の故城及び國分寺あり。（國分寺）大字池田にあり。眞言宗東寺派。

ナカス 中野村

豊前國中津郡の南端にあり。面積約九・四平方軒。東部には高度一三四米の山地南北に連るも中部以西は伊賀盆地の一部を占め、地形平坦にして伊賀川の上支那用東岡田山村より東部の山地を切り、中央を西に貫流し、田畑よく拓く。農業を主産とし米・麥の産多し南部には桑園多く、養蠶行はれて繭を出し近時は野菜栽培盛に行はれ、特産物に筍・石材あり。伊賀街道は中央を横断してパスを通じ、西隣上野町には社線參宮急行電鐵伊賀線通じ交通不便ならず。地に國分寺址あり。古くは文化の中心地たり。和名抄の阿拜郡那賀郷内に屬し服線部の居住せし處と云ふ。大字荒木は劍客荒木又右衛門の生地なりと傳ふ。須智荒木神社。大字荒木に鎮座。村社。祭神、猿田彦命・武内宿禰・葛城襲津彦。相殿神として大鷲鷲命等十四柱。式内社。もと朱智明神・白鷲大明神と稱す。伊賀五社の一として鎮主藤堂氏の崇敬篤し、例祭、十一月二十日。伊賀國分寺址。指定史蹟。西明寺長者屋敷にあり。女生街道の南側に沿ひ、山林中に上壇・礎石等遺存し、且つ方形の土壘が周圍に存し、遺瓦を出す。「長樂山慶寺」指定史蹟。國分寺址の東方、西明寺長樂山にあり。女生街道の南側に沿ひ、山林中に土

ナカセ 長瀬

福島縣耶麻郡にあり、猪苗代湖に注ぐ最大の河。吾妻火山群及び楡原峠の南麓に發源し、水は一處、楡原・小野川・吾妻の堰塞湖に入り、ついで安達太良山に發する酸川を穿れ、下流に泥濘原を造り、猪苗代町の南に於てデルタを形成して湖に入る。流域約三五軒。沿岸に用上・中ノ澤等の温泉湧出す。この谿谷は明治二十一年猪苗代町の爆發により前記の三湖を生成したるものとす。

ナカセ 長瀬

福島縣耶麻郡の東南部。猪苗代町の東に隣り、東南は安達郡に隣接す。東境に北より一ノ野山（一〇七三米）用折山（一四一三米）ありて階層崖をなして西方に傾斜し、村の西部は平坦な

ナカス 長須村

筋川の上流地方を占む。概ね山地に蔽はれ北は大塔山（三八三米）を以て大川筋村に界し、東は東中筋村、南は見ヶ森（四五四米）にて平田・三原二村に界す。面積二一・五六平方軒。北境・南境に於て高き山地は漸次中央に傾斜し、中央の中筋川流域に東西に亘る平地あり。耕地拓く。米・麥・粟・木村を産す。北部山中に林用軌道あり。中央部を縣道二線通じ、パスの便あり。

ナカスガヤ 中菅谷

水郡線の一駅（昭和十年設置）。茨城縣那珂郡菅谷村にあり。

ナカスジ 中條村

水郡線の中條村。鳥根縣霞岨町吉野後部の中央。西郷町の西北に隣り、海に接せざる内陸村をなす。面積三九・五三平方軒の大村。北境に鳥後の高峰なる大湯寺山（六〇八米）・葛尾山（五九八米）・時張山（五二二米）の山嶺連り、西境にも横尾山（五七三米）あり、山地の水は集りて八尾川となり東南に流れ西郷湖に注ぐ。八尾川流域には、耕地よく開け、米・雜穀の外に用材・木炭を出し、縣立農事試験場あり。街道は八尾川に沿うて通じ西郷町に達す。この地は和名抄周吉郡新野郷の内なり。村内に隱岐判官清政の少松の故城及び國分寺あり。（國分寺）大字池田にあり。眞言宗東寺派。

ナカス 中野村

豊前國中津郡の南端にあり。面積約九・四平方軒。東部には高度一三四米の山地南北に連るも中部以西は伊賀盆地の一部を占め、地形平坦にして伊賀川の上支那用東岡田山村より東部の山地を切り、中央を西に貫流し、田畑よく拓く。農業を主産とし米・麥の産多し南部には桑園多く、養蠶行はれて繭を出し近時は野菜栽培盛に行はれ、特産物に筍・石材あり。伊賀街道は中央を横断してパスを通じ、西隣上野町には社線參宮急行電鐵伊賀線通じ交通不便ならず。地に國分寺址あり。古くは文化の中心地たり。和名抄の阿拜郡那賀郷内に屬し服線部の居住せし處と云ふ。大字荒木は劍客荒木又右衛門の生地なりと傳ふ。須智荒木神社。大字荒木に鎮座。村社。祭神、猿田彦命・武内宿禰・葛城襲津彦。相殿神として大鷲鷲命等十四柱。式内社。もと朱智明神・白鷲大明神と稱す。伊賀五社の一として鎮主藤堂氏の崇敬篤し、例祭、十一月二十日。伊賀國分寺址。指定史蹟。西明寺長者屋敷にあり。女生街道の南側に沿ひ、山林中に上壇・礎石等遺存し、且つ方形の土壘が周圍に存し、遺瓦を出す。「長樂山慶寺」指定史蹟。國分寺址の東方、西明寺長樂山にあり。女生街道の南側に沿ひ、山林中に土

ナカセ 長瀬

福島縣耶麻郡にあり、猪苗代湖に注ぐ最大の河。吾妻火山群及び楡原峠の南麓に發源し、水は一處、楡原・小野川・吾妻の堰塞湖に入り、ついで安達太良山に發する酸川を穿れ、下流に泥濘原を造り、猪苗代町の南に於てデルタを形成して湖に入る。流域約三五軒。沿岸に用上・中ノ澤等の温泉湧出す。この谿谷は明治二十一年猪苗代町の爆發により前記の三湖を生成したるものとす。

ナカセ 長瀬

福島縣耶麻郡の東南部。猪苗代町の東に隣り、東南は安達郡に隣接す。東境に北より一ノ野山（一〇七三米）用折山（一四一三米）ありて階層崖をなして西方に傾斜し、村の西部は平坦な

三十九年、外一町四村と共に廢され、その地を以て新たに矢作町を置く。

【長瀬】 伊勢國(三重縣)の古地名。和名抄に鈴鹿郡長瀬郷あり、奈加世と訓ず。其地は今の鈴鹿郡深伊澤村・椿村の邊なるべし。

【長瀬】 大阪府中河内郡にありし村。昭和十二年布施市に編入す。

【長瀬堤】 河内國(大阪府)を西北流して淀川に入る舊大和川の一部を、また長瀬川ともいふ。江戸時代寶永年間、大和川を攝津・和泉の堺より海に入らしめし後もなほ小流残る。これを堰川または長瀬川ともいふ。往昔、長瀬川の堤防屢々決潰溢せしこと史に見ゆ。一例は淳仁天皇の天平寶字六年六月長瀬堤決潰し、軍功二萬餘人を發してこれを治めしこと續日本紀に見ゆ。

【長瀬村】 鳥取縣伯耆國東伯耆郡の北部。東郷池の西北にあり、東は橋津村に南は花見・日下・上北條三村に、西は天神川を隔て、中北條村に界し、北は日本海に臨む。面積六方軒餘。東郷池及び天神川口右岸の沖積地の大部分を占め、村内は低平にして水田廣く發達し、米作その他の農作物多し。海岸の砂濱地は桑畑及び果實畑に拓かれて特に長十郎梨の名産あり。養蠶業盛にして製糸業行はる。この外牧羊を營みまた水産業も盛なり。国道山陰街道は東北部より来て西南方に走り河内にて西走し、そのより南に縣道を通る。

す。省線山陰本線は日下村を通過し上井驛まで約五軒、バスを通ず。

【中仙道】 江戸時代、江戸を中心として東西の重要地點に至る五街道を定む。中仙道は其一なり。即ち京都江戸を結ぶ大道にして東海、北陸兩道の中間の山道なるため一に中山道とも書き、木曾の山中を通ずるを以てまた木曾路ともいふ。江戸の日本橋を起點として、關東平野を北に進み、碓氷峠を越えて信濃に入り、北國街道と通分けて分れ、西に進みて和田峠を越え、諏訪盆地の北部を掠めて松本平に入り、鳥居峠を経て木曾谷を通り美濃に入り岐阜の南なる加納を通り、關ヶ原を経て近江國に入り、草津に至りて東海道に合す。其間に驛を置くこと約六十八、里程約百三十四里。此間、木曾谷の福島

中仙道(木曾路)六十九次	宿驛	現在地名
1	日本橋	東京市日本橋區
2	板橋	同 板橋區
3	蕨	埼玉縣蕨市
4	浦和	同 浦和市
5	大宮	同 北足立郡大宮町
6	上尾	同 上尾町
7	桶川	同 桶川町
8	鴻巣	同 鴻巣
9	熊谷	同 熊谷市
10	深谷	同 大里郡深谷町

11	本庄	埼玉縣児玉郡本庄町
12	新町	群馬縣上野郡多野郡新町
13	倉賀野	同 群馬郡倉賀野町
14	高崎	同 高崎
15	板鼻	同 碓氷郡板鼻町
16	安中	同 安中町
17	松井田	同 松井田町
18	本郷	同 坂本町
19	長井	同 長野縣信濃國北佐久郡長井
20	香掛	同 同
21	追分	同 同
22	小田井	同 西長倉村
23	岩村田	同 御代田村
24	鹽田	同 岩村田町
25	八幡	同 中津村
26	望月	同 南御牧村
27	菅田	同 本牧村
28	長窪	同 菅田村
29	和田	同 小縣郡長久保新町
30	諏訪	同 和田村
31	鹽尻	同 諏訪郡下諏訪町
32	洗馬	同 東筑摩郡鹽尻町
33	本山	同 洗馬村
34	費川	同 宗資村
35	奈良井	同 西筑摩郡檢川村
36	八五原	同 同
37	宮ノ越	同 木祖村
38	鳥島	同 日義村
39	松本	同 同
40	須原	同 上松町
41	野尻	同 大桑村

42	三戸野	長野縣西筑摩郡三戸野
43	妻籠	同 同
44	馬籠	同 同
45	碓氷	同 碓氷郡碓氷村
46	中津川	同 岐阜縣美濃國惠那郡落合村
47	大井	同 大井町
48	大久手	同 土岐郡釜戸町
49	細久手	同 同
50	三猿	同 同
51	伏見	同 可兒郡御嵩村
52	太田	同 伏見村
53	加太	同 加茂郡太田町
54	加納	同 加納町
55	合渡	同 本巢郡合渡村
56	御影寺	同 船木村
57	赤坂	同 不破郡赤坂町
58	重井	同 重井町
59	關ヶ原	同 關ヶ原町
60	今須	同 今須村
61	原	同 滋賀縣近江國坂田郡原村
62	醍ヶ井	同 醍ヶ井村
63	香場	同 同
64	鳥井本	同 鳥井本村
65	高宮	同 大上郡高宮町
66	愛知川	同 愛知郡愛知川町
67	武佐	同 蒲生郡武佐村
68	守山	同 野州郡守山町
69	草津	同 栗田郡草津町

越中大門驛及び西國郡戸出町へバスの便あり。古くは和名抄、彌波郡小野郷の内なるべく、中世に鞍馬野庄に属せり。町の東南一帯の平野を梅嶺野と汎稱す。壽永二年木曾義仲の將今井兼平は平氏の軍を破り、のち天文十四年には上杉謙信の父爲景は越中を略せんとして神保氏等の爲計にかかり殺されし所なり。

あれど、ほほ七、八軒に一軒を置きて駄馬を次げり。各驛の旅舎には本陣・脇本陣などの格式ありて、参勤交代の際の諸侯方の宿泊に充てたり。※東山道

ナカリネ 中曾根村

愛媛縣伊豫國宇摩郡の北部。三島町の南に接す。東は松粕村、西は中立庄村に接す。面積七・〇五方軒。南境を東西に連互する四國山脈の分脈あり、村内の南半部は其の北斜面に屬し、北部に平野展げ、耕地存す。米・蕎麥を産すれども少額なり。

ナカゾネ 中坪村

宮城縣陸前國遠田郡の西部。田尻町の南に接す。陸前平野の略中央にあり、江合川は南境を東流し、全村概ね平坦なり。米・蕎麥を産す。道路は村の北部より南東部に通じ、南方の東北本線小牛田驛へはバスの便あり。この地は和名抄、遠田郡清水郷の内なるべし。

ナカタ 中田

【中田村】 宮城縣陸前國名取郡の東部。仙台市の南に隣り、南は増田町、東南は關上町に接し仙臺平野の中央部にあり。土地概ね平坦。名取川は北部を東流す。米・蕎麥を産す。陸羽街道は西部を南北に通ず。東北本線陸前中田驛、大正十三年設置あり。この地は舊奥州街道の中田宿もありし所なり。

ナカソ——ナカタ

【中田村】 熊本縣肥後國天草郡天草下島の東海岸。面積六・五六方軒の小村。概ね高地をなし、西境に高さ二百餘米の大

ナカタ 名方
【名方(郡)】 阿波國(徳島縣)の古郡名。國の東北部にあり。凡そ鮎喰川の流域を占む。名稱は詭詐明神なる健甕名方宮命の名方より起れりといふ。續紀、神護景雲元年三月の條に郡名初めて見ゆ。寛平八年分けて名東・名西二郡とす。※名東郡・名西郡

ナカタ 中田

【中田町】 富山縣越中東礪波郡の東北部。庄川の右岸に沿ふ。高岡市の南方約五軒。北は射水郡に界す。土地概ね平坦にして水田に富むも、西境庄川沿岸には砂土多く耕作に適せざる部分多少あり。農業は米を主産とする外、町は工業盛にして賣薬の産多額に及び、次いで和紙・清酒・麻織物・植物油等の工場多し。町を縦横に縣道貫通し、省線北陸本線

【中田村】 兵庫縣淡路國津名郡の中部。東は大阪灣との間に志筑町ありて内陸村たり。百乃至二百米の丘陵性山地連り、東部溪流沿ひに僅に低地あり。耕地はよく開け米・蕎麥・稗・小麦・蕪の外に蔬菜及び花卉・果實・果樹苗等を産し、副業に薬製品・養蠶等盛に行はる。縣道は中部をほぼ東西に通じ西方の郡家町及

ナカタ 長田

【長田】 陸奥國(岩代國、福島縣)の古地名。和名抄に白河郡長田郷あり、今の石川郡石川町・中谷村の邊に當る。

その地今の吾妻郡名久田村・伊參村・高山村の邊に當る。

【長田(郡)】 遠江國(靜岡縣)の古郡名。建郡の時期は未詳。續紀和銅三年に郡名見え、後これを長田上・長田下の二郡に分けしが、同六年の勅によりて田の字を省きて二字とし、長上・長下となす。※長上(郡)・長下(郡)。

【長田】 遠江國(靜岡縣)の古地名。和名抄に長上郡長田郷あり、奈加多と訓す。地は今の濱名郡和田村の邊に當る。

【長田村】 三重縣伊賀國阿山郡の西部。北境を西流する伊賀川の南岸に沿ひ、東は支流長田川を境に城南村・小田村に隣りその東の上野町と隔たる。面積一〇方軒餘。大部分は二三百米の山地にて中部東西に巾狭き谷地を挟み、東部は上野盆地の西北部に當り、長田川沿岸の地に沃野開け乾田多し。米・蕎麥等の農産を主とし外に工業・畜産・林産等あり。上野町より西方京都府相樂郡木津町方面への縣道中央を貫きバスを通ず。上野航空燈臺あり、燈質白熱電燈閃白光、燭光一〇〇萬燭光、光達距離は晴天の暗夜約五〇軒。この地は和名抄、伊賀郡長田郷の内なり。もと長田莊と稱す。天正十一年、織田信雄・羽柴秀吉と隙を生ずるや、秀吉の將藤坂安治伊賀に侵入して上野城に瀧川一益を襲うに走らして此地に陣す。

【長田村】 和歌山縣紀伊國那賀郡の北部。紀ノ川北岸に沿ひ東は粉河町に接す。南北に細長く、面積七方軒餘。北半は和泉山脈の南斜面の山地、南半は紀ノ川流域の平野を占め土地肥沃・水利よく田畑よく折けて米の産多し。柑橘をも出す。大和街道東西に走り其北にも縣道並行して東は粉河町、西は岩出町方面へバスを通じ交通便なり。中世は長田莊といふ。

て源義經の參拜祈願することあり、江戸時代には藩主徳田家の崇敬厚し。古來長田郷の總社たり。例祭、十月二十八日。

【西蓮寺】 大字長田にあり。天台宗眞盛派。眞盛一派の廟所にして現に本山西教寺三末頭の一。もと傳教大師の草創にして觀音寺と稱せしが、明應元年派祖眞盛來錫して、伽藍を再興して自ら開基となる。境内には後土御門天皇の寶塔、眞盛(當寺に入寂)の墓塔を遺す。寺寶中、絹本着色藤堂高虎畫像(天海贊)は國寶。

【長田】 攝津國(兵庫縣)の古地名。書紀神功皇后に「事代主尊壽之曰、爾子御心長田國、云々」と見ゆ。長田國とはいま神戸市林田區の地名に長田あり。或はこの邊を稱せしものならん。和名抄、八部郡長田郷は此地なるべし。式内長田神社鎮座す。

【長田】 播磨國(兵庫縣)の古地名。和名抄に賀古郡長田郷あり、奈加太と訓す。その地今の加古郡尾上村の邊なるべし。尾上の大字長田は郷の遺稱なるべし。

【長田村】 和歌山縣紀伊國那賀郡の北部。紀ノ川北岸に沿ひ東は粉河町に接す。南北に細長く、面積七方軒餘。北半は和泉山脈の南斜面の山地、南半は紀ノ川流域の平野を占め土地肥沃・水利よく田畑よく折けて米の産多し。柑橘をも出す。大和街道東西に走り其北にも縣道並行して東は粉河町、西は岩出町方面へバスを通じ交通便なり。中世は長田莊といふ。

ナガタケ

の老人を祭主として祀れりと傳ふ。

【ナガタケ】 長竹。神奈川縣津久井郡にありし村。明治四十二年に外二村と共に合併して串川村を建つ。

ナカタケノ

長竹野村。兵庫縣但馬國城崎郡の北部。城崎町の西に隣り北は約一軒にて日本海岸に出づ。東西兩境は約四五百米の山脈にて限られ、東境中央に來日岳(五六七米)峙つ。中央に竹野川北方へ貫流し沿岸に低地開く。農産物を主とし、米・蕎麥・大豆・裸麥・小麦・食用農産・蔬菜・花卉・果實等を産し、外に鶏卵・兎肉等あり。東北部には縣道通じ省線山陰本線北部を走り北境に竹野驛(明治十四年設置)あり。古くは和名抄、美含郡竹野郷の内なり。「竹野山」中竹野村及び竹野村にある金銀山にして鑛區は三より成る。(一)中竹野・竹野の兩村に跨り鑛區約三十二萬坪、重要鑛山に指定せらる。(二)中竹野村の地籍にあり、鑛區二萬二千六百坪。(三)中竹野村の地籍にあり、鑛區二萬二千六百八十坪にして、後二者は(一)と合併施置せらる。昭和十年には金銀鑛二八一五噸を産し、製鍊は佐賀關製鍊所にて行はる。大正十年の發見にて昭和十年六月末には鑛夫五十人を使用し、現在日本鑛業會社の經營に屬す。「金原鑛山」中竹野村及び奥竹野村に跨る金銀山、鑛區二十八萬九千九百坪、昭和十年の產額は金八四四瓦、銀六四瓦とす。鑛山名は中竹

ナカタ

野村大字金原に因む。

ナカタチ

煤島。東京府小笠原支監管内野島列島の一。野島の東南約五軒、南方約一三軒に煤島あり。島内には屏風山(一五五米)・劍山等の群山重疊し、四周は懸崖絶壁を繞らす。たゞ西南岸に小舟を入るゝに足る袋港あり。曾てはその灣頭に滑龍の小部落形成せられ、天日製鹽の試みられしことありしも、現在は無人島なり。屏風山の東南なる巔平は海蝕臺地に於て平曠なるも、海風強く僅に矮樹・蔓草繁殖するのみにて、信天翁の群棲地たり。

ナカタド

仲多度郡。香川縣二市七郡の一。讃岐國の西部に位し、九龜市の南にあり。北及び東は綾歌郡に、南は徳島縣に接し、西は三豊郡に界し、西北は瀬戸内海に面す。西北より東南に狭長にして面積一九四・四七方軒。南部には讃岐山脈東西に走り六七八〇米の山峯連互して南半は高峻なる山地より成り、その山地中央を東西に切つて溪流西に出でて三豊郡に入り、財田川となりて内海に注ぐ。中央部に近き東部山間には名高き瀧池あり。北半の西境附近には大麻・琴平・我拜師・火上・八國山等の諸山連互し、それ等の山腹東及び北方に延び、その裾に低平なる丸龜平野ひらけ、金倉川・を緩流して北にゆき丸龜市の西方より内海に注ぐ。平野中央に如意山(一五八米)の小丘ある外は、全く平坦にし

ナカタニ

中谷

【中谷村】 福島縣磐城國石川郡の南部。石川町の東に隣り、東及び南は東白川郡に接す。阿武隈山地の西斜面に屬し、東境は海拔約七百米にして西方に傾斜し、川は南部に發源して西部を北流するもの及び北部を西流するものあり。村の西部に於て合し石川町に出て社用に合す。

ナカタイラ

中平。廣島縣神石郡にありし村。明治三十年外四ヶ村と共に合併して豊松村を建つ。

ナカタクヤス

中高安。大阪府中河内郡にありし村。昭和六年北高安村と合併し高安村を建つ。

ナガタキ

長瀧村。大阪府和泉國泉南郡の中部。依野町の南に近くこれと日根野村・南中通村の一部を隔つ。面積僅に二・七方軒餘。全村地形平坦にして殆ど乾田に拓かれ、灌漑用湖沼多く散在し西南境に近く櫻井川西北流し、その分流は中央を西北方へ流る。米・蕎麥・玉葱等の農産あり、また大阪灣岸工業地帯の南部にありたり綿工業發達し、その産額は村の生産額中の第一位を占む。西北境に接して紀州街道走り佐野町へバスの便あり、東部に社線阪和鐵道の長瀧驛、昭和五年開業)あり、交通の便よろし。中世は長瀧莊といふ。此地に有名な饒通明神あり。古昔、寒老の風習の行はれし頃、或る孝行なる中將ありて饒かに七十に餘る兩親を匿ひ、孝養に努む。偶々異國より渡れる者、我國人の才を試みんものと、上下に孔ある七曲の玉に絲を貫く難題を出せり。誰一人これを解し得ざりしが、中將の匿へる老親が一方の穴に蜜を塗り、蜜に絲を結びつけて入れしめれば、通し得べしと教ふ。その如く行ひしに、易々と絲を通し得たり。時の帝これに感じ、只來令して寒老の風を輕しめられ、從て

【中谷村】

兵庫縣攝津國川邊郡の東北部。猪名川上流の谷合に位し、池田町(大阪府)の西北方にて多田村を隔て、東は東谷村、西は西谷村、東北部は大阪府豊能郡西能勢村に接す。面積三八方軒に近きも概ね山地にて、北隅には三草山(五六四米)聳え、南隅には鳥臨山(四八四米)、西南部に城山(四〇五米)等あり。猪名川西北より中部を東南に貫き、これに沿ひて狭長なる河谷低地あり。米・蕎麥・蔬菜・食用農産物・鶏卵・菓子製品等の産あり。山地よりは木材・苦炭を出す。中央河谷に沿ひて山街道走り、之より分れて西方の町村を結ぶ道路もあり。東北隅には丹州街道もありて、各方面にバスの便あり。この地古くは和名抄、河邊郡攝津郡に屬す。

【中谷村】

岡山縣美作國吉田郡の西南部。北は宮村に、東は久田・小田二村に、南は芳野・郷の二村及び久米郡大井東村に界し、西は眞庭郡美和村に隣す。面積二三・八五方軒。南境には矢倉・楡の二山を始め、高跟數百米の山岳重疊し北及び北西部にも高跟約七七八百米の山岳連互して、高峻なる地勢をなして東方に低下す。東部には吉井川の上流南流し流域に

良好なる耕地を拓く。米・麥・蕎麥を産し、また生柿・蒟蒻等の特産あり、山地は好牧場をなし牛を飼ふ、また木炭の産も少からず。隣村小田村及び東南方津山市に自動車あり。この地古くは和名抄、吉西郡能登郷に属せるもの、如し。

【中谷村】福岡縣豊前國全救郡の西南部。小倉市の南方約四軒に位置し、これと西谷村を隔て、東は東谷村に隣り、南は田川郡探銅所村に、西は直方市の東部に界す。面積三六方軒餘を有するも西境に福智山・尺岳等ありて、大部分はその東面の山地をなし、東部には紫川北流しそれに沿ふ兩岸の地に中狭き低地あり。米麥等の農産、木材・竹材等の林産あり。また石灰も産す。東隣東谷村の西部を縦貫する小倉・香春間の縣道及び社線小倉鐵道の石原町・呼野等の驛にも近く交通不便ならず。古くは和名抄、金救郡蒲生郷の内とす。大字道原の紫川上流に菅生瀧あり。小倉市上水道の水源にして三段の瀧を成す。一ノ瀧最も大にして高さ約七米あり。四邊閑靜、疎林の間に溪流折曲するところ幽邃の氣満つ。【西大野八幡神社】大字山本にあり。郷社。祭神、息長足姫命外五神。由緒記に天智天皇五年同郡高尾山上に鎮祭し、のち現在地に遷座すと傳へ、往古は社頭盛大なりしといふ。例祭、九月二十五日。

ナカタニ

【長谷村】兵庫縣播磨國佐用郡の東部。

西南は佐用町に、西北は平福町に接し、東は粟栗郡三河村に界す。全村高度二三百米の山地起伏し、中部と南部に西方に低下する谷地ありて西方に低し。西部の千種川支流の谷につづき、田畑折げ、米・裸麥・小麦を産し、副業としては養蠶・鶏行はれて繭・鶏卵を出し、また木製品・蠶製品等の産あり。佐用町にて作州街道より岐れ因幡に至る道路西部を通じ、平福町と佐用町にはバスの便あり。また南部には之より分れて徳久村に出づる道路あり。この地は和名抄、佐用郡佐用郷に属す。

【長谷村】鳥根縣石見國邑智郡の西部。西北・西南は那賀郡川平・跡市・美又・木田の諸村に隣接す。村内には二乃至四百米の丘陵性山地起伏して概れ山地をなし、江戸の一小支山地を開析して東北流し、沿岸に僅かに低地ありて耕地を開く。米・雜穀の外に用材・木炭を産し、清酒を醸す。街道は溪流を縫うて通ずるも交通便ならず。【長谷村】廣島縣安藝國豊田郡の東部。沼田川の左岸にあり。東は三原市との間に御調郡西野村を挟み、西は本郷町に接し、南は沼田川を隔てて沼田東村に對し北は高坂村及び御調郡八幡村に隣す。面積二・五三方軒。東北隅の大塚山(六〇米)を始め山岳錯居して北部は高峻なる地形をなし、西南に傾斜して河岸に下り稍平地をなし、従つて村内山林地廣く、野反池に發し、三國山脈中に横谷を穿ちて北流、始めは魚ノ川と稱し、長野縣下高井郡の東部、苗場山西麓にて雑魚川を容れ、次て新潟縣中魚沼郡に入り北流を續け大割野にて信濃川に入る。流域約四〇軒。流域に平地極めて乏しく、人煙稀薄なり。上流の和山、中流の遊巻には温泉湧出す。

【長谷村】大分縣豊後國大野郡の東北部。大洞町の西に隣り、北は大分郡竹中村に接す。村の中部に五百米に達する山あり村内山地重疊し大野川の一支出北川は山地を縫ひ曲流して東に流れ、流域に僅かに耕地ありて米・麥・雜穀を産し、木材木炭を出す。街道は紫北川に沿うて通じ大洞町に達するも交通便ならず。

【中津村】長野縣信濃國更級郡の東北部。篠ノ井町の北に接し、善光寺平の南部、川中島三角地帯の一部を占む。土地平坦にして豊潤、水田拓げ、米を主産物とし、繭を副産物とす。省線信越本線は村内を南北に貫通し、篠ノ井・川中島の兩驛に近く、北國街道は東部を之に並行し長野市・篠ノ井町へバスの便あり。此地は和名抄、更級郡斗女郷の内なるべし。今井原の舊二箇村を合して本村を置く。明治十一年、明治天皇北陸東海御遊幸の際この地に御小休あらせらる。〔蓮香寺(附梵神堂)〕大字原にあり。淨土宗。貞和五年名譽月秀の草創。寺寶に三尊來迎佛・山越三尊來迎佛等を藏す。

【中津村】愛媛縣伊豫國上浮穴郡の東部。東は高知縣香川郡名野川村に隣す。東境には千米以上の石鎚山脈の肢脈連亘し、東境中央に中津山(中津明神山・明神山一五四一米)聳え山岳重疊す。面河川は峡谷をなして西境及び南境を洗ひ東南流す。その流域にはやや耕地發達し農業行

ナカツ

【中津村】

者の調子尋常に勝り、さばきの小歌天下に類なし。【中津村】埼玉縣秩父郡大淵村にある名勝。荒川の上流水源地域に於ける支流中津川にあり、秩父古生層より成り、周圍の山地傾斜三〇度以上を以て五〇〇—七〇〇米を開折し嵌入峡谷をなす。本流荒川との合流點たる落合より分れ、椋平・鶉平・小雙里を経て約四軒、十々六米に至れば稍景色よく、更に約四軒上流の鹽澤より中雙里・中津川聚落間約一〇軒の間は特に奇景にて、紅葉の候に訪ふ者多し。【中津村】神奈川縣相模國愛甲郡の東北部。相模川の西岸。東北は川を隔て、高座郡の一部と相對す。西部には相模川の支流中津川南流す。西境附近には丹澤山地の東端の一部にて高尾山(二三五米)八菅山あり。中部より東部にかけては相模川流域平地の一部をなし畑地多く、麥・甘藷・馬鈴薯。大豆等を産し、養蠶も盛なり。縣道は南走して、厚木町方面に通ず。この地は和名抄、愛甲郡六座郷の内なり。〔八菅神社〕大字八菅山に鎮座。郷社。祭神、國常立命。押武金日命等七柱。足利尊氏・遠山綱景再建す。江戸時代朱印領六石を有す。もと七社権現または八菅山權現と稱せしが、明治元年に現貌に改む。例祭、三月二十八日。【中津川】信濃川の一支出。源を群馬縣吾

ナカツ

【中津村】長野縣信濃國北佐久郡の中部。千曲川に沿ひ小諸町の南方約五軒。北佐久中央の盆地にあり、中央を千曲川北に流れ沿岸に平地を開く。東西には多少高き地帯あり。水田・桑園よく拓げ、米・蕎麥の産多く、麥も多少産す。國道中山道は村内を東西に貫き、之に交錯して一條の縣道千曲川右岸を走る。小諸町・岩村田

町へはバスの便あり。この地は和名抄、佐久郡美理郷の内なるべし。町村制施行の際、鹽名田・御馬寄の舊二箇村を合して本村を建つ。鹽名田は舊中仙道の鹽名田宿のありし所なり。【中津町】岐阜縣美濃國惠那郡の東部。木曾川の南岸にて、交流中津川の流域を占め、東南境惠那山を境に長野縣下伊那郡に接す。全村概れ山地にて東南より西北に傾斜し木曾川の谷に迫りて溪谷をなす。謂ゆる惠那峽となり之より下流大井町附近にかけてを云ふ。東部は中津惠那御料林を始め、森林繁茂し、良材の産多く、西部部の高原地帯に水田・桑園拓げ生絲の産あり。近時は町に洋紙工場興り木曾の原料を控へて新聞紙・マツチ・用紙・包紙等、年二千萬圓の産高を擧ぐ。其他に製絲・蠶種製造等も榮え、奥地は有数の發電地なるを以て益々商工業發展せんとす。省線中央本線は西北部を横斷し中津川驛(明治三十五年設置)あり。これより中津川に沿ひ社線北惠那鐵道を上流に通じその中津町驛を置き、木材搬出の便に資す。國道、中山道は省線と並行し數條の道路これより分岐す。この地は和名抄、惠那郡坂本郷の内なるべく、舊中仙道の中津宿のありし所。また舊郡役所の所在地たり。明治十三年、明治天皇の山梨・三重および京都行幸の際この地に御小休あらせられ、いま明治天皇中津川行在所附御膳水として指定史蹟たり。

【中津村】徳島縣美馬郡西祖谷山村の境上に跨る。標高一四七米。【中津村】徳島縣美馬郡西祖谷山村の境上に跨る。標高一四七米。【中津村】徳島縣美馬郡西祖谷山村の境上に跨る。標高一四七米。

ナカツ

はれ、米・麥・玉蜀黍・藁等を産し、林業も盛んにして三極・檜その他の林産あり。河岸を備ひて縣道通じ、古來土佐街道として伊豫・土佐間の主要なる交通路をなし、昭和十年に省營自動車線走りにて市内に五停留場を置く。

【中津市】大分縣三市の一。縣の西北端、山國川河口の南岸に位し、南は下毛郡の鶴居・大橋・如水・和木の四村に接し、西は山國川を隔てて福岡縣築上郡と相對し、北は周防灘に面す。東西約五軒、南北約三軒、面積一五・四四方軒。人口三一、一〇〇人(昭和十二年)。豊前平野のほぼ中央に當り山國川の三角洲上に發達せるを以て、地極めて低平にして、東部及び南部には田畑遠く連なり、海岸は隆起海岸には東西五軒餘に亘り約一軒の干潟をなし、地形は沖積地にて河口は遠淺なるため完全なる港を持たざりしも、僅に山國川河口を利用して昭和八年より同十一年にかけ築港をなす。而して山國川は河口に近く一の分流を出し、市街は主として此の分流の東南に接して發達す。市の職業別人口の百分比を見るに農業一・九・九、水産業四・八、工業一六・四、商業三五・〇、其他(昭和九年)にして、商工業都市たるを見る。農業者の比較的多きは近年近郊農村を合併せしむるものにて、これら新編入區域には乾田多く二毛作行はれ、米・稗・麥・小麥・藁等を産す。工業は市の生産的生命にして大分

市と共に縣下の二大工業地となし、纖維工業・製材・食料品工業・機械製造等行はれ、工業領約一十萬圓にて生産總額の九割を占む。大工場は富士紡・鐘紡・豊中製鉄の各工場にして、其他醸造・製材・鐵工をはじめ二十餘の工場あり。主要工業物は紡績絹絲・綿布・綿絲等、いづれも二百萬圓前後あり、生絲・木製品・醬油・酒類・和傘・雜貨等これに次ぐ。以上のうち綿布は鐘紡工場製にて縣下生産額の九割を占め、また木製品は大部分指物にて家内工業の大業をなし製品は中津物として知らる。商業は關門・大分間の經濟中心地たる地位を占め、極めて殷盛にて豊前平野並にその奥地と國東半島北部とを主たる商圏とす。交通上も亦縣北の核心に當り、省線日豊本線は略中津を東西に貫き中津驛明治三十年設置あり、小倉へ五一軒、大分へ八一軒にて連し、同驛より南方へ社線耶馬溪鐵道を岐つと共に、耶馬溪遊覽自動車の發着點となす。道路は省線とほぼ並走する小倉街道(豊前街道)ありて西北は小倉、東南は四日市・日出等に通ずる外、東方長洲及び南方耶馬溪へ縣道を出し、何れもパスの便あり。市街は山國川分流に臨む城址の南方、從來の町屋のうち特に街道筋の新博多町・殿町を中心として、商業地域發達し、東南部の外廓には工場多し。主要官公署に市役所・地方裁判所支所・區裁判所・稅務署・養育院等、其他、縣立中

校・同高等女學校・商工會議所・豊前銀行・中津銀行・耶馬溪鐵道株式會社・日本冷礦泉會社・鐘紡支店・富士瓦斯紡績工場等あり。市は古く美毛郡次で下毛郡の内、明徳の頃より大友氏に屬せしが、大友氏漸く衰へ島津氏の侵掠を被るに及び、豊臣秀吉は黒田孝高、如水を軍目附として此地に遣はし、功によりて豊前六郡十六萬石に封ぜしより、天正十六年初めて此地に築く。子長政の時、戦功により筑前に移り、慶長五年細川忠興代りに封ぜられ、寛永九年忠利肥後に轉封後は小笠原氏これを領し、享保二年奥平昌春丹後宮津より移封せられ代々相繼ぎて廢藩置縣に至る。明治四年小倉縣の管轄となり、同九年四月福岡縣に屬し、同年八月宇佐・下毛二郡と共に大分縣に所屬。明治に入り從來の模式的城下町は新たに商業都市として進展し、一時は繁榮大分市を凌ぎたる事あり。後背地に豊前平野を控へ、交通の核心となりて益々繁華の發達を遂げ、且つ年々五十・六十萬の遊覽客を迎へ耶馬溪への中繼地として市況盛なるに至る。大正十四年に豊田村・大江村を、昭和四年に小浦村を合併、同年市制施行す。なほ福澤諭吉及び明治初年の儒者にて勤王家なる中村栗園、贈從四位(は本市の人なり。「中津城址」二ノ丁)にあり。山國川分流に臨み、東南に丘阜を繞る形勝の地を占む。天正年中島田如水の築城にて、元和六年細川忠興これ

を設す。「明徳寺」櫻町にあり。昔宗本願寺派。開基は重松刑務少輔美房入道了空。市内第一の巨刹。「福澤諭吉舊宅」留守居町にあり。臺葺平屋建の母屋一棟及び寢殿造の納屋あり。道路を隔てて記念館あり、日用品・衣類・遺墨等を陳列し、館前には胸像あり。邸は福澤氏が天保七年三歳の時より安政元年二十一歳にて長崎に遊學するまで起臥、修學せしところ。福澤諭吉は明治時代新思想の先覺者。中津藩士百助の次子。天保五年十二月十二日大阪なる藩の倉屋敷に生れ、三歳の時父歿するや、家を擧げて郷里に歸り、勞働の傍ら勉學大いに努む。安政元年二月長崎に赴きて蘭學を修め、次で上阪、緒方洪庵の塾に學び、五年上京、鐵砲洲の藩邸内に蘭學塾を設けしが、横濱開港の事あるや、率先獨力にて英學を修む。萬延元年新見豊前守・木村攝津守等に從ひ渡米、文久元年竹内下野守一行に替りて渡歐、慶應三年また渡米す。翌四年四月(明治元年)熱を鐵砲洲より新錢座に移し慶應義塾と改め、明治四年三田善島原藩邸に移し、爾來銳意人材の養成に當ると共に泰西新文明の輸入に努め、明治思想史上に不滅の功績を残すに至る。十五年三月時事新報を創刊、自ら新説を執筆す。その思想はイギリス經驗學派の功利主義に基き、個人の獨立自尊、社會の實利實益を鼓吹したるものにして、世の啓蒙に資せしこと尠ならず、謂ゆる三

ナカツ

田學派の根柢たる經濟學說と實業界への地盤の開拓とを結果せり。明治三十四年二月三日歿す。著書すべて五十七種、百餘冊に達し、中にも「西洋事情」(慶應二年)「明治二年」(學問のすすめ)「明治五年」(九年)「文明論の概略」(同八年)等最も著はれ、すべて「福澤諭吉全集」に載福澤諭吉全集に収めらる。

ナカツ

【仲津村】福岡縣豊前國京都郡の東部。行橋町の東南約二軒、南は築上郡八津田村に接し、東は周防灘に臨む。西北部には觀山(一二二米)の丘陵聳る外は土地卑濕、海岸一帯は砂濱連る。南部に雑木林ある外は耕地よく開け所々に池ありて灌漑の便よく米・麥・蔬菜を出す。省線日豊本線は西南部を走り新田原驛(明治三十年設置)を置き、國道また之に沿ひ走り交通便なり。當村は萩郷村・豊波村・今川村と共に和名抄、仲津郡仲津郷の地にして、村名は郷名の遺稱なるべし。

ナカツ

【長津】上總國(千葉縣)の古地名。和名抄に天羽郡長津郷あり、この地今の君津郡淡町の邊に當る。

【長津】福岡縣遠賀郡にありし町。大正

ナカツ

【長津】上總國(千葉縣)の古地名。和名抄に天羽郡長津郷あり、この地今の君津郡淡町の邊に當る。

ナカツ

【長津】福岡縣遠賀郡にありし町。大正

校・同高等女學校・商工會議所・豊前銀行・中津銀行・耶馬溪鐵道株式會社・日本冷礦泉會社・鐘紡支店・富士瓦斯紡績工場等あり。市は古く美毛郡次で下毛郡の内、明徳の頃より大友氏に屬せしが、大友氏漸く衰へ島津氏の侵掠を被るに及び、豊臣秀吉は黒田孝高、如水を軍目附として此地に遣はし、功によりて豊前六郡十六萬石に封ぜしより、天正十六年初めて此地に築く。子長政の時、戦功により筑前に移り、慶長五年細川忠興代りに封ぜられ、寛永九年忠利肥後に轉封後は小笠原氏これを領し、享保二年奥平昌春丹後宮津より移封せられ代々相繼ぎて廢藩置縣に至る。明治四年小倉縣の管轄となり、同九年四月福岡縣に屬し、同年八月宇佐・下毛二郡と共に大分縣に所屬。明治に入り從來の模式的城下町は新たに商業都市として進展し、一時は繁榮大分市を凌ぎたる事あり。後背地に豊前平野を控へ、交通の核心となりて益々繁華の發達を遂げ、且つ年々五十・六十萬の遊覽客を迎へ耶馬溪への中繼地として市況盛なるに至る。大正十四年に豊田村・大江村を、昭和四年に小浦村を合併、同年市制施行す。なほ福澤諭吉及び明治初年の儒者にて勤王家なる中村栗園、贈從四位(は本市の人なり。「中津城址」二ノ丁)にあり。山國川分流に臨み、東南に丘阜を繞る形勝の地を占む。天正年中島田如水の築城にて、元和六年細川忠興これ

を修造し黒田・細川・小笠原・奥平の諸氏相次いで領して明治に至る。城地の形状により城または要城と呼ばれ、郷名によりて大友城とも稱せり。いま城廢し、中津公園となり、三所神社・中津神社あり、また、獨立自尊の四字を刻せる福澤氏記念碑建つ。(三所神社)二ノ町に鎮座。郷社。祭神、奥平貞能外二神。安政二年、中津藩主奥平昌胤は遠祖の功徳を追慕して創建す。例祭、五月二十一日。【中津神社】二ノ町に鎮座。郷社。祭神、應神天皇・仁徳天皇・宇治若郎子等十三柱。江戸時代中津藩主小笠原・奥平氏の崇敬を受く。【開無濱神社】郷社。祭神、豐日別國魂神外二神。崇神天皇の頃の創建にして、往昔は豊日別宮または崇神天皇と稱せり。歴代領主の崇敬厚く社領五十石を寄せらる。社地は龍王濱または開無濱と稱し風光絶佳なり。例祭、十一月五日。【八幡大江神社】豊津に鎮座。郷社。祭神、應神天皇外二神。創建年月を詳にせざるも舊記に據るに相當の古社なるべし。例祭、十一月十五日。【白鹿神社】郷社。祭神、大名持命・少彥命。當村の産土神として古來崇敬の社。例祭二月十八日。【自性(神)寺】新魚町にあり。臨濟宗。もと葛松寺と稱し、延享二年現寺號に改む。中津藩主奥平氏の菩提寺にて、氏が宮津より移封せられし時、隨ひて移るといふ。奥平院を大雄堂と稱し池大龍が灌漑せし時の御堂に係る書畫

ナカツ

十三年に中間町と改稱す。

ナカツ

【中海】備後國(廣島縣)の古地名。和名抄に津津郡中海郷あり、蓋し中海人の條略なり、今の福山市、淳安郡の中津原村邊の地にして往昔の穴海の附近なるべし。※穴海。

ナカツ

【中井】備中國(岡山縣)の古地名。和名抄に美賀郡中井郷あり、奈加郡井と調す。その地今の上房郡中津井村・中井村の邊に當るか。

ナカツ

【中津井村】岡山縣備中國上房郡の西北部。昔郡町の南にあり。東北は上水田村に、東は上津村に、南は有漢・互洲二村に、西は中津井及び阿哲郡豊永村に界す。面積一七・五四方軒、中央部を南北に狭長の平地ある外は、全村約四〇〇米餘の山地より成る。山地は木炭を出し、また好牧場をなして牛を飼ふ。谷地及び平地にては農業行はれ米・麥・藁の外、生柿・蒟蒻等の産あり。昔郡町と南方高梁町を連絡する縣道通りパスの便あり。大字下中津井の部落は主邑をなす。古くは和名抄美賀郡中井郷の内なり。のち阿賀郡に屬せしが明治三十三年上房郡に編入す。また江戸中期の儒者室鳩巢はこの地の人なり。

ナカツ

【中津江村】大分縣豊後國日田郡の西南部。東は熊本縣阿蘇郡北部にて東南部に北上津江村を隔て、東北部は大山川によりてこれに接し、南は同菊池郡・鹿本郡に、西は福岡縣八女郡に界

す。面積八四方軒餘。釋迦・落石山群の地域にて、北境に渡邊峠一・一五〇米、西境には浪山九六八米・三國山九九四米、南界上には酒呑童子山一・一八一米、嶺、殆ど山地なるも中部東西にはその裾合谷ありて大山川の支東流し、東部に至りて、上津江村より来る本流と合し、東北境をなして北隣大山村に出づ。この河谷に沿ひ僅に低地あるも耕地面積乏し。木材・薪炭・椎茸等の林産あり。有名な鯛生金山ありて金を産す。東部には北方日田町と西方隈府町とを結ぶ道路走るも交通なほ大いに便ならず。古くは津江庄の内にして、中世に津江氏ここに居る。のち大友家に臣事せしも天正中絶家す。【鯛生金山】福岡・熊本兩縣境に近く海拔約六百米の高地にある金山にて本邦重要金山の一。鑛區八十五萬餘坪、鑛區の地質は第三紀層にして、濃綠色を帯び且つ黒色斑點を有する輝石安山岩を以て成り、鑛脈は一般に輝石安山岩中にあり、鑛床は裂隙充填の正規脈にて含金銀石英鑛床とし。明治三十二年以來探掘されつゝあるが、近年探掘のため水平坑延長、堅坑掘下等なしたるに脈勢何れも良好なりき。殊に昭和十年に西部處女地帯にて富鑛帯を發見せるが、その延長二〇〇米、脈幅二・五米、合金品位一〇―三〇五、銀は二倍量ありて頗る優劣なるものなり。かくて同年より大規模の堅坑開鑿を開始し、また新機械を増設

ナカツ

【中津江村】大分縣豊後國日田郡の西南部。東は熊本縣阿蘇郡北部にて東南部に北上津江村を隔て、東北部は大山川によりてこれに接し、南は同菊池郡・鹿本郡に、西は福岡縣八女郡に界

ナカツ

して十年に於ける産額量は一日八五五...

ナカツカ

長東村 廣島縣安藝國安佐郡の南部...

ナカツカ

長塚村 福島縣磐城國雙葉郡の東北部...

ナカツガ

長塚山 日本北アラスカ...

ナカツナ

中綱湖 長野縣松本平の北隅...

ナカツマ

中妻村 福島縣磐城國田村郡の西部...

ナカツハラ

中津原 廣島縣備後國深安郡にありし村...

ナカツ

方約七軒、富山縣下新川郡山崎村と新潟縣西頸城郡小瀧村の境上に跨る...

ナカツガル

中津輕郡 青森縣陸奥國の西南部...

地勢平坦、肥沃なる耕地よく折けて農畜・工業等盛にして米・麥・蕎麥・粟等の農作物...

ナカツガワ

中川 播磨國兵庫縣の古地名...

ナカツガワ

仲川 大隅國(鹿児島縣)の古地名...

ナカツガワ

中津川 山形縣羽前國南置賜郡の西部...

ナカツヤ

中屋 筑前國(福岡縣)の古地名...

ナカツヤ

中家 美濃國(岐阜縣)の古地名...

ナカツヤ

中津屋 福岡縣朝倉郡にありし村...

ナカツヤマ

中山 越前國(福井縣)の古地名...

ナカツヤマ

中津山村 宮城縣陸前國桃生郡の中部にて、飯野川町の西北約七軒...

ナカツラ

中津良村 長崎縣肥前國北松浦郡平戸島の南部...

BOOK

し。街道は各溪流に沿うて通ずるも船路ありて交通便ならず...

ナカツタ

長津田 神奈川縣都筑郡田奈村の大字...

ナカツチ

中土村 長野縣信濃國北安曇郡の北部...

ナカテシマ

中豊島村 大阪府堺津國豊能郡の南部...

ナカテシマ

中寺村 兵庫縣播磨國神崎郡の南部...

ナカテシマ

中津川 山形縣羽前國南置賜郡の西部...

BOOK

ナカト——ナカニ

點に當り、南は内田川によりて...

ナガトモ 長友 美濃國(岐阜縣)の古地名...

ナガトモ 長伴 陸奥國(磐城國、福島縣)の古地名...

ナカト——ナカニ

る。往時は新渡津頼朝の曾孫、左京大夫...

ナカナイ 中内村 岩手縣陸奥國和賀郡の東部...

ナカニワ 中上神 大阪府泉北郡にありし村...

ナカナタ 中名田村

福井縣若狭國遠敷郡の西北部...

ナガナワシロ 長苗代 青森縣三戸郡下長苗代村の大字...

ナカニカワ 中新川郡 富山縣八郎の一...

ナカニシウラ 中西浦

神奈川縣三浦郡にありし村...

ナカニシ 中西村 島根縣石見國美濃郡の西北部...

ナカニシウラ 中西浦 神奈川縣三浦郡にありし村...

ナカニシ

島根縣石見國美濃郡の西北部...

ナカニシウラ 中西浦 神奈川縣三浦郡にありし村...

ナカニシウラ 中西浦 神奈川縣三浦郡にありし村...

ナカニ——ナカヌ

濃郡の西北部。高須川の左岸にあり...

ナカヌ

長沼 北海道石狩國夕張郡の西部...

ナカヌー——ナカノ

城主なる長沼氏・豊臣氏・徳川氏等の崇敬を受く。

【長沼村】長野縣信濃國上水内郡の東部。千曲川の左岸。東は川を境に上高井郡に隣し、長野市の東北に接す。千曲川の本文流に東西を開拓され土地平坦にして水利に富み水田・桑園多し。米・麦・蕎麥を主産物とす。縦横に道路通じ省縣信越本線野驛に近し。村内に長沼城址あり、永祿年中に武田氏の築きし城なり。天正十年に上杉景勝は北信を征して、當城に島津淡路守を置く。元和元年、當國飯山藩主佐久間安政の弟勝之、大阪の役の功を以て一萬石を加賜せられ、前封と合せて一萬八千石を食みこの城に封ぜられしが、元祿元年、五世勝親の時に除封せらる。

ナカネ

【中根村】千葉縣上總國夷隅郡の東北に。長者町の西隣にて夷隅川の南岸。東北は長生郡の一部と隣す。南半は丘陵地にて森林あり。北半は平地にて水田・畑地あり。米・麦・蕎麥を産し、養鶏も行はる。長者町に縣道を通ず。省縣房總東線は東部を南走するも村内に驛なく、長者町に長者町驛を置く。〔清水寺〕大字鴨根にあり。天台宗。菅羽山。坂東三十三所第三十二番札所。延暦年中に最澄の開創と傳ふ。のち坂上田村麿の京都清水寺に擬して堂宇を造営すと云ふ。詠歌「濁る世に妙なる法の音羽山開き来る人の心清水」。

ナカネオ 中根尾

郡にありし村。明治三十七年東根尾・西根尾の三村と共に廢され、新たに根尾村を置く。

ナカノ 中野

【中野】豊前縣の一驛。昭和三年設置。樺太眞岡郡清水村にあり。【中野村】岩手縣陸中國九戸郡の東北に。久慈町の北約七軒、東は海に臨む。村内には概ね花崗岩より成る高度二百米以内の丘陵地山地連り、地は東に傾き海岸にても高度九〇米を示し海に急傾斜をなす。北部に原内川、中部に有家川、南部に高家川あり、ほぼ平行して東流し海に注ぐも平地に乏し。生産は半農半漁にして米、約一六萬圓、麥(約一萬圓)、大豆(約一萬圓)、稗(約一六萬圓)の農産物を始め、木炭(約四〇萬圓)、用材(約一四萬圓)、薪炭材(約二五萬圓)を出し、水産額も約三二萬圓に及ぶ(以上昭和十一年現在)。太平洋に沿ひて南北に貫く縣道と之を東西に横斷する村道あり。省線八戸線また縣道に沿うて走り陸中中野驛。昭和五年設置。海は北に風光絶佳、遊覽客多く、高家白瀧は高家川に懸り二層の瀧となる。高さ約一六米。【中野村】岩手縣陸中國岩手郡の南部。盛岡市の東南に隣り、東南は紫波郡乙部村に接す。東部には北上山地に属する花崗岩の丘陵性山地連り、北より岩山(三五五米)・金山(一九四米)・新ヶ森(四五五米)・二二三米(二九一米)あり。

ナカノ 中野

北上用は西境を南流し、本村にて西流し来る川を合し、その沿岸に低地あり。耕地は東北部山麓大部分の花崗岩風化の砂質壤土と、築川及び北上川の沖積地に地味肥沃。村民の過半数は農業に従事し、その生産は總生産額(約二〇萬圓)の九〇%を占む。主に米・果實・蔬菜等に、蔬菜・果實は盛岡市場を控へ、最も有望なり。また安庭部落に農林省東北小麥試験場あり。交通は盛岡市に隣接するを以て便利なり、縣道も宮古街道は築川沿ひに、釜石街道は北上川沿ひに通ず。村内の東安庭・門西部落の境上に經塚あり、また葛西圖書の居城なりし葛西館あり。(しだけから)指定天然記念物。大字門にあり。かづらの完全な複製と成れるものにて學術上珍奇なる變種なり。根圍り二米餘、高さ約六米。【中野村】福島縣岩代國信夫郡の北部。飯坂町の西に隣り、北は伊達郡に接す。面積五五・一三万平方尺にして東西の長さ約一五軒あり。北境に文殊山(八四九米)・三ツ森山(八九七米)、西南境に葡萄酒山(九六七米)あり。小川は村の西部に發源し、村の南境をなして東流し、飯坂町に入りて摺用上に合す。全村概ね山地にして東南部に稍平地あり。米・蕎麥・櫻桃・蕎麥等を産す。萬世大路は村の東南より西北に通じ、西北方米澤市、東南方福島市に至る。此地に大鳥城あり、里人は丸割を布き、同年七月中野町・太井・又野三ヶ木の三村を廢し新に當町を置く。【中野】新潟縣中魚沼郡にありし村。大正十一年千手町と合併して千手村となる、昭和九年千手町と改稱す。【中野村】富山縣越中國東礪波郡の中部。出町と井波町とのほぼ中間にあり、庄川左岸に沿ふ。土地平低肥沃にして美田多し。米の産出を主とす。東部を縣道南北に走り、出町・青島村へパスの便あり。省線中越線出町驛へ約二軒。本村は永祿年間、藤井小右衛門なる者の開發に係るといふ。【中野】越前國(福井縣)の古地名。和名抄に足羽郡中野郷あり、その地今の吉田郡東礪波村の邊に當る。【中野村】山梨縣甲斐國南都留郡の南部。山中湖畔一帯の地。東より南へは三國山を境に相模・駿河の兩國に界す。村のほぼ中央に山中湖を湛へ、西南方に富士の巔峰を臨み、西部は其の裾野の一部をなす。平地は湖の東岸に多少あるのみ他は何れも山岳を以て圍繞せらる。農業・養蠶を主産物とす。東岸・西岸に桑園多く蕎麥を主産物とし大豆・玉蜀黍・蕎麥・馬鈴薯等の農産物、鰯・鮎・公魚・鯉等の淡水魚の産もあり。舊鎌倉往還は西部を南に走り籠取峠を経て御殿場町へ、西は社線富士山麓鐵道の富士吉田驛へ何れもパスの便あり。明治二十二年町制施行の際に山中・平野の二村を合併して中野

四三

山城または佐藤館と呼ぶ。治承年中、佐藤元治の居城たり。明治十四年に明治天皇は山形・秋田及び北海道行幸の際この地に御小休あらせられ、いま明治天皇大禮御小休所として史蹟に指定さる。【中野村】福島縣岩代國安積郡の西南部。猪苗代湖の東南約五軒。東南は岩瀬郡に隣す。東南境に笠ヶ森山(二〇一三米)・八幡山(一〇二米)あり、斷崖をなして西北方に傾斜し、西北部は猪苗代盆地に属して稍平坦なり。舟津川及びその支流は東南部に發源して西北流し、月形村に出で猪苗代湖に注ぐ。米・蕎麥を産す。道路は村の中央部を西北より東南に通じ西北方猪苗代湖畔、東南方諏訪峠を経て岩瀬郡須賀川町に達す。なほ當村と中野村・月形村・多田野村に互りて重要鐵山たる日山礦山(鑛種は銀鑛)あり。此地は和名抄、合津郡菱方郷の内なり。明治二十五年貨輪村を分離して設けるもの。【中野村】茨城縣常陸國那珂郡の東南部。湊町の西北隣にあり。大部分は臺地にて畑地をなして所々に林を交ふ。東南部には臺地間に低地を挟み水田あり。農業主にて米・小麥・甘藷・大根を産す。縣道は西方水戸市及び湊町に通じ、省縣常磐線は西部を北走するも村内に驛なく、南隣藤田村に藤田驛を置く。また社線湯浅道は同驛より分れて東部に走り、村の南部を通過するも驛なく、藤田村に會上・中根の二驛を置く。この地は古くは和名

抄、那珂郡碓田郷の内なるべし。大字部田野に康永元年の文書に、戸田野郷と見ゆる地にして、もと戸田野に作りしもの如し。【中野村】茨城縣常陸國鹿嶋郡の中部。鹿嶋町の北方にて間に豊郷村を挟み、西は北浦、東は鹿嶋灘に臨む。大部分低き臺地にて畑地あり。所々林を交ふ。北浦及び鹿嶋灘沿岸には狭き低地ありて水田をなし、米・麥を産す。東部の海岸は鹿嶋浦の一部にて單調なる砂浜をなす。縣道は北浦沿岸を縦走し、南は鹿嶋町に通じてパスの便あり。大字林に城址あり。鹿嶋三郎成幹の六男、頼幹の始めてこゝに居し林六郎左衛門と稱す。子孫この地に居りしも、天正七年荒原五郎左衛門なる者に殺され、林氏こゝに絶ゆ。【中野村】群馬縣上野國邑樂郡の西北部。館林町の西北にてその間に多々良村を挟む。北は足利郡の一部と隣す。全村平地にて一部は東方多々良沼に續く沼田をなす。農業行はれて米麥を産す。縣道は館林町に通じパスの便あり。また社線上州鐵道の狸塚驛。昭和八年設置。本中野驛(大正六年設置)の二驛あり。(永明寺の金木庫)指定天然記念物。大字中野の永明寺境内にあり。日通幹線約三・四米、幹は二大枝に分れ樹勢旺盛、金木庫の巨樹として有數なるもの。(長良神社)大字中野に鎮座。郷社。祭神、藤原長良。古來本村の總鎮守たり。例祭、三月十五

ナカノ——ナカノ

【中野區】東京市三十五區の一。昭和七年大東京市實現以前の豊多摩郡中野・野方兩町の區域なり。地形は概ね平坦地にて一部に洪積層の臺地をなす。ただ北部には善福寺池より流出せし妙正寺川、南部には井ノ頭池より流出せし舊神田上水が流れ、それに沿ひ細長き水田帯あり。もと北西部を東西に横切る青梅街道に沿うて連續せし人家のある外は、多く純農村の點散聚落をなせり。然るに東京の發展に準じその西郊住宅地となり、特に震災後は急激に住宅地化が行はれ、ために十數年前に見られし郊外農耕景觀は現在は殆ど見ることを得ず。区内には電信聯隊・新井薬師及び哲學堂があり、東京市療養所・豊多摩刑務所及び南端に東京高等學校あり。交通は中央本線(ほぼ中央を東西に横斷し、東中野(明治三十九年設置)・中野(明治二十二年設置)の兩驛あり、北部には西武電車通ず。【中野町】神奈川県相模國津久井郡の東部。桂川の南岸にて道志川合流點の東にあり。南境附近は約三・七〇米の山地にて桂川及び西境を北流する道志川の谷に向ひて傾斜し、川沿ひに狭き耕地ありて、麥・甘藷・馬鈴薯・粟等を産し養蠶も行はる。縣道は町の中央を西走して與瀬町に通じ、栗原はこれに沿ひて發達す。與瀬町へはパスの便あり。この地は舊郡役所のありし所にして、大正十四年一月町

制を布き、同年七月中野町・太井・又野三ヶ木の三村を廢し新に當町を置く。【中野】新潟縣中魚沼郡にありし村。大正十一年千手町と合併して千手村となる、昭和九年千手町と改稱す。

【中野町】富山縣越中國東礪波郡の中部。出町と井波町とのほぼ中間にあり、庄川左岸に沿ふ。土地平低肥沃にして美田多し。米の産出を主とす。東部を縣道南北に走り、出町・青島村へパスの便あり。省線中越線出町驛へ約二軒。本村は永祿年間、藤井小右衛門なる者の開發に係るといふ。【中野】越前國(福井縣)の古地名。和名抄に足羽郡中野郷あり、その地今の吉田郡東礪波村の邊に當る。【中野村】山梨縣甲斐國南都留郡の南部。山中湖畔一帯の地。東より南へは三國山を境に相模・駿河の兩國に界す。村のほぼ中央に山中湖を湛へ、西南方に富士の巔峰を臨み、西部は其の裾野の一部をなす。平地は湖の東岸に多少あるのみ他は何れも山岳を以て圍繞せらる。農業・養蠶を主産物とす。東岸・西岸に桑園多く蕎麥を主産物とし大豆・玉蜀黍・蕎麥・馬鈴薯等の農産物、鰯・鮎・公魚・鯉等の淡水魚の産もあり。舊鎌倉往還は西部を南に走り籠取峠を経て御殿場町へ、西は社線富士山麓鐵道の富士吉田驛へ何れもパスの便あり。明治二十二年町制施行の際に山中・平野の二村を合併して中野

【中野町】長野縣信濃國下高井郡の南部。飯山町の南方に當り、須坂町・上高井郡の北方約一二軒。千曲川の支流夜間瀬川扇狀地の一部を占め、東部に六〇〇米餘の丘陵地をなす。平地は西部に開け水田・桑園多し。蕎麥・農産物の集散地にして本郡の首邑なり。附近に中野・高井野・笠原牧場等ありて馬を産す。小布施栗の産地として聞え、また柿の出る地方にて内山紙漚かる。社線長野電鐵南北に通じ、信州中野驛(大正十二年設置)・中野松川驛、昭和二年設置あり、縣道は下水内郡飯山・小布施へ通じパスの便あり。此地に高梨城址あり、近世に江戸幕府の代官陣屋を設けて近傍の幕領を支配せしめたる地なり。高梨氏は高井郡の豪族にて井上黨なり。近世は舊郡役所のありし所。明治三年九月中野縣を置きしが翌六月長野に移し長野縣と改む。いま大藏省預金部名古屋支部出張所・長野測候所氣象觀測所等あり。(中野温泉)鹽類泉。療養向。附近には河東善光寺・高梨城址・常樂寺・飯盛松・塔ノ原スキー場等あり。

【五日神社】大字中野に鎮座。郷社。祭神、健御名方命。創立年次詳ならずも和名抄所載の社にして、のち高梨氏・武田氏等再建修補す。例祭、九月廿七日。(常樂寺)曹洞宗。仙洞山。正平年間夢窓國師の開創に係る。天正の初め越後春日山城主上杉景勝これを再興し、上州館

林茂林寺第十世天庵正清を開山に請す。

いま末寺三刹を有す。

【中野】愛知縣西加茂郡にありし村。明治三十九年外二村と共に廢し、その全區域と四谷村の大字元山中及び富貴下村の大字松嶺・押澤・藤澤・富田とを合せて石野村を置く。

【中野村】滋賀縣近江國蒲生郡の中野北偏。神崎郡八日市町に南接し、西方八幡町へは約一〇里を距る。面積僅に五・三七方軒。西北部に箕作山(約二百米)南面の山地ある外は湖東平野に属し、地形平坦にして田畑よく拓け米産多く、外に蕎麥・桑葉・養肥用作物・茶種・茶等の農産物を産す。八日市・八幡を繋ぐ縣道と社線八日市鐵道は中部を横ぎり、前者はバスを通じ、後者は太郎坊驛(大正二年設置)を設け、また中山道と東海道を結ぶ縣道は東部を南北に貫く。

【中野村】兵庫縣攝津國有馬郡の北部。土地南北に長く、東境南部は三輪町に、北部は小野村に、西南は貴志村、西は本庄村に接す。面積約二二・五方軒。東境中央に千丈寺山(五九〇米)、南部には有馬富士(三七三米)あり、西境にも高さ四一五米の山嶺南北に連り、殆ど山地をなし、中央を南下する武庫川の支流の兩岸と、兩南境を流るる武庫川沿岸に平地ありて田畑拓く。米・麥・蕎麥・粟・菜・桑・蠶・製絲品・木製品・乳物の産あり。人口密度は七九八にて郡中の稀薄村に属す。

【中野村】鳥根縣出雲國飯石郡の東北部。東は田井村に、北は飯石・鍋山二村に、西は多根村に、南は掛合・吉田の二村に界す。面積二二・九七方軒。村内は高畝三〇〇—五〇〇米の山岳重疊して高畝状をなし平原殆んど無し。従つて山麓村にして米・蕎麥を主産物とし、また茶の特産あり。山地よりは林産物を出し、木材・木炭の産多し。山間に縫うて街道あるも險坂ありて交通便ならず。

【中野村】島根縣石見國邑智郡の中部。川本町の西南に隣る。北部には六乃至七百里の山地重疊し、南部にも五百米に及ぶ山地あり、江川の一小支は南部を東西に貫流して耕地を開き、のち北に轉じ東部井原村との境にては峡谷をなす。米・蕎麥・木材を産し清酒を醸る。南部小川に沿うて街道東西に通ずるも、交通便ならず。

【中野村】島根縣出雲國飯石郡の東北部。東は田井村に、北は飯石・鍋山二村に、西は多根村に、南は掛合・吉田の二村に界す。面積二二・九七方軒。村内は高畝三〇〇—五〇〇米の山岳重疊して高畝状をなし平原殆んど無し。従つて山麓村にして米・蕎麥を主産物とし、また茶の特産あり。山地よりは林産物を出し、木材・木炭の産多し。山間に縫うて街道あるも險坂ありて交通便ならず。

【中野村】島根縣石見國邑智郡の中部。川本町の西南に隣る。北部には六乃至七百里の山地重疊し、南部にも五百米に及ぶ山地あり、江川の一小支は南部を東西に貫流して耕地を開き、のち北に轉じ東部井原村との境にては峡谷をなす。米・蕎麥・木材を産し清酒を醸る。南部小川に沿うて街道東西に通ずるも、交通便ならず。

【中野村】廣島縣安藝國山縣郡の北部。東は美和村に、南は戸内町に、西は津鹿原村に界し、北は島根縣那賀郡都川・今市・波佐の三村に隣す。面積七八・四方軒。北部は高畝約一公里の中國山脈東西に走りて島根縣との分水嶺をなし、中央部より瀧山川上支出てて南流し、南部は略六百米の高地に地勢高峻なり。河谷及び山腹は牧場をなして牛を飼ふ處あるも、大部分山林地にして木材・木炭等を産し、農作地に乏し。中央を東西に縣道走り、それより分岐して西北方に河谷を利用して通ずる縣道あり。南方廣島市へ約八〇軒、島根縣濱田港へ約四〇軒、近隣とはバスを通ず。

【中野村】廣島縣安藝國山縣郡の北部。東は美和村に、南は戸内町に、西は津鹿原村に界し、北は島根縣那賀郡都川・今市・波佐の三村に隣す。面積七八・四方軒。北部は高畝約一公里の中國山脈東西に走りて島根縣との分水嶺をなし、中央部より瀧山川上支出てて南流し、南部は略六百米の高地に地勢高峻なり。河谷及び山腹は牧場をなして牛を飼ふ處あるも、大部分山林地にして木材・木炭等を産し、農作地に乏し。中央を東西に縣道走り、それより分岐して西北方に河谷を利用して通ずる縣道あり。南方廣島市へ約八〇軒、島根縣濱田港へ約四〇軒、近隣とはバスを通ず。

【中野村】廣島縣安藝國山縣郡の北部。東は美和村に、南は戸内町に、西は津鹿原村に界し、北は島根縣那賀郡都川・今市・波佐の三村に隣す。面積七八・四方軒。北部は高畝約一公里の中國山脈東西に走りて島根縣との分水嶺をなし、中央部より瀧山川上支出てて南流し、南部は略六百米の高地に地勢高峻なり。河谷及び山腹は牧場をなして牛を飼ふ處あるも、大部分山林地にして木材・木炭等を産し、農作地に乏し。中央を東西に縣道走り、それより分岐して西北方に河谷を利用して通ずる縣道あり。南方廣島市へ約八〇軒、島根縣濱田港へ約四〇軒、近隣とはバスを通ず。

【中野村】廣島縣安藝國山縣郡の北部。東は美和村に、南は戸内町に、西は津鹿原村に界し、北は島根縣那賀郡都川・今市・波佐の三村に隣す。面積七八・四方軒。北部は高畝約一公里の中國山脈東西に走りて島根縣との分水嶺をなし、中央部より瀧山川上支出てて南流し、南部は略六百米の高地に地勢高峻なり。河谷及び山腹は牧場をなして牛を飼ふ處あるも、大部分山林地にして木材・木炭等を産し、農作地に乏し。中央を東西に縣道走り、それより分岐して西北方に河谷を利用して通ずる縣道あり。南方廣島市へ約八〇軒、島根縣濱田港へ約四〇軒、近隣とはバスを通ず。

【中野村】廣島縣安藝國山縣郡の北部。東は美和村に、南は戸内町に、西は津鹿原村に界し、北は島根縣那賀郡都川・今市・波佐の三村に隣す。面積七八・四方軒。北部は高畝約一公里の中國山脈東西に走りて島根縣との分水嶺をなし、中央部より瀧山川上支出てて南流し、南部は略六百米の高地に地勢高峻なり。河谷及び山腹は牧場をなして牛を飼ふ處あるも、大部分山林地にして木材・木炭等を産し、農作地に乏し。中央を東西に縣道走り、それより分岐して西北方に河谷を利用して通ずる縣道あり。南方廣島市へ約八〇軒、島根縣濱田港へ約四〇軒、近隣とはバスを通ず。

【中野村】廣島縣安藝國山縣郡の北部。東は美和村に、南は戸内町に、西は津鹿原村に界し、北は島根縣那賀郡都川・今市・波佐の三村に隣す。面積七八・四方軒。北部は高畝約一公里の中國山脈東西に走りて島根縣との分水嶺をなし、中央部より瀧山川上支出てて南流し、南部は略六百米の高地に地勢高峻なり。河谷及び山腹は牧場をなして牛を飼ふ處あるも、大部分山林地にして木材・木炭等を産し、農作地に乏し。中央を東西に縣道走り、それより分岐して西北方に河谷を利用して通ずる縣道あり。南方廣島市へ約八〇軒、島根縣濱田港へ約四〇軒、近隣とはバスを通ず。

【中野村】廣島縣安藝國山縣郡の北部。東は美和村に、南は戸内町に、西は津鹿原村に界し、北は島根縣那賀郡都川・今市・波佐の三村に隣す。面積七八・四方軒。北部は高畝約一公里の中國山脈東西に走りて島根縣との分水嶺をなし、中央部より瀧山川上支出てて南流し、南部は略六百米の高地に地勢高峻なり。河谷及び山腹は牧場をなして牛を飼ふ處あるも、大部分山林地にして木材・木炭等を産し、農作地に乏し。中央を東西に縣道走り、それより分岐して西北方に河谷を利用して通ずる縣道あり。南方廣島市へ約八〇軒、島根縣濱田港へ約四〇軒、近隣とはバスを通ず。

【中野村】廣島縣安藝國山縣郡の北部。東は美和村に、南は戸内町に、西は津鹿原村に界し、北は島根縣那賀郡都川・今市・波佐の三村に隣す。面積七八・四方軒。北部は高畝約一公里の中國山脈東西に走りて島根縣との分水嶺をなし、中央部より瀧山川上支出てて南流し、南部は略六百米の高地に地勢高峻なり。河谷及び山腹は牧場をなして牛を飼ふ處あるも、大部分山林地にして木材・木炭等を産し、農作地に乏し。中央を東西に縣道走り、それより分岐して西北方に河谷を利用して通ずる縣道あり。南方廣島市へ約八〇軒、島根縣濱田港へ約四〇軒、近隣とはバスを通ず。

【中野村】廣島縣安藝國山縣郡の北部。東は美和村に、南は戸内町に、西は津鹿原村に界し、北は島根縣那賀郡都川・今市・波佐の三村に隣す。面積七八・四方軒。北部は高畝約一公里の中國山脈東西に走りて島根縣との分水嶺をなし、中央部より瀧山川上支出てて南流し、南部は略六百米の高地に地勢高峻なり。河谷及び山腹は牧場をなして牛を飼ふ處あるも、大部分山林地にして木材・木炭等を産し、農作地に乏し。中央を東西に縣道走り、それより分岐して西北方に河谷を利用して通ずる縣道あり。南方廣島市へ約八〇軒、島根縣濱田港へ約四〇軒、近隣とはバスを通ず。

【中野村】廣島縣安藝國山縣郡の北部。東は美和村に、南は戸内町に、西は津鹿原村に界し、北は島根縣那賀郡都川・今市・波佐の三村に隣す。面積七八・四方軒。北部は高畝約一公里の中國山脈東西に走りて島根縣との分水嶺をなし、中央部より瀧山川上支出てて南流し、南部は略六百米の高地に地勢高峻なり。河谷及び山腹は牧場をなして牛を飼ふ處あるも、大部分山林地にして木材・木炭等を産し、農作地に乏し。中央を東西に縣道走り、それより分岐して西北方に河谷を利用して通ずる縣道あり。南方廣島市へ約八〇軒、島根縣濱田港へ約四〇軒、近隣とはバスを通ず。

出し、東面は平戸町との間に古江灣を擁す。南部の山地は一旦低下し更に東北に續きて平戸町中部の山地となる。この兩山地の間と、東南部の千里ヶ濱海岸には低地ありて田畑拓け米・麥・甘藷等の農産あり、漁業また行はる。平戸島を南北に通ずる縣道中部を斜に貫き交通不便ならず。東北は要塞地帯に入る。東南海岸なる千里ヶ濱の西の灣入を川内浦といふ。葡萄牙人の平戸に貿易場を開きしより、歐洲諸國人の争うて平戸に來りしため平戸は多數の船舶を寄泊せしむるに不便を感ずるに至る。茲に於て蘭英船は平戸に上荷してこの川内浦に碇泊せしため、この浦に居留地及び倉庫が建てられたり。浦より千里ヶ濱に通ずる一小丘を丸山と稱す。貿易の盛時には遊廓地たりしも、寛永十八年貿易港を長崎に移せし際この遊廓も追從して移り、今の長崎丸山の名を成すに至りしもの。(千里ヶ濱)東南海岸一帯の海濱をいふ。東西約一・三軒に亘り磯波徐に去來する白砂青松の地にして、濱の中部松下に鄭成功の碑あり。碑の高さ約二・二米、幅約一米半、碑面に「鄭延平王慶誕芳蹤」と陰刻され、碑文は蕃老葉山銀軒の撰なり。また濱に兒誕石と稱するものあり。鄭成功の母田川氏が貝拾ひの際、この石に倚りて成功を生むと傳へられ、今は木棚を設けて保存す。附近の川内浦に成功の父即ち田川氏の女婿となりし支那人鄭芝龍の宅址あり。

【中野村】大分縣豊後國南海郡の北部。佐伯町の西方にある山村にて、その間に切畑村を挟み、北境の西半は大野郡川登村に接す。面積四三方軒に餘るも偏極山地の東部に當り、殆ど山地にして中央を東流する番匠川(因尾川)は南方隣の直見村より來り、東都にてこれに合する久留須川に沿ひて中狭き低地あり。米・麥等の外、木材・竹材等の林産あり。因尾川に沿ひて道路通じ、東方約五軒の省線日豊本線上周縁(佐伯町内)へバスを通ずる外は交通は便利ならず。(小半 鍾乳洞)指定天然記念物。大字小半にあり。番匠川の上流因尾川の北岸に開口し延長四三六米、舊洞と新洞とありて洞内にして通す。鍾乳石・石筍の發達著しく殊に變化に富み、舊洞に三十三景、新洞に十七景の奇勝あり。

【中野村】大分縣豊後國南海郡の北部。佐伯町の西方にある山村にて、その間に切畑村を挟み、北境の西半は大野郡川登村に接す。面積四三方軒に餘るも偏極山地の東部に當り、殆ど山地にして中央を東流する番匠川(因尾川)は南方隣の直見村より來り、東都にてこれに合する久留須川に沿ひて中狭き低地あり。米・麥等の外、木材・竹材等の林産あり。因尾川に沿ひて道路通じ、東方約五軒の省線日豊本線上周縁(佐伯町内)へバスを通ずる外は交通は便利ならず。(小半 鍾乳洞)指定天然記念物。大字小半にあり。番匠川の上流因尾川の北岸に開口し延長四三六米、舊洞と新洞とありて洞内にして通す。鍾乳石・石筍の發達著しく殊に變化に富み、舊洞に三十三景、新洞に十七景の奇勝あり。

【中野村】大分縣豊後國南海郡の北部。佐伯町の西方にある山村にて、その間に切畑村を挟み、北境の西半は大野郡川登村に接す。面積四三方軒に餘るも偏極山地の東部に當り、殆ど山地にして中央を東流する番匠川(因尾川)は南方隣の直見村より來り、東都にてこれに合する久留須川に沿ひて中狭き低地あり。米・麥等の外、木材・竹材等の林産あり。因尾川に沿ひて道路通じ、東方約五軒の省線日豊本線上周縁(佐伯町内)へバスを通ずる外は交通は便利ならず。(小半 鍾乳洞)指定天然記念物。大字小半にあり。番匠川の上流因尾川の北岸に開口し延長四三六米、舊洞と新洞とありて洞内にして通す。鍾乳石・石筍の發達著しく殊に變化に富み、舊洞に三十三景、新洞に十七景の奇勝あり。

【中野村】大分縣豊後國南海郡の北部。佐伯町の西方にある山村にて、その間に切畑村を挟み、北境の西半は大野郡川登村に接す。面積四三方軒に餘るも偏極山地の東部に當り、殆ど山地にして中央を東流する番匠川(因尾川)は南方隣の直見村より來り、東都にてこれに合する久留須川に沿ひて中狭き低地あり。米・麥等の外、木材・竹材等の林産あり。因尾川に沿ひて道路通じ、東方約五軒の省線日豊本線上周縁(佐伯町内)へバスを通ずる外は交通は便利ならず。(小半 鍾乳洞)指定天然記念物。大字小半にあり。番匠川の上流因尾川の北岸に開口し延長四三六米、舊洞と新洞とありて洞内にして通す。鍾乳石・石筍の發達著しく殊に變化に富み、舊洞に三十三景、新洞に十七景の奇勝あり。

【中野村】大分縣豊後國南海郡の北部。佐伯町の西方にある山村にて、その間に切畑村を挟み、北境の西半は大野郡川登村に接す。面積四三方軒に餘るも偏極山地の東部に當り、殆ど山地にして中央を東流する番匠川(因尾川)は南方隣の直見村より來り、東都にてこれに合する久留須川に沿ひて中狭き低地あり。米・麥等の外、木材・竹材等の林産あり。因尾川に沿ひて道路通じ、東方約五軒の省線日豊本線上周縁(佐伯町内)へバスを通ずる外は交通は便利ならず。(小半 鍾乳洞)指定天然記念物。大字小半にあり。番匠川の上流因尾川の北岸に開口し延長四三六米、舊洞と新洞とありて洞内にして通す。鍾乳石・石筍の發達著しく殊に變化に富み、舊洞に三十三景、新洞に十七景の奇勝あり。

ナカノ——ナカノ

【永野村】栃木縣下野國上都賀郡の南部。西北より東南に細長く、南は安蘇郡・下都賀郡の一部と隣す。足尾山塊東斜面の

【永野】栃木縣下野國上都賀郡の南部。西北より東南に細長く、南は安蘇郡・下都賀郡の一部と隣す。足尾山塊東斜面の

【永野】栃木縣下野國上都賀郡の南部。西北より東南に細長く、南は安蘇郡・下都賀郡の一部と隣す。足尾山塊東斜面の

【永野】栃木縣下野國上都賀郡の南部。西北より東南に細長く、南は安蘇郡・下都賀郡の一部と隣す。足尾山塊東斜面の

【永野】栃木縣下野國上都賀郡の南部。西北より東南に細長く、南は安蘇郡・下都賀郡の一部と隣す。足尾山塊東斜面の

【永野】栃木縣下野國上都賀郡の南部。西北より東南に細長く、南は安蘇郡・下都賀郡の一部と隣す。足尾山塊東斜面の

【永野】栃木縣下野國上都賀郡の南部。西北より東南に細長く、南は安蘇郡・下都賀郡の一部と隣す。足尾山塊東斜面の

【永野】栃木縣下野國上都賀郡の南部。西北より東南に細長く、南は安蘇郡・下都賀郡の一部と隣す。足尾山塊東斜面の

【永野】栃木縣下野國上都賀郡の南部。西北より東南に細長く、南は安蘇郡・下都賀郡の一部と隣す。足尾山塊東斜面の

【永野】栃木縣下野國上都賀郡の南部。西北より東南に細長く、南は安蘇郡・下都賀郡の一部と隣す。足尾山塊東斜面の

【永野】栃木縣下野國上都賀郡の南部。西北より東南に細長く、南は安蘇郡・下都賀郡の一部と隣す。足尾山塊東斜面の

【永野】栃木縣下野國上都賀郡の南部。西北より東南に細長く、南は安蘇郡・下都賀郡の一部と隣す。足尾山塊東斜面の

【永野】栃木縣下野國上都賀郡の南部。西北より東南に細長く、南は安蘇郡・下都賀郡の一部と隣す。足尾山塊東斜面の

【永野】栃木縣下野國上都賀郡の南部。西北より東南に細長く、南は安蘇郡・下都賀郡の一部と隣す。足尾山塊東斜面の

【永野】栃木縣下野國上都賀郡の南部。西北より東南に細長く、南は安蘇郡・下都賀郡の一部と隣す。足尾山塊東斜面の

【永野】栃木縣下野國上都賀郡の南部。西北より東南に細長く、南は安蘇郡・下都賀郡の一部と隣す。足尾山塊東斜面の

ナカノ——ナカノ

【永野】栃木縣下野國上都賀郡の南部。西北より東南に細長く、南は安蘇郡・下都賀郡の一部と隣す。足尾山塊東斜面の

【永野】栃木縣下野國上都賀郡の南部。西北より東南に細長く、南は安蘇郡・下都賀郡の一部と隣す。足尾山塊東斜面の

【永野】栃木縣下野國上都賀郡の南部。西北より東南に細長く、南は安蘇郡・下都賀郡の一部と隣す。足尾山塊東斜面の

【永野】栃木縣下野國上都賀郡の南部。西北より東南に細長く、南は安蘇郡・下都賀郡の一部と隣す。足尾山塊東斜面の

【永野】栃木縣下野國上都賀郡の南部。西北より東南に細長く、南は安蘇郡・下都賀郡の一部と隣す。足尾山塊東斜面の

【永野】栃木縣下野國上都賀郡の南部。西北より東南に細長く、南は安蘇郡・下都賀郡の一部と隣す。足尾山塊東斜面の

【永野】栃木縣下野國上都賀郡の南部。西北より東南に細長く、南は安蘇郡・下都賀郡の一部と隣す。足尾山塊東斜面の

【永野】栃木縣下野國上都賀郡の南部。西北より東南に細長く、南は安蘇郡・下都賀郡の一部と隣す。足尾山塊東斜面の

【永野】栃木縣下野國上都賀郡の南部。西北より東南に細長く、南は安蘇郡・下都賀郡の一部と隣す。足尾山塊東斜面の

【永野】栃木縣下野國上都賀郡の南部。西北より東南に細長く、南は安蘇郡・下都賀郡の一部と隣す。足尾山塊東斜面の

【永野】栃木縣下野國上都賀郡の南部。西北より東南に細長く、南は安蘇郡・下都賀郡の一部と隣す。足尾山塊東斜面の

ナカノ——ナカノ

抄に片岡郡長野郷あり、奈加乃と調す。その地今の高崎市乗附・寺尾・石原の邊に當る。

〔長野〕 埼玉縣北埼玉郡にありし村。昭和十二年、忍町に併合さる。

〔長野〕 石川縣能美郡にありし村。明治四十年外二村と共に合して寺井野村となりし、大正十五年寺井野は町制を布く。

〔長野縣〕 本州の略中央に位し、東海・北陸の間、即ち中央高地の略中央に介在する縣。海岸より最も遠き内陸に位置して連山その四境を圍繞し、東は群馬・埼玉、南は山梨・静岡・愛知、西は岐阜・富山、北は新潟の八縣に隣接す。東西の幅凡そ一七五里、南北の長さ二二六里。面積一三六二・一三平方里。岩手・福島に次ぐ我國第三位の大縣なり。本縣は信濃一國を管轄し、行政上南佐久・北佐久・小縣・諏訪・上伊那・下伊那・西筑摩・東筑摩・南安曇・北安曇・更級・埴科・上高井・下高井・上水内・下水内の十六郡と長野・松本・上田・飯田・岡谷の五市に分ち縣廳を長野市に置く。人口一七一、四〇〇人(昭和十年)、府縣中第三位にて、密度は一平方里二六二人にて全國平均より遙に低く、府縣中第三十二位なり。〔地勢〕 本縣は數多の褶曲山脈の複合地點にして、アツタのバミールにも比し、日本の屋根とも稱すべき地勢をなし、西境に日本アルプスの稱ある飛騨山脈ありて、白山岳・鎗ヶ岳・鹿島鎗ヶ

嶽・蓮華岳・鎗ヶ嶽・穂高嶽・北・奥・前の各種高いづれも三千米内外、氷蝕による特殊な高山地貌を呈し聳立す。また乗鞍火山帯には活火山硫黄嶽・乗鞍岳・御嶽等あり。西南木曾山脈には大瀧山・經ヶ岳・駒ヶ岳・劔ヶ嶽・前駒ヶ嶽等が聳立す。東南境の南アルプスの名ある赤石山脈には、仙丈ヶ岳・黒槍山・荒川岳・赤石岳・聖岳等聳え、東方には活火山淺間山を始め白根・毛無等の諸火山あり。域内中央には富士火山帯に南北に縦走し南に八ヶ嶽火山帯、北に妙高火山帯を起し山麓の間には稍々低き丘陵地あり。平原の主なるものは善光寺平(海拔三八〇米)・飯山平(三二〇)・小縣盆地(上田附近四六〇米・佐久平(九五〇米)・諏訪盆地(七六〇米)・松本平(五八〇米)・伊那谷(六四二米)あり、本縣に入るには何れの方面より坂路・峠を登攀せねばならぬ地形にあり。本地域の高山山脈の間には四大谿谷が形成され、我國大河と稱せらるるものの上流をなし、南は太平洋、北は日本の海に向ひて放射す。従つて水流の本縣に流入するものなし。南流する河は、天龍川が主なるものにして、天龍川は諏訪湖に發源し赤石構造谷を流れ、伊那谷の特色ある段丘地形を形成し、天龍峽の峡谷美を造り信濃・遠兩國の間の山地を割割して南下し遠州灘に朝す。木曾川は鳥居峠の北方八森山南麓に發源し木曾谷の狭長なる谿谷を形成し、

四二六

岐阜縣を経て伊勢灣に注ぐ。甲信兩國の境に發源する千曲川、木曾山脈の駒ヶ岳の北に發源する犀川は善光寺平に於いて合流し、新潟縣に入りて我國第一の長流信濃川となりて北流して日本海に注ぎ、飯川は飛騨山脈東麓の斷層谷を流れて北流し、新潟縣に入りて日本海に朝す。而して前記の諸平及び盆地はこれ等の流域に沿ひ箇の獨立の地區を形成す。富士火山帯に分たれたる南信・北信の名は單に地形上の名稱のみならず、同時に人文上の區別をも意味す。而して北信は佐久平・上田盆地・善光寺平・飯山平に、南信は松本平・伊那谷及び木曾谷・諏訪盆地に分つ。(氣候) 内陸にありて海抜高度高く隔絶性を有し、且つ南北に長く伸びるために、夏季は概して冷涼、冬季は寒氣峻烈なり。松本は寒暑の差最も大にして、長野これに次ぎ、飯田は比較的小なり。降水量多き表日本風の夏雨型と、裏日本の冬雪型との中間に介在するため、西斜面の國境山に遮られ降水量の最も少き地方をなし、善光寺平・小縣・佐久の地方は年降水量一〇〇〇以下にて、内地に於ける最寡雨地帯なり。新潟縣に近き飯山平以北は裏日本式の降水型にて十二月・一月に降水量多く、飯山附近にては積雪二乃至三米に達し、信越國境地方は深雪地帯をなす。(産業) 本縣昭和十年度生産總額は二四、四四〇萬圓にして、内洋穀類一四、四〇五萬圓にて生

産總額の約五九%を占めて蠶絲國なるを思はしめ、農産五、二七萬圓、工産三、二五萬圓、林産九二五萬圓、畜産五二二萬圓、水産一〇七萬圓、礦産九七萬圓等なり。製絲工場数は六一四(昭和十一年)にして、内地蠶絲總額の約二〇%を占め、諏訪盆地の岡谷・下諏訪、善光寺平の須坂・松代、上田盆地の丸子附近はいづれもその中心なり。農産物の主要なるものは米・麥・大豆・馬鈴薯・苹果・生柿などにして、米は年産一六五萬石強(昭和十一年)にして善光寺平・松本・諏訪等を主産地とするも、なほ需要を充たすに足らず年々相當多數の移入を餘儀なくせらる。鐵道開通前、權平峠を越え濃尾の地方より米の少なき伊那谷や、富士見峠を越え甲府より諏訪盆地へ移入されたるは有名な話なり。全縣を通じ、農家戸數二一萬戸中、蠶飼養戸數約一二萬戸、夏秋蠶約一五萬戸にて、以て農業全戸數に對する夏秋蠶飼育戸數比率の大なるを知る。而して收購高約八百萬圓(昭和十一年)價格約三、七六五萬圓、蠶繭製造戸數一、〇八六にして、價額三四六萬圓に達す。この外、清酒の八六萬圓を始めとして菓子・生皮革・醬油・寒天・木製品・織物・味噌・凍豆腐等は何れも百萬圓以上の産出あり(昭和十年)。林業は山地多き割合に少なく、そのうち木曾御料林産出がその大部分を占む。水産は臨海縣ならざる本縣にては海産鮮魚の得

せられ、筑摩縣を松本に置き、南信地方及び飛騨一國を管す。たまたま筑摩縣廳焼く。よりに明治九年八月筑摩縣を廢して飛騨一國を岐阜縣に移管し、南信地方はこれを長野縣に併せ、爾來長野縣は信濃全國を管す。同十三年郡を分割し、水内・高井・伊那の三郡は各々上下二郡に分ち、筑摩郡を東西二郡に、安曇郡を南北二郡に分つ。同三十年長野市水内郡より、同四十年松本市東筑摩郡より、大正八年上田市小縣郡より夫々獨立し、最近には昭和十一年岡谷市諏訪郡より、同十二年飯田市下伊那郡より獨立し、五市十六郡となる。

られざるため、夙に水産養殖行はれ、南佐久の野澤・櫻井の養殖鰻を始めとし、全縣下の鰻養殖場數四萬の箇所。年産約六〇萬圓に及び、其他に鮎・鱒・鰻・公魚等あり。〔交通〕 山國なる本縣の交通は嘗ては頗る不便にして、四大河谷が主として利用され、國道中山道を始め北國街道・甲州街道・三州街道等の幹線は、いづれもこれ等の谷を通じ、峻坂・峠を越ゆるには多く牛馬の背に頼る有様なりしが、殊に南信・北信を連ぬるため、車馬を通ずる新道の開鑿に縣は多大の努力を拂ひしも、後此等の諸街道に沿ひ信越線・中央線及び養井線等の鐵道が開通し、更に長野市・上田市・松本市等を中心としてそれら電車網發達し、なほ最近にては舊中仙道和田峠を越ゆる省營バス開通し、また省線小海線が開通し、近くは大絲線も全通すべく、こゝに本縣も亦交通の便に恵まれるに至るべし。殊に水力電氣の利用に恵まれし本縣に於ては、將來交通機關が益々電化され一層經濟化、スピード化を見るべし。(温泉その他) 本縣はその自然的環境によりて齎したる餘慶のある事なり。即ち高原避暑としての大井澤・香掛を始め、野尻湖畔・富士見高原、木崎湖畔も近時世人に知らるることとなり、スキー場として上田市背後の菅平・野澤・平種温泉場を背景とする志賀高原、上下諏訪温泉を基地とする霧ヶ峯

等、またスケート場として松原湖・諏訪湖等あり、松本市を起點とする中部山岳國立公園あり。一方、谿谷美に於ては天龍・聖堂・山清路の諸峽が古來人口に膾炙す。温泉場は枚擧に遑なく、縣下に六十餘所を算す、殊に白絲・東間のお湯と稱せられし山邊温泉を始め諏訪・下諏訪・淺間・白骨・中房・別所・湯田中・上林・戸倉等の諸温泉ありて、現在にては東京市の保養園内に入る。信州のかる山紫水明の特殊なる自然的環境は獨得の文化の發達を促し、教育王國として初等教育界に於ける特殊なる傾向、精神教育の上に顯現せるばかりでなく、思想・藝術の方面に於ても特殊なる位置を占め、古來偉人・傑士の輩出せるもの少からず。

〔沿革〕 本縣は明治元年に設置せられたる伊奈縣に始まり、信濃に於ける幕府及國外の諸侯・旗本等の領地を管せしが、二年六月三河國の三河縣を併せ、三年九月には中野縣を分ち、四年六月には舊龍岡藩の地を伊奈・中野二縣に分屬せしむ。次いで中野縣を長野縣と改む。長野縣は同年十一月北信地方にありし松代・須坂飯山・中野・上田・小諸の六藩の縣と改稱せしものと共に廢せられ、更に長野縣を長野市に置き北信地方を管す。伊奈縣は明治四年六月三河縣を額田縣に移管し、次いで十一月には南信地方の松本・高島(諏訪)・高遠・飯田の四藩の縣と改稱せし四縣並に飛騨國の高山縣と共に廢

せられ、筑摩縣を松本に置き、南信地方及び飛騨一國を管す。たまたま筑摩縣廳焼く。よりに明治九年八月筑摩縣を廢して飛騨一國を岐阜縣に移管し、南信地方はこれを長野縣に併せ、爾來長野縣は信濃全國を管す。同十三年郡を分割し、水内・高井・伊那の三郡は各々上下二郡に分ち、筑摩郡を東西二郡に、安曇郡を南北二郡に分つ。同三十年長野市水内郡より、同四十年松本市東筑摩郡より、大正八年上田市小縣郡より夫々獨立し、最近には昭和十一年岡谷市諏訪郡より、同十二年飯田市下伊那郡より獨立し、五市十六郡となる。

ナカノ——ナカノ

工 産	三、三三六、九七九圓
農 産	一、四七三、四七六圓
蠶 産	一、一〇、〇六五圓
畜 産	一、一八五、〇五一圓
水 産	一、二七、三二六圓
礦 産	一、四三、七〇〇圓
林 産	六、二三四、八一四圓
計	六、二三四、八一四圓

本市は縣下にて日本海に近き地方なるを以て、氣象もまた信州高原通有の峻烈性なく、湿度も最高三六・七、最低一六、